



令和 7 年度

(2 0 2 5)

農作物有害動植物発生予察事業年報

北 海 道 農 政 部
北 海 道 病 害 虫 防 除 所
北海道立総合研究機構農業研究本部

目 次

A	事業の目的	1
B	事業実施の方針と重点	1
C	事業対象の病害虫	1
D	事業組織及び職員	2
E	事業成績	
I	気象経過と病害虫の発生状況	7
II	作物生育概況	22
III	指定及び指定外有害動植物に関する調査成績	
(I)	水稻の病害虫	32
(II)	小麦の病害虫	64
(III)	とうもろこしの病害虫	75
(IV)	大豆の病害虫	78
(V)	小豆の病害虫	84
(VI)	菜豆の病害虫	88
(VII)	ばれいしょの病害虫	91
(VIII)	てんさいの病害虫	98
(IX)	たまねぎの病害虫	107
(X)	ねぎの病害虫	112
(X I)	ながいもの病害虫	114
(X II)	にんじんの病害虫	114
(X III)	だいこんの病害虫	115
(X IV)	キャベツ・ブロッコリーの病害虫	116
(X V)	野菜類の病害虫	122
(X VI)	りんごの病害虫	125
(X VII)	その他果樹の病害虫	140
IV	令和8年度に特に注意を要する病害虫 並びに令和7年度に新たに発生を認めた病害虫	142
V	令和7年度主要病害虫発生程度別面積及び防除面積	150
VI	侵入調査事業	153
VII	その他調査	153
F	諸報告、情報連絡、協議会等	154
G	B L A S T A Mによる葉いもちの広域発生期の判定結果	158
H	北海道農業試験会議において報告された以外の道内における新発生病害虫の記録	160

A 事業の目的

植物防疫法第22条、第23条及び第31条の定めるところにより、国が指定する有害動植物並びに国及び北海道が必要と認める指定外有害動植物につき、その発生状況、気象状況及び作物生育状況等を調査し、それらの有害動植物の発生時期、発生量、発生地域及び被害を予察し、その情報を関係機関に提供して損害を未然に防止または軽減する。

B 事業実施の方針と重点

「病害虫発生予察事業の実施について」に基づく調査を実施したほか、北海道独自で実施している調査の分担及び事業の効率化を図った。巡回調査の実施については、地域の重要作物等の推移に配慮し、内容の充実を図り、所期の目的達成に努めた。発生現況調査についても、地域における重要病害虫の発生動向の把握に努めた。また情報伝達の迅速化について検討した。

C 事業対象の病害虫

作物	指 定	指 定 外
水 稲	いもち病、縞葉枯病、苗立枯病、ばか苗病、紋枯病 イネドロオイムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類(アヒガホミドリカサメ、アサツカサメ)、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ	種子伝染性細菌病 イネミギワバエ、アウヨトウ
麦 類	うどんこ病、赤かび病、さび病類(赤さび病)	雪腐病、眼紋病 ムギクロハモグリバエ、ムギギモグリバエ、アブラムシ類(ムギヒガナアブラムシ、ムギビリアブラムシ)
とうもろこし	オオタバコガ(※)	アワノメイガ、ツマジロクサヨトウ
豆 類	アブラムシ類(ジャガイモアブラムシ)、吸汁性カメムシ類、マメシンクイガ	べと病、わい化病、菌核病、灰色かび病、茎疫病、落葉病、黄化病 食葉性鱗翅目幼虫、タネバエ、アズキノメイガ、マメアブラムシ
ばれいしょ	疫病 アブラムシ類(ジャガイモアブラムシ、モモアブラムシ、ワアブラムシ)	塊茎腐敗、黒あし病、軟腐病、そうか病、粉状そうか病
てんさい	褐斑病、黄化病(旧西部萎黄病) ヨトウガ(※)	根腐病(黒根病を含む)、そう根病 テンサイモグリハナバエ、テンサイトビハムシ、シロオビノメイガ
たまねぎ	アザミウマ類(ネギアザミ)	白斑葉枯病、軟腐病、乾腐病 タマネギバエ(タネバエを含む)、ネギハモグリバエ
ね ぎ	さび病、べと病 アザミウマ類(ネギアザミ)、ネギコガ、ネギハモグリバエ	
にんじん	黒葉枯病	軟腐病
だいこん		キスジトビハムシ
キャベツ	コナガ(※)、ヨトウガ(※)、モンシロチョウ	
ブロッコリー	コナガ(※)、ヨトウガ(※)	
野 菜 類	オオタバコガ(※)、ハズモンヨウトウ(※)、シロイチモジヨトウ(※)	タマナヤガ
りんご	黒星病、斑点落葉病 シンクイムシ類(モモンクイガ)、ハダニ類(リンゴハダニ、ナミハダニ)、ハマキムシ類(ミダレカクモンハマキ、リンゴカクモンハマキ、リンゴモンハマキ)	モモニリア病、腐らん病 キンモンホソガ
ながいも	アブラムシ類	
そ の 他	指定・指定外病害虫に含まれないが、必要がある病害虫並びに突発性病害虫。	北海道として発生動向を把握しておく必要

(※)は、作物共通として指定されている有害動植物

D 事業組織及び職員

1. 道農政部関係職員

(令和7年4月1日現在)

所 属	職 名	氏 名
農 政 部 生産推進局 技術普及課	農 政 部 長	鈴木 賢一
	食の安全・みどりの農業推進監	山口 和弘
	生産振興局長	花岡 弘毅
	技術支援担当局長	大塚 真一
	技術普及課長	原 俊彦
	課長補佐(植物防疫)	高橋 良幸
	植物防疫係長	高松 川裕
	上席普及指導員 [道総研農業研究本部駐在]	相馬 晴一
	主査(普及指導) [道総研上川農試駐在]	直井 美幸
	主査(普及指導) [道総研北見農試駐在]	飯田 麻衣

2. 病虫害防除所

(令和7年4月1日現在)

職 名	氏 名
所主 長 [技術普及課長兼務] 主 幹 主 査	原 俊彦 新 保智 木 村充 弘

3. 病虫害発生予察調査委託業務処理担当者 (委託先: 北海道立総合研究機構農業研究本部)

(令和7年4月1日現在)

所 属	職 名	氏 名	
中央農業試験場病虫害部	病虫害部長	小松 勉	
	研究主幹(予察診断グループ)	三宅 規文	
	主査(予察)	野津 あゆみ	
	主査(診断システム)	山名 利一	
	研究主任	美濃 健一	
	研究主任	武澤 友二	
	研究主任	荻野 瑠衣	
	研究職員	佐々木 太陽	
	研究主幹(病虫害グループ)	小野寺 太鶴	
	主任主査(防除技術)	新 村 昭憲	
	研究主査	橋本 直樹	
	研究主任	齊藤 美樹	
	研究職員	中島 賢音	
	研究職員	佐藤 翠	
	上川農業試験場研究部	主任主査(病虫)	長濱 恵統
		研究主任	藤根 大介
研究職員		佐々木 大勝	
専門研究員		古川 勝弘	
道南農業試験場研究部	研究主幹(作物病虫グループ)	三澤 知央	
	主査(病虫)	青木 元彦	
	研究主査	池田 幸子	
十勝農業試験場研究部	主査(病虫)	東 孝司	
	研究主査	白井 佳代	
	研究主任	丸山 麻理	
	研究主任	村田 暢明	

所 属	職 名	氏 名
北見農業試験場研究部	主査(病虫) 主査(センチュウ) 研究主任 研究主任	小倉玲奈 小澤徹 森万菜 下間悠 実士
花・野菜技術センター研究部	研究主幹 主任主査(病虫)	西脇由恵 佐々木純

4. 総合振興局・振興局発生子察事業担当職員

(令和7年4月1日現在)

所 属	職 名	氏 名
空知総合振興局産業振興部農務課	技師	高橋萌美
石狩総合振興局産業振興部農務課	技師	上田山智
後志総合振興局産業振興部農務課	技師	穂上居僚
日高総合振興局産業振興部農務課	技師	渡島櫻井
檜山総合振興局産業振興部農務課	技師	檜山横澤
上川総合振興局産業振興部農務課	技師	川根飯沼
留萌総合振興局産業振興部農務課	技師	留萌廣瀨
宗谷総合振興局産業振興部農務課	技師	宗谷月井
十勝総合振興局産業振興部農務課	技師	才賀太田
釧路総合振興局産業振興部農務課	技師	十勝津
根室総合振興局産業振興部農務課	技師	根室山本
空知総合振興局産業振興部農務課	技師	空知渡
石狩総合振興局産業振興部農務課	技師	石狩渡
後志総合振興局産業振興部農務課	技師	後志渡
日高総合振興局産業振興部農務課	技師	日高渡
檜山総合振興局産業振興部農務課	技師	檜山渡
上川総合振興局産業振興部農務課	技師	上川渡
留萌総合振興局産業振興部農務課	技師	留萌渡
宗谷総合振興局産業振興部農務課	技師	宗谷渡
十勝総合振興局産業振興部農務課	技師	十勝渡
釧路総合振興局産業振興部農務課	技師	釧路渡
根室総合振興局産業振興部農務課	技師	根室渡

5. 農業改良普及センター病害虫発生子察事業担当職員

(令和7年4月1日現在)

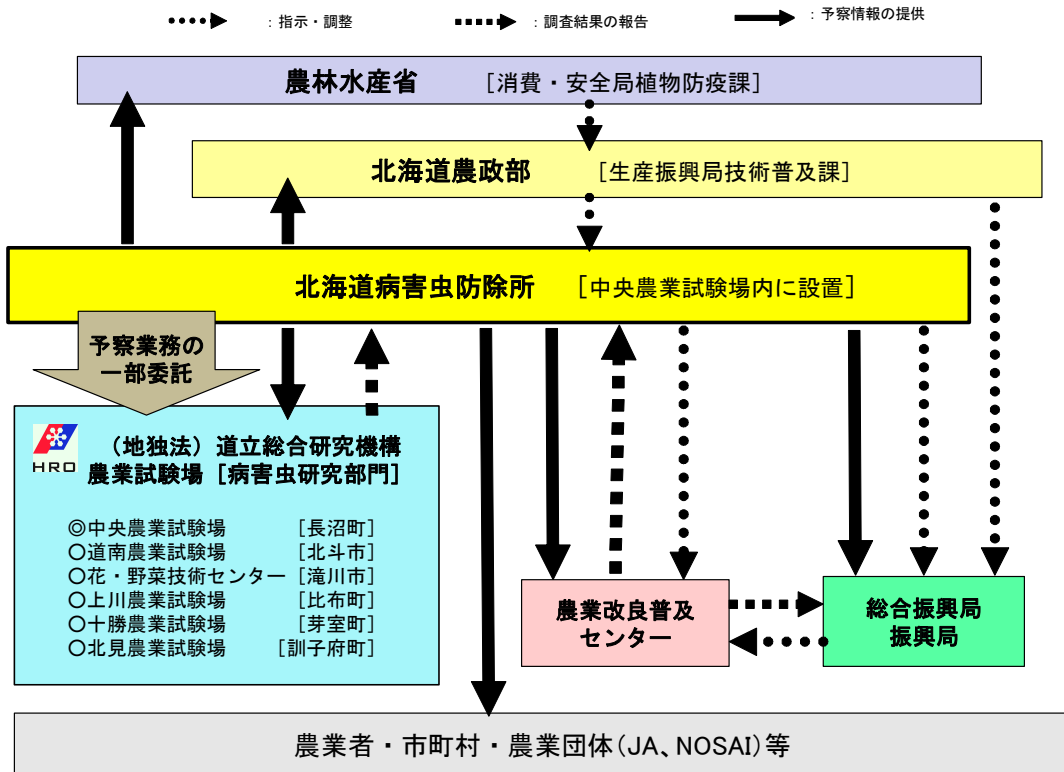
普及センター名	職 名	氏 名	担 当 市 町 村 名
空知農業改良普及センター	主任普及指導員	小柴潤一	全体窓口
空知本所	主 査	立浪直剛	岩見沢、三笠、美唄、月形
空知南東部支所	専門普及指導員	小林 聡	由仁、栗山、夕張
空知南西部支所	専門普及指導員	坂内泰輔	長沼、南幌
中空知支所	専門普及指導員	平石千江	奈井江、浦臼、上砂川、歌志内、砂川、新十津川、芦別、赤平、滝川
北空知支所	専 門 主 任	酒井紀彰	妹背牛、深川、秩父別、雨竜、北竜、沼田
石狩農業改良普及センター	主 査	仲 智 弘	全体窓口
石狩本所	専 門 主 任	渡部幾子	千歳、恵庭、北広島、江別
石狩北部支所	専 門 主 任	松田 耕	石狩、新篠津、当別、札幌
後志農業改良普及センター	地域第一係長	深尾伸一	全体窓口
後志本所	専門普及指導員	笹田勇也	ニセコ、蘭越、真狩、留寿都、喜茂別、京極、倶知安、岩内、共和、泊、神恵内、島牧、黒松内、寿都
北後志支所	地 域 係 長	平田修一	赤井川、仁木、余市、小樽、古平、積丹

普及センター名	職名	氏名	担当市町村名
胆振農業改良普及センター	主任普及指導員	谷 英 雄	全体窓口
胆振本所	主 査	竹 原 顕	室蘭、登別、伊達、壮瞥、洞爺湖、豊浦
東胆振支所	地域第一係長	高 田 和 明	むかわ、厚真、安平、苫小牧、白老
日高農業改良普及センター	主任普及指導員	榎 谷 英 生	全体窓口
日高本所	主 査	柿 崎 由 紀	新冠、新ひだか、えりも、様似、浦河
日高西部支所	専 門 主 任	秋 本 美代子	平取、日高
渡島農業改良普及センター	主 査	竹 内 正 信	全体窓口
渡島本所	地域第一係長	齊 田 純 子	函館、北斗、七飯、鹿部、森、松前、福島、知内、木古内
渡島北部支所	専 門 主 任	日 根 修	八雲、長万部
檜山農業改良普及センター	主任普及指導員	堀 野 吉 広	全体窓口
檜山本所	主任普及指導員	堀 野 吉 広	上ノ国、江差、厚沢部、乙部、奥尻、八雲町熊石区
檜山北部支所	普 及 職 員	開 田 雪 乃	せたな、今金
上川農業改良普及センター	主 査	李 家 眞 理	全体窓口
上川本所	地域第二係長	白 井 淳	旭川、鷹栖、上川、当麻、比布、愛別
富良野支所	地域第一係長	桂 川 聡	占冠、南富良野、富良野、中富良野、上富良野
大雪支所	地域第二係長	金 原 伸 大	美瑛、東川、東神楽
士別支所	地域第一係長	笹 村 直 弥	和寒、剣淵、士別、幌加内
名寄支所	地 域 係 長	風 間 基 充	名寄
上川北部支所	主 査	長 谷 恵 理	美深、音威子府、中川、下川
留萌農業改良普及センター	主任普及指導員	橋 本 忠 浩	全体窓口
留萌本所	主 査	檜 館 拓	苫前、羽幌、初山別、遠別、天塩
南留萌支所	調整幹兼主査	宮 部 維久子	増毛、留萌、小平
宗谷農業改良普及センター	主 査	山 田 美由喜	全体窓口
宗谷本所	主 査	山 田 美由喜	枝幸、中頓別、浜頓別、猿払
宗谷北部支所	主 査	高 木 啓 詔	豊富、稚内、幌延、利尻、利尻富士、礼文

普及センター名	職名	氏名	担当市町村名
網走農業改良普及センター	主査	樋口 いずみ	全体窓口
網走本所	地域第二係長	千田 智子	置戸、訓子府、北見
清里支所	普及指導員	宇都宮 沙耶	清里、斜里、小清水
網走支所	主査	松浦 大地	網走、大空（東藻琴）
美幌支所	地域係長	竹永 遵一	津別、美幌、大空（網走支所の担当区域除く）
遠軽支所	普及職員	佐々木 亜文	遠軽、佐呂間、湧別
紋別支所	主査	黒坂 博貴	紋別、滝上、西興部、興部、雄武
十勝農業改良普及センター	主査	森 光生	全体窓口
十勝本所	専門普及指導員	元木 咲	更別、中札内、帯広、芽室
十勝東部支所	専門普及指導員 地域第一係長	服部 太郎 三上 由美枝	豊頃、浦幌、幕別、池田
十勝東北部支所	専門主任	田川 三代士	本別、足寄、陸別
十勝北部支所	地域第一係長	黒川 太郎	音更、士幌、上士幌
十勝西部支所	専門普及指導員	今野 弘規	清水、鹿追、新得
十勝南部支所	専門普及指導員	田中 伸尚	広尾、大樹、幕別町忠類
釧路農業改良普及センター	主査	山田 城也	全体窓口
釧路本所	主査	山田 城也	釧路町、標茶、弟子屈
釧路東部支所	地域係長	宿澤 光世	浜中、厚岸
釧路中西部支所	主査	大沼 千佐子	釧路市、白糠、鶴居
根室農業改良普及センター	主任普及指導員	犬飼 厚史	全体窓口
根室本所	専門普及指導員	植月 奈穂子	根室、別海（大成、本別の区域を除く）
北根室支所	主査	阿部 毅	中標津、標津、羅臼、別海（大成、本別の区域に限る）
北根室支所	主査	吉田 豊	標津、羅臼

《参 考》

北海道における病害虫発生予察事業実施体制図



E 事業成績

I 気象経過と病虫害の発生状況

春季

3月：たびたび顕著に暖かい空気が流れ込み気温の変動大。低気圧の影響により降水量多く寡照。

3月は、南から顕著に暖かい空気が流れ込む時期と、北から冷たい空気が流れ込む時期が交互に訪れ、気温の変動が大きかった。暖かい空気が冷たい空気よりも顕著だったため、北海道地方の月平均気温は高かった。また、低気圧の影響を受けやすかったため、降水量は多く、日照時間は少なかった。オホーツク海側では、低気圧通過時に冷たい北風や北東風の中で雪となることが多かったため、降雪量も多かった。

上旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かった。このため、北海道地方の降水量は少なく、日照時間は多く、降雪量は少なかった。気温は、南から顕著に暖かい空気が流れ込む日があったため、高かった。中旬：高気圧と低気圧が交互に通過し天気は数日の周期で変わったが、17日には、三陸沖を発達しながら北東進した低気圧の影響で、女満別空港で降雪の深さ日合計が41cmと3月として多い方から第1位を記録するなど、オホーツク海側や太平洋側で大雪となった所があった。このため、北海道地方の降水量は多く、降雪量は太平洋側でかなり多く、オホーツク海側で多かった。気温は、11日から13日にかけて南から顕著に暖かい空気が流れ込んだため、高かった。下旬：低気圧の影響を受けやすく、曇りで雪や雨の降った日が多かった。このため、北海道地方の降水量は多く、日照時間はかなり少なかった。低気圧が北海道付近を通過する際、オホーツク海側では冷たい北風や北東風の中で雪となることが多かったため、降雪量が多かった。一方で、太平洋側では暖かい南風や南西風の中で雨となることが多く、降雪量が少なかった。気温は、顕著に暖かい空気が流れ込んだ日があったため、高かった。

4月：低気圧の影響を受けやすく記録的寡照、かなりの多雨。暖かい空気に覆われやすく高温

4月は、低気圧が北海道付近を通過することが多かったため、北海道地方の日照時間はかなり少なく、降水量はかなり多かった。太平洋側の日照時間は、1946年の統計開始以降、4月として最も少なかった。また、暖かい空気に覆われやすかったため、太平洋側の気温はかなり高く、日本海側とオホーツク海側で高かった。

上旬：低気圧や湿った空気の影響を受けやすかったため、日照時間は北海道地方及び日本海側でかなり少なく、オホーツク海側と太平洋側で少なかった。低気圧はあまり発達しなかったため、降水量は北海道地方及び日本海側と太平洋側で少なかった。また、暖かい空気に覆われやすかったため、気温は北海道地方及び太平洋側でかなり高く、日本海側とオホーツク海側で高かった。中旬：13日から16日頃に低気圧が北日本付近をゆっくり通過したため、曇りや雨の日が多かった。このため、降水量は北海道地方及び全ての地域でかなり多かった。オホーツク海側の旬降水量は、1946年の統計開始以降、4月中旬として最も多くなった。日照時間は太平洋側でかなり少なく、北海道地方及び日本海側とオホーツク海側で少なかった。暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温は北海道地方及び日本海側と太平洋側でかなり高く、オホーツク海側で高かった。下旬：低気圧の影響を受けやすかったため、北海道地方及び全ての地域で降水量は多く、日照時間は少なかった。気温は、北東からの冷たい風の影響を受けやすかったオホーツク海側で低かった。29日は北海道の南東海上を通過した低気圧により、帯広空港や中標津町桜ヶ丘など太平洋側東部の平地でも10cmを超える降雪量があった。

5月：南から暖かい空気が流れ込みやすく、かなりの高温

5月は、低気圧の影響を受けにくかったため、北海道地方の降水量は少なく、日照時間は多かった。また、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、北海道地方の気温はかなり高かった。一方で、下旬には北から冷たい空気が流れ込み、気温の低い日もあった。

上旬：日本海側とオホーツク海側では低気圧の影響を受けにくかったため、日照時間は多く、降水量は少なかった。また、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、北海道地方の気温は高かった。中旬：低気圧が北海道の北を通過することが多く、低気圧の影響を受けにくかった。このため、北海道地方の日照時間は多く、降水量は少なかった。また、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、北海道地方の気温はかなり高かった。オホーツク海側の気温の平年差は、1946年の統計開始以降5月中旬として、高い方から第1位の記録となった。下旬：高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かったため、北海道地方の日照時間は多かった。一方で、25日から26日に低気圧が北海道付近をゆっくり通過し、広い範囲でまとまった雨となったため、日本海側とオホーツク海側の降水量は多かった。また、22日から26日は北から冷たい空気が流れ込み、その後は南から暖かい空気が流れ込んだため、北海道地方の気温は平年並となった。

3月の気温は高く、融雪は速やかに進んだ。前年の秋季に適切な防除が実施された秋まき小麦では、雪腐病の発生は少なかった。根雪始めが遅かったオホーツク・十勝地方では、雪腐大粒菌核病の比率が高かった。4月の多雨寡照の影響を受け、小麦の眼紋病の発生がやや多くなった。

近年多発が続いているりんごの腐らん病は、伝染源が多く残存しており令和7年も多発した。

春季の高温により、早発する害虫が目立った。アブラナ科野菜のコナガでは、早期に多飛来が認められたため、注意報を発表して注意喚起した。

夏季

6月：6月として歴代1位の高温となり3年連続の記録的な高温。太平洋側では歴代1位の多照

6月は、偏西風が北に蛇行し、暖かい空気に覆われやすかった。また、湿った東風の影響を受けづらく、高気圧圏内で晴れた日が多かった。それに加えて、低気圧が北海道の北を通過する日が多く、暖かい空気が流れ込みやすかった。これらの要因により、北海道地方と全ての地域で気温はかなり高かった。また、北海道地方と太平洋側の

日照時間はかなり多くなった。月平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降6月として、北海道地方と全ての地域で高い方から第1位となり、3年連続の記録的な高温となった。太平洋側の日照時間の平年比も、1946年の統計開始以降6月として多い方から第1位となった。一方で、日本海側では前線の影響により大雨となった日もあったため、月降水量は多かった。

上旬：低気圧が北海道の北を通過することが多く、湿った東風の影響を受ける日が少なかったため、太平洋側では晴れた日が多く、日照時間はかなり多かった。気温は、5日までは北風となって平年を下回る日もあったが、6日以降は南風となって平年を大きく上回ったため、北海道地方の旬平均気温は高く、太平洋側ではかなり高かった。中旬：高気圧に覆われやすく、また湿った東風の影響を受けにくく、晴れた日が多かったため、北海道地方の日照時間はかなり多く、降水量は少なかった。また、暖かい空気が流れ込みやすかったため、北海道地方の気温はかなり高く、旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降6月中旬として高い方から第1位の記録となった。下旬：低気圧が北海道の北を通過することが多く、湿った東風の影響を受ける日が少なかったため、日照時間はオホーツク海側でかなり多く、太平洋側で多かった。また、暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温はかなり高く、北海道地方の旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降6月下旬として高い方から第1位の記録となった。一方で、21日から22日にかけて前線が通過した影響で、日本海側を中心に広い範囲で大雨となったため、降水量は日本海側でかなり多かった。

7月：これまでの7月としての記録を大きく上回る歴代1位の高温

7月は、偏西風が北に蛇行し、暖かい空気に覆われやすかった。それに加えて、低気圧が北海道の北を通過することが多く、暖かい空気が流れ込みやすかった。また、湿った東風の影響を受けにくかったため、晴れた日が多かった。これらの要因により、北海道地方の気温はかなり高く、日照時間はかなり多かった。月平均気温の平年差は、これまで1位だった2023年の+2.9℃を大きく上回る+4.8℃となり、1946年の統計開始以降、7月として第1位の記録となった。低気圧の影響を受けにくかったことに加えて、日本海から北海道に侵入した停滞前線に伴う降水域が、山岳で遮られやすかったため、太平洋側では降水量はかなり少なかった。

上旬：低気圧や前線の影響を受けにくかったため、晴れた日が多かった。このため、北海道地方の日照時間はかなり多く、降水量は少なかった。また、暖かい空気に覆われやすかったため、気温はかなり高かった。旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降、7月上旬として第1位の記録となった。中旬：前線や暖かく湿った空気に伴う降水域が日本海から侵入しやすかったため、日本海側とオホーツク海側の降水量は多く、山岳に降水が遮られた太平洋側の降水量は少なかった。また、湿った東風の影響を受けることが少なかったため、オホーツク海側の日照時間は多かった。暖かい空気に覆われやすく、さらに南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、北海道地方の気温はかなり高かった。旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降、7月中旬として第1位の記録となった。下旬：高気圧の勢力圏内となりやすかったため、晴れた日が多かった。このため、北海道地方の降水量は少なく、日照時間は多かった。また、暖かい空気に覆われやすかったため、気温はかなり高かった。特に22日から25日にかけては全道的に高温となり、28のアメダス地点で日最高気温が通年の極値となった。旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降、7月下旬として第1位の記録となった。

8月：8月として歴代2位の高温

8月は、偏西風が平年より北を流れ、北海道地方は暖かい空気に覆われやすかった。さらに、南高北低の気圧配置となって暖かい空気が流れ込みやすく、晴れた日も多かった。これらの要因により、北海道地方の月平均気温の平年差は+2.8℃となった。1946年の統計開始以降、2023年に次いで、高い方から第2位の記録的な高温であった。また、高気圧に覆われて晴れた日があった一方で、低気圧や前線の影響を受けて、日本海側では記録的な大雨となった日もあった。このため、オホーツク海側と太平洋側の日照時間は多く、日本海側とオホーツク海側の降水量は多かった。

上旬：高気圧に覆われて晴れた日もあったが、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。このため、太平洋側の降水量は多かった。また、暖かい空気に覆われやすかったため、日本海側と太平洋側の気温はかなり高かった。中旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、オホーツク海側の日照時間はかなり多かった。一方、低気圧や前線の影響で、17日に留萌地方天塩で1976年の統計開始以降、通年の第1位となる日降水量156.0mmを観測するなど、大雨になった日もあった。このため、日本海側の降水量は多かった。また、暖かい空気に覆われやすく、北海道地方の気温はかなり高かった。太平洋側の旬平均気温の平年差は+3.8℃となり、1946年の統計開始以降、8月中旬として最も高かった。下旬：低気圧や前線が数日の周期で通過したため、曇りや雨の日が多く、26日に宗谷地方豊富で1976年の統計開始以降、通年の第1位となる日降水量196.0mmを観測するなど、大雨となった日もあった。このため、日本海側とオホーツク海側の降水量は多く、日本海側の日照時間は少なかった。また、暖かい空気に覆われやすく、オホーツク海側と太平洋側の気温はかなり高かった。

本年度も、夏季高温が、多くの病害虫の発生に影響した。病害では、春季から続く高温で、作物の生育と病原菌の感染適温に達する時期の両方が早まった。水稻の紋枯病や小麦の赤さび病など高温性の病害が早発した。近年多発傾向の続くてんさいの褐斑病も早期に発生したため注意報を発表して注意喚起した。水稻のいもち病では、初発は早かったものの、近年発生が少なく一次伝染源が少なかったことや適切な防除が実施されたことにより、平年並の発生にとどまった。ばれいしょでは冷涼な気象を好む疫病の発生が少ない一方で、*Alternaria* 属菌による夏疫病の発生が目立った。虫害では、春季から続く高温経過により発生が早まったり、急激な増殖が認められる害虫が目立った。前年度に全国的に多発した水稻の斑点米カメムシ類、果樹のカメムシ類は本道においても各地で多発し、注意報を発生した。飛来性も含め鱗翅目害虫の発生が多く、オオタバコガ、アワノメイガ、シロオビノメイガ、シロイチモジヨトウで注意報を発表したが、とうもろこし、てんさいなどで被害に至る地域が認められた。また、7月の高温乾燥でたまねぎ、ねぎのネギアザミウマが急激に増殖し、オホーツク地方のたまねぎでは局所的に被害が大きくなる事例も認められた。

秋季

9月：かなりの高温・かなりの多照となった一方、たびたび大雨があつて多雨

9月は、偏西風が平年より北を流れ、暖かい空気に覆われやすく、北からの寒気の影響は受けにくかった。このため、北海道地方の気温はかなり高かった。高気圧の張り出しの中で晴れた日が多く、また冷たく湿った空気の影響を受けにくかったため、日照時間は北海道地方と太平洋側でかなり多く、日本海側とオホーツク海側で多かった。中旬以降は低気圧が発達しながら北海道付近を通過し、広い範囲で大雨となった日があったため、北海道地方の降水量は多かった。

上旬：低気圧の影響を受ける日が少なかったが、1日から3日にかけては低気圧や前線の影響で大雨となった所があった。このため、北海道地方の降水量は平年並だった。気温は、暖かい空気に覆われやすかったため、日本海側と太平洋側でかなり高く、オホーツク海側で高かった。

中旬：晴れた日が多く暖かい空気に覆われやすく、また低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込む日もあったため、北海道地方の気温はかなり高く、日照時間はかなり多かった。13日から14日にかけてと20日から21日にかけては、低気圧が発達しながら北海道付近を通過し、広い範囲で大雨となったため、降水量は多かった。13日には白老町森野で、1976年の統計開始以降、通年の第1位となる日降水量380.0mmを観測した。

下旬：高気圧に覆われて晴れた日が多く、暖かい空気に覆われやすかったため、北海道地方の気温はかなり高く、日照時間はかなり多かった。北海道地方の旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降9月下旬として高い方から第2位の記録となった。20日から21日にかけては低気圧が発達しながら北海道付近を通過したため、線状降水帯が発生するなど太平洋側を中心に大雨となり、暴風となった所もあった。21日には、厚真で88.5mm、釧路市音別町二俣で75.5mmといずれも1976年の統計開始以降、通年の第1位となる日最大1時間降水量を観測した。平年の降水量が少ないオホーツク海側では、降水量が多かった。

10月：低気圧の影響を受けにくく少雨。寒気の影響を受けやすく低温

10月は、低気圧が北海道の南を通過することが多く、まとまった雨が降ることが少なかったため、北海道地方の降水量は少なかった。一方で、北や東から冷たく湿った空気が流れ込みやすく、曇りや雨または雪の日が多かったため、オホーツク海側と太平洋側では日照時間が少なかった。気温は、月の初めには大きく平年を上回ったが、その後は一変して寒気の影響を受けやすく、平年を下回る日が多かった。このため、月平均気温は低かった。

上旬：高気圧に覆われやすかったため、晴れた日が多かった。このため、北海道地方の降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。気温は、暖かい空気に覆われやすく、さらに低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、かなり高かった。旬平均気温の平年差は、北海道地方及び日本海側と太平洋側で、1946年の統計開始以降、10月上旬として高い方から第1位の記録となった。中旬：低気圧が北海道の南を通過することが多く、北や東から冷たく湿った空気が流れ込みやすかった。このため曇りや雨または雪の日が多く、日照時間はかなり少なかった。気温は、大陸からの寒気の影響を受けやすかったため、オホーツク海側でかなり低く、日本海側で低かった。特に19日以降は強い寒気が入り、20日には日本海側やオホーツク海側で初雪を観測した。下旬：強いシベリア高気圧が張り出して大陸からの寒気の影響を受けやすく、日本海側を中心に曇りや雨または雪の日が多かった。このため日照時間は日本海側でかなり少なく、オホーツク海側で少なかった。また、降水量は日本海側で多かった。寒気の影響を受けやすかったため、北海道地方の気温はかなり低かった。

10月上旬まで高温が続き、たびたび大雨に見舞われた。てんさいの褐斑病では、初期防除の適切な実施により被害が少なく抑えられた地域もあったものの、本年度も全道的に発生量は多くなった。高温性の病害であるぶどうの晩腐病は、昨年に引き続き多発し、醸造用ぶどうでも被害が認められた。大豆では大型カメムシ類による加害が多発した。令和5年から被害が多発しているマメノメイガは、本年度も飛来して小豆に被害をもたらした。

令和7年の農耕期間の天候と農作業経過の特徴としては、気温は春季から秋季まで続く高温経過による作物の生育の前進や高温障害となって表れた。高温経過の影響は、病害虫の発生経過においても表れており、高温性病害では感染適温に達する時期が早まり、多くの害虫で飛来や増殖が早くから活発に認められるなど、防除時期の前倒しを促す注意報を發出した。

主要病害虫で多発となったのは、水稻の斑点米カメムシ類、てんさいの褐斑病、てんさいのヨトウガ、ねぎのネギアザミウマ及びりんごの腐らん病であった。やや多発となったものは、水稻のヒメトビウンカ、秋まき小麦の眼紋病、春まき小麦（初冬まき）のムギキモグリバエ、大豆のわい化病、てんさいのテンサイモグリハナバエ、たまねぎのネギアザミウマ、キャベツのコナガであった。

一方で、前年度に引き続き、低温や湿潤条件下で発生しやすい病害の発生は少なかった。小麦の雪腐病、赤かび病、小豆・菜豆の菌核病や灰色かび病、ばれいしょの疫病の発生は少なかったほか、本年度は7月の高温少雨が顕著だったことから、特に夏季に栽培を終える作物では病害の発生は全般に少なかった。

このほか、本年度は飛来性の害虫による被害が目立った。てんさいでは通常防除対象とされるヨトウガ以外に、飛来性のシロオビノメイガやシロイチモジヨトウなど複数の鱗翅目害虫による食害が混発した。令和5年から飛来が認められるようになったトマトキバガは、本年度もトマトのハウス内で春季からの発生が認められたが、発生初期からの適切な防除により被害は少なく抑えられた。

また、全国的に多発しているカメムシ類は、本道でも様々な作物で被害が認められた。大豆ではこれまで防除対象としていなかった大型のカメムシ類による吸汁害が認められた。果樹でもカメムシ類による被害が目立ち、新たな加害作物が確認された。水稻の斑点米カメムシ類では、アカヒゲホソミドリカスミカメに加えて、道南ではアカスジカスミカメも主要な構成種であった。

以上のように、令和7年も病害虫の発生は高温の影響を大きく受け、各種病害虫の早発が目立つとともに、道外から飛来する害虫による被害が多発した。

（各月の気象は札幌管区気象台発表「北海道地方の天候のまとめ」月の天候3～10月より引用）

気象季節（各場定期作況報告）

	初霜*		根雪始*		根雪終		降雪終		耕鋤始		晩霜		降雪始	
	(月日)		(月日)		(月日)		(月日)		(月日)		(月日)		(月日)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
北斗	10. 21	10. 23	12. 11	12. 14	3. 1	3. 7	3. 31	4. 16	4. 9	4. 8	4. 6	4. 26	11. 10	11. 11
長沼	10. 17	10. 20	12. 6	12. 8	3. 26	3. 29	3. 30	4. 7	4. 18	4. 13	4. 18	4. 21	10. 28	11. 8
岩見沢	10. 21	10. 18	12. 6	12. 1	4. 6	3. 31	4. 30	4. 21	4. 28	5. 3	5. 1	4. 29	10. 24	10. 31
比布	10. 10	10. 10	11. 29	11. 23	4. 8	4. 6	4. 30	4. 24	4. 22	4. 17	-	-	10. 20	10. 25
訓子府	10. 14	10. 14	12. 22	12. 12	4. 7	4. 4	4. 29	4. 26	4. 22	4. 21	5. 1	5. 12	10. 28	11. 4
芽室	10. 14	10. 11	R7. 1.24	12. 10	4. 4	3. 29	4. 4	4. 18	4. 9	4. 13	5. 1	5. 2	10. 28	11. 10
中標津	10. 21	10. 14	11. 30	12. 20	4. 7	4. 3	4. 30	4. 20	5. 9	5. 3	6. 2	5. 28	11. 7	11. 10

*：初霜・根雪始は前年秋。

長沼町(中央農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	3.6	3.1	10.3	7.6	-2.1	-1.3	1.5	6.9	25.8	27.5
4.2	7.7	4.2	15.9	8.8	-0.9	-0.3	6.0	7.0	25.6	27.0
4.3	9.6	5.2	19.6	10.1	2.1	0.6	23.0	8.3	16.2	27.0
4.4	8.2	6.3	17.4	11.4	0.5	1.6	47.0	9.7	20.2	27.2
4.5	8.0	7.4	19.2	12.6	2.0	2.6	9.5	10.2	15.2	27.5
4.6	6.3	8.4	15.6	13.8	-0.2	3.5	25.0	10.8	24.0	28.2
5.1	11.3	9.3	19.2	14.7	-0.4	4.5	24.5	12.5	29.6	28.9
5.2	12.2	10.0	20.5	15.3	4.6	5.2	8.5	14.4	22.4	29.7
5.3	13.7	10.7	23.5	16.0	4.8	6.1	1.0	14.6	39.5	30.2
5.4	15.3	11.7	23.1	17.0	6.2	7.2	4.0	13.0	33.6	30.1
5.5	12.1	12.6	20.9	17.9	4.7	8.3	20.5	11.5	31.7	30.0
5.6	15.1	13.4	26.8	18.7	4.2	9.1	3.5	14.3	59.5	36.0
6.1	14.8	14.0	23.7	19.2	9.5	9.9	15.0	12.5	29.3	28.9
6.2	18.2	14.6	27.9	19.7	10.0	10.7	0.5	12.9	30.8	27.0
6.3	16.9	15.3	24.0	20.2	11.8	11.5	25.5	13.9	25.4	24.9
6.4	21.3	15.9	31.3	20.8	15.3	12.3	3.0	13.8	49.1	24.1
6.5	21.6	16.6	31.5	21.6	16.8	12.9	8.5	12.8	35.4	25.3
6.6	21.6	17.4	31.6	22.4	15.3	13.7	9.0	13.3	26.0	26.2
7.1	23.7	18.0	31.5	22.9	19.1	14.5	2.0	15.5	22.8	25.2
7.2	23.7	18.6	33.3	23.2	16.4	15.2	0.0	17.7	55.2	23.5
7.3	20.7	19.1	30.2	23.6	15.3	15.8	3.0	17.8	32.8	23.0
7.4	24.6	19.6	31.2	24.1	20.4	16.4	44.5	17.0	11.7	22.8
7.5	27.9	20.3	35.7	24.8	20.9	17.1	0.0	17.5	53.3	22.5
7.6	24.6	21.1	30.7	25.5	22.0	17.9	30.5	22.5	19.2	27.6
8.1	25.7	21.5	34.0	26.0	22.1	18.2	9.5	20.3	34.5	24.1
8.2	23.4	21.5	29.1	25.9	18.9	18.2	14.5	24.1	13.4	23.8
8.3	24.5	21.2	31.3	25.6	18.4	18.0	2.0	27.0	44.8	22.4
8.4	23.9	20.9	32.6	25.3	16.6	17.6	22.0	28.2	30.1	22.4
8.5	23.2	20.6	30.5	25.1	16.7	17.0	2.5	26.8	29.8	24.1
8.6	22.1	20.3	30.6	25.0	17.7	16.4	8.0	27.6	13.1	31.2
9.1	22.6	19.8	28.6	24.5	15.4	15.7	20.0	23.1	28.0	26.1
9.2	22.0	19.0	28.6	23.7	15.7	14.8	8.0	25.1	24.2	25.5
9.3	20.1	17.9	27.5	22.8	13.2	13.5	61.5	23.6	35.8	25.7
9.4	17.9	16.7	27.2	21.8	8.0	12.0	49.5	20.0	32.3	26.7
9.5	16.2	15.6	24.0	20.8	7.7	10.6	39.0	19.3	28.7	27.0
9.6	17.8	14.6	24.7	19.8	10.3	9.6	0.0	20.0	35.6	26.4
10.1	18.3	13.5	25.7	18.7	11.8	8.5	5.5	19.1	35.9	24.9
10.2	12.2	12.4	22.0	17.6	2.8	7.3	4.0	17.4	27.2	24.1
10.3	10.0	11.3	17.0	16.4	1.8	6.1	5.5	15.1	23.9	24.7
10.4	9.9	10.2	18.2	15.4	0.7	4.9	11.0	14.0	9.9	24.7
10.5	5.0	9.2	11.9	14.3	-0.6	4.1	1.5	14.3	18.0	23.0
10.6	7.0	8.3	14.6	13.0	-1.4	3.4	18.5	17.4	16.1	24.9

長沼のアメダスデータによる。

岩見沢市(中央農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	3.2	3.3	9.8	7.8	-2.3	-1.0	2.0	7.0	20.6	29.8
4.2	7.5	4.4	15.7	9.1	-0.1	-0.1	3.5	7.7	22.4	29.3
4.3	9.6	5.4	19.6	10.4	2.2	0.8	16.5	8.9	19.2	29.0
4.4	8.0	6.6	19.2	11.9	0.7	1.8	49.0	9.8	18.7	29.0
4.5	8.2	7.8	18.9	13.3	1.7	2.7	5.0	10.5	17.6	29.1
4.6	6.3	8.9	15.7	14.5	-0.3	3.7	30.5	11.1	24.2	29.6
5.1	11.7	9.9	20.5	15.5	-0.3	4.7	14.0	13.4	34.6	30.2
5.2	12.4	10.5	20.7	16.2	4.3	5.5	9.5	15.4	25.7	30.8
5.3	14.9	11.3	24.7	17.0	5.3	6.3	2.0	14.9	41.4	31.3
5.4	15.8	12.4	24.6	18.0	6.1	7.4	10.5	13.0	35.8	31.8
5.5	12.3	13.3	21.7	19.0	5.9	8.4	20.5	11.6	31.3	32.2
5.6	15.6	14.1	27.1	19.9	4.7	9.2	4.5	14.3	63.6	39.4
6.1	14.5	14.8	23.5	20.5	8.7	10.0	19.5	11.3	27.6	31.9
6.2	18.6	15.4	28.9	20.9	10.3	10.9	2.5	11.1	34.4	29.9
6.3	17.8	16.0	26.2	21.3	11.9	11.8	11.0	11.9	28.9	27.9
6.4	21.9	16.6	31.0	21.9	15.7	12.5	3.0	12.0	42.0	27.1
6.5	22.4	17.3	32.7	22.6	16.5	13.2	13.0	12.0	36.1	27.9
6.6	22.2	18.0	31.6	23.4	15.4	13.9	1.5	13.1	30.1	28.5
7.1	25.1	18.7	32.8	24.0	20.5	14.8	0.5	15.5	22.2	27.5
7.2	24.3	19.2	33.4	24.3	15.4	15.5	0.0	18.0	50.6	25.8
7.3	21.6	19.7	31.1	24.7	15.0	16.1	0.0	18.6	40.9	25.0
7.4	25.5	20.3	32.5	25.2	21.2	16.7	35.0	18.1	9.8	25.4
7.5	27.8	21.0	35.5	25.8	20.4	17.4	0.0	18.0	49.8	25.1
7.6	24.8	21.7	31.5	26.5	21.6	18.2	46.5	21.9	24.4	30.1
8.1	26.0	22.0	33.0	26.8	21.6	18.4	7.0	20.7	35.2	26.1
8.2	23.1	21.9	30.0	26.7	18.7	18.3	12.0	25.4	13.2	26.1
8.3	24.4	21.6	31.7	26.2	17.9	18.1	0.0	28.2	40.9	24.7
8.4	23.9	21.2	32.9	25.9	16.9	17.6	33.0	28.9	26.7	24.5
8.5	23.1	20.9	29.8	25.7	17.1	17.0	10.0	27.4	32.3	25.8
8.6	22.0	20.5	29.3	25.4	17.5	16.5	14.5	29.8	17.0	32.2
9.1	22.4	20.0	29.0	24.8	15.3	15.8	37.0	24.8	28.9	26.7
9.2	21.9	19.1	27.9	24.0	16.1	14.9	5.5	25.5	24.3	26.5
9.3	20.3	18.0	27.3	22.9	13.2	13.6	55.5	24.2	39.4	26.6
9.4	17.6	16.8	26.3	21.9	8.2	12.2	55.5	22.6	32.5	27.0
9.5	16.1	15.6	23.8	20.8	7.7	10.9	42.5	22.7	25.6	26.9
9.6	17.8	14.6	23.8	19.7	10.9	9.9	16.0	22.7	38.0	25.9
10.1	18.4	13.6	26.3	18.6	12.1	8.9	0.0	21.8	39.2	24.4
10.2	12.3	12.4	21.7	17.4	3.6	7.7	4.0	20.7	28.4	23.5
10.3	10.1	11.3	16.2	16.3	2.6	6.6	13.5	17.7	26.1	23.5
10.4	9.5	10.3	17.0	15.2	2.4	5.5	25.5	15.3	7.4	23.3
10.5	4.9	9.4	12.2	14.1	0.1	4.8	42.0	15.9	9.2	21.5
10.6	6.8	8.4	14.1	12.8	-0.1	4.0	32.5	19.8	13.6	23.0

岩見沢のアメダスデータによる。

比布町(上川農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	1.1	1.6	6.4	6.6	-5.8	-3.6	1.0	7.1	5.7	24.8
4.2	5.0	2.7	13.4	7.9	-2.4	-2.5	0.0	8.3	13.7	25.3
4.3	8.1	3.8	18.8	9.3	-0.6	-1.4	21.5	8.5	33.2	26.1
4.4	7.1	5.1	18.5	11.0	-0.6	-0.4	43.5	8.2	14.5	26.5
4.5	8.3	6.5	20.1	12.7	0.6	0.7	2.0	8.3	29.6	26.2
4.6	5.3	7.8	13.7	14.3	-1.3	1.7	5.0	9.5	26.9	26.6
5.1	10.3	9.0	20.6	15.4	-1.6	2.8	3.5	11.8	31.8	27.5
5.2	11.2	9.8	19.7	16.3	2.1	3.7	3.0	13.0	28.8	28.8
5.3	14.8	10.9	26.7	17.4	4.1	4.8	6.0	12.1	32.0	30.1
5.4	15.9	12.2	28.8	18.7	5.3	6.2	4.0	10.4	31.1	31.0
5.5	11.7	13.4	20.9	19.9	3.7	7.4	24.0	10.2	29.0	31.7
5.6	15.1	14.3	28.5	20.9	5.9	8.3	5.0	13.6	61.3	39.5
6.1	12.5	15.0	23.2	21.5	4.4	9.2	9.5	11.5	22.8	32.0
6.2	17.9	15.7	27.9	22.0	9.4	10.3	5.5	11.7	33.8	29.5
6.3	18.0	16.4	27.6	22.5	11.4	11.2	20.0	12.4	27.8	27.7
6.4	21.7	17.0	30.4	23.0	14.0	11.9	1.5	12.4	36.6	27.5
6.5	22.1	17.6	31.3	23.6	15.5	12.4	53.0	12.2	38.0	28.3
6.6	21.8	18.3	30.2	24.3	14.1	13.2	34.0	13.6	34.0	28.5
7.1	25.0	19.0	32.0	24.9	20.6	14.0	17.0	16.6	22.3	27.8
7.2	22.7	19.5	32.0	25.3	13.6	14.7	0.0	19.5	55.1	27.0
7.3	21.9	19.9	34.9	25.6	14.1	15.2	0.0	21.2	40.8	27.4
7.4	24.8	20.4	34.0	26.2	21.0	15.7	87.5	22.5	6.3	28.2
7.5	25.7	21.1	33.3	26.9	17.5	16.4	0.0	25.3	40.5	27.5
7.6	24.0	21.6	32.2	27.3	20.7	17.1	23.5	31.9	16.8	31.8
8.1	25.0	21.7	32.0	27.4	19.6	17.2	4.0	25.1	36.9	27.2
8.2	21.6	21.4	28.4	27.1	17.1	16.9	20.0	25.6	11.2	27.2
8.3	22.8	21.0	31.2	26.5	16.0	16.6	5.0	27.8	41.6	25.6
8.4	21.0	20.5	31.5	26.0	13.8	16.0	49.0	28.4	23.2	24.5
8.5	21.5	19.9	29.3	25.6	14.7	15.2	68.5	26.4	25.2	25.3
8.6	20.4	19.4	27.7	25.2	14.2	14.5	35.5	29.4	14.5	31.2
9.1	20.1	18.7	28.1	24.5	13.1	13.8	41.5	26.5	28.9	25.5
9.2	19.7	17.7	27.5	23.5	13.7	12.8	3.0	27.2	22.6	24.7
9.3	17.5	16.4	27.4	22.3	9.5	11.4	46.0	24.9	35.7	24.2
9.4	14.9	15.1	24.6	21.1	4.6	9.9	24.0	22.4	28.2	24.0
9.5	13.5	13.9	23.1	20.0	5.8	8.6	27.0	21.6	27.8	24.0
9.6	15.5	12.9	23.7	19.0	9.1	7.7	11.0	21.1	32.8	23.2
10.1	16.2	11.8	25.7	17.7	9.8	6.6	1.5	20.1	38.1	21.9
10.2	9.5	10.5	18.8	16.4	0.3	5.4	3.0	18.8	31.3	20.6
10.3	7.6	9.3	14.6	15.2	-1.8	4.2	4.5	17.1	27.2	20.0
10.4	7.6	8.2	14.8	14.0	0.9	3.1	22.0	16.0	4.0	19.5
10.5	3.7	7.2	11.5	12.9	-1.3	2.3	10.5	17.1	13.1	18.0
10.6	4.5	6.3	12.7	11.4	-2.1	1.7	48.0	21.7	10.0	17.7

比布のアメダスデータによる。

北斗市(道南農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	4.5	4.2	9.8	8.9	-2.3	-0.6	2.0	8.5	13.5	26.2
4.2	7.6	5.1	13.7	10.0	-0.2	0.2	1.0	9.3	18.1	27.7
4.3	8.9	6.0	16.4	11.1	3.0	1.0	32.0	10.8	15.9	29.2
4.4	9.1	7.0	16.9	12.1	2.2	1.9	16.5	12.7	15.0	29.5
4.5	9.1	8.0	15.0	13.2	3.9	2.8	9.0	14.1	18.3	29.3
4.6	8.2	9.0	13.8	14.3	2.4	3.7	27.5	15.2	18.9	29.7
5.1	11.0	9.9	19.5	15.2	1.3	4.6	34.0	16.0	32.5	30.0
5.2	11.9	10.4	19.1	15.7	3.9	5.4	2.0	15.2	30.5	29.6
5.3	13.3	11.1	22.2	16.2	5.1	6.2	1.5	13.1	33.5	29.5
5.4	14.3	12.0	23.5	17.0	5.2	7.3	8.5	12.5	20.9	30.0
5.5	12.5	12.9	18.7	17.9	8.3	8.4	20.0	12.5	20.1	31.1
5.6	14.2	13.7	23.9	18.7	7.5	9.2	1.0	14.7	46.0	38.4
6.1	14.6	14.3	20.9	19.3	8.0	9.9	5.5	11.6	17.5	31.0
6.2	18.3	14.8	26.0	19.6	9.9	10.6	0.5	12.8	50.1	28.5
6.3	17.4	15.5	24.3	20.1	10.0	11.5	21.0	14.3	28.4	26.2
6.4	20.8	16.2	28.0	20.7	14.8	12.4	3.5	14.5	45.5	24.8
6.5	21.1	16.9	28.7	21.3	15.1	13.2	14.5	14.3	30.0	24.5
6.6	21.6	17.6	27.4	22.0	17.0	13.9	36.0	15.5	23.9	23.9
7.1	23.5	18.2	29.3	22.4	20.0	14.7	59.0	18.7	8.1	21.3
7.2	23.2	18.8	30.9	22.9	15.8	15.4	0.0	21.1	49.5	19.3
7.3	20.3	19.4	28.0	23.4	13.9	16.1	0.0	20.0	32.2	18.6
7.4	25.5	20.0	32.1	24.0	21.1	16.8	4.5	17.6	14.6	18.5
7.5	26.6	20.7	33.2	24.8	19.5	17.4	0.0	19.2	35.7	19.2
7.6	25.6	21.4	32.0	25.7	21.8	18.1	1.0	26.5	12.4	24.3
8.1	26.3	21.9	33.5	26.1	20.2	18.5	13.5	23.2	37.4	21.3
8.2	23.2	21.9	29.9	26.0	18.5	18.5	37.0	25.5	16.6	21.4
8.3	24.7	21.7	30.9	25.8	17.9	18.3	0.5	26.7	48.0	21.0
8.4	23.6	21.5	31.8	25.6	17.1	17.9	185.0	27.0	24.3	21.4
8.5	23.8	21.2	30.3	25.6	17.1	17.4	11.0	27.4	38.9	23.3
8.6	23.2	20.8	31.6	25.3	15.8	16.8	32.0	31.5	20.1	29.2
9.1	23.2	20.3	28.1	24.8	17.1	16.2	56.5	26.0	29.9	23.5
9.2	22.3	19.5	29.4	24.1	16.5	15.2	23.5	25.8	25.3	23.1
9.3	21.5	18.6	27.7	23.4	14.4	14.0	95.0	24.5	35.6	24.3
9.4	18.7	17.5	27.5	22.6	10.2	12.7	36.5	23.5	28.9	26.1
9.5	17.7	16.4	24.3	21.6	9.2	11.4	25.0	23.5	34.6	27.0
9.6	18.2	15.5	25.2	20.6	12.0	10.4	0.0	23.0	32.4	26.2
10.1	18.9	14.5	26.3	19.6	10.8	9.3	0.0	22.0	34.6	25.2
10.2	14.3	13.3	22.8	18.5	6.0	8.1	1.0	20.6	27.3	24.8
10.3	12.8	12.0	19.4	17.4	2.7	6.8	1.0	19.1	23.5	25.6
10.4	10.7	10.9	19.7	16.3	1.7	5.6	15.5	17.2	13.6	25.3
10.5	6.4	10.0	13.7	15.2	-1.2	4.8	0.0	15.7	23.1	23.5
10.6	8.0	9.0	16.5	14.0	-1.2	4.0	21.5	18.6	23.0	25.3

北斗のアメダスデータによる。

芽室町(十勝農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	2.7	2.5	13.4	8.1	-6.3	-3.0	2.5	9.0	29.8	32.3
4.2	6.9	3.6	16.9	9.4	-1.8	-1.9	9.5	9.2	34.5	31.6
4.3	7.0	4.6	17.1	10.6	-0.5	-1.0	36.0	9.8	9.0	31.0
4.4	9.0	5.7	18.0	12.0	-0.6	-0.1	24.5	10.7	21.5	31.0
4.5	7.8	6.9	15.8	13.5	-1.2	0.7	1.5	11.2	24.9	31.3
4.6	5.5	8.2	14.1	15.0	-0.6	1.6	36.0	11.9	29.9	32.0
5.1	8.6	9.3	17.4	16.0	-1.9	2.7	6.5	13.4	22.4	31.6
5.2	11.2	9.9	22.5	16.5	1.3	3.5	4.0	14.0	26.1	30.4
5.3	13.6	10.5	24.0	17.1	2.3	4.2	0.0	13.5	39.8	29.3
5.4	15.4	11.4	28.9	18.0	8.2	5.3	8.5	13.0	38.6	28.7
5.5	11.2	12.2	21.4	18.8	4.0	6.3	21.0	13.0	15.3	28.0
5.6	14.1	12.9	28.0	19.5	3.2	7.1	0.5	15.6	48.5	33.9
6.1	12.7	13.5	22.0	20.0	2.8	8.0	8.5	13.2	20.4	27.3
6.2	19.2	14.1	29.9	20.3	7.7	8.9	0.0	14.3	44.4	24.8
6.3	17.1	14.7	24.9	20.6	6.6	9.8	16.0	15.6	30.8	22.1
6.4	21.7	15.3	31.7	21.1	13.1	10.6	1.0	15.5	53.4	21.2
6.5	21.9	16.0	32.6	21.9	12.5	11.1	2.5	13.7	29.2	22.9
6.6	22.5	16.7	31.1	22.6	12.2	11.8	7.0	12.9	44.0	23.9
7.1	23.8	17.2	34.3	23.0	16.5	12.6	9.0	15.3	25.9	22.4
7.2	24.4	17.7	35.2	23.2	12.8	13.4	0.0	19.7	46.5	20.6
7.3	19.2	18.3	31.2	23.7	9.6	14.0	13.5	21.2	31.4	19.5
7.4	24.9	18.8	33.3	24.1	19.8	14.7	8.5	18.2	10.1	18.7
7.5	28.2	19.4	37.7	24.7	18.4	15.4	0.0	15.8	49.2	18.5
7.6	22.2	20.2	28.5	25.5	19.2	16.0	27.5	18.2	6.0	23.1
8.1	23.8	20.5	32.3	26.0	20.4	16.3	9.0	18.1	15.3	20.0
8.2	22.4	20.4	29.8	25.7	18.0	16.3	33.0	24.7	15.4	19.3
8.3	24.0	20.0	31.4	25.1	16.4	16.1	0.0	28.5	32.5	17.8
8.4	21.6	19.7	32.5	24.8	11.6	15.7	5.0	27.0	25.6	18.2
8.5	22.0	19.4	31.2	24.6	16.8	15.2	12.5	24.8	29.2	20.5
8.6	20.2	19.0	31.4	24.3	16.6	14.6	9.0	29.6	12.7	26.4
9.1	20.1	18.5	28.0	23.7	11.7	14.1	19.5	25.7	31.3	21.6
9.2	20.5	17.8	29.1	23.0	13.8	13.3	0.5	26.9	22.0	21.5
9.3	18.6	16.8	27.3	22.1	8.3	12.1	56.5	27.0	39.6	22.4
9.4	17.1	15.6	28.3	21.2	4.9	10.6	60.5	26.2	38.3	23.8
9.5	14.4	14.4	22.7	20.1	3.7	9.2	52.5	25.2	32.4	24.9
9.6	15.7	13.4	24.5	19.1	5.6	8.1	0.0	23.4	37.2	25.0
10.1	15.9	12.3	26.4	18.1	6.8	6.9	5.5	20.6	27.7	25.0
10.2	11.3	11.1	22.5	17.1	-0.1	5.5	2.0	17.9	31.5	25.5
10.3	8.9	9.9	16.3	16.1	0.2	4.1	3.5	14.8	23.6	27.0
10.4	9.3	8.8	20.5	14.9	1.0	3.0	1.0	12.3	19.3	27.5
10.5	4.2	7.9	11.3	13.8	-3.8	2.1	0.0	11.2	29.0	26.9
10.6	5.7	6.9	16.8	12.7	-3.3	1.2	17.0	12.2	27.4	31.3

芽室のアメダスデータによる。

訓子府町(北見農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	1.8	1.3	12.8	6.8	-8.0	-4.2	2.5	7.5	24.5	28.0
4.2	6.4	2.5	16.4	8.1	-1.8	-3.0	6.5	7.2	27.2	27.6
4.3	7.7	3.6	18.9	9.5	1.1	-1.9	25.0	7.0	21.7	28.0
4.4	8.6	4.8	17.2	11.0	0.6	-0.9	16.0	7.5	26.8	28.0
4.5	7.1	6.2	16.9	12.6	-0.2	0.1	2.5	8.3	27.2	28.0
4.6	4.1	7.5	13.9	14.2	-2.2	1.1	21.5	8.7	22.2	27.7
5.1	9.2	8.4	17.2	15.2	0.6	2.0	8.0	9.6	22.3	27.4
5.2	10.7	8.9	20.1	15.6	1.3	2.7	6.0	10.4	17.9	27.0
5.3	13.6	9.8	25.5	16.3	3.5	3.6	0.0	9.8	26.8	27.1
5.4	16.5	10.9	30.0	17.6	3.6	4.7	4.5	8.8	43.8	27.5
5.5	10.4	11.9	21.0	18.5	2.0	5.7	15.5	8.7	12.6	27.8
5.6	14.1	12.7	27.3	19.3	2.2	6.6	0.0	11.2	48.2	34.8
6.1	11.2	13.5	18.4	19.9	4.0	7.4	20.0	9.8	21.6	29.3
6.2	17.9	14.1	28.5	20.3	6.7	8.4	2.0	10.9	33.0	27.5
6.3	15.9	14.6	24.9	20.5	6.6	9.3	21.0	12.3	23.1	25.2
6.4	21.5	14.9	30.9	20.7	12.4	10.0	0.0	12.4	46.7	24.0
6.5	22.5	15.5	33.5	21.4	13.7	10.5	1.0	11.6	30.8	25.3
6.6	22.2	16.4	33.0	22.3	13.0	11.2	13.5	11.4	42.4	26.5
7.1	24.2	17.1	33.6	22.9	19.2	12.1	1.0	13.7	17.6	25.4
7.2	22.6	17.6	36.4	23.2	13.9	12.8	0.0	17.2	46.9	23.7
7.3	20.7	18.0	33.5	23.5	7.4	13.4	3.0	18.4	48.7	23.0
7.4	25.5	18.5	34.4	24.0	20.3	13.9	31.5	16.7	11.9	23.9
7.5	27.5	19.3	38.0	24.8	18.9	14.7	0.0	15.7	57.7	24.8
7.6	23.0	20.0	30.0	25.5	19.7	15.5	43.5	19.3	19.2	29.6
8.1	24.4	20.3	30.9	25.8	18.5	15.7	5.0	17.3	39.6	24.5
8.2	21.1	20.1	30.4	25.4	16.1	15.6	61.0	21.0	14.1	23.8
8.3	22.6	19.7	29.8	24.9	16.6	15.4	19.0	24.4	31.8	22.4
8.4	21.1	19.3	30.8	24.5	13.3	14.9	22.0	24.9	26.4	22.5
8.5	20.3	18.9	29.3	24.3	13.7	14.3	34.0	23.0	17.0	23.5
8.6	20.0	18.5	29.9	23.9	13.4	13.8	1.5	25.4	15.3	28.8
9.1	19.4	17.9	26.8	23.4	11.8	13.1	55.5	22.2	22.9	23.5
9.2	20.1	17.1	29.3	22.6	13.4	12.2	0.0	23.4	27.2	23.5
9.3	17.4	16.0	27.6	21.6	9.5	11.0	45.5	22.0	36.0	23.7
9.4	15.6	14.7	27.6	20.5	7.4	9.5	27.5	19.7	29.7	24.4
9.5	13.8	13.5	23.6	19.4	5.7	8.1	56.5	19.0	29.9	25.1
9.6	15.2	12.5	25.2	18.5	7.3	7.1	0.0	18.2	40.0	25.5
10.1	16.2	11.5	26.1	17.6	7.5	6.0	0.0	16.7	36.8	25.2
10.2	9.5	10.3	21.3	16.5	0.2	4.7	1.5	14.8	30.2	24.7
10.3	7.3	9.0	14.0	15.4	-0.7	3.4	0.5	12.1	22.8	25.1
10.4	7.6	7.9	17.4	14.3	-0.8	2.2	0.5	9.8	12.8	25.5
10.5	3.3	6.9	11.9	13.3	-2.7	1.3	1.0	9.0	17.0	25.1
10.6	5.2	6.0	16.9	12.2	-3.1	0.4	22.0	10.3	29.9	28.6

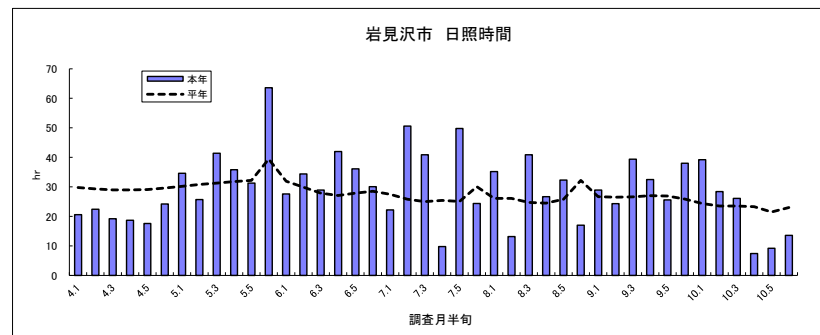
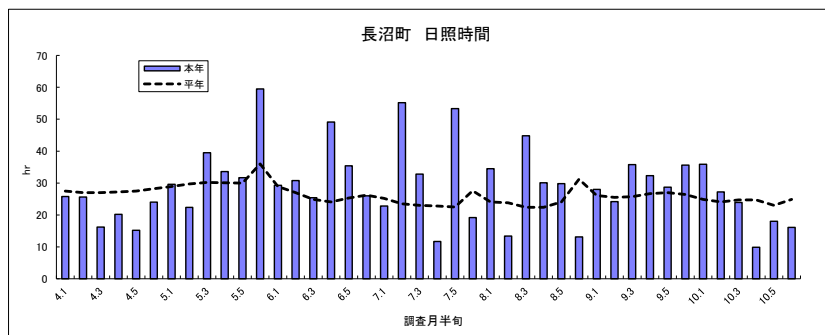
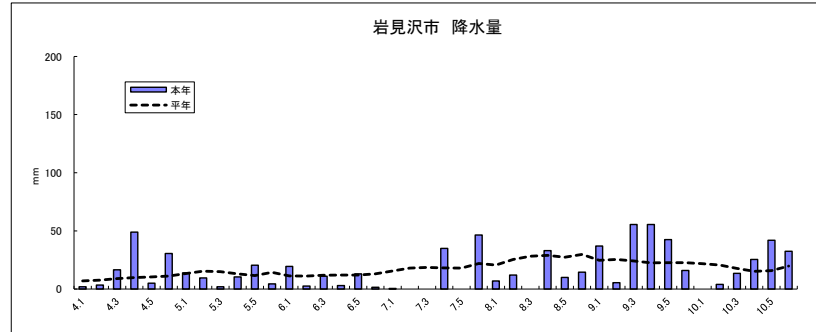
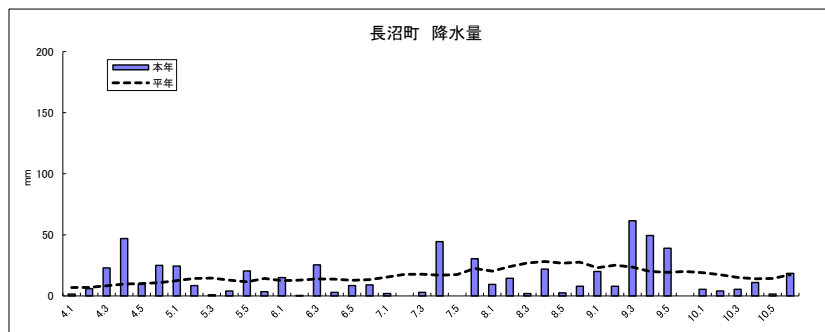
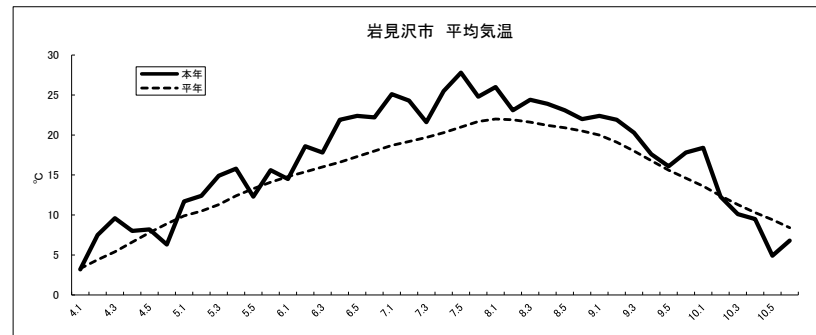
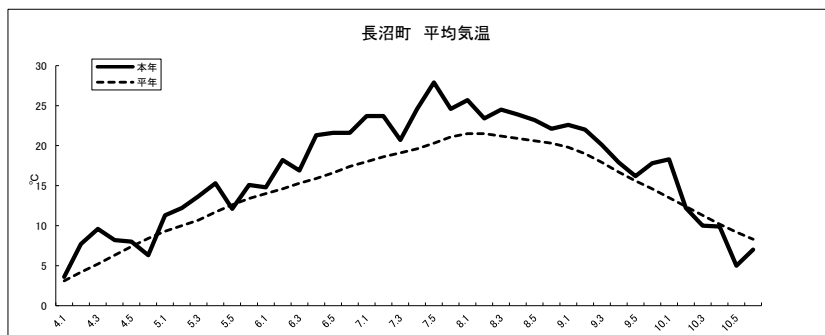
置戸町境野のアメダスデータによる。

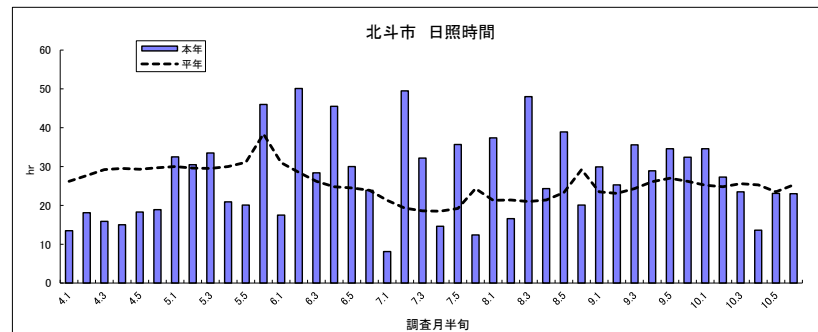
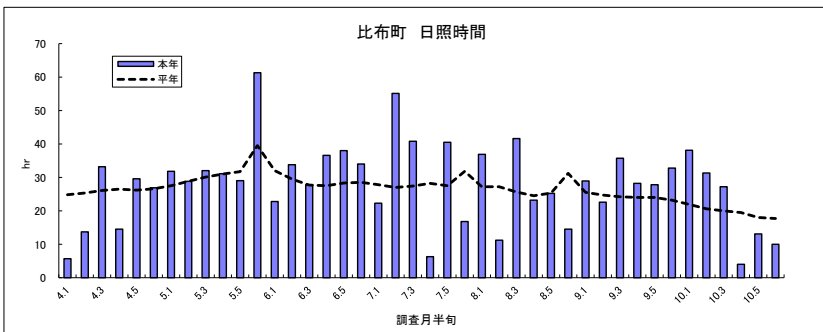
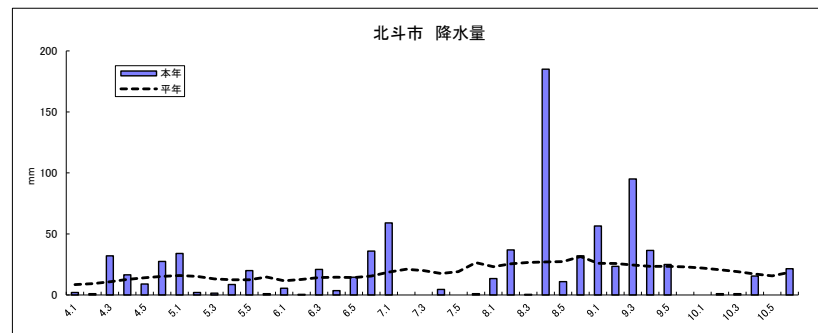
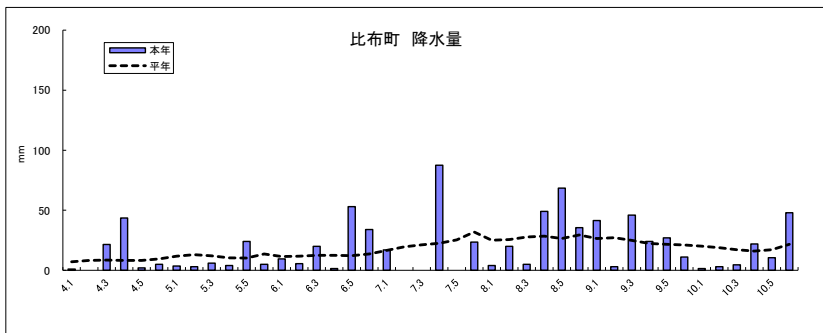
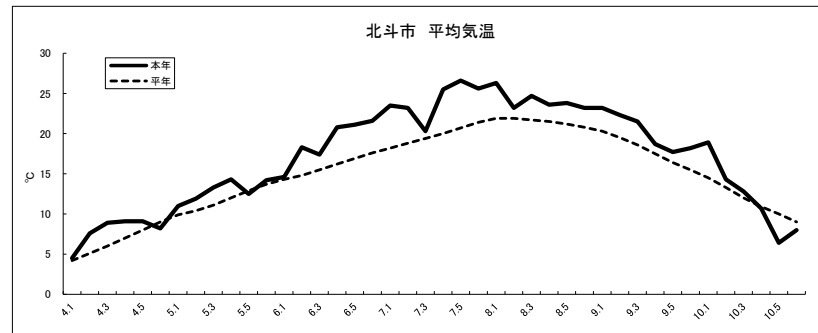
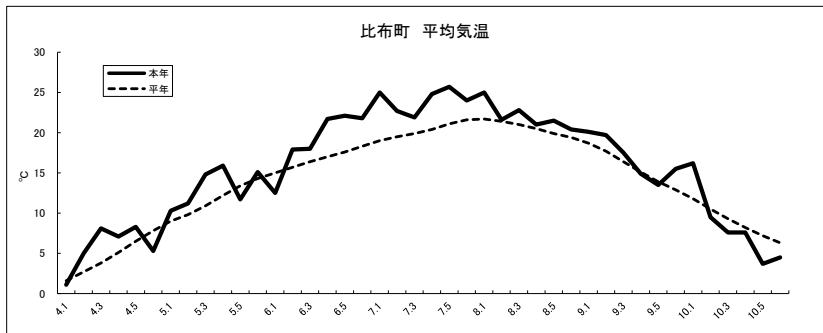
滝川市(花・野菜技術センター)

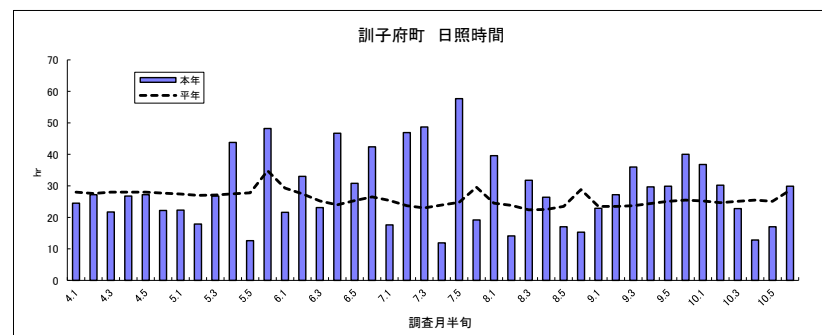
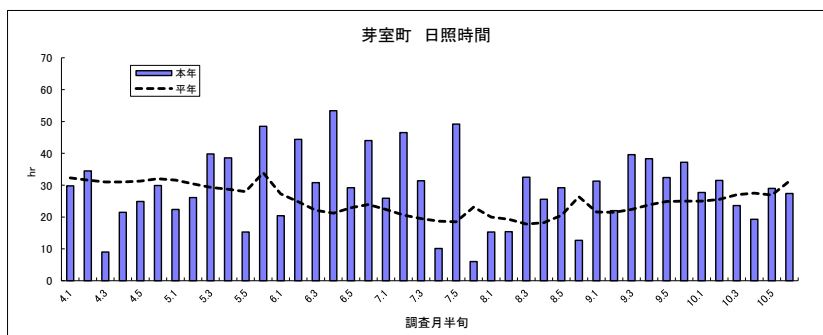
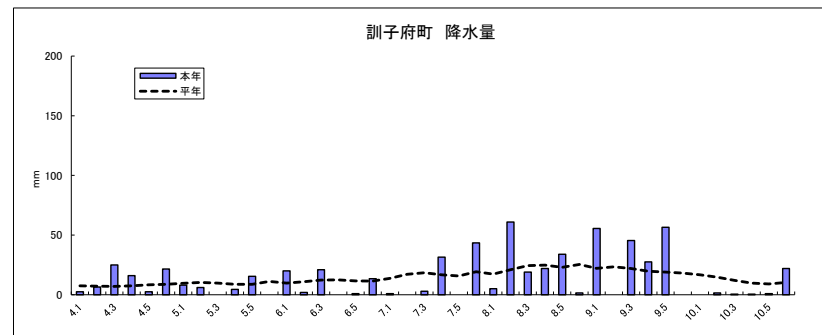
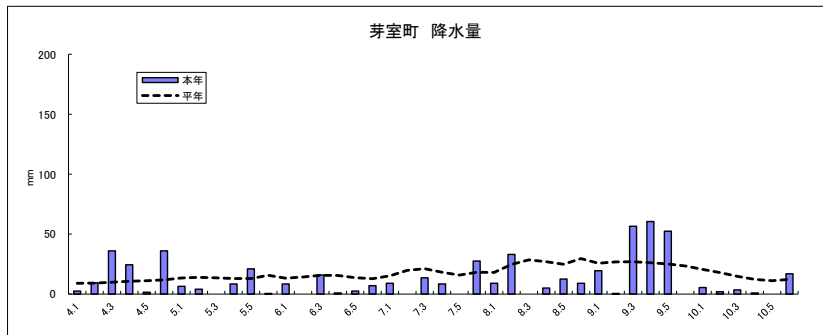
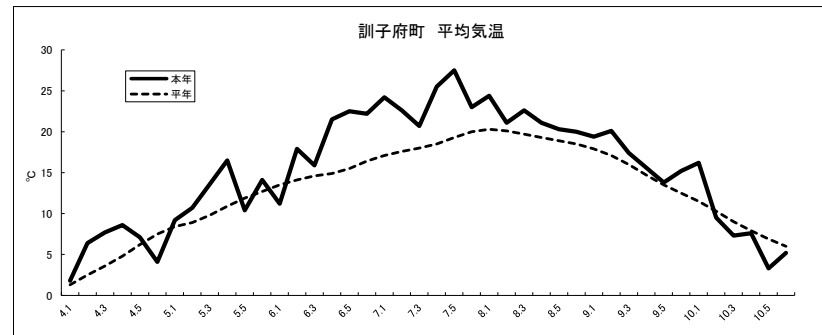
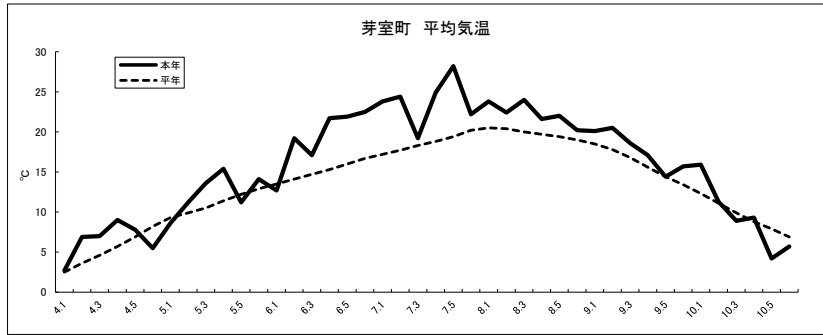
月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	1.6	2.0	8.4	6.4	-5.9	-2.5	3.0	6.9	14.3	26.5
4.2	5.5	3.1	14.7	7.8	-1.3	-1.6	1.5	7.9	21.0	27.0
4.3	8.7	4.3	18.6	9.3	1.0	-0.5	12.5	8.8	31.4	27.5
4.4	7.7	5.6	18.5	11.0	0.3	0.5	47.5	9.6	21.2	27.5
4.5	8.2	6.9	20.1	12.6	0.8	1.4	5.5	10.6	15.4	27.7
4.6	5.9	8.2	14.6	14.0	-1.2	2.5	13.0	12.3	24.6	28.3
5.1	10.9	9.2	21.2	15.1	-0.2	3.5	4.5	14.1	33.2	29.1
5.2	11.8	10.0	18.9	15.9	2.6	4.4	5.0	14.1	26.5	30.0
5.3	14.3	10.8	24.0	16.7	5.0	5.4	6.5	12.0	37.4	30.6
5.4	15.5	12.0	25.1	18.0	6.6	6.7	3.0	10.1	31.4	31.0
5.5	12.0	13.1	22.9	19.1	4.8	7.8	12.0	9.7	29.2	31.4
5.6	15.8	13.9	27.7	20.1	6.7	8.7	10.0	12.8	61.3	38.9
6.1	13.8	14.6	23.8	20.6	8.8	9.6	27.5	10.6	20.2	31.8
6.2	17.8	15.3	28.8	21.1	8.6	10.5	2.5	10.5	33.5	29.5
6.3	18.0	15.9	27.9	21.6	12.5	11.4	5.5	11.0	28.8	27.3
6.4	21.5	16.5	31.2	22.1	14.8	12.1	2.5	11.0	32.7	26.7
6.5	22.2	17.2	32.7	22.9	16.0	12.8	51.0	11.2	36.4	28.0
6.6	21.7	18.0	31.4	23.6	14.3	13.5	9.5	12.2	31.7	29.0
7.1	24.5	18.6	31.7	24.2	20.3	14.3	12.0	14.7	21.8	28.3
7.2	23.5	19.1	33.5	24.5	14.8	15.0	0.0	18.6	52.6	27.2
7.3	21.8	19.6	32.3	24.9	13.7	15.6	0.0	21.2	43.3	26.7
7.4	25.1	20.1	33.3	25.4	21.7	16.1	51.0	20.8	8.9	27.0
7.5	26.3	20.8	34.3	26.1	18.8	16.9	0.0	21.2	42.1	26.1
7.6	24.6	21.4	32.2	26.6	21.0	17.6	25.0	26.9	24.7	30.2
8.1	25.4	21.6	33.3	26.8	20.8	17.7	2.5	22.7	39.0	26.1
8.2	22.3	21.4	29.2	26.6	17.9	17.5	34.0	24.2	16.7	26.3
8.3	23.3	21.1	30.9	26.2	16.8	17.1	0.0	26.3	40.6	24.9
8.4	22.3	20.6	32.2	25.7	15.9	16.5	76.5	28.2	24.5	24.8
8.5	22.2	20.1	28.9	25.4	16.4	15.9	15.0	27.8	28.2	25.8
8.6	21.3	19.7	27.7	25.1	17.0	15.2	44.5	30.8	13.5	31.8
9.1	21.5	19.0	28.6	24.5	15.1	14.5	22.5	26.9	26.5	26.0
9.2	21.0	18.1	27.9	23.6	15.7	13.5	7.0	27.3	22.9	25.3
9.3	19.0	16.9	27.9	22.5	11.5	12.2	40.5	25.0	35.3	25.0
9.4	16.3	15.7	25.4	21.4	6.6	10.7	34.0	23.6	29.7	25.5
9.5	15.0	14.5	24.0	20.3	7.0	9.4	47.5	23.8	29.0	25.5
9.6	16.9	13.5	23.3	19.3	8.9	8.5	0.0	24.0	35.9	24.9
10.1	17.2	12.5	25.9	18.1	10.7	7.5	0.0	23.7	38.1	23.4
10.2	10.6	11.3	20.0	16.9	1.6	6.3	6.0	22.0	31.9	22.2
10.3	8.9	10.2	15.8	15.6	-0.8	5.1	5.5	19.5	27.8	22.0
10.4	8.6	9.0	16.9	14.5	1.8	4.0	14.5	18.7	8.8	21.6
10.5	4.6	8.1	10.7	13.4	-0.4	3.3	6.0	20.5	11.1	19.8
10.6	6.2	7.2	14.0	12.1	-0.8	2.6	40.0	26.8	11.0	20.3

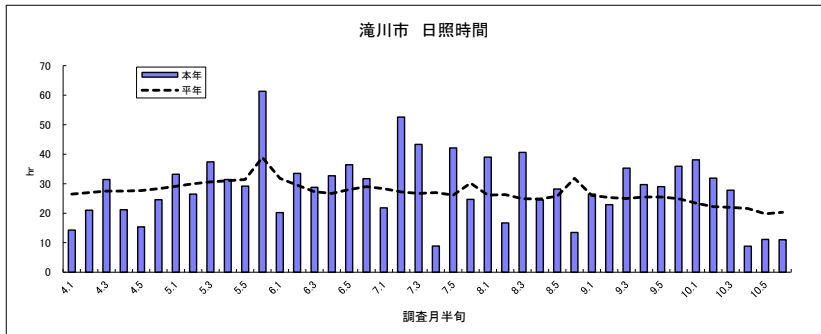
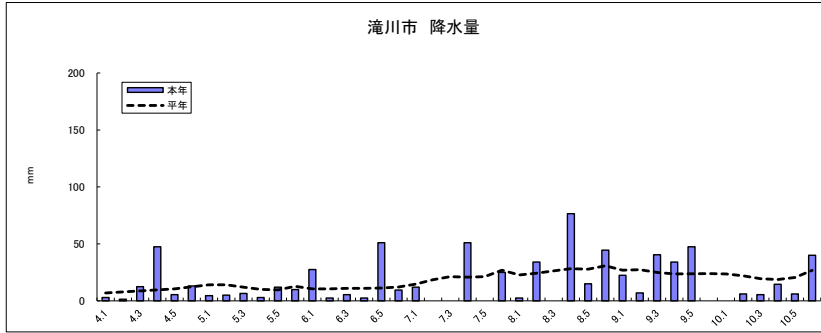
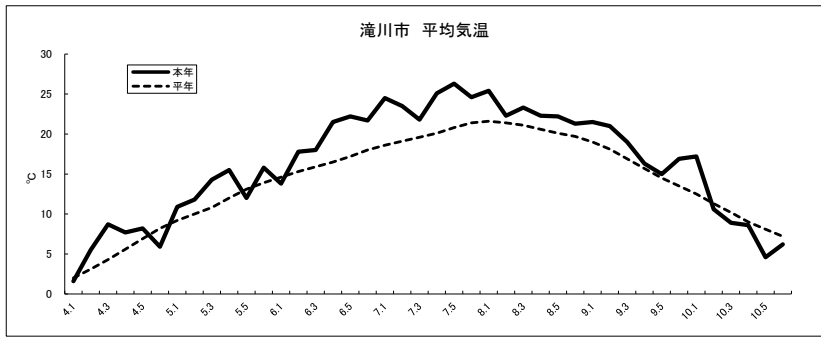
滝川のアメダスデータによる。

1. 令和7年度気象図









Ⅱ 作物生育概況

令和7年の農作物の作柄（営農改善指導基本方針より抜粋）

（1）水稻

各地の根雪終日（平年対比）は、旭川4月4日（早3日）、岩見沢4月6日（±0日）、函館3月1日（早9日）となった。

耕起盛期は平年よりやや遅い5月3日（遅3日）となった。は種作業は平年並に行われ、出芽期も平年並の4月27日（遅2日）となった。移植時の苗質は、平年並の生育量を確保した。移植作業は、移植始5月18日（遅1日）、移植期5月22日（遅1日）、移植終5月28日（遅1日）と平年並に進んだ。活着期は5月28日（遅1日）、分けつ始は6月5日（遅1日）で平年並だった。5月5半旬に移植したほ場で低温寡照となった地域では、植傷みや活着不良が散見されたため、6月15日現在の茎数は232本/㎡（平年比96%）と平年よりやや少なかった。しかし、6月は高温・多照となったため分けつ発生が旺盛となり、7月1日現在の茎数は平年よりやや多い624本/㎡（平年比107%）となった。幼穂形成期は、6月25日（早3日）と平年よりやや早かった。前歴期間（6月6半旬～7月2半旬頃）及び冷害危険期（7月2半旬～4半旬頃）の気温は、6月、7月とも共に歴代1位の高温だったこともあり、稔実への影響はなかった。その後も高温で経過したため生育は進み、出穂期は7月19日（早5日）と早かった。移植後の低温・寡照により生育が遅延したものの、上位の節から生じた分けつを含めた穂数確保となった。8月中旬から9月上旬の断続的な大雨により、各地でなびきや倒伏が発生した。その後も降雨があり倒伏が拡大した。8月中旬以降も気温が平年より高く推移し、登熟が進んだことで成熟期は8月31日（早9日）と早かった。そのため収穫作業も早まり、収穫始は9月5日（早8日）収穫期は9月14日（早7日）、収穫終は9月24日（早6日）となった。成熟期における穂数は、全道平均では578本/㎡（平年比97%）と平年並で、稔実歩合と一穂粒数は平年並だったが、㎡当たり稔実粒数では平年より3%少なかった。

いもち病は、6月下旬と7月に全道各地で感染に適した気象条件となり、その後葉いもちが発生し、一部地域で穂いもちによる被害も確認された。また、紋枯病（疑似紋枯症含む）の初発期はやや早く、発生量も並となった。一部で節いもちや紋枯病の影響により倒伏したほ場があった。アカヒゲホソミドリカスミカメは初発期が早く、発生量も平年より多くなったが、斑点米による被害は少なかった。イネドロオイムシ、フタオビコヤガの初発期は平年並で、発生量は少なかった。ヒメトビウンカは初発期がやや遅く、発生量はやや多かった。

（2）小麦

1）秋まき小麦

令和6年秋のは種期は9月20日（±0日）で、出芽は良好であった。は種後は気温が平年より高く経過したことから、過繁茂なほ場が見られた。令和7年3月の気温は平年より高く推移したが、融雪は平年並～やや遅れ、起生期は4月6日（遅5日）となった。4月の気温は平年より高く、5月はかなり高く経過したため、幼穂形成期は5月1日（遅2日）、止葉期は5月25日（遅1日）、出穂期は6月4日（遅1日）となった。6～7月の気温はそれぞれ歴代1位の高温となり、6月中旬～7月上旬にかけて少雨傾向が続いた。成熟期は7月12日（早6日）となった。出穂期から成熟期までの登熟期間は38日で、平年より7日短かった。収穫始は7月15日（早6日）、収穫期は7月19日（早6日）、収穫終は7月23日（早5日）となった。成熟期の穂数は平年並（平年比102%）、稈長は平年並（同103%）、穂長は平年並（同98%）となった。

製品収量は、全道平均で平年を下回った。コムギ縞萎縮病、赤さび病、眼紋病の発生や穂数過多による倒伏、登熟期間の短縮等により子実充実不足となり、製品歩留の低下に至ったほ場が目立った。品質は、タンパク質含有率、容積重等は全道平均で基準値内であった。

雪腐病は平年より少なく、菌種別では紅色雪腐病又は雪腐褐色小粒菌核病の割合が高い地域が多かった。赤さび病は平年より早く発生し、発生量は平年並だった。赤かび病は平年より少なく、うどんこ病は平年並であった。眼紋病は平年よりやや多かった。コムギなまぐさ黒穂病の発生面積は、平成28年と比較して大幅に減ったものの、一部で発生が見られた。各地でコムギ縞萎縮病の発生が目立ち、病徴は例年より早くから見られた。

（3）豆類

1）大豆

は種期は5月22日（遅2日）、出芽期は6月2日（遅1日）と平年並で、出芽は良好であった。6月中旬～7月上旬の高温により、生育は早まり、開花期は7月10日（早7日）となった。8月上旬～9月上旬の高温により登熟は早まり、成熟期は9月16日（早6日）となった。平年と比べて、草丈と葉数は平年並、着莢数は多かった。収穫始は10月1日（早5日）と平年より早く、10月15日現在の収穫作業の進捗は61%と平年より早い。降雨の影響を受けた地域では作業に遅れが見られたものの、全体では収穫終は10月22日（早6日）となった。

収量は平年よりも多く、品質は概ね平年並となったが、収穫が遅れたほ場を中心に、しわ粒やしみ粒の発生が見

られた。

各病害虫の発生量は平年と比べて、べと病はやや少なく、わい化病はやや多かった。また、マメシクイガはやや少なく、食葉性鱗翅目幼虫とタネバエは平年並だった。

2) 小豆

は種期は5月23日(遅2日)、出芽期は6月5日(遅1日)と平年並で、出芽は良好であった。6月中旬～7月上旬の高温により、草丈・葉数は平年を上回る生育で経過し、開花期は7月18日(早7日)となった。8月上旬～8月下旬の高温により登熟が早まり、成熟期は9月5日(早8日)となった。平年と比べて、草丈は長く、葉数は多く、着莢数は平年並だった。収穫始は9月19日(早4日)、収穫終は10月15日(早6日)となった。地域によっては葉落ち不良により収穫作業が停滞した。

収量は平年並からやや少なく、品質は平年並となったが、地域によっては小粒傾向となった。

各病害虫の発生量は平年と比べて、菌核病・茎疫病はやや少なく、灰色かび病・落葉病は平年並だった。また、食葉性鱗翅目幼虫は平年並であった。

3) 菜豆

は種期は5月30日(遅1日)、出芽期は6月9日(早1日)と平年並で、出芽は良好であった。6月中旬～7月上旬の高温により、生育は早まり、開花期は7月7日(早7日)となった。8月上旬～中旬の高温により登熟が早まり、成熟期は8月24日(早8日)となった。草丈、葉数、着莢数は平年並だった。収穫始は8月28日(早5日)と平年より早く、収穫作業は順調に経過し、収穫終は9月21日(早1日)と平年並であった。

収量は平年よりもやや少なく、品質は、小粒傾向で未熟粒や色流れ粒の発生が見られたことから、やや不良となった。

各病害虫の発生量は平年と比べて、菌核病・黄化病は少なく、灰色かび病はやや少なく、タネバエは平年並だった。

(4) ばれいしょ

植付期は5月6日(遅5日)と平年より遅く、萌芽期も5月31日(遅4日)と平年よりやや遅かった。萌芽の良否はやや良かった。茎数は少なく、茎長は短かったため、生育の遅速は遅4日となった(6月1日時点)。6月の気温は歴代1位の高温となり、着蕾期は6月17日(遅2日)、開花期は6月27日(早1日)と平年並に回復した。その後、7～8月の気温も歴代1位の高温で経過し、茎葉黄変期は8月14日(早2日)と平年並だった。茎長は短く、茎数は平年並だった(8月15日時点)。収穫作業は、収穫始が8月25日(早1日)と平年並で、収穫期は9月13日(±0日)、収穫終は10月6日(±0日)だった。

1株当たりの上いも数(20g以上)は、全道平均で11.6個(平年比106%)、上いも1個重は全道平均で88.0g(平年比90%)といも数は多いものの小玉傾向で、地域や品種により塊茎の二次生長、褐色心腐の発生が見られた。規格内収量は平年よりも少なく、でんぷん価も平年より低かった。

そうか病の発生量は平年並だった。軟腐病、黒あし病の発生量は平年並だった。疫病、塊茎腐敗の発生は平年より少なく、粉状そうか病、アブラムシの発生量は平年よりやや少なかった。

(5) てんさい

移植栽培では、は種期は3月9日(±0日)、出芽期は3月17日(±0日)と平年並であった。移植作業は、降雨によりは場の乾きが悪く、移植始4月28日(遅4日)、移植期5月5日(遅3日)、移植終5月13日(遅3日)とやや遅れて推移した。活着は問題なく、6月以降、高温で経過したため、生育は順調に推移した。少雨の影響により草丈は平年よりやや短いものの、葉数、根周は平年並で(7月15日時点)、その後も根周は平年並で推移した(根周の平年比:8月1日現在104%、9月1日現在103%、10月1日現在104%)。

直播栽培では、は種作業は降雨によりは場の乾きが悪く、は種始4月26日(遅6日)、は種期5月3日(遅7日)、は種終5月9日(遅6日)と平年より遅れて推移した。本年は、強風による種子の飛散や植物体の損傷等の風害あるいは霜害は少なく、出芽は「やや良」であった。6月中旬以降も高温で経過したため、生育は順調に推移し、葉数はやや多く、根周は平年並となったが、少雨の影響により草丈は平年より短かった(7月15日時点)。その後も根周は平年並で推移した(根周の平年比:8月1日現在100%、9月1日現在99%、10月1日現在98%)。

収穫作業は移植栽培では10月8日(早2日)、直播栽培では10月9日(早2日)に収穫始となり、収穫終は移植栽培で11月4日(早1日)、直播栽培で11月4日(±0日)となった。

移植栽培、直播栽培ともに、収量はほぼ平年並となった。根中糖分は移植栽培では平年並、直播栽培では「やや低」となった。

褐斑病の発生時期は早く、発生量も多かった。根腐病・黒根病の発生量は平年より少なかった。ヨトウガの第1回発生量はやや多く、第2回は多かった。テンサイモグリハナバエはやや多かった。

(6) 露地野菜 (トンネルを含む)

1) たまねぎ

は種作業は、2月12日(早3日)から始まった。出芽期は3月9日(早1日)となった。移植始は降雨のため4月23日(遅4日)、移植期は4月30日(遅4日)、移植終は5月10日(遅4日)となった。移植後の生育は、高温と少雨により、平年に比べ球肥大期前後までの草丈は短く、葉数が少なく、葉鞘径も細い状況で推移した。7～8月は気温が歴代1位の高温となり、平年より早く枯葉となった。球肥大始は7月2日(早2日)、球肥大期は7月5日(早3日)、倒伏期は7月20日(早7日)、枯葉期は8月9日(早8日)となった。根切り作業は平年よりやや早く進み、根切期は8月16日(早4日)となった。収穫作業は、一部で降雨の影響があったが、枯葉が早く進んだことによって、収穫始は8月3日(早3日)、収穫期は8月29日(早2日)、収穫終は9月16日(早1日)となった。球径は7.2cm(平年比90%)で平年よりやや小となった。

中生以降の品種で7～8月の高温・少雨の影響から、小玉傾向であったものの全体での規格内収量は平年並であった。また、一部で日焼け球や腐敗球が発生した。

白斑葉枯病の初発は平年より遅く、発生量は少なかった。軟腐病及び乾腐病の発生量は少なかった。タマネギバエ・タネバエの発生量は少なかった。ネギアザミウマの初発は平年より早く、発生量はやや多かった。ネギハモグリバエの初発は平年並で、発生量はやや少なかった。

2) 根菜類

は種や植付作業は、一部の地域で降雨の影響により遅れが見られたが、その他は概ね順調であった。生育期間中の5～9月は、気温が平年より高く、降水量は平年より少なく推移したため、だいこん、にんじんでは、高温・少雨の影響を受け生育が停滞した時期も見られた。ごぼう、ながいもの生育は、前進傾向で推移し、生育期間を通し良好であった。品目によって9月収穫作型で、歩留まりの低下が見られたが、根菜類全般に、収量は平年並～多く、品質は概ね良好であった。

だいこん：春まきトンネル作型のは種作業は、平年並の3月中旬から開始したが、途中降雨の影響で作業は7～10日程度遅れた。収穫は平年並の5月22日に開始したが、降雨により収穫を中断する時期があった。

春まき作型のは種作業は、一部地域で天候不順によって遅れが見られた。は種後の好天により出芽揃いは良く、生育は概ね順調に進んだ。収穫作業は順調に進んだが、は種作業が遅れた地域では出荷始めが遅れた。収量は平年並、品質は概ね良好であった。

初夏まき作型のは種作業は、計画どおりに進んだ。は種後の生育は順調であった。高温・少雨の影響を受けた地域では、一時生育停滞が見られ、収穫が遅れた。収量は平年より少なく、横縞症の発生が見られた。

夏まき作型についても、は種作業は計画通りであり、出芽も良好であった。しかし、高温の影響により、は種後の立枯症状が一部見られた。収穫作業は順調に進み、概ね計画どおり出荷された。

晩夏まき作型では、8月上旬の断続的な降雨によって、は種作業は遅れた。生育期間中は概ね順調で推移し、品質は良好であった。9月中旬の降雨の影響を受けた地域では、曲がり等の発生が見られ製品率が低下した。

軟腐病の発生は8月上旬から見られたが、平年並の発生量であった。キスジノミハムシの発生量はやや少なかった。

にんじん：春まきトンネル作型(道南)では、降雨の影響では種作業は遅れたが、収穫は高温と適度な降雨もあり平年並に開始した。6月の少雨で肥大は緩慢となったが、割れ・シミ症の発生も少なかった。

春まき作型のは種作業は、4月中下旬の降雨を受けた地域では、平年より遅れた。出芽、初期生育は概ね順調であったが、春先の砕土不良の影響で、出芽ムラが見られたほ場もあった。7月の高温・少雨によって、根部肥大は鈍化し、収量は平年並～やや低かった。

晩春まき作型、初夏まき作型のは種作業は、計画通り進み、出芽は順調であった。高温・少雨の影響を受け生育は緩慢となり、根部肥大が鈍化した時期もあった。一部初夏まき作型で、高温・少雨により出芽及び初期生育は遅れた地域もあった。その後、両作型とも降雨によって生育は回復した。収量は、晩春まき作型で平年並～多、品質は概ね良好であった。

初夏まき作型の生育、収量は、ともに平年並～やや多であった。生理障害(短根、変形、岐根、曲がり、割れ)の発生も見られたが、平年並であった。

一部地域では、晩春まき作型で裂根、腐敗の発生が多く見られたが、生育期間全般に病害虫の発生が少なかった。

ごぼう：春まき作型のは種作業は、断続的な降雨の影響により平年よりも遅れた。出芽は平年並であったが、4月下旬に降雪があったほ場では、クラストの発生による欠株が見られた。出芽後の生育は概ね良好で、6～8月が高温度で推移したこともあり、前進傾向に進んだ。根部肥大は良好であり、秀品率が高く、製品歩留まりは平年より

もやや高かった。

晩春まき作型のは種作業は、降雨の影響により1週間程度遅れた地域もあったが、概ね平年並に進んだ。5月6半旬の降雨によって、クラストが発生し、再は種を行うほ場も見られたが、出芽は平年並であった。クラストの影響を受けた地域では、生育にバラつきが見られたものの、概ね平年並の生育であり、順調に進んだ。

収穫・選果作業は、平年よりやや早く順調に進み、平年よりも根長は長く、根重は重かった。秀品率は高く、製品歩留まりは平年よりやや高い。収量は平年よりも多く、品質は良好であった。

一部ほ場で、チョウ目幼虫の発生が見られた。

ながいも：春掘りの収穫作業は、平年並に始まり、選果は順調に進んだ。腐敗等は少なく品質は概ね良好であった。前年の生育の影響により、収量は平年より多かった。植付作業は平年並に進んだが、4月の断続的な降雨の影響を受けた地域では、平年よりもやや遅れた。植付作業に遅れがなかったほ場では、萌芽は平年並であったが、遅れが見られた地域では、萌芽が遅れた。萌芽後の6月中旬～8月にかけて高温・多照で経過したこともあり、茎葉の生育は順調に進み、前進傾向であった。茎葉重についても、平年よりも重く推移した。新しいもの肥大は良好であり、地域間差はあるものの、8月以降のいも長、いも径、いも重はいずれも平年並～高く推移した。9月中旬以降の気温の低下によって、乾物率は平年並～やや高かった。生育前半は少雨で経過したことから、尻割れ等の奇形の発生は少なかった。また、9月下旬の豪雨と強風によって、陥没や支柱の倒伏、ネットの切断が見られたが、いもへの影響はなかった。

一部地域でハダニ類による被害が見られた。

3) 葉茎菜類

春まき作型は、断続的な降雨により定植作業に遅れが見られた。それに伴い、定植後の活着及び初期生育にも遅れが見られた地域があった。6月どりの収量は平年並となった。7、8月どりは、7月の少雨により一時的な生育の遅れや生理障害の発生が見られたが、気温が高く推移して生育が進み、収穫作業は平年より早い開始となった。7～8月の高温により、生理障害や病害が発生し収量・品質は平年～やや下回った。9、10月どりでは、定植作業は計画どおり進んだ。一部の品目では、7～8月の高温・少雨により、定植後の枯死・萎れ、活着不良、生理障害が見られた。高温のため生育は前進傾向となり、収穫作業も早まった。品目によっては、8月の高温により9月中旬にかけて生理障害の発生が見られたが、収量・品質は概ね平年並であった。

ねぎ：露地作型の定植作業は、平年並に始まり、順調に進んだ。定植後の活着は良好で、生育は順調に推移した。7～8月の高温と少雨により、葉先枯れが見られたほか、葉鞘肥大が緩慢となった。断続的な降雨により作業や生育が停滞した地域もあったが、収穫作業は順調に進んだ。収量・品質は平年並であった。

べと病は6月より発生したが、その後は少なく経過した。また、一部の地域では9月に軟腐病の発生が見られた。アザミウマ類は7月から発生が見られた。

はくさい：春～夏まき作型（7～10月どり）の育苗・定植作業は計画どおりに進んだが、定植後の活着及び生育は高温・少雨により不良株や生育遅れが生じた時期もあった。

春まき作型の生育は、一部の地域で7月の少雨により一時的に小球傾向となり、その後8月にかけて葉先枯れや芯腐れなどの生理障害が見られたが、収量は平年並となった。

夏まき作型は、定植後に適度な降雨があり、生育は順調に進み、結球の状態も良好であった。総体の収量は平年並であった。

8～9月収穫では、8月に軟腐病の発生が見られた。

キャベツ：春まき作型（6、7月どり）の定植作業は、断続的な降雨により遅れた。一部の地域では、4月下旬の低温による生育停滞が見られた。高温・少雨により、出荷は平年よりやや遅かった。収量は平年並となった。

晩春まき作型（8、9月どり）の定植作業は、計画どおりに進んだ。定植後の気温が高く経過し、生育は前進傾向となり、平年より早い出荷開始となった。一部の地域では、7月の少雨により一時的に小球傾向となった。収量・品質は平年並～上回った。

初夏まき作型（10～11月どり）の定植作業は、計画どおり進んだ。定植後の生育は好天により順調に推移した。収量・品質は平年並～上回った。

晩春まき～初夏まき作型は、一部の地域で、9月に軟腐病、菌核病の発生が見られた。コナガの発生は平年よりも早く、発生量はやや多かった。

レタス：春夏まき作型（7、8月どり）の定植作業は断続的な降雨により遅れたが、定植後の活着及び生育は良好であった。一部の地域では少雨により葉先枯れが見られた。全面マルチ栽培では、球肥大は概ね順調で、収穫作

業も計画どおり進んだ。高温の影響により、一部で7月に小球傾向となったほか、葉先枯れが見られた。

夏まき作型（9、10月どり）の定植作業は計画どおり進んだが、7～8月の高温・少雨により、定植後の枯死・萎れ、葉先枯れが見られた。その後の生育は、平年並に経過した。全体の収量は、平年並であった。8月以降、一部の地域でオオタバコガの発生が多かった。

ブロッコリー：春まきべたがけ作型は、定植作業及び定植後の生育が断続的な降雨により遅れた。5月下旬からの収穫となったが、6月1半旬以前の収穫では早期出蕾が見られた。収量・品質は平年並であった。

春～晩春まき作型（7～8月どり）の育苗及び定植作業は、計画どおりに進んだ。7月どりでは、6月下旬からの高温により生育早まった。また、高温・少雨により、不整形花蕾の発生が見られた。8月どりは、一部の地域で定植後の高温・少雨により初期生育の遅れが見られたが、その後の降雨で回復した。高温のため生育は前進傾向となり、不整形花蕾などの生理障害の発生が見られた。

初夏まき作型（9～10月どり）の育苗及び定植作業は、計画どおり進み、定植後の生育は良好であった。夜温の低下により生育は鈍化した。9月上旬を中心に不整形花蕾の発生が見られた。10月は、気温の急激な低下により花蕾形成の遅れやアントシアンが発生が見られた。全体の収量・品質は、地域差は見られたが、概ね平年並であった。

春まきべたがけ作型では、目立った発生はなかった。春～晩夏まき作型では、7月以降、一部の地域で花蕾腐敗病、黒すす病が早めに発生し、8月以降は全域で発生が見られた。コナガなどのチョウ目害虫が早く発生したが、大きな被害はなかった。

アスパラガス：露地作型の萌芽、出荷開始は、融雪が平年より遅かったものの、その後気温が高めに経過したため平年並となった。5月下旬～6月上旬の低温・寡照により若茎の伸びが緩慢となり出荷量は少なかった。出荷規格は平年よりも太かったが、収量は平年を下回った。収穫打ち切りは、平年並の6月末となった。その後の生育は順調に進み、茎葉繁茂、立茎の状況は良好で、倒伏は少なかった。8月以降に斑点病の発生が見られた。害虫では、ジュウシホシクビナガハムシの被害が散見された。また、一部の地域では7月以降にツマグロアオカスカメの発生が見られた。

4) 果菜類

トンネル作型の定植作業は平年並～やや遅く、活着及びその後の生育は順調に進んだ。着果及び果実肥大とも良好であった。7、8月収穫では、果実肥大は良好であった。露地作型のは種作業は平年並で、出芽は概ね良好であった。定植作業は平年だった。7、8月の高温により、生育は前進傾向となり、収穫作業は平年より早まった。果実肥大、品質は概ね良好であったが、品目によっては、高温・少雨の影響により小玉傾向であった。収量は平年並～やや下回った。

メロン：トンネル早熟作型のうち4月下旬定植は、断続的な降雨により作業が遅れた。活着は良好であった。その後の生育は7月上旬からの高温多照で早まった。両作型とも果実の肥大は4玉中心と良好であった。8月上旬の高温によりうどんこ病の発生が見られた。

すいか：トンネル早熟作型の定植作業は、平年並の4月下旬となり、活着及びその後の生育は順調に進んだ。一部地域では、5月下旬の降雨により定植作業の遅れが見られた。開花期は平年並であった。果実肥大は順調に進んだ。収穫期は平年並であったが、作型の後半は高温により収穫が早まった。果実肥大、内部品質ともに良好であった。一部地域では、着果後の7月以降の高温により品質の低下が見られた。

病害虫の目立った発生はなかった。

かぼちゃ：トンネル早熟作型の定植は、降雨によりほ場準備が遅れ、定植作業が遅れた。その後、生育は順調に進み着果は良好で、果実肥大も順調であった。定植後からの気温が高く成熟が進み、収穫作業は平年より早い開始となった。収穫後半の果実は少雨の影響によりやや小玉傾向であった。収量・品質は平年並であった。

露地作型のは種作業は、各地域で平年並の開始となり、育苗中の生育は順調であった。定植作業は平年並であった。7、8月の高温により生育が進み、収穫作業は平年並～早く始まり、順調に進んだ。8～9月どりでは、高温・少雨の影響により、果実肥大はやや小玉傾向であった。全体の収量は、平年並～やや下回った。

8月からうどんこ病が発生した。一部の地域では、9月以降、疫病、日焼け果、野ねずみによる被害が見られた。

スイートコーン：露地作型のは種作業は、主産地では平年より遅く開始となった。出芽は概ね良好であったが、一部の地域では、は種時期や出芽は降雨によりほ場砕土が悪く生育が遅れた。

その後は気温が高く経過して生育が進み、収穫作業は平年より早い開始となった。8月下～9月中旬の出荷では高温の影響により、一部でしなびが発生した。収量・品質は地域差が見られ、平年並～やや下回った。

一部の地域で7～8月にアブラムシやアワノメイガの発生が多く見られた。

(7) 施設野菜

1) 果菜類

促成作型は、定植作業が計画的に進み、活着、初期生育とも良好であった。4月の日照不足・低温により、生育や果実肥大が緩慢となった。また、6月以降の高温により一部で生理障害が見られた。収量は平年並であった。半促成作型、ハウス夏秋どり作型の定植作業は平年並～やや早く、活着、初期生育とも良好であった。6月～9月の高温により、遮光資材の活用などを行ったが、生育は前進し収穫作業が早まった。果実は各種生理障害が多発した。収量は平年並、果実品質は品目及び地域差が見られた。

トマト：促成作型は、定植後の活着やその後の生育は順調であった。4月中～下旬の日照時間はやや少なく気温は低かったが、平年並の出荷開始となった。一部の地域で収穫開始時に尻腐れ果、つやなし果が見られた。収量は平年を下回った。

半促成作型（長期どりを含む）は、定植後の活着が良好で生育は順調であった。一部の地域では、4月下～5月上旬の低温、日照不足により、軟弱徒長気味であった。また、7月から上段で葉先枯れが見られた。

ハウス夏秋どり作型は、定植作業及び初期生育が概ね順調であった。半促成、ハウス夏秋どり作型とも、7、8月の高温により着色不良果、軟果が見られた。7～9月を中心に着色不良果や軟果、尻腐れ果、心腐れ果、空洞果が発生した。収量・品質は地域差が見られ平年並～やや下回った。

5月から灰色かび病、6月からトマトキバガの発生が見られた。また、7月以降にうどんこ病、アザミウマ類、ハダニの発生が見られた。トマトキバガは、8月以降に発生地域の拡大が見られた。

ミニトマト：促成作型の生育は概ね順調であったが、出荷開始は4月の日照不足・低温の影響により1週間程度遅れ。収量は平年並であった。

半促成長期どり作型の生育は概ね順調であった。出荷開始は平年より1週間程度遅れた。7月以降の高温により、生育や収穫作業はやや前倒しとなったが、草勢低下、軟果、グリーンバック果、花落ち、肩青果・黄変果が発生した。収量は平年並～やや多かった。

ハウス夏秋どり作型の定植作業は順調で、活着も良好であった。出荷開始は平年並であった。7、8月の高温の影響により、グリーンバック果が発生したが、収量・品質は地域差が見られ、平年並～やや下回った。

病害は、7月から斑点病、灰色かび病、葉かび病、8月からうどんこ病の発生が見られた。害虫は、6月からトマトキバガ、飛来性チョウ目、アザミウマ類、アブラムシ類の発生が見られた。

きゅうり：半促成作型の定植は、平年並の4月中～下旬に始まった。その後、日照不足により生育はやや遅れた。収穫始は平年並だった。7～8月の高温の影響により、9月に草勢の低下や曲がり果、尻細り果の発生が見られたものの、全体の収量は平年並であった。

ハウス抑制作型では、定植後の生育は順調であった。高温の影響で一部、葉焼けや芯焼けが見られた。収量は平年並であった。

半促成作型では、8月以降に斑点細菌病、べと病、灰色かび病、うどんこ病、アザミウマ類、ハダニ類、アブラムシ類の発生が見られた。ハウス抑制作型は、9月以降にべと病、うどんこ病、アブラムシ類、チョウ目害虫の発生が見られた。

ピーマン：半促成作型の生育は概ね順調で、平年並の出荷開始となった。一部の地域では、7、8月は着果負担により一部で草勢が低下した。また、高温・強日射の影響により、尻腐れ果や日焼け果の発生が見られた。総体の収量は平年並～やや上回った。

一部の地域では、5月からアブラムシ類、アザミウマ類、8月から灰色かび病、ハダニ類、9月以降に鱗翅目害虫（幼虫）の発生が見られた。

メロン：加温半促成作型の定植は、平年並に始まった。3月下旬の定植以降、生育は順調に経過したが、一部4月の日照不足により開花は平年より遅くなった。着果は良好で、果実肥大、ネット形成とも良好～やや良好となり、品質も概ね良好であった。

半促成作型の定植期は、平年並～やや早かったが、生育、開花は4月下旬の低温から遅れた。一部の地域では、5月下旬の低温により、果実肥大がやや緩慢となった。全般に果実肥大は順調に進み、ネット形成も順調であった。果実は4玉中心と肥大は良好で、品質は概ね良好であった。

一部の地域では、6月からハダニ類、アザミウマ類、菌核病の発生が見られた。

すいか：加温促成作型の定植は、平年並に始まった。4月以降の日照不足により生育が緩慢になり、開花は平年より遅れた。この影響で収穫期も遅れた。果実肥大と品質は平年並だった。

半促成作型の定植は、平年並に始まった。4月以降の好天により、生育は順調に進み、開花は平年並となり、着果も良好であった。収穫期は平年よりやや早く、果実肥大は平年並であった。一部地域では、定植時期の日照不足により作業や生育、開花の遅れが見られた。その後の高温傾向により生育、果実肥大は順調であったが収穫期の遅れが見られた。

病害虫の目立った発生はなかった。

いちご：一季成り性品種の半促成作型は、概ね順調な生育となった。開花時期は、平年より遅くなった。

出荷開始は地域差が見られ、平年並～やや遅くなった。収量は平年並であった。次年度産の定植作業は計画どおりに進み、高温の影響により一部で活着がやや緩慢であったが、生育は概ね順調に経過した。

四季成り性品種の夏秋どり作型は、2月下旬～3月下旬の定植以降、活着は良好であったが、生育は4月の低温、日照不足によりやや緩慢傾向だった。収穫作業は平年並に始まった。主産地では、8月の高温や株疲れによる草勢低下により、果実は小玉傾向となり、乱形果やまだら果の発生が見られた。9月中旬以降は株疲れから徐々に回復したが、気温の低下に伴い生育は緩慢となった。総体の収量は平年をやや下回った。

一季成り性品種では、5～7月に灰色かび病、アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類の発生が見られた。四季成り性品種では、5月にアブラムシ類、5～10月にハダニ類、7～10月にアザミウマ類、9～10月にうどんこ病の発生が一部で見られた。

2) 葉茎菜類

融雪は平年並となり、は種・定植作業は順調に進んだ。発芽、活着、初期生育とも良好で、品目によっては4月～5月上旬の寡照によって、生育遅延が見られ、収穫も遅れた。6～7月どりの収量、品質ともに平年並であった。6月下旬～7月の高温により発芽不良や生育停滞、一部の品目では病害や生理障害の発生が多く見られたものの、高温の影響はそれほど大きくなく収量・品質は平年並となった。

ねぎ：早春まきハウス作型（7月どり）の定植作業は平年並で、活着、初期生育とも良好であった。出荷量は平年並で、品質は良好であった。

簡易軟白作型（9月どり）の定植作業は平年並で、その後の生育も概ね順調に進んだ。しかし、生育期（7～8月）の高温により葉鞘の肥大は緩慢となり、やや細い傾向であった。

早春まきハウス作型では、6月よりべと病、葉枯病の発生が一部で見られた。露地栽培ではネギアザミウマの発生が平年よりやや早く、発生量が多かった。

ほうれんそう：晩春～秋まき（雨よけ）作型は、は種作業が平年並に進んだ。発芽揃いは良好であったものの、生育は寡照によりやや緩慢に経過した。その後の天候回復により生育は平年並となり、6月の出荷量は平年並、品質は概ね良好となった。

夏まき～晩夏まき作型は、7～8月の高温の影響を受け、出芽不良による生育ムラ、葉先枯れや葉焼けが見られた。その後、8月下旬まで生育が停滞し地域によっては収穫までの生育日数が長くなった。出荷量の減少は8月下旬まで続いた。その後は気温の低下に伴い生育は回復したが、総体の収量は平年を下回った。

7～9月まで萎凋病など土壌病害の発生が見られた。害虫では、8月を除く期間全体を通してホウレンソウケナガコナダニの発生が見られた。また、7月以降はアザミウマ類、9月以降はヨトウガやシロオビノメイガの幼虫による被害が見られた。

アスパラガス：ハウス立茎作型(周年被覆)は、萌芽、出荷開始とも平年に比べて遅かった。3～4月の寡照により、春芽の収穫終了は平年よりやや遅かった。春芽の収量は、2L～L規格が中心となったが、平年を下回った。立茎は平年より遅い5月より始まり、その後の生育は順調に推移した。6月以降、夏芽の収穫量は徐々に増加したが、7～9月は平年より少なかった。夏芽収穫中の茎葉の生育は概ね順調であった。収量は平年を下回り、品質はLM中心の規格で平年より細めであった。

7月にジウシホシクビナガハムシ、8月以降に灰色かび病、斑点病、アザミウマ類の発生が見られた。

(8) 花き

3月下旬から4月下旬の寡照の影響により一部の品目で生育に遅れが見られた。その後の生育は、6月中旬～9月下旬までの高温により前進傾向になり、品目によっては短茎開花により小輪や輪数不足など品質の低下が見

られた。病害は、高温の影響から土壌病害の発生が見られ、害虫はオオタバコガの発生が早かった。また、複数の品目で8月旧盆及び9月彼岸向け作型において、それぞれの需要期前の出荷となった。

スターチス類：

シヌアータ： 加温促成作型（3～4月中旬定植）の定植作業は、順調に進んだ。3月上旬定植では、定植後の活着並びに初期生育は順調であったが、3月下旬から4月上旬定植では、寡照の影響により活着不良及び生育の遅れが見られた。出荷時期は平年並だった。8月旧盆向け作型では、定植後の初期生育が概ね順調で6月下旬までの生育は平年並だった。その後の生育は、高温の影響からやや早かった。1番花の草丈は平年並だったが、2番花は短茎傾向だった。抑制作型の生育も同様にやや早く、短径傾向だった。シヌアータの輸送で問題となる黄化症の発生は、平年並だった。

シネンシス系： 越年栽培の株枯れは、平年並であった。萌芽は、平年並であったが、春先の寡照と一時的な低温の影響で5月下旬出荷予定より7～14日程度遅れた。半促成作型（5～6月定植）は、定植作業は順調で初期生育は平年並だったが、開花は高温の影響からやや早かった。8月旧盆及び9月彼岸向けともに短径傾向であった。

灰色かび病、褐斑病、ハダニ類、アザミウマ類の発生は平年並だった。シネンシス系でうどんこ病の発生は、少なかった。

カーネーション： 越年株は、6月上旬（道南・道央）から出荷が始まった。一部で4月下旬～5月上旬の寡照の影響により生育に遅れが見られたが、品質は良好だった。3～4月定植の作型や2番花は、6月中旬以降の高温の影響により前進傾向となり計画より早く出荷が進んだが、令和5年のような8月旧盆需要期前の集中出荷はなかった。品質は、生育の前進により短茎傾向となった。一部品種で、葉先枯れや花飛び（ブラインド）などの生理障害が発生した。また、高温の影響により日持ち性の短い時期があった。

病害の発生は、少なかった。害虫は、高温の影響からアザミウマ類、ハダニ類の発生が見られた。

また、一部で7月中旬よりオオタバコガが発生し、被害が見られた。

ゆり類： 越年作型は、融雪が遅く、作業や越冬後の生育に遅れが見られたが、6月中旬からの高温により、出荷は平年並の6月下旬から始まった。春植え作型は、定植作業は順調に行われ、生育は概ね順調だった。品質は、高温の影響により生育が進み、やや短茎で蕾もやや小さい傾向だった。9月の彼岸の需要期向けの作型も、高温の影響により生育が早まり、やや短茎で蕾もやや小さい傾向だった。また、一部で奇形花、シミ症の発生が見られた。8～9月出荷は、高温の影響により道外出荷の切り前が早まったため、蕾がやや小さい傾向となった。

病害は、一部で葉枯病の発生が見られた。害虫は、アブラムシ類の発生が見られた。

デルフィニウム類： 加温作型は4月下旬から出荷され、生育は順調だった。無加温作型は、7月上旬から出荷された。生育は概ね順調だったが、6月上旬以降の高温により前進傾向となった。品質は、高温の影響により9月下旬まで短径傾向が続き、草丈の長い上位規格が少なかった。また、花落ちや花弁が変色する生理障害が発生した（青色の花色に赤みが入る）。一部で輸送中の蒸れによる花傷みが発生した。

病害は、一部でうどんこ病の被害が見られた。害虫は、生育後期に一部品種でハダニの発生が見られた。

トルコギキョウ： 無加温作型の定植作業は4月下旬から開始され、生育は順調だった。定植後の気温が高く経過したため、ロゼット株の発生が見られた。その後は、高温の影響により生育及び開花は早まり、短茎傾向となった。8月旧盆需要期向け作型で7～14日程度、9月彼岸需要期向け作型で14～21日程度生育が早まり需要期の前に出荷が始まった。品質は、葉先枯れ（チップバーン）などの生理障害の発生が見られた。

病害は、高温の影響により立枯病の発生が平年に比べやや多かった。害虫は、ハスモンヨトウ、オオタバコガの被害が見られた。

アルストロメリア： 通年採花作型の生育は、春からの生育は概ね順調であったが、一部で4～5月の寡照の影響により緩慢な生育となった。改植による定植作業は、順調に進んだ。出荷量は、改植の影響で一時的に平年より少なかったが、定植年株の出荷が始まった7月中旬以降は平年並となった。品質は、高温の影響により花弁に焼け症状が発生したほか、花落ちやブラインド茎が見られた。

病害は、一部ほ場で灰色かび病の発生が見られた。害虫は、コナジラミ、アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類の発生が見られた。

きく： 高温の影響により、8月旧盆需要期向け、9月彼岸需要期向けともに開花が抑制され、出荷時期は平年に比べやや遅れた。品質は、高温の影響により短径傾向だった。

病害の発生は、少なかった。害虫は、ハダニ類、ヨトウガの発生が平年より多く見られた。

宿根かすみそう：加温作型の生育は概ね順調で、出荷は平年並の4月下旬から始まった。無加温作型の出荷は、平年並の6月中旬から始まった。品質は平年並だった。新植作型の定植は5月上旬から開始され、出荷は平年並の7月上旬から始まった。品質は、高温の影響により8月以降はやや短茎傾向となった。病虫害の発生は、平年並だった。

りんどう：越冬後の萌芽・生育は、概ね順調だった。6月中旬以降の高温の影響により、開花遅延が見られた。また、6月上旬～7月中旬までの少雨によっても生育が遅れ開花遅延が見られた。出荷は、平年に比べ10日程度遅く7月中旬から開始された。8月旧盆需要期向け作型、9月彼岸需要期向け作型ともに10～14日程度生育が遅れ、需要期後の出荷開始となった。品質は、高温・少雨の影響により短径傾向だった。病虫害の発生は平年並であった。

しゃくやく：越冬後の萌芽・生育は、概ね順調だった。出荷は、平年並の6月上旬から開始された。品質は、平年並だった。害虫は、カメムシ類の発生が見られたが、発生程度は平年並だった。一部でマイマイガの発生が見られた。

おもちゃかぼちゃ：ポット苗の定植は、5月下旬から開始された。6月上旬～7月中旬までの少雨によって、つるの伸長が抑制された。6月以降は高温の影響により開花・着果後の生育が早く、開花から収穫までの日数は短い傾向だった。収穫は、平年並の8月上旬から開始された。大玉系は着果数が少なかったため、収量は平年より低かった。病害は、うどんこ病、斑点細菌病の発生が見られた。害虫の発生は、平年並だった。

(9) 果樹

発芽期・満開期は平年並であった。果実肥大は夏の少雨によりやや鈍ったが、8月後半からの降雨より収穫時はやや大きかった。収穫作業は平年より早く始まった。結実が良かったため、収量は平年並～やや多かったが、病虫害、鳥獣害の多かった園地では減収した。品質は平年並であった。

病害は8月後半からの降雨により増加、害虫は春から発生が多かった。山間部の園地で春先はエゾシカなどの樹体被害、収穫期はヒヨドリ、ヒグマなどによる果実被害が発生した。

りんご：発芽期は4月14日（早1日）、展葉期は4月27日（±0日）、満開期は5月17日（早2日）、落花期は5月23日（早2日）と平年並であった。花芽率は多く、結実は良好、摘果期は6月29日（早1日）と平年並であった。摘果後の着果量はやや多くなった。果実肥大は、7月1日の体積は33.7 cm³（118%）、8月1日は126.9 cm³（106%）、9月1日は270.9 cm³（113%）となり、収穫時は平年並～やや大きくなった。収穫始は9月15日（早3日）と平年よりやや早く、収穫期は10月13日（早2日）、収穫終は11月8日（±0日）となった。収量は、結実が良く平年並～やや多かったが、鳥害の多い園地では減収した。品質は着色良好、平年並～やや高く、酸度は平年並～やや低かった。

病害では、腐らん病が多く、一部でモニリア病、炭疽病が発生した。虫害は、シンクイムシ類、カメムシ類などが多かったが被害は少なかった。生理障害では、一部の品種で黄変落葉、ビターピット、サビ果、日焼け果などが発生した。鳥獣害は、春先がエゾシカなどの樹体被害・収穫期はヒヨドリ、カラス、ヒグマなどによる果実被害が発生した。

ぶどう：生食用の無加温ハウス栽培は、発芽期・展葉期・満開期は平年並となった。結実は良好、収穫始は平年並、収量・品質は平年並だった。生食用の露地栽培は、発芽期・満開期は平年より早く、結実は良好だった。収穫始は平年より早く、収量は晩腐病など病害により減収した。

醸造専用品種では、発芽期・展葉期・満開期は平年より早く、結実は、良好であった。収穫始は病害の発生と酸度の低下が早まり、平年より早かった。収量は平年並～やや多かったが、病害・鳥獣害の多い園地では減収した。品質は平年並であった。

病害は、晩腐病、べと病、灰色かび病が多かった。虫害は、カメムシ類、スズメバチ類が多かった。鳥獣害は、アライグマ、ヒヨドリなどによる果実被害が発生した。

気象災害は、一部の醸造用専用品種で日焼け果が発生した。

おうとう：発芽期・満開期は平年であった。結実はやや地域間差があり、天候の良かった地域では多く、開花期の天候不順、訪花昆虫不足の園地では少なかった。果実肥大は、着果の多い園地は小玉傾向、平年並～少ない園地では良好であった。収穫始は平年並～やや早かった。収量は少～多と地域間差があった。前半の品質は裂果は少なく良

好だったが、後半は軟果傾向となった。

病虫害は、一部で幼果菌核病、灰星病、炭疽病が発生、一部でカメムシ類が発生した。

気象災害は、一部の地域で雪害による枝の損傷が発生した。

西洋なし：発芽期・満開期は平年並、結実は良好であった。果実肥大は平年並～やや大きかった。収穫始は平年より早かった。収量は平年並～やや多かったが、野鳥害の多い園地で減収した。品質は平年並であった。

病虫害は、一部で胴枯病、炭疽病、輪紋病、カメムシ類が発生した。鳥獣害は、カラスなどによる果実被害が発生した。

プルーン：発芽期・満開期は平年より早く、結実は良好だった。果実肥大は平年並であった。収穫始は平年よりやや早かった。収量は平年並～やや多かったが、病虫害、鳥獣害の多い園地では減収した。

病虫害は、一部で灰星病、シンクイムシ類が発生した。鳥獣害は、一部品種でヒヨドリ、アライグマなどの果実被害が発生した。

ハスカップ：満開期は平年並、結実は良好、収穫始はやや早まった。一部で収穫前半に強風による落果、生育後半は高温により品質が低下した。

収量はやや少～やや多と園地差があった。

病虫害は、一部で灰色かび病、カイガラムシ類、カメムシ類が発生した。

(10) 牧草

萌芽期は、平年並みの4月14日（±0日）で、その後の生育は順調に進んだ。1番草の出穂期は平年並の6月14日（±0日）で、収穫作業は平年並の6月12日（早2日）に始まった。収穫終は平年より早い7月7日（早5日）となった。2番草の生育は平年並みに推移したが、1番草収穫後の高温が続く中、降水量が少なかった地域では生育が停滞した。2番草の収穫作業は平年並の8月15日（早3日）に始まり、途中、天候不順による作業の停滞があったものの、収穫終は平年並の9月18日（遅1日）となった。

病虫害の目立った発生はなかった。

(11) とうもろこし（サイレージ用）

は種作業は、平年並の5月10日（遅1日）に始まり、は種終も平年並の5月24日（遅2日）であった。出芽期は平年並の5月27日（遅2日）であった。6月以降の気温が高温で推移したため、生育は順調で、絹糸抽出期は平年より早い7月24日（早7日）となった。その後の登熟も順調に進み、糊熟期は平年より早い8月25日（早9日）、黄熟期は平年より早い9月7日（早11日）となった。収穫作業は、平年より早い9月6日（早8日）に始まり、収穫終は平年より早い9月27日（早8日）となった。

一部の地域では8月～9月にアワノメイガの発生が多く見られた。

Ⅲ 指定及び指定外有害動植物に関する調査成績

(I) 水稲の病害虫

予察田における水稲の生育期

地点	品種名	播種期		移植期		幼穂形成期		出穂期		成熟期		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢	ななつぼし	4月23日	4月26日	5月22日	5月26日	7月2日	7月10日	7月23日	8月2日	9月1日	9月16日	10
比布	ななつぼし	5月2日	4月26日	5月28日	5月25日	6月25日	7月1日	7月27日	7月30日	9月9日	9月15日	9
北斗	きらら397	4月28日	4月26日	5月26日	5月26日	6月29日	7月2日	7月18日	7月26日	8月27日	9月13日	10
	ななつぼし	4月28日	-	5月26日	-	6月29日	-	7月17日	-	8月27日	-	

1 いもち病	葉いもち	発生期	並	発生量	並
	発生面積	446 ha (0.5% : 平年 0.4%)		被害面積	0 ha (0% : 平年 0.0%)
	穂いもち	発生期	並	発生量	並
	発生面積	602 ha (0.6% : 平年 0.4%)		被害面積	16 ha (0.0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

1) 葉いもち

- 予察田における葉いもちの本田初発期はいずれの地点も平年より早く、発生量は平年並だった。
- 一般田の初発期は平年並だった。発生面積率、被害面積率はいずれも平年並だった。

2) 穂いもち

- 予察田の首いもちの初発期は平年より早く、発生量は平年より多かった。
- 一般田の初発期は平年並だった。発生面積率、被害面積率はいずれも平年並だった。

発生原因の解析

1) 葉いもち

- BLASTAM による葉いもち発生時期の予測では、6月下旬から断続的に感染好適条件が認められたが、近年少発生が続いており伝染源が少なく、早期の発生につながらなかった。
- 適切な防除により発生量を低く抑えることができた。

2) 穂いもち

- 一般田では葉いもちの発生も平年並に抑えられており、適切な防除により発生量を低く抑えることができた。

予察田におけるいもち病の初発期 (月日)

地点	品種名	取り置き苗		葉		枝梗		首		節		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢	ななつぼし	6月23日	6月26日	7月10日	7月19日	7月29日	8月11日	7月29日	8月16日	8月15日	8月18日	10
比布	ななつぼし	6月16日	6月23日	6月30日	7月13日	7月29日	8月5日	8月6日	8月10日	8月4日	8月12日	9
北斗	きらら397	6月11日	6月19日	6月30日	7月10日	7月24日	8月6日	7月28日	8月9日	8月1日	8月17日	10
	ななつぼし	6月11日	-	6月30日	-	7月22日	-	7月25日	-	8月1日	-	

予察田におけるいもち病の最盛期 (月・半旬)

地点	品種名	葉		枝梗		首		節		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢	ななつぼし	7.6	8.1	8.4	8.5	9.2	9.1	9.2	9.2	10
比布	ななつぼし	7.6	7.6	8.4	8.5	9.2	9.1	9.2	8.6	9
北斗	きらら397	7.2	7.5	8.2	8.5	8.4	9.1	8.4	9.2	10
	ななつぼし	7.2	-	8.2	-	8.2	-	8.2	-	

予察田におけるいもち病の発生状況

地点	岩見沢											
品種名	ななつぼし											
調査 月半旬	葉いもち				穂いもち						節いもち	
	発病株率(%)		発病度		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病穂率(%)		発病莖率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0								
7.2	0	2.4	0	0.6								
7.4	4.0	11.2	1.0	2.8								
7.6	40.0	58.2	10.0	15.1								
8.2	48.0	77.2	12.0	25.5	0.8	1.0	0	0	0.8	1.1	0	0.3
8.4	60.0	81.8	16.0	29.3	20.5	16.0	2.2	3.5	22.7	19.3	0.6	4.8
8.6	68.0	82.4	18.0	31.3	33.1	23.2	7.3	10.0	40.4	33.2	2.2	13.1
9.2					20.1	20.1	16.6	20.4	36.7	42.6	16.6	23.8
9.4					-		-		-		-	

注) 空欄は調査対象外

注2) -は成熟のため調査不能

地点	比布											
品種名	ななつぼし											
調査 月半旬	葉いもち				穂いもち						節いもち	
	発病株率(%)		発病度		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病穂率(%)		発病莖率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0								
7.2	0	8.0	0	2.0								
7.4	28.0	40.7	14.0	13.6								
7.6	100	81.1	25.0	32.3								
8.2	100	99.8	35.0	42.2	8.5	12.2	1.5	2.8	10.0	15.0	0.4	5.7
8.4	100	100	39.0	46.7	11.7	12.2	14.1	9.1	25.8	21.3	4.6	10.7
8.6	100	100	31.0	46.3	6.7	23.9	49.9	17.9	56.6	41.8	11.5	15.8
9.2					6.9	23.9	70.1	33.1	77.0	56.9	29.9	24.1
9.4					-	15.7	-	53.1	-	68.7	-	15.5

注1) 空欄は調査対象外

注2) -は成熟のため調査不能

地点	北斗											
品種名	きらら397											
調査 月半旬	葉いもち				穂いもち						節いもち	
	発病株率(%)		発病度		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病穂率(%)		発病莖率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0								
7.2	92.0	7.0	23.0	1.8								
7.4	100.0	39.0	25.0	9.9								
7.6	100.0	73.2	26.0	19.7								
8.2	100.0	83.4	26.0	24.1	46.0	12.9	14.8	3.2	60.8	16.1	3.6	1.0
8.4	100.0	84.0	26.0	25.8	46.4	24.8	38.0	13.8	84.4	38.5	12.4	3.6
8.6	-	84.4	-	26.3	-	25.2	-	31.4	-	56.5	-	7.8
9.2					-	23.6	-	37.6	-	61.3	-	19.9
9.4					-	14.0	-	85.6	-		-	

注1) 空欄は調査対象外

注2) -は成熟・倒伏のため調査不能

地点	北斗											
	ななつぼし											
調査 月半旬	葉いもち				穂いもち						節いもち	
	発病株率(%)		発病度		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病穂率(%)		発病茎率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	-	0	-								
7.2	100.0	-	25.0	-								
7.4	100.0	-	33.0	-								
7.6	100.0	-	37.0	-								
8.2	100.0	-	37.0	-	45.2	-	44.0	-	89.2	-	26.0	-
8.4	100.0	-	37.0	-	22.4	-	72.4	-	94.8	-	35.6	-
8.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9.2					-	-	-	-	-	-	-	-
9.4					-	-	-	-	-	-	-	-

注1) 空欄は調査対象外

注2) -は成熟・倒伏のため調査不能

注3) R6調査開始のため平年値なし

巡回調査結果

一般田におけるいもち病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	葉いもち発病株率 (%)			穂いもち発病株率 (%)	振興局	普及センター 本所・支所	葉いもち発病株率 (%)			穂いもち発病株率 (%)
		7月3半旬	7月6半旬	8月3半旬	8月6半旬			7月3半旬	7月6半旬	8月3半旬	8月6半旬
空知	本所	0	0	0	0	渡島	本所	0	0	0	0
	南東部	0	0	0	0	檜山	本所	0	0	0	0
	南西部	0	0	0	0	北部	0	0	0	0	
	中空知	0	0	0	0	上川	本所	0	0.01	0.01	0
	北空知	0	0	0	0		富良野	0	0	0	0
石狩	本所	0	0	0	0	大雪	0	0	0	0	
	北部	0	0	0	2.1	土別	0	0	0	0	
後志	本所	0	0	0	0	名寄	0	0	0	0	
胆振	東胆振	0	0	0	0	留萌	本所	0	0	0	0
	西部	0	0	0	0		南留萌	0	0	0	0

2 紋枯病 発生期 やや早 発生量 並

発生面積 19,968 ha (21.0% : 平年 22.3%) 被害面積 1,718 ha (1.8% : 平年 2.7%)

発生経過の概要

- ・予察田での初発期は平年より早く、発生量は平年より多かった。
- ・一般田における初発時期はやや早かった。発生面積率、被害面積率とも平年並だった。

発生原因の解析

・本年は7～8月の気温が高く推移したため、防除実施率が低い地域を中心に発生が多くなった地域もあったが、常発地域では適切に防除が実施された。

予察田における紋枯病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢	ななつぼし	7月11日	8月6日	8.4	8.6	10
北斗	ななつぼし	7月11日	7月30日	8.2	8.5	10

予察田における紋枯病の発生状況

地点	岩見沢							
品種名	ななつぼし							
調査 月半旬	発病株率(%)		発病茎率(%)		最上発病葉鞘位		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7.4	4.0	0	0.2	0	3.0		1.0	0
7.6	8.0	0.8	0.8	0	3.0	-	2.0	0
8.2	32.0	8.2	4.1	0.6	3.0	2.8	7.0	1.7
8.4	80.0	33.6	28.7	4.3	2.0	2.4	26.0	7.8
8.6	80.0	64.8	41.7	13.6	2.0	1.8	32.0	18.0
9.2	92.0	78.4	53.0	19.3	1.0	1.4	40.0	22.7
9.4	-	83.7	-	21.4	-	1.7	-	25.2

注1) 空欄は調査対象外

注2) 9月4半旬はいもち病多発により調査不能

地点	北斗							
品種名	ななつぼし							
調査 月半旬	発病株率(%)		発病茎率(%)		最上発病葉鞘位		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7.4	12.0	0	2.8	0	3.0		3.0	0
7.6	12.0	7.0	3.2	2.0	3.0	-	3.0	1.5
8.2	64.0	20.8	40.0	12.0	1.0	2.1	29.0	7.0
8.4	64.0	32.0	40.0	20.2	1.0	1.6	29.0	13.9
8.6	-	45.4	-	26.7	-	1.0	-	20.4
9.2	-	49.0	-	29.8	-	1.0	-	23.2
9.4	-	28.0	-	20.7	-	1.0	-	18.3

注1) 空欄は調査対象外

注2) -は成熟・倒伏のため調査不能

3 縞葉枯病 発生期 — 発生量 並
 発生面積 1,440 ha (1.5% : 平年 0.7%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

・一般田における発生面積率は平年より多かったが、被害を認めた地域は無かった。

発生原因の解析

・春季、夏季とも気温が高く経過し媒介虫の活動に好適だった。常発地域では防除が実施されており、被害は平年並に抑えられた。

4 ばか苗病 発生期 — 発生量 並
 発生面積 550 ha (0.6% : 平年 1.0%) 被害面積 43 ha (0.0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要・発生原因の解析

・一般田における発生面積率は平年並に低く、被害を認めた地域は限定的だった。
 ・健全種苗が使用され、適切な種子消毒、育苗管理が実施されている。

5 苗立枯病 発生期 — 発生量 並
 発生面積 1,328 ha (1.4% : 平年 1.1%) 被害面積 50 ha (0.1% : 平年 0.0%)

発生経過の概要・発生原因の解析

・一般田における発生面積率、被害面積率とも平年並だった。

・育苗期間の天候が良好に経過し、適切に育苗管理が実施された。

6 種子伝染性細菌病 発生期 — 発生量 並

発生面積 60 ha (0.1% : 平年 0.2%) 被害面積 43 ha (0.0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般田における発生面積率、被害面積率とも平年並に低かった。
- ・種子消毒が適切に実施されていることに加え、育苗期間の天候が良好に経過し、適切に育苗管理が実施された。

7 ニカメイガ 発生期 並 発生量 並
 発生面積 727ha(0.8% : 平年 0.5%) 被害面積 0ha(0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

- ・予察田における被害茎率は長沼町で平年並であった。
- ・一般田における発生面積率は平年並であり、被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・前年は平年より多く発生し、越冬密度も平年より多かったと推測される。産卵時期にあたる7月中旬は降水が多く産卵が抑制された。
- ・一般田では防除が適切に行われた。

予察田におけるニカメイガの発生状況と被害状況

	長 沼	
	本 年	平 年
被 害 株 率 (%)	29	37.7
調 査 茎 数	1687	1381.3
被 害 茎 率 (%)	4.4	4.9
在 虫 茎 率 (%)	1.7	1.5
生 幼 虫 数 (頭)	32	19.1
死 幼 虫 数 (頭)	2	3.6
蛹 数 (頭)	7	0.0
切 断 虫 数 (頭)	2	2.0
死 虫 率 (%)	6.3	18.7
10a当り幼虫数 (頭)	25456	11393.1
幼虫平均体重 (mg)	78.8	76.0
調査月日	9月17日	9月30日
調査品種	ななつぼし	
栽培密度 (/m ²)	30	
平 年 数	10	

注) 100株当りの数値を示した。

8 セジロウンカ 発生期 やや早 発生量 並
 発生面積 1,277ha(1.3% : 平年 1.7%) 被害面積 0ha(0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

- ・予察田における水田すくい取りによる初発期は比布町で平年より早く、北斗市で平年よりやや早く、長沼町では平年より遅かった。
- ・予察田におけるすくい取り数は長沼町、比布町及び北斗市で平年より少なかった。予察灯による誘殺数は長沼町で平年並、比布町では平年より少なかった。
- ・一般田における発生面積率は平年並、被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・飛来時期が平年よりやや早かったものの、飛来量が少なかった。
- ・一般田では、防除が適切に行われた。

予察灯及び予察田すくい取りによるセジロウンカ成虫の発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
予察田 すくい取り	初発期	8. IV	8. I	7. V	8. I	7. I	7. II
	最盛期	9. I	9. I	-	9. III	8. V	9. II
予察灯 誘殺	初発日	7月29日	7月30日	7月22日	7月31日	-	7月10日
	最盛日	8月19日	8月11日	8月21日	8月17日	-	8月18日

注) 表記のうちローマ数字は半旬を示す。
 平年数は10年。

予察田におけるセジロウンカ成虫のすくい取り虫数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
7. 1	0	0.0	0	0.0	5.0	3.0
2	0	0.0	0	0.3	0	5.3
3	0	0.3	0	0.5	0	4.0
4	0	0.0	0	0.0	2.5	2.2
5	0	0.1	5.0	1.0	2.5	1.5
6	0	2.4	5.0	1.0	20.0	2.0
8. 1	0	8.0	0	2.0	2.5	16.6
2	0	2.4	0	3.9	7.5	20.5
3	0	3.0	0	3.8	7.5	23.5
4	5.0	1.9	0	9.0	67.5	32.8
5	0	1.4	0	5.8	72.5	60.5
6	5.0	8.1	0	18.3	42.5	82.8
9. 1	2.5	19.1	0	14.2	30.0	83.5
2	2.5	7.4	0	8.9	-	116.3
3	-	5.1	0	44.4	-	187.8
4	-	2.5	-	68.0	-	156.3
5	-	3.8	-	35.0	-	25.0
6	-	0.8	-	37.5	-	-
平年数	10		10		10	

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

予察灯によるセジロウンカ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布	
	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.0	0	0.0
2	-	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.2
4	0	0.7	0	0.0
5	0	0.6	1	0.2
6	1	4.8	1	14.0
8. 1	0	6.4	0	6.2
2	5	9.6	0	6.4
3	14	20.4	0	6.8
4	30	8.9	2	7.0
5	3	5.7	6	8.3
6	3	5.4	0	2.5
9. 1	4	1.2	0	0.5
2	1	0.8	1	0.4
3	-	0.2	0	0.2
4	2	3.3	0	0.6
5	0	0.4	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10	

注1) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

注2) -:欠測

9 ヒメトビウンカ 発生期 やや遅 発生量 やや多

発生面積 21,194ha(22.3% : 平年 16.7%) 被害面積 9ha(0.0% : 平年 0.2%)

発生経過の概要

- ・畦畔すくい取りによる越冬幼虫の初発期は平年より早かった。第1回成虫の発生期は長沼町で平年より遅く、比布町平年よりやや早く、北斗市では平年よりやや遅かった。
- ・予察田の水田すくい取り成虫数はいずれの地点とも平年並であった。畦畔すくい取り成虫数及び予察灯誘殺数は、長沼町及び比布町で平年より多かった。北斗市では予察田の畦畔すくい取り成虫数が平年より少なかった。
- ・一般田における発生面積率は平年よりやや高く、被害面積率は平年並であった。上川地方で発生が目立った地域があった。

発生原因の解析

- ・前年秋の発生が平年並だったため越冬密度も平年並であったと推測される。春季、夏季とも高温に経過したため、増殖に好適であった。
- ・縞葉枯病常発地域においては箱施用剤による防除が行われているものの、上川地方で発生が目立った地域もあった。

予察田におけるすくい取りによるヒメトビウンカ成虫の発生期

世 代		長 沼		比 布		北 斗	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
第 1 回	初発日	-	-	5月30日	6月20日	-	-
	最盛期	-	-	-	-	-	-
	終息日	-	-	6月8日	-	-	-
第 2 回	初発日	7月10日	7月10日	7月11日	7月11日	7月1日	7月4日
	最盛期	7. II	7. V	7. V	7. VI	7. VI	7. VI
	終息日	7月31日	7月30日	8月1日	8月7日	7月28日	8月1日
第 3 回	初発日	8月7日	8月5日	8月3日	8月12日	8月8日	8月6日
	最盛期	9. II	8. V	8. IV	8. VI	9. I	9. II
	終息日	10月20日	9月19日	-	9月20日	-	-
平年数		10		10		10	

注) 表記のうちローマ数字は半旬を示す。

予察灯によるヒメトビウンカ成虫の発生期

世 代		長 沼		比 布	
		本 年	平 年	本 年	平 年
第 1 回	初発日	-	-	6月10日	6月4日
	最盛期	-	-	-	6月4日
	終息日	-	-	6月10日	6月9日
第 2 回	初発日	6月26日	7月10日	6月30日	7月6日
	最盛期	7月25日	7月23日	7月16日	7月28日
	終息日	7月30日	7月28日	7月20日	8月8日
第 3 回	初発日	7月31日	8月1日	7月21日	8月12日
	最盛期	8月11日	8月18日	8月16日	8月28日
	終息日	9月26日	9月16日	9月9日	9月15日
平年数		10		10	

予察田におけるすくい取りによるウンカ類幼虫の発生期

	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
初発期	7. V	8. II	7. I	7. VI	7. VI	7. VI
最盛期	9. I	8. VI	8. II	9. II	8. III	9. I

注) 表記のうちローマ数字は半旬を示す。

予察田におけるヒメトビウンカ成虫のすくい取り虫数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 5	0	-	-	-	0	-
6	0	0.0	2.5	0.0	0	0.6
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.3
2	0	0.0	2.5	1.3	0	0.0
3	0	0.0	0	0.5	0	0.0
4	0	0.0	0	0.5	0	0.0
5	0	0.0	0	1.7	0	0.5
6	0	0.5	0	1.5	0	1.8
7. 1	0	2.8	0	2.5	2.5	1.5
2	25.0	9.0	0	3.5	2.5	2.3
3	2.5	7.6	25.0	5.5	0	3.0
4	5.0	9.6	30.0	14.3	7.5	4.0
5	0	20.5	135.0	50.5	5.0	10.3
6	2.5	16.8	85.0	117.0	12.5	7.3
8. 1	0	28.2	67.5	112.5	0	13.3
2	190.0	23.2	210.0	46.7	45.0	16.8
3	72.5	76.6	265.0	122.3	65.0	14.0
4	65.0	50.0	580.0	168.0	57.5	35.8
5	88.0	114.7	200.0	270.8	32.5	65.3
6	78.0	125.6	47.5	629.0	52.5	55.3
9. 1	115.0	153.2	67.5	398.1	97.5	82.3
2	202.5	52.8	55.0	243.6	-	107.0
3	-	35.6	50.0	162.5	-	188.0
4	-	9.7	-	44.0	-	51.6
5	-	36.5	-	7.5	-	17.5
6	-	66.3	-	-	-	-
平年数	10		10		10	

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

畦畔におけるヒメトビウンカのすくい取り虫数

月半旬	長 沼				比 布				北 斗			
	成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
3. 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4. 1	0	0.0	0	22.1	0	0.0	4.5	10.8	0	0.0	22.5	14.4
2	0	0.0	1.3	24.7	0	0.0	23.3	7.5	0	0.0	30.0	3.8
3	0	0.0	13.0	8.0	0	0.0	27.5	10.0	0	0.0	22.5	4.6
4	0	0.0	0	18.0	0	0.0	20.0	16.8	0	0.0	7.5	3.3
5	0	0.0	0	23.1	0	0.0	7.5	10.3	0	0.0	7.5	0.8
6	0	0.0	0	13.3	0	0.0	7.5	8.6	0	0.0	2.5	1.0
5. 1	0	1.9	0	3.5	0	0.0	20.0	8.6	0	1.3	2.5	1.5
2	0	13.1	0	3.4	0	0.0	0	2.2	0	0.3	0	1.3
3	0	20.7	2.5	0.9	1.3	2.2	6.0	6.7	0	4.1	0	0.5
4	0	13.5	0	0.4	10.0	36.4	5.0	3.3	5.0	4.8	0	0.0
5	0	6.3	0	0.3	155.0	61.0	0	2.0	5.0	3.0	0	0.3
6	2.5	5.2	0	1.8	37.5	49.4	2.5	1.0	0	3.8	0	0.5
6. 1	0	1.6	0	0.6	20.0	29.4	0	1.1	0	3.3	0	0.3
2	0	0.3	0	0.0	2.5	30.8	0	0.3	0	1.3	0	0.3
3	0	0.0	0	0.0	0	8.5	0	0.0	0	1.3	0	0.0
4	0	0.5	0	0.0	0	2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.6	0	1.7	0	0.3	0	0.0
6	0	0.4	0	0.3	0	1.5	0	1.6	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	7.4	0	0.0	0	0.0	5.0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	8.1	0	0.0	0	1.3	0	3.0	0	0.0	0	0.0
3	0	13.9	0	0.0	5.0	0.5	5.0	2.0	0	0.5	0	0.0
4	0	20.9	0	0.0	0	0.5	25.0	0.8	2.5	1.0	0	0.0
5	0	26.3	0	0.0	10.0	4.0	5.0	1.0	0	1.5	0	0.0
6	2.5	17.0	0	0.3	22.5	6.0	0	0.5	0	1.5	0	0.0
8. 1	17.0	12.0	0	0.3	27.5	8.0	0	1.0	0	2.0	0	0.3
2	113.0	13.7	0	0.8	157.5	7.8	0	1.1	2.5	1.8	0	0.0
3	97.5	75.1	0	0.3	130.0	12.5	0	5.0	2.5	5.5	0	0.0
4	217.5	69.8	0	0.6	1030.0	48.5	0	1.5	2.5	6.5	0	0.8
5	343.0	92.2	0	1.6	422.5	112.8	0	2.5	2.5	13.3	0	2.0
6	355.0	105.6	0	1.8	55.0	307.0	0	5.0	5.0	17.5	0	0.8
9. 1	142.5	92.9	7.5	13.1	60.0	215.3	0	5.6	12.5	48.5	0	2.8
2	595.0	37.9	7.5	3.8	20.0	138.3	0	8.9	15.0	74.0	0	4.3
3	127.5	22.6	0	11.9	55.0	130.6	0	2.5	15.0	83.8	0	3.0
4	87.5	8.9	0	9.7	135.0	45.0	255.0	42.9	27.5	47.3	0	0.8
5	7.5	3.0	0	61.4	20.0	21.6	710.0	57.8	7.5	19.3	0	0.3
6	0	1.1	0	6.4	10.0	2.1	702.5	77.9	2.5	4.8	0	2.3
10. 1	5.0	3.6	0	6.6	0	0.0	602.5	185.0	5.0	1.9	0	6.9
2	0	1.3	0	15.3	0	0.0	685.0	1354.0	0	0.6	10.0	26.9
3	10.0	0.4	0	16.5	0	0.0	810.0	868.5	0	0.0	7.5	20.6
4	2.5	0.0	0	53.3	0	0.0	862.5	955.0	0	0.0	12.5	21.7
5	0	0.0	0	25.9	0	0.0	555.0	1225.0	0	0.0	10.0	19.7
6	0	0.0	0	23.6	0	0.0	415.0	1593.8	0	0.0	0	33.4
平年数	10				10				10			

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

予察灯によるヒメトビウンカ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布	
	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	0.0	0	-
2	0	0.0	0	-
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0
6. 1	0	0.0	0	3.6
2	0	0.0	1	5.3
3	0	0.0	0	2.0
4	0	0.0	0	0.1
5	0	0.0	0	0.0
6	1	0.1	1	0.2
7. 1	1	0.1	12	2.1
2	-	2.8	334	4.6
3	191	10.6	270	13.2
4	123	168.5	264	106.6
5	199	50.0	280	152.6
6	106	209.4	900	1582.9
8. 1	847	168.3	3118	370.4
2	1242	359.1	2268	229.2
3	5430	475.0	14207	143.7
4	3517	512.4	23317	599.2
5	2854	239.2	8670	2248.0
6	514	335.2	1599	6533.7
9. 1	559	68.5	22	3773.6
2	339	175.0	82	1659.9
3	-	107.7	0	49.1
4	5	23.3	0	4.9
5	1	0.3	0	0.0
6	2	0.3	0	0.0
平年数	10		10	

注) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

予察田におけるウンカ類幼虫のすくい取り虫数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.0	2.5	0.0	0	0.0
2	0	0.0	5.0	1.0	0	0.0
3	0	0.0	5.0	2.5	0	0.0
4	0	0.0	0	4.0	0	0.3
5	2.5	2.8	15.0	3.5	0	1.3
6	193.0	40.7	127.5	32.5	67.5	6.0
8. 1	33.0	257.5	450.0	351.0	47.5	37.5
2	233.0	210.7	752.5	441.7	255.0	35.3
3	152.5	252.5	665.0	1512.0	517.5	87.3
4	165.0	244.0	205.0	1849.5	242.5	157.0
5	293.0	189.8	330.0	1522.8	215.0	516.8
6	692.5	224.3	272.5	2165.8	305.0	588.5
9. 1	935.0	169.8	160.0	1554.2	360.0	417.0
2	607.5	202.3	105.0	1709.7	-	328.5
3	-	254.0	270.0	2270.8	-	298.3
4	-	365.3	-	1968.0	-	229.4
5	-	386.7	-	2362.5	-	181.7
6	-	167.8	-	-	-	-
平年数	10		10		10	

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。セジロウンカ幼虫を含む数値。

巡回調査結果

一般田におけるすくい取りによるヒメトビウンカの発生状況

振興局	普及センター	調査地点数	7月6半旬	8月3半旬
空知	本所	6	1.5	4.5
	南東部	2	0	0
	南西部	4	2.3	5.0
	中空知	4	0	1.5
	北空知	6	0	44.5
石狩	本所	2	17.5	5.0
	北部	7	0	2.3
後志	本所	4	0	0
胆振	東胆振	4	0	0
日高	西部	2	0	7.5
渡島	本所	1	0	0
檜山	本所	2	1.5	0
	北部	2	0.5	4.8
上川	本所	7	30.4	28.3
	富良野	3	0	0
	大雪	4	18.5	5.5
	士別	3	0	0
	名寄	3	0	0
留萌	本所	4	0	0
	南留萌	2	0	0

注) 20回振りの合計頭数を示した。

ヒメトビウンカのイネ繭葉枯病ウイルス (RSV) 保毒検定

ヒメトビウンカのRSV保毒検定結果 (渡島振興局管内)

採集地点	採取方法	採取時期	RSV保毒虫検定結果					
			検定虫数		保毒虫数		保毒虫率(%)	
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
北斗市 道南農試	水田すくい取り	8月8日	10	-	0	-	0	-
		8月9日	8	-	0	-	0	-
		8月11日	11	-	0	-	0	-
		8月13日	15	-	0	-	0	-
		8月16日	8	-	0	-	0	-
		8月18日	15	-	0	-	0	-
		8月21日	6	-	0	-	0	-
		8月22日	7	-	0	-	0	-
		8月26日	4	-	0	-	0	-
		8月28日	16	-	0	-	0	-
		9月1日	18	-	0	-	0	-
		9月3日	21	-	1	-	4.8	-
		9月3日	5	-	0	-	0	-
		9月6日	5	-	0	-	0	-
		9月11日	5	-	0	-	0	-
9月16日	5	-	0	-	0	-		
9月18日	5	-	0	-	0	-		

注1) 採集は20回振り。

注2) 10月23, 24, 27, 28日に簡易ELISAにより検定。

ヒメトビウンカのRSV保毒検定結果 (上川振興局管内)

地点番号	採集市町村・地点	採集月日	すくい取り 調査結果 (幼虫数/20回振)	RSV保毒虫検定結果			
				供試虫数 (幼虫)	保毒虫数 (幼虫)	保毒虫率(幼虫、%)	
						本年	前年
A	旭川市1	10月16日	5	49	0	0.0	1.0
B	東川町	10月16日	215	96	5	5.2	4.2
C	美瑛町	10月16日	27	96	2	2.1	0.0
D	当麻町1	10月16日	156	96	15	15.6	9.4
E	旭川市2	10月16日	204	96	1	1.0	3.1
F	比布町 農試	10月16日	173	96	3	3.1	5.2
G	当麻町2	10月16日	52	96	11	11.5	-
H	当麻町3	10月16日	11	88	15	17.0	-
I	当麻町4	10月16日	170	96	20	20.8	-

注1) 採集は20~180回振り。

注2) A~Fは定点。

注3) 10月28日~29日に簡易ELISAにより検定。

10 イネドロオイムシ 発生期 並 発生量 少

発生面積 2,919ha(3.1% : 平年 5.9%) 被害面積 209ha(0.2% : 平年 0.2%)

発生経過の概要

- ・予察田における産卵初発期は、長沼町で平年よりやや遅かった。比布町では産卵が認められなかった。
- ・予察田における幼虫の発生量および被害は、長沼町では平年より少なく、比布町では平年より少なかった。
- ・一般田における発生時期は平年並、発生面積率は平年よりやや少なく、被害面積率は平年並であった。

発生原因の解析

- ・近年、効果の高い箱施用剤の使用が増えており、地域内の発生密度が低めに推移している。

予察田におけるイネドロオイムシの発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
成 虫	初発期	6. I	6. I	-	-	-	6. I
	最盛期	6. VI	6. V	-	-	-	6. III
	終息期	6. VI	7. II	-	-	-	7. I
卵塊	初発期	6. III	6. II	-	6. IV	-	6. III
	最盛期	6. VI	7. I	-	6. V	-	6. IV
	終息期	7. IV	7. V	-	7. II	-	7. III
幼 虫	初発期	6. III	6. IV	6. VI	6. VI	6. V	6. IV
	最盛期	7. II	7. II	-	7. III	-	7. I
	終息期	7. V	7. VI	-	7. V	-	7. VI
蛹	初発期	7. I	7. I	7. I	7. II	6. V	7. I
	最盛期	7. II	7. IV	-	7. IV	-	7. III
	終息期	7. VI	8. II	-	7. V	-	7. VI
新成虫	初発期	7. II	7. III	7. IV	7. VI	-	7. IV
	最盛期	7. IV	7. V	-	-	-	7. V
	終息期	7. V	8. II	-	-	-	8. I
幼虫被害	初発期	6. V	6. IV	6. VI	6. V	6. V	6. V
	最盛期	7. III	7. III	-	7. III	-	7. II
平年数		10		10		10	

注) ローマ数字は半旬を示す。

予察田におけるイネドロオイムシ成虫のすくい取り虫数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 6	-	2.3	0	0.0	0	0.0
6. 1	2.5	1.8	0	2.0	0	1.3
	0	3.3	0	0.0	0	4.8
	0	7.4	0	0.8	0	3.3
	0	12.0	0	1.0	0	9.3
	0	6.3	0	2.2	0	7.8
	0	9.6	5.0	1.0	0	5.0
7. 1	0	15.6	0	0.0	0	2.3
	0	13.6	0	0.5	0	0.8
	0	7.5	0	0.3	0	2.5
	0	14.8	0	3.8	0	2.0
	0	11.9	0	5.3	0	0.5
	0	10.3	0	5.0	0	2.0
8. 1	0	6.8	0	1.0	0	1.3
	0	0.8	0	0.0	0	2.0
	0	0.6	0	1.0	0	0.8
	0	1.0	0	0.0	0	0.0
	0	0.3	0	0.6	0	0.5
	0	0.0	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10	

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

予察田におけるイネドロオイムシの発生状況と被害推移

	月半旬	成虫数		卵塊数		幼虫数		蛹数		被害株率(%)		平年数	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年		
長沼	6.	1	0	5.7	0	2.9	0	0.0	0	0.0	0	5.6	10
		2	1	6.9	0	8.6	0	2.3	0	0.0	0	18.0	
		3	0	4.7	2	13.6	14	15.9	0	0.0	0	32.0	
		4	0	3.1	4	16.8	12	35.2	0	0.0	0	43.2	
		5	0	3.5	5	18.1	22	63.9	0	0.5	24	74.8	
		6	1	3.7	7	18.7	26	79.3	0	2.8	44	89.6	
	7.	1	0	2.8	2	17.8	26	99.9	9	7.5	64	97.0	
		2	1	2.1	2	14.8	28	73.9	9	19.1	76	100.0	
		3	1	2.5	1	10.6	13	52.7	7	25.9	80	100.0	
		4	3	8.4	2	15.0	7	27.3	7	30.1	80	98.4	
		5	1	4.8	0	6.5	6	15.8	4	24.9	72	99.0	
		6	0	4.1	0	5.5	5	3.7	1	17.2	60	98.7	
8.	1	0	2.1	0	2.0	2	0.6	0	9.7	60	98.7		
	2	0	1.1	0	1.6	1	0.5	0	5.3	60	89.3		
比布	6.	1	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10
		2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
		3	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
		4	0	0.1	0	0.7	0	0.3	0	0.0	0	0.4	
		5	0	0.0	0	0.2	0	2.2	0	0.0	0	1.8	
		6	0	0.2	0	0.6	0	1.3	0	0.0	0	3.1	
	7.	1	0	0.0	0	0.8	0	4.7	0	0.1	0	4.4	
		2	0	0.0	0	0.6	0	5.1	0	0.5	0	10.0	
		3	0	0.0	0	0.2	0	6.4	0	2.3	0	14.5	
		4	0	0.1	0	0.3	0	3.0	0	3.3	0	16.5	
		5	0	0.0	0	0.0	0	0.6	0	2.7	0	16.0	
		6	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	1.1	0	9.5	
8.	1	0	0.1	0	0.0	0	0.2	0	0.3	0	12.0		
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	9.0		

注) 数値は25株の合計を示した。

巡回調査結果

一般田におけるイネドロオイムシの発生状況と被害推移

振興局	普及センター	調査地点数	卵塊数		幼虫数		被害率率(%)
			6月3半旬	6月6半旬	6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬
空知	本所	6	1.5	4.7	20.0	0.8	0
	南東部	2	0	0	0	0	0
	南西部	4	0	0	0	0	0
	中空知	4	0.5	0	1.8	0	0
	北空知	6	0.5	0.8	0.8	0	0
石狩	本所	2	0	0	0	0	0
	北部	7	0	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0	0	0
胆振	東胆振	4	0	0	0	0	0
日高	西部	2	0	0	0	0	0
渡島	本所	1	0	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	0	0	0	0
	北部	2	0	0	0	0	0
上川	本所	7	0	0	0	0	0
	富良野	3	0	0	0	0	0
	大雪	4	0	0	0	0	0
	士別	3	0	0	0	0	0
	名寄	3	0	0	0	0	0
留萌	本所	4	0	0	0	0	0
	南留萌	2	0	0	0	0	0

注) 数値は調査を行った25株の合計を示した。

1.1 斑点米カメムシ類 発生期 早 発生量 多

発生面積 33,029ha(34.8%：平年 29.6%) 被害面積 2,935ha(3.1%：平年 0.6%)

発生経過の概要

- ・予察灯において、アカヒゲホソミドリカスミカメの第2回成虫の初発期は、比布町で平年より早く、長沼町で平年よりやや早かった。誘殺数は、両地点とも平年より多かった。
- ・7月下旬から8月の水田すくい取りによる成虫捕獲頭数は、長沼町で平年よりやや多く、比布町及び北斗市では平年より少なかった。同時期の水田フェロモントラップによる誘殺数は、長沼町で平年よりやや多く、比布町で平年より多く、北斗市では平年よりやや少なかった。
- ・アカスジカスミカメは、北斗市において7月下旬から8月の水田すくい取りによる成虫捕獲数が平年より多かった。
- ・割れ籽率は長沼町で平年並、比布町では平年よりやや高く、北斗市では平年よりやや低かった。斑点米率は、いずれの地点も平年より高かった。
- ・一般田における発生面積率は平年よりやや高く、被害面積率は平年より高かった。留萌地方の一部地域で発生が目立った。

発生原因の解析

- ・前年の発生は平年より多く越冬密度も平年並より高かったと推測される。春季、夏季とも高温に経過したため増殖および加害に好適であり、水田への飛び込みも多かった。
- ・一般田では、防除が適切に行われた。
- ・7月18日付 注意報第6号発表

予察灯によるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生期

		長 沼		比 布	
		本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	6月10日	6月10日	6月13日	6月11日
	最盛期	6月25日	6月20日	6月16日	6月16日
	終息期	6月28日	6月27日	6月30日	6月24日
	総誘殺数	250	47	57	15
第2回	初発期	6月30日	7月5日	7月3日	7月9日
	最盛期	7月25日	7月21日	7月16日	7月26日
	終息期	7月30日	7月30日	7月31日	8月6日
	総誘殺数	5805	2084	642	243
第3回	初発期	7月31日	7月31日	8月2日	8月13日
	最盛期	8月13日	8月9日	8月16日	8月29日
	終息期	10月5日	9月28日	9月17日	9月17日
	総誘殺数	6079	2493	1489	274
平年数		10		10	

水田すくい取りによるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生期

		長沼町		比布町		北斗市	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	-	-	-	-	-	6月30日
	最盛期	-	-	-	-	-	7. I
	終息期	-	-	-	-	-	7月4日
第2回	初発期	7月10日	7月27日	7月16日	7月23日	7月21日	7月24日
	最盛期	7. V	7. VI	7. IV	7. V	-	8. I
	終息期	7月24日	8月12日	7月28日	8月9日	7月21日	8月13日
第3回	初発期	8月7日	8月19日	8月12日	8月27日	-	8月27日
	最盛期	8. II	8. IV	8. III	9. I	-	9. I
	終息期	-	9月16日	8月18日	9月14日	-	9月10日
平年数		10		10		10	

注) ローマ数字は半旬を示す。

畦畔すくい取りによるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生期

		長沼町		比布町		北斗市	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	6月15日	6月3日	6月8日	6月11日	-	6月9日
	最盛期	6. V	6. IV	6. II	6. III	-	6. V
	終息期	6月27日	6月23日	6月15日	6月20日	-	6月25日
第2回	初発期	7月14日	7月13日	7月16日	7月18日	7月18日	7月23日
	最盛期	7. IV	7. VI	7. V	7. IV	-	7. VI
	終息期	7月18日	8月13日	7月28日	7月27日	7月18日	7月29日
第3回	初発期	7月31日	8月17日	-	9月6日	10月11日	8月27日
	最盛期	8. II	8. V	-	9. III	-	9. II
	終息期	-	9月27日	-	9月22日	10月27日	9月30日
平年数		10		10		10	

注) ローマ数字は半旬を示す。

水田フェロモントラップによるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	6月17日	6月16日	6月22日	6月19日	6月15日	6月19日
	最盛期	6月17日	6月21日	-	-	6月24日	6月29日
	終息期	6月26日	6月26日	6月29日	6月26日	6月28日	7月6日
	総誘殺数	4	4.5	2	2.9	26	17
第2回	初発期	7月9日	7月12日	7月8日	7月15日	7月7日	7月11日
	最盛期	7月21日	7月26日	7月22日	7月29日	7月27日	7月26日
	終息期	7月30日	8月6日	7月31日	8月6日	8月7日	8月10日
	総誘殺数	45	34.2	127	38.6	51	62.5
第3回	初発期	8月3日	8月12日	8月4日	8月16日	8月13日	8月15日
	最盛期	8月5日	8月22日	8月26日	9月2日	8月20日	8月24日
	終息期	9月12日	9月21日	9月9日	9月14日	8月28日	9月12日
	総誘殺数	55	38.2	10	26.5	8	34.5
平年数		10		10		10	

畦畔フェロモントラップによるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	6月15日	6月5日	-	6月10日	6月10日	6月13日
	最盛期	6月17日	6月20日	-	6月14日	6月17日	6月21日
	終息期	7月6日	7月6日	-	6月25日	6月30日	6月25日
	総誘殺数	19	41.8	0	6.1	5	3
第2回	初発期	7月13日	7月13日	7月11日	7月19日	7月20日	7月14日
	最盛期	7月15日	7月26日	7月28日	7月29日	8月2日	7月21日
	終息期	7月24日	8月17日	7月31日	8月6日	8月15日	8月1日
	総誘殺数	15	89	33	27	3	7.6
第3回	初発期	7月30日	8月21日	8月1日	8月13日	8月24日	8月14日
	最盛期	8月2日	8月30日	8月18日	8月31日	9月7日	8月23日
	終息期	10月20日	10月6日	9月29日	9月26日	9月12日	9月12日
	総誘殺数	129	66.9	47	41.3	12	10
平年数		10		10		10	

予察灯によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布	
	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	0	0	-
2	0	0	0	-
3	0	0	0	-
4	0	0	0	-
5	0	0	0	0
6	0	0	0	0
6. 1	0	1	0	1
2	12	2	0	3
3	9	6	13	4
4	95	12	24	2
5	122	6	10	1
6	17	10	10	3
7. 1	11	10	7	1
2	-	78	18	4
3	307	198	150	14
4	426	715	310	37
5	3760	558	98	30
6	1267	1024	16	123
8. 1	1398	621	231	31
2	498	445	85	26
3	1952	426	383	53
4	1089	202	489	25
5	601	180	206	53
6	253	116	66	42
9. 1	130	27	16	8
2	76	49	11	36
3	-	21	1	6
4	3	15	1	27
5	0	2	0	1
6	15	3	0	0
平年数	10		10	

注1) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

注2) -: 欠測。

予察田におけるアカヒゲホソミドリカスミカメのすくい取り虫数

月半旬	長 沼				比 布				北 斗			
	成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.5	0	0
7. 1	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	1.3	0	0
2	2.5	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0.5	0	0
3	2.5	0	0	0.4	0	1.0	0	0	0	0.8	0	0
4	0	2.6	0	0	20.0	5.0	0	0	0	0.3	0	0
5	13.0	6.8	0	0.4	15.0	2.5	0	0	2.5	2.0	0	0
6	0	7.1	0	1.4	0	2.5	0	3.0	0	4.2	0	0.2
8. 1	0	3.9	0	0.6	0	1.5	2.5	1.5	0	5.8	0	0.3
2	10.0	5.8	0	1.7	0	0.6	17.5	2.2	0	2.5	0	2.3
3	7.5	7.0	0	2.7	15.0	0.5	40.0	11.0	0	3.3	0	1.3
4	5.0	3.3	5.0	0.9	10.0	2.5	0	12.5	0	2.3	0	4.5
5	10.0	4.6	7.5	1.0	0	0.6	0	2.8	0	2.8	0	6.8
6	2.5	3.0	13.0	2.1	0	5.3	0	9.0	0	1.0	0	6.3
9. 1	0	4.0	5.0	2.3	0	3.1	0	3.9	0	2.5	0	5.3
2	10.0	1.4	0	1.8	0	2.2	0	1.4	-	3.3	-	4.5
3	-	0.4	-	0.5	0	2.8	0	0.6	-	3.3	-	1.0
4	-	1.1	-	0	-	4.0	-	4.0	-	1.3	-	1.3
5	-	0	-	0	-	1.3	-	0	-	0.8	-	0
6	-	0.3	-	0.3	-	0	-	0	-	-	-	-
平年数	10				10				10			

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

畦畔におけるアカヒゲホソミドリカスミカメのすくい取り虫数

月半旬	長 沼				比 布				北 斗			
	成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	12.8	0	0	0	0.6	0	0	0	0
4	0	0	0	0.3	0	0	0	1.3	0	0	0	0
5	0	0.9	0	9.3	0	0	5.0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	4.3	0	0	30.0	2.0	0	0.6	0	0
6. 1	0	4.5	0	1.6	0	0	0	21.7	0	0	0	0
2	0	7.0	0	3.2	20.0	8.3	7.5	41.0	0	0.8	0	0
3	5.0	17.6	0	0.4	0	4.8	0	0	0	0.8	0	0
4	0	8.9	0	0.7	0	4.5	0	0	0	3.5	0	2.8
5	5.0	2.0	0	0	0	1.7	0	0	0	0.5	0	0.3
6	2.5	4.6	0	0.5	0	0	0	0	0	0.5	0	0
7. 1	0	7.0	5.0	0.1	0	0	2.5	0	0	1.5	0	1.0
2	0	7.1	0	1.9	5.0	0.3	0	5.3	0	0.5	0	0.8
3	2.5	3.8	2.5	0.8	0	0.3	0	6.0	0	0	0	0
4	7.5	18.8	0	3.5	5.0	8.3	5.0	7.5	2.5	1.3	0	0
5	0	21.0	0	3.2	60.0	2.8	0	0	0	2.3	0	0.5
6	15.0	28.4	0	3.7	0	0.5	0	0	0	4.5	0	0
8. 1	25.0	14.9	0	5.3	0	1.0	2.5	0	0	0.5	0	0
2	105.0	11.7	0	6.1	0	0	0	0	0	0.3	0	1.0
3	27.5	14.2	2.5	2.0	0	0	5.0	1.5	0	1.3	0	0.8
4	57.5	16.3	2.5	3.2	0	0	5.0	0	0	2.8	0	0.5
5	30.0	19.2	20.0	5.6	0	4.2	0	0	0	13.8	0	0.5
6	48.0	13.7	10.0	3.8	0	7.8	0	0	0	4.3	0	0
9. 1	47.5	16.4	15.0	4.3	0	9.2	0	0	0	3.0	0	0.3
2	87.5	10.3	37.5	3.6	0	7.5	0	0	0	1.3	0	0.3
3	30.0	8.2	10.0	3.1	0	8.6	0	0	0	1.0	0	0.3
4	5.0	4.8	0	3.3	0	10.0	0	1.4	0	2.8	0	0
5	2.5	6.7	0	3.3	0	2.6	0	0	0	1.0	0	0.3
6	10.0	3.8	2.5	0.6	0	5.7	0	0.7	0	1.0	0	0
平年数	10				10				10			

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

水田フェロモントラップによるアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.1	0	0	0	0
2	0	0.6	0	0	0	0
3	0	0.4	0	0.3	1	0.3
4	2.6	2.0	0	0.8	7	1.1
5	1.2	0.4	1	0.6	16	3.1
6	0.3	0.6	1	1.1	2	4.3
7. 1	0	0.8	0	0.5	0	5.5
2	1	1.5	1	1.4	1	4.3
3	11	1.8	14	2.4	1	6.4
4	10.1	3.1	16	4.7	7	4.9
5	12.5	6.3	81	7.5	12	9.6
6	12.3	9.4	15	12.3	22	18.2
8. 1	14.7	10.3	1	9.5	7	16.7
2	7.3	5.3	0	2.8	1	8.9
3	7	9.7	3	3.0	3	6.6
4	5.9	9.2	0	2.2	3	4.4
5	5.9	4.8	2.5	5.3	0	7.5
6	3.8	2.7	2.5	4.1	2	4.8
9. 1	3.2	3.3	0	4.3	0	4.3
2	3.3	2.1	1	3.1	-	2.8
3	-	1.3	0	1.7	-	1.8
4	-	1.2	0	1.2	-	0.5
5	-	0.6	-	0.7	-	0
6	-	0	-	-	-	-
平年数	10		10		10	

畦畔フェロモントラップによるアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	7.8	0	2.3	0	0.1
	0	7.2	0	1.2	1	0.2
	5	7.2	0	1.7	1	0.5
	11.4	5.4	0	1.3	2	0.3
	1.6	5.7	0	1.0	0	0.8
	0.4	5.9	0	0.5	1	0.2
7. 1	0.5	8.0	0	0.1	0	0.7
	0.6	6.2	0	0.6	0	1.0
	6.5	8.2	3	1.4	0	1.0
	5.7	9.4	11	4.2	1	1.3
	5.0	13.9	6	4.4	0	1.2
	22.6	19.9	13	8.5	0	2.1
8. 1	39.1	12.9	12	6.4	1	2.5
	8.2	13.8	5	4.5	0	1.0
	8.5	9.0	8	4.8	1	0.9
	17.6	9.2	12	4.8	0	0.7
	9.7	10.9	1	4.1	4	1.7
	9.3	7.8	3	5.1	2	1.2
9. 1	3.8	8.9	1	4.7	1	1.6
	2.7	9.0	0	4.6	4	1.0
	0	5.6	3	3.1	1	0.4
	0.4	5.4	0	3.0	0	0.1
	0.6	3.8	0.3	2.4	0	0.1
	0.7	3.6	1.8	1.9	0	0.1
平年数	10		10		10	

予察灯によるアカスジカスミカメ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布	
	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	-	0	-
2	0	-	0	-
3	0	-	0	-
4	0	-	0	-
5	0	-	0	-
6	0	-	0	-
6. 1	0	-	0	-
2	0	-	0	-
3	0	-	0	-
4	0	-	0	-
5	0	-	0	-
6	0	-	0	-
7. 1	0	-	0	-
2	--	-	0	-
3	0	-	0	-
4	0	-	0	-
5	0	-	0	-
6	0	-	0	-
8. 1	0	-	0	-
2	0	-	0	-
3	1	-	0	-
4	1	-	0	-
5	1	-	0	-
6	1	-	0	-
9. 1	0	-	0	-
2	0	-	0	-
3	--	-	0	-
4	0	-	0	-
5	0	-	0	-
6	0	-	0	-
平年数	-		-	

注1) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

注2) --: 欠測。

割れ粳率およびカメムシによる粗玄米の斑点米率

	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
割れ粳率(%)	4.24	3.39	21.53	11.19	6.96	11.14
斑点米率(%) 頂部	0.19	0.07	0.30	0.02	1.01	0.34
側部	0.40	0.22	0.32	0.11	1.06	0.71
合計	0.59	0.29	0.62	0.13	2.07	1.05
調査品種	ななつぼし		ななつぼし		ななつぼし	
平年数	9		10		9	

注) 北斗市平年品種、2016年以前は「きらら397」、2017年以降は「ななつぼし」

巡回調査結果

一般田におけるすくい取りによるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生状況

振興局	普及センター	調査地点数	畦畔すくい取り成幼虫数			水田すくい取り成幼虫数	
			6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬	7月6半旬	8月3半旬
空知	本所	6	1.2	0.5	1.5	3.8	0.2
	南東部	2	0	0.5	0.5	0	0
	南西部	4	5.5	1.5	0.3	3.0	0
	中空知	4	0.3	3.3	2.8	1.5	0.3
	北空知	6	1.2	12.2	2.3	1.0	0
石狩	本所	2	0	0	0	0	0
	北部	7	0	0	0	1.1	0.6
後志	本所	4	0.3	0	0.3	0	0.5
胆振	東胆振	4	0.5	0.5	0	0.5	0.3
日高	西部	2	0	0	0.5	0.5	0.5
渡島	本所	1	0	0	0	0	0
檜山	本所	2	0.5	0	1.0	0	0
	北部	2	1.5	0	0	0	0
上川	本所	7	2.1	3.1	1.3	2.0	0.4
	富良野	3	0	0	0.3	1.7	0
	大雪	4	0.3	0.5	0.3	2.3	0
	士別	3	0	2.0	0	1.0	0
	名寄	3	5.3	6.3	0	0	0
留萌	本所	4	0.3	9.3	0.8	3.3	0.3
	南留萌	2	1.5	2.0	0	3.5	1.0

注) 20回振りの合計頭数を示した。畦畔には牧草地・小麦畑を含む。

12 イネミギワバエ

発生期 並 発生量 少

発生面積 614ha(0.6% : 平年 1.9%) 被害面積 0ha(0% : 平年 0.5%)

発生経過の概要

- ・予察田畦畔すくい取りによる初発期は、長沼町及び北斗市で平年より遅かった。水田すくい取りによる捕獲数は長沼町及び北斗市で平年より少なかった。比布町では捕獲されなかった。
- ・一般田における発生時期は平年並、発生面積率は平年より低く、被害も認められなかった。

発生原因の解析

- ・本種による被害は地域差が大きい。檜山地方は常発地であるが本年は発生量が少なかった。
- ・一般田では、防除が適切に行われた。

予察田におけるイネミギワバエの発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
畦畔すくい取り 成虫	初発期	10月5日	6月26日	-	-	7月1日	5月24日
	最盛期	-	7. VI	-	-	7. I	6. IV
	終息期	10月5日	8月2日	-	-	7月6日	7月23日
水田すくい取り 成虫	初発期	-	6月28日	-	-	5月29日	6月11日
	最盛期	-	7. III	-	-	6. V	6. VI
	終息期	-	7月29日	-	-	7月3日	7月4日
産卵	初発期	-	-	-	-	-	-
幼虫被害	初発期	-	6. IV	-	-	-	6. II
平年数		10		4		7	

注) ローマ数字は半旬を示す。

予察田及び畦畔におけるイネミギワバエ成虫のすくい取り虫数

月半旬	長 沼				比 布		北 斗			
	畦 畔		本 田		本 田		畦 畔		本 田	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
4. 1	0	0.0	-	-	-	-	0	0.0	-	-
2	0	0.0	-	-	-	-	0	0.0	-	-
3	0	0.0	-	-	-	-	0	0.0	-	-
4	0	0.1	-	-	-	-	0	0.3	-	-
5	0	0.0	-	-	-	-	0	0.0	-	-
6	0	0.0	-	-	-	-	0	0.0	-	-
5. 1	0	0.0	-	-	-	-	0	0.0	-	-
2	0	0.0	-	-	-	-	0	0.4	-	-
3	0	0.0	-	-	-	-	0	0.0	-	-
4	0	0.0	-	-	-	-	0	0.4	-	-
5	0	0.5	-	-	-	-	0	0.7	-	-
6	0	0.1	-	-	-	-	0	1.8	-	-
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.1	7.5	0.7
2	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	1.4	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	3.6	0	0.4
4	0	0.0	0	0.3	0	0.0	0	2.5	0	8.6
5	0	0.3	0	0.5	0	1.4	0	24.3	12.5	22.5
6	0	0.4	0	1.1	0	7.1	0	17.5	0	17.5
7. 1	0	0.3	0	2.3	0	0.0	5	10.7	10	8.2
2	0	0.0	0	1.1	0	0.0	2.5	6.4	0	4.3
3	0	0.4	0	1.1	0	0.7	0	1.8	0	0.7
4	0	0.5	0	1.1	0	0.0	0	0.4	0	0.0
5	0	0.0	0	0.6	0	0.0	0	0.6	0	0.0
6	0	0.1	0	0.5	0	0.7	0	0.7	0	0.0
8. 1	0	0.1	0	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.4	0	0.1	0	0.0	0	0.7	0	0.0
3	0	1.8	0	0.6	0	0.0	0	0.4	0	0.0
4	0	0.5	0	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	0.4
平年数	10				7		7			

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

13 コブノメイガ 発生期 — 発生量 —

発生経過の概要

- ・北斗市において、フェロモントラップによる初誘殺日は8月25日（前年7月22日）、8月から9月の誘殺数は21頭（前年29頭）であった。

発生原因の解析

- ・主たる成虫の飛来時期は8月下旬以降だった。水稻の成熟は平年より早く、9月上旬には成熟期を迎えており加害期間は短かったと推測される。

14 フタオビコヤガ 発生期 並 発生量 少

発生面積 627ha (0.7% : 平年 5.0%) 被害面積 0ha (0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

- ・予察灯による第2～3回成虫の誘殺数は長沼町及び比布町で平年より少なかった。予察田における被害株率は、長沼町で平年よりやや低く比布町では平年より低かった。
- ・一般田における初発期は平年並であった。発生面積率は平年より低く、被害も認められなかった。

発生原因の解析

- ・近年発生は減少傾向で、越冬密度は低かったと推測される。
- ・一般田では、箱処理剤成分による併殺効果もあったと推測される。

予察灯によるフタオビコヤガ成虫の発生期

世代		長 沼		比 布		北 斗	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回成虫	初発日	-	-	-	-	-	-
	最盛日	-	-	-	-	-	-
	50%誘殺日	-	-	-	-	-	-
	終息日	-	-	-	-	-	-
	総誘殺数	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	性比(♀/♀+♂)	-	-	-	-	-	-
第2回成虫	初発日	-	7月10日	-	7月7日	-	-
	最盛日	-	7月12日	-	7月11日	-	-
	50%誘殺日	-	7月11日	-	7月13日	-	-
	終息日	-	7月13日	-	7月18日	-	-
	総誘殺数	0	1.8	0	9.6	0	1.2
	性比(♀/♀+♂)	-	0.85	-	0.89	-	-
第3回成虫	初発日	7月25日	7月31日	8月22日	7月28日	-	8月12日
	最盛日	8月1日	8月7日	-	8月2日	-	8月20日
	50%誘殺日	8月3日	8月8日	-	8月3日	-	8月21日
	終息日	8月23日	9月2日	8月22日	8月23日	-	8月22日
	総誘殺数	4	43.1	1	131.6	0	8.0
	性比(♀/♀+♂)	0.75	0.79	0.00	0.86	-	0.49
平 年 数		10		10		10	

注) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

フェロモントラップによるフタオビコヤガ成虫の発生期

世代		長 沼		比 布		北 斗	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回成虫	初発日	5月6日	-	-	-	5月21日	-
	最盛日	5月31日	-	-	-	-	-
	50%誘殺日	5月31日	-	-	-	-	-
	終息日	6月22日	-	-	-	-	-
	総誘殺数	997	-	0	-	1	-
第2回成虫	初発日	6月26日	-	6月27日	-	7月22日	-
	最盛日	7月3日	-	-	-	-	-
	50%誘殺日	7月4日	-	-	-	-	-
	終息日	7月17日	-	6月27日	-	8月12日	-
	総誘殺数	276	-	1	-	3	-
第3回成虫	初発日	7月24日	-	7月24日	-	-	-
	最盛日	7月30日	-	-	-	-	-
	50%誘殺日	8月3日	-	7月26日	-	-	-
	終息日	9月9日	-	9月3日	-	-	-
	総誘殺数	267	-	3	-	0	-
平 年 数		2		2		2	

予察灯によるフタオビコヤガ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼				比 布			
	雌	雄	合 計	平 年	雌	雄	合 計	平 年
5.	1	0	0	0.0	-	-	-	-
	2	0	0	0.0	-	-	-	-
	3	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	4	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	5	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	6	0	0	0.0	0.0	0	0	0.0
6.	1	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	2	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	3	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	4	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	5	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	6	0	0	0.0	0.0	0	0	0.3
7.	1	0	0	0.0	0	0	0	2.0
	2	--	--	0.6	0	0	0	2.7
	3	0	0	0.7	0	0	0	2.0
	4	0	0	0.5	0	0	0	2.1
	5	0	1	1.1	0	0	0	1.1
	6	1	0	1.6	1.6	0	0	17.6
8.	1	1	1	11.3	0	0	0	60.4
	2	0	0	13.3	0	0	0	20.6
	3	0	0	8.7	0	0	0	15.7
	4	0	0	2.4	0	0	0	2.6
	5	1	0	1.1	0	1	1	1.2
	6	0	0	0.9	0.9	0	0	0.3
9.	1	0	0	0.2	0	0	0	0.3
	2	0	0	0.3	0	0	0	0.7
	3	--	--	0.1	0	0	0	0.0
	4	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	5	0	0	0.0	0.0	0	0	0.0
	6	0	0	0.0	0.0	0	0	0.0
平年数	10				10			

注1) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

注2) --: 欠測。

フェロモントラップによるフタオビコヤガ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本年	平 年	本年	平 年	本年	平 年
5. 1	0.7	-	-	-	0	-
2	1.6	-	-	-	0	-
3	48.7	-	-	-	0	-
4	177	-	-	-	0	-
5	95	-	-	-	1	-
6	320	-	0	-	0	-
6. 1	113	-	0	-	0	-
2	160.7	-	0	-	0	-
3	49.3	-	0	-	0	-
4	25	-	0	-	0	-
5	22.5	-	0	-	0	-
6	70.3	-	1	-	0	-
7. 1	81	-	0	-	0	-
2	38.5	-	0	-	0	-
3	51.8	-	0	-	0	-
4	37.7	-	0	-	0	-
5	39.5	-	1	-	1	-
6	71.8	-	1	-	1	-
8. 1	32.7	-	0	-	0	-
2	25.3	-	0	-	0	-
3	20.7	-	0	-	1	-
4	18.6	-	0	-	0	-
5	20.7	-	0	-	0	-
6	13	-	0.3	-	0	-
9. 1	4.3	-	0.8	-	0	-
2	0.7	-	0	-	0	-
3	0	-	0	-	0	-
4	0	-	0	-	0	-
5	0	-	0	-	0	-
6	0	-	0	-	0	-
平年数	-		-		-	

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況と被害推移

地点	月半旬	幼虫数		被害株率(%)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	6. 1	0	0.1	0	0.0	10
	2	0	0.1	0	0.0	
	3	0	0.7	0	0.8	
	4	1	0.8	4	5.6	
	5	1	0.6	16	11.2	
	6	0	0.5	16	13.2	
	7. 1	0	0.2	24	14.0	
	2	1	0.2	36	17.6	
	3	1	0.1	48	24.0	
	4	0	0.3	44	47.0	
	5	0	0.6	40	51.0	
	6	0	0.5	56	64.0	
	8. 1	0	0.4	48	57.0	
	2	0	0.2	-	59.0	
	3	0	0.1	-	49.3	
	4	0	0.2	-	42.0	
	5	0	0.1	-	41.3	
	6	0	0.3	-	20.0	
比布	6. 1	0	0.0	0	0.0	10
	2	0	0.1	0	0.5	
	3	0	0.1	0	0.9	
	4	0	0.1	0	2.7	
	5	0	0.0	0	2.7	
	6	0	0.0	0	3.1	
	7. 1	0	0.0	0	3.1	
	2	0	0.0	0	2.2	
	3	0	0.0	0	6.0	
	4	0	0.1	0	8.5	
	5	0	0.0	0	10.3	
	6	0	0.1	0	7.4	
	8. 1	0	0.1	4	10.0	
	2	0	0.1	8	14.0	
	3	0	0.1	12	22.3	
	4	0	0.2	24	42.9	
	5	0	0.5	24	61.7	
	6	0	0.2	16	65.1	

注) 数値は25株の合計を示した。

15 アワヨトウ 発生期 - 発生量 少

発生経過の概要

・長沼町及び比布町で予察灯による誘殺は認められなかった。

発生原因の解析

・飛来は少なかったと考えられる。

予察灯によるアワヨトウ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布	
	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0
6. 1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.1	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.0	0	0.0
2	--	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0
8. 1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0
9. 1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	--	0.1	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0
10. 1	0	0.0	-	0.0
2	0	0.0	-	0.0
3	0	0.0	-	0.0
4	0	0.0	-	-
5	-	0.0	-	-
6	-	0.0	-	-
平年数	10		10	

注1) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

注2) --: 欠測。

(II) 小麦の病害虫

予察ほにおける小麦の生育期

秋まき小麦

地点	品種名	播種期(月日)		出芽期(月日)		起生期(月日)		止葉期(月日)		出穂期(月日)		開花始(月日)		成熟期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	きたほなみ	9月25日	9月21日	10月1日	9月29日	3月26日	3月29日	5月23日	5月23日	6月1日	6月1日	6月7日	6月8日	7月14日	7月15日	10
芽室	きたほなみ	9月24日	9月21日	9月30日	9月28日	4月9日	4月7日	5月26日	5月25日	6月6日	6月2日	6月11日	6月9日	7月15日	7月19日	10
訓子府	きたほなみ	9月25日	9月21日	10月2日	9月28日	4月1日	4月5日	5月30日	5月27日	6月9日	6月7日	6月14日	6月13日	7月16日	7月21日	10

春まき小麦

地点	品種名	播種期(月日)		出芽期(月日)		止葉期(月日)		出穂期(月日)		開花始(月日)		成熟期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	春よ恋	4月18日	4月18日	5月1日	5月1日	6月10日	6月11日	6月14日	6月20日	6月20日	6月25日	7月22日	7月28日	10
比布	春よ恋	4月23日	4月18日	5月5日	4月30日	6月9日	6月11日	6月16日	6月19日	6月20日	6月24日	7月21日	7月28日	9

1 赤さび病 発生期 早 発生量 並

発生面積 発生面積 31,619 ha (23.9% : 平年 21.7%) 被害面積 5,811 ha (4.4% : 平年 4.4%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける初発期は長沼町で平年より早く、訓子府町で平年並、芽室町で平年より遅かった。発生量は長沼町及び訓子府町で平年並、芽室町でやや少なかった。
- ・一般ほでは発生面積率、被害面積率ともに平年並だった。

発生原因の解析

- ・抵抗性を有する主力品種において近年発生が目立つ。
- ・5月が高温少雨に経過し、発生に好適な気象条件だったが、防除実施率が高く被害をおさえることができた地域も多かった。一方、空知、上川の一部及び胆振では被害が多発した。

予察ほにおける赤さび病の発生期

地点	品種名	初発期		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	きたほなみ	4月9日	4月17日	6.2	6.5	10
芽室	きたほなみ	5月21日	5月9日	7.2	6.6	10
訓子府	きたほなみ	5月16日	5月18日	6.6	7.1	10

予察ほにおける赤さび病の発生状況

地点	長沼					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0.00	0	0	0.02	0	0
5.2	0.27	0	0.01	0.13	0	0.01
5.4	0.35	0	0.01	0.24	0	0.01
5.6	0.81	0	0.01	1.31	0.02	0.34
6.2	10.32	5.54	13.20	4.69	0.81	4.33
6.4	14.35	11.60	18.71	15.32	7.66	14.64
6.6	-	-	-	25.10	15.70	32.25

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

注2) -は葉の枯凋により調査不能。

地点	芽室					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0	0	0	0.00	0	0
5.2	0	0	0	0.00	0	0
5.4	0	0	0	0.01	0	0
5.6	0	0	0	0.01	0	0
6.2	0.00	0	0	0.40	0.01	0.14
6.4	0.01	0	0.03	1.87	0.25	1.13
6.6	1.56	1.10	2.37	7.85	5.94	8.34
7.2	14.58	14.58	-	10.05	8.96	9.59

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

注2) -は葉の枯凋により調査不能。

地点	訓子府					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0	0	0	0.00	0	0
5.2	0	0	0	0.00	0	0
5.4	0	0	0	0.01	0	0
5.6	0	0	0	0.09	0	0.00
6.2	0.01	0	0	0.14	0.00	0.04
6.4	0.51	0.04	0.18	1.02	0.15	0.42
6.6	5.79	2.11	3.68	6.39	2.73	3.92
7.2	-	-	-	3.59	2.86	3.78

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

巡回調査結果

一般ほにおける赤さび病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	上から2葉目の発病葉率(%)			振興局	普及センター 本所・支所	上から2葉目の発病葉率(%)		
		5月3半旬	5月6半旬	6月3半旬			5月3半旬	5月6半旬	6月3半旬
空知	本所	0	0	-	留萌 オホーツク	本所	0	0	0
	南東部	0	0	-		本所	-	0	0
	南西部	0	0	-		清里	-	0	0
	北空知	4.8	0	-		網走	-	0	0
石狩	本所	0	2.7	1.0	美幌 遠軽 紋別	美幌	-	0	0
	北部	0	0	0		遠軽	-	0	0
後志	本所	0	0	0		紋別	-	0	0
胆振	本所	0	0	-		十勝	本所	0	0
	東胆振	0	0	-	東部		0	0	-
檜山	本所	0	0	-	東北部		0	0	-
	北部	0	0	42.0	北部		0	0	-
上川	本所	0.3	1.3	2.0	注1) -は調査対象外	西部	0	0	-
	富良野	1.3	2.7	2.7		南部	0	0	-
	大雪	0	0	0					
	士別	0	0	5.0					
	名寄	0	0	13.3					

2 うどんこ病 発生期 並 発生量 並

発生面積 6,435 ha (4.9 % : 平年 5.0%) 被害面積 105 ha (0.1 % : 平年 0.2%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける初発期は長沼町では平年より遅く、訓子府町では平年よりやや早かった。発生量は訓子府町で平年よりやや多く、長沼町では平年より少なかった。芽室町では発生が認められなかった。
- ・一般ほにおける初発期は平年並であった。発生面積率は平年よりやや高く、被害面積率は平年より少なかった。

発生原因の解析

- ・主要作付品種が本病に対し抵抗性を有する。
- ・他病害との同時防除が実施されており、平年並に発生は少なかった。

予察ほにおけるうどんこ病の発生期

地点	品種名	初発期		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	きたほなみ	5月12日	4月28日	-	6.1	9
芽室	きたほなみ	5月21日	5月14日	-	6.1	10
訓子府	きたほなみ	5月12日	5月9日	6.4	6.1	10

注1) -は未発生もしくは、発生が少なく解析不能。

予察ほにおけるうどんこ病の発生状況

地点	長沼					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0	0	0	0.02	0	0.01
5.2	0	0	0	0.07	0	0.01
5.4	0	0	0	0.07	0	0.00
5.6	0	0	0	0.07	0.00	0.03
6.2	0	0	0	0.25	0.00	0.07
6.4	0	0	-	0.29	0.01	0.13
6.6	0	0	-	0.27	0.03	0.21

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

注2) -は赤さび病の被害または葉の枯凋により調査不能。

地点	芽室					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0	0	0	0.01	0	0
5.2	0	0	0	0.00	0	0
5.4	0	0	0	0.01	0	0.00
5.6	0	0	0	0.03	0	0.00
6.2	0	0	0	0.04	0.00	0.00
6.4	0	0	0	0.05	0.01	0.01
6.6	0	0	0	0.00	0	0
7.2	0	0	-	0.03	0	0

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

注2) -は赤さび病の被害または葉の枯凋により調査不能。

地点	訓子府					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0	0	0	0.01	0	0.00
5.2	0	0	0	0.04	0	0.00
5.4	0.04	0	0	0.04	0	0.01
5.6	0.05	0	0	0.01	0	0
6.2	0.10	0	0.00	0.01	0	0.00
6.4	0.20	0	0.06	0.02	0	0.01
6.6	0.01	0	0.01	0.02	0.02	0.01
7.2	—	—	—	0.01	0.00	0.01

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

注2) —は赤さび病の被害または葉の枯凋により調査不能。

巡回調査結果

一般ほにおけるうどんこ病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	上から2葉目の発病葉率 (%)			振興局	普及センター 本所・支所	上から2葉目の発病葉率 (%)		
		5月3半旬	5月6半旬	6月3半旬			5月3半旬	5月6半旬	6月3半旬
空知	本所	0	0	—	留萌	本所	0	0	0
	南東部	0	0	—	オホーツク	本所	—	0	0
	南西部	0	0	—		清里	—	0	0
	北空知	0	0	—		網走	—	0	0
石狩	本所	0	2.7	1.7		美幌	—	0	0
	北部	0	0	0	遠軽	—	0	0	
後志	本所	0	0	0	紋別	—	0	0	
胆振	本所	0	0	—	十勝	本所	0	0	—
	東胆振	0	0	—		東部	0	0	—
檜山	本所	0	0	—		東北部	0	0	—
	北部	0	0	0		北部	0	0	—
上川	本所	0	0	0		西部	0	0	—
	富良野	0	0	0		南部	0	0	—
	大雪	0	0	0					
	士別	0	0	6.3					
	名寄	0	0	0					

注1) —は調査対象外

3 雪腐病 発生期 — 発生量 少

発生面積 18,193 ha (13.8% : 平年 24.9%) 被害面積 1,336 ha (1.0% : 平年 2.9%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける発病度は長沼町で平年並、芽室町で平年より低く、訓子府町では平年より高かった。発生菌種割合は長沼町では褐色小粒菌核病及び紅色雪腐病が、芽室町及び訓子府町では雪腐大粒菌核病が優占した。
- ・一般ほでは発生面積率、被害面積率とも平年より低かった。優占菌種は地域により異なった。

発生原因の解析

- ・根雪前の防除が適切に実施されている。
- ・春季が温暖で融雪が順調に進んだことから、積雪下での過湿状態が続かなかつたと推測される。
- ・根雪始めが遅かったオホーツク・十勝地方では雪腐大粒菌核病の比率が高かった。

小麦予察ほ場における気象季節

地点	根雪始		融雪期		積雪期間	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼	12月7日	12月11日	3月25日	3月25日	109	106
芽室	1月24日	12月7日	4月6日	4月2日	73	117
訓子府	12月23日	12月15日	3月30日	3月28日	98	103

予察ほにおける雪腐病の発生状況

地点	品種名	発病度		平年数
		本年	平年	
長沼	きたほなみ	11.2	12.1	10
芽室	きたほなみ	4.8	31.7	10
訓子府	きたほなみ	82.5	31.2	10

予察ほにおける病原菌別割合

地点	長沼	
品種名	きたほなみ	
病原菌種名	本年	平年
雪腐大粒菌核病	0	0
黒色小粒菌核病	0	3.1
褐色小粒菌核病	73	52.4
紅色雪腐病	27	43.0
褐色雪腐病	1	1.5

地点	芽室	
品種名	きたほなみ	
病原菌種名	本年	平年
雪腐大粒菌核病	98.7	27.8
黒色小粒菌核病	0	12.5
褐色小粒菌核病	0	2.7
紅色雪腐病	1.3	57.0
褐色雪腐病	0	0

地点	訓子府	
品種名	きたほなみ	
病原菌種名	本年	平年
雪腐大粒菌核病	99	59.3
黒色小粒菌核病	0	19.7
褐色小粒菌核病	0	2.0
紅色雪腐病	1	19.0
褐色雪腐病	0	0

4 眼紋病 発生期 — 発生量 やや多

発生面積 7,612 ha (5.8% : 平年 4.4%) 被害面積 1,276 ha (1.0% : 平年 0.5%)

発生経過の概要

- ・一般ほでは発生面積率、被害面積率ともに平年よりやや多かった。空知及び上川地方で被害が認められた。

発生原因の解析

- ・4月の多雨寡照により発生が多くなった地域があった。
- ・小麦の過作傾向により発病が助長されている。

5 赤かび病

秋まき小麦 発生期 — 発生量 少

発生面積 8,146 ha (6.2% : 平年 22.8%) 被害面積 0 ha (0.0% : 平年 4.6%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける発生量は長沼町、芽室町及び訓子府町のいずれも平年より少なかった。いずれの地点においても発生菌種は *Fusarium graminearum* が優占した。
- ・一般ほにおける発生面積率は平年より少なく、被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・本病の感染に重要な開花期前後の降雨が少なく、感染に好適ではなかった。
- ・適期防除が実施された。

予察ほにおける赤かび病の発生状況(秋まき小麦)

地点	品種名	調査月日	病穂率(%)		発病小穂率(%)		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼	きたほなみ	7月3日	0.5	7.1	0.03	—	10
芽室	きたほなみ	7月7日	10.4	7.1	2.58	—	10
訓子府	きたほなみ	7月7日	0	10.2	0	—	10

注1) —は平年値なし

予察ほにおける病原菌割合

地点	長沼		芽室		訓子府	
	きたほなみ		きたほなみ		きたほなみ	
病原菌種名	本年	平年	本年	平年	本年	平年
<i>M.nivale</i>	9.5	34.0	23.3	58.7	無発生	48.3
<i>F.avenaceum</i>	0	1.2	3.3	6.8	無発生	8.3
<i>F.graminearum</i>	90.5	64.4	73	32.1	無発生	42.8
<i>F.culmorum</i>	0	0.5	0	1.9	無発生	0.6
調査穂数	21		30		無発生	

春まき小麦(春まき栽培) 発生期 — 発生量 少

発生面積 1,415 ha (8.0% : 平年 17.9%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 2.9%)

春まき小麦(初冬まき栽培) 発生期 — 発生量 少

発生面積 50 ha (5.8% : 平年 33.1%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 10.0%)

発生経過の概要

1) 春まき栽培

- ・予察ほにおける発生量は、比布町及び長沼町で平年より少なかった。発生菌種は両地点とも *Fusarium graminearum* が優占していた。
- ・一般ほにおける発生面積率及び被害面積率はいずれも平年より低かった。

2) 初冬まき栽培

- ・一般ほにおける発生面積率及び被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

1) 春まき栽培

- ・出穂・開花期ごろに降雨があったが、その後高温乾燥傾向で発病に不適だったことと、防除が適切に行われたことにより、発生量は平年より少なかった。

2) 初冬まき栽培

- ・出穂・開花期ごろに降雨があったが、その後高温乾燥傾向で発病に不適だったことと、防除が適切に行われたことにより、発生量は平年より少なかった。

予察ほにおける赤かび病の発生状況（春まき栽培）

地点	品種名	調査月日	病穂率(%)		発病小穂率(%)		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼	春よ恋	7月8日	5.8	30.0	0.4	7.0	10
比布	春よ恋	7月3日	0.2	2.3	0.0	0.2	10

予察ほにおける病原菌別割合（春まき栽培）

地点	長沼		比布	
	春よ恋		春よ恋	
病原菌種名	本年	平年	本年	平年
<i>M.nivale</i>	0	6.3	0	0.5
<i>F.avenaceum</i>	0	4.8	11.1	6.3
<i>F.graminearum</i>	100	88.9	88.9	93.2
<i>F.culmorum</i>	0	0	0	0
調査穂数	10		9	

6 ムギクロハモグリバエ 発生期 やや遅 発生量 やや多

発生経過の概要

- ・予察ほにおける成虫すくい取りによる初発期は、長沼町では平年並、訓子府町では平年よりやや遅かった。成虫すくい取り捕獲数は、いずれの地点においても平年よりやや多かった。幼虫被害は長沼町で平年より少なく、訓子府町では平年より多かった。

発生原因の解析

- ・4～5月は高温に経過したものの初発は平年よりやや遅かった。

予察ほ秋まき小麦におけるムギクロハモグリバエの発生期（春季）

		成虫すくい取り		成虫食痕		幼虫被害		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	初発期	5月19日	5月17日	-	5. VI	6. III	6. II	10
	最盛期	5月23日	5月28日	-	6. II	-	6. IV	
	終息期	6月10日	6月11日	-	6. IV	-	6. V	
訓子府	初発期	5月28日	5月24日	6. I	-	6. II	6. IV	10
	最盛期	6月5日	5月30日	6. III	-	6. IV	-	
	終息期	6月10日	6月18日	6. V	-	6. VI	6. V	

注) ローマ数字は半月を示す。

品種は「きたほなみ」

予察ほ秋まき小麦におけるムギクロハモグリバエ成虫すくい取り頭数

月半旬	長 沼		訓 子 府		
	本 年	平 年	本 年	平 年	
5. 1	0	0.0	0	0.0	
	2	0.1	0	0.0	
	3	3.7	0	0.0	
	4	5.0	7.9	0	0.3
	5	22.5	9.3	0	0.4
	6	15.8	14.4	2.5	2.1
6. 1	7.5	6.6	5.0	1.2	
	2.5	5.6	2.5	0.8	
	0	0.3	0	0.4	
	0	0.3	0	0.0	
	0	0.4	0	0.1	
	0	0.6	0	0.1	
7. 1	0	0.1	0	0.0	
	0	0.0	0	0.3	
	-	0.0	0	0.0	
	-	0.0	0	0.0	
	-	0.4	-	-	
	-	-	-	-	
平年数	10		10		

注) 20回振りすくい取りの5日あたり換算虫数。

品種は「きたほなみ」

予察ほ秋まき小麦におけるムギクロハモグリバエの発生状況と被害推移

	月半旬	成虫食痕葉率(%)		被害葉率(%)		生幼虫数		平年数
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	
長 沼	5. 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	5	0	0.3	0	0.0	0	0.0	
	6	0	0.4	0	0.0	0	0.0	
	6. 1	0	0.3	0	0.2	0	0.1	
	2	0	0.3	0	0.3	0	0.3	
	3	0	0.4	1.0	1.1	0.5	0.6	
	4	0	0.2	0	1.9	0	0.5	
	5	0	0.1	0	1.4	0	0.2	
	6	0	0.2	0.5	1.7	0	0.0	
	7. 1	0	0.0	0.5	0.9	0	0.0	
	2	-	0.0	-	0.2	-	0.0	
3	-	0.0	-	0.0	-	0.0		
4	-	-	-	-	-	-		
訓 子 府	5. 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	6	0	0.0	0	0.1	0	0.1	
	6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	2	2.7	0.0	1.3	0.0	1.0	0.0	
	3	2.7	0.0	0	0.3	0	0.2	
	4	1.3	0.0	1.3	0.1	0	0.1	
	5	0.7	0.1	0.7	0.8	0.5	0.1	
	6	0	0.1	0.7	0.7	0	0.0	
	7. 1	0	0.0	0	0.4	0	0.0	
	2	0	0.0	0	0.2	0	0.0	
3	-	0.0	-	0.6	-	0.0		
4	-	-	-	-	-	-		

注) 生幼虫数は75葉当りの合計を示した。

品種は「きたほなみ」

7 ムギキモグリバエ

春まき小麦（春まき栽培）	発生期	並	発生量	並
発生面積	1,013ha	(5.7% : 平年 5.4%)	被害面積	0ha (0% : 平年 0.2%)
春まき小麦（初冬まき栽培）	発生期	並	発生量	やや多
発生面積	46ha	(5.3% : 平年 3.1%)	被害面積	0ha (0% : 平年 0.1%)

発生経過の概要

- ・予察ほのすくい取りによる成虫の初発期は、長沼町で平年並、比布町で平年よりやや早かった。成虫の発生量は長沼町で平年より多く、比布町で平年よりやや多かった。出すくみ被害茎率は、比布町で平年よりやや高く、長沼町で平年並であった。きず穂被害は比布町で平年より多く、長沼町で平年より少なかった。白穂被害は両地点において平年並であった。
- ・春まき栽培において、一般ほにおける発生面積率は平年並、被害に至ったほ場は認められなかった。
- ・初冬まき栽培において、一般ほにおける発生面積率は平年よりやや高く、被害に至ったほ場は認められなかった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量は平年並で、秋季は高温で経過したため越冬密度はやや高かったものと推察される。
- ・春季は高温に経過したものの、成虫初発は平年並であった。高温経過により、比布町の予察ほでは早期の加害による出すくみ被害がやや多かった。
- ・常発地域では防除がおこなわれている。
- ・生育の早い初冬まき栽培では被害を受けにくいものの、近年多発傾向のため防除面積率は高まる傾向にある。

予察ほ春まき小麦におけるムギキモグリバエ成虫すくい取り発生期

	長沼		比布	
	本年	平年	本年	平年
初発期	5月13日	5月14日	5月15日	5月18日
最盛期	5月30日	5月30日	6月8日	6月8日
終息期	6月19日	6月24日	-	6月27日
平年数	10		10	

注) 品種は「春よ恋」(比布の平年値の2017年以前は「ハルユタカ」)

予察ほ春まき小麦におけるムギキモグリバエ成虫すくい取り頭数

月半旬	長沼		比布	
	本年	平年	本年	平年
5. 2	0	3.5	0	0.0
3	1.3	22.6	1.3	4.6
4	31.3	29.8	15.0	16.9
5	133.8	71.2	27.5	93.0
6	225.0	78.4	437.5	210.8
6. 1	172.5	77.1	545.0	251.7
2	22.5	53.0	582.5	460.0
3	10.0	41.7	145.0	196.2
4	7.5	11.7	55.0	58.5
5	0	8.9	10.0	30.6
6	0	5.1	10.0	31.4
7. 1	2.5	3.3	35.0	43.6
2	0	14.9	380.0	93.3
3	0	55.3	1080.0	216.8
4	-	123.5	1015.0	453.3
5	-	145.9	-	370.0
6	-	105.8	-	523.0
平年数	10		10	

注) 20回振りすくい取りの5日あたり換算虫数。

品種は「春よ恋」(比布の平年値の2017年以前は「ハルユタカ」)

予察ほ春まき小麦におけるムギキモグリバエの被害状況

	長沼		比布	
	本年	平年	本年	平年
出すくみ	14.8	13.5	62.2	43.4
きず穂	1.5	4.0	3.5	1.3
白穂	1.2	1.2	1.1	1.5
平年数	10		10	

注) 畦長30cm、5か所の被害穂率(%)を示した。

品種は「春よ恋」(比布の平年値は「ハルユタカ」)

8 アブラムシ類 発生期 やや早 発生量 少

発生経過の概要

- ・予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの初発期は、訓子府町で平年並であった。長沼町ではムギヒゲナガアブラムシの発生は認められなかった。ムギクビレアブラムシの初発期は、長沼町で平年より早く、訓子府町で平年よりやや遅かった。
- ・ムギヒゲナガアブラムシの発生量は、訓子府町で平年並であった。ムギクビレアブラムシの発生量は両地点において平年より少なかった。

発生原因の解析

- ・前年の発生は平年より少なく、越冬量は平年より少なかったと推測される。
- ・春季は高温に経過し、初発は平年よりやや早かった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生期

		ムギヒゲナガアブラムシ		ムギクビレアブラムシ		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	初発期	-	6. IV	6. II	6. VI	10
	最盛期	-	6. VI	-	6. VI	
	終息期	-	7. I	-	7. II	
訓子府	初発期	6. IV	6. IV	6. V	6. IV	10
	最盛期	6. V	6. VI	6. VI	6. VI	
	終息期	7. II	7. II	6. VI	7. II	

注) ローマ数字は半旬を示す。

品種は「きたほなみ」

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

	月半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ				平年数
		有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年	
長	6. 1	0	0	0	0	0	0	0	0.0	10
	2	0	0	0	1.4	0	0	0	0.1	
	3	0	0	0	0.8	0	0	0	0.1	
	4	0	0	0	1.8	0	0	0	0.7	
	5	0	0	0	1.8	0	0	0	0.5	
	6	0	0	0	3.4	0	0	0	0.6	
沼	7. 1	0	0	0	3.1	0	0	0	1.4	
	2	-	-	-	1.3	-	-	-	1.0	
	3	-	-	-	0.2	-	-	-	0.3	
	4	-	-	-	0.0	-	-	-	0.0	
	5	-	-	-	-	-	-	-	-	
訓 子	6. 1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	10
	2	0	0	0	0.3	0	0	0	11.7	
	3	0	0	0	6.9	0	0	0	9.0	
	4	0	1	1	8.7	0	0	0	3.7	
	5	0	12	12	10.7	0	0.5	0.5	6.1	
	6	0	0	0	6.6	0	1	1	10.5	
府	7. 1	0	0	0	8.2	0	0	0	1.6	
	2	0	0.5	0.5	5.8	0	0	0	2.1	
	3	-	-	-	3.1	-	-	-	0.1	
	4	-	-	-	3.6	-	-	-	1.3	
	5	-	-	-	-	-	-	-	-	

注) 5茎5カ所(計25穂)の合計頭数を示した。

品種は「きたほなみ」

(Ⅲ) とうもろこしの病害虫

1 アワノメイガ 発生期 早 発生量 多

発生経過の概要

- ・北斗市の子察ほにおけるフェロモントラップ初誘殺は、第1回は平年並、第2回は平年より早かった。
- ・誘殺数は第1回、第2回ともに平年より多かった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量は平年より多く、越冬量も多かったと推察される。夏季高温に経過したため発生は早まった。

フェロモントラップによるアワノメイガ成虫の発生期

		長沼		北斗	
		本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	6月9日	-	6月4日	6月3日
	最盛期	6月18日	-	6月23日	6月28日
	50%誘殺日	6月21日	-	6月28日	6月29日
	終息期	7月15日	-	7月20日	7月17日
	総誘殺数	109	-	400	77.2
第2回	初発期	7月23日	-	7月25日	8月4日
	最盛期	8月18日	-	8月13日	8月30日
	50%誘殺日	8月18日	-	8月27日	8月31日
	終息期	9月30日	-	10月6日	9月28日
	総誘殺数	83	-	518	108.3

注) ローマ数字は半月を示す。

フェロモントラップによるアワノメイガ成虫の誘殺頭数

月半月	長沼		北斗		
	本年	平年	本年	平年	
6.	1	0	-	1	0.1
	2	2	-	14	1.8
	3	6	-	24	4.2
	4	46	-	36	13.6
	5	28	-	96	9.7
	6	13	-	70	14.6
7.	1	3	-	41	12.2
	2	9	-	69	8.3
	3	2	-	36	6.5
	4	0	-	13	5.0
	5	6	-	5	0.6
	6	2	-	24	1.1
8.	1	13	-	14	3.4
	2	1	-	56	4.0
	3	4	-	84	5.2
	4	36	-	38	12.6
	5	6	-	73	16.1
	6	5	-	78	12.0
9.	1	1	-	33	14.6
	2	1	-	45	15.7
	3	4	-	28	4.8
	4	3	-	20	11.4
	5	0	-	7	4.5
	6	1	-	7.5	2.2
平年数	1		10		

2 オオタバコガ 発生期 早 発生量 多

発生経過の概要

- ・フェロモントラップへの初誘殺は長沼町で平年より早かった。
- ・誘殺数は、いずれの地点においても平年より多かった。

発生原因の解析

- ・6月上旬に道内への初飛来が認められた。
- ・飛来世代の誘殺数も多く、夏季の高温経過により飛来次世代以降の増殖が多かった。

フェロモントラップによるオオタバコガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.1	-	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.1	0	0.0	-	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.1	0	0.1	-	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	0.0	0	0.0
6. 1	2	0.0	0	0.1	0	0.0	-	0.0	0	0.0
2	4	0.0	2	0.1	0	0.1	-	0.0	0	0.0
3	6	0.3	3	0.3	1	0.0	-	0.0	0	0.0
4	12	0.8	1	0.2	0	0.0	-	0.0	0	0.0
5	15	0.6	2	0.1	0	0.0	-	0.0	0	0.0
6	2	0.2	1	0.0	0	0.4	-	0.0	0	0.0
7. 1	4	2.2	1	0.3	0	0.0	-	0.0	0	0.0
2	1	0.3	3	0.1	0	0.0	-	0.0	0	0.0
3	1	0.5	1	0.1	0	0.1	-	0.0	0	0.0
4	0	0.8	1	0.1	0	0.0	-	0.0	0	0.0
5	0	0.4	0	0.6	0	0.0	-	0.0	0	0.0
6	0	0.4	0	0.0	6	0.2	-	0.0	0	0.0
8. 1	22	2.0	6	3.3	2	0.9	-	0.0	24	0.6
2	6	4.5	5	2.7	1	0.7	-	0.0	2	0.8
3	0	1.2	2	2.4	1	1.1	-	0.0	11	0.4
4	6	0.8	2	0.9	5	1.5	-	0.0	1	0.0
5	1	2.0	0	0.4	14	2.0	-	0.0	3	2.6
6	1	1.0	7.8	1.4	29	7.6	-	0.0	0	0.9
9. 1	47	10.5	5.3	3.5	38	12.6	-	0.0	8	1.2
2	8	2.8	9	4.0	46	4.2	-	0.0	8	0.5
3	3	3.5	14	2.9	24	3.9	-	0.0	24.2	0.0
4	2	4.3	3	4.3	18	5.0	-	0.0	17.8	0.0
5	0	1.1	6.8	1.3	3	1.4	-	0.0	2	0.0
6	0	0.8	5.3	2.0	2	1.5	-	0.2	0	0.0
平年数	10		10		10		9		8	

3 ツマジロクサヨトウ 発生期 早 発生量 やや多

発生経過の概要

- ・フェロモントラップへの初誘殺は北斗市で平年より早かった。
- ・誘殺数は長沼町、比布町および訓子府町で平年より多く、北斗市で平年並であった。

発生原因の解析

- ・6月下旬に道南地方に飛来があったものと推測される。8月までは平年並の誘殺数であったが、9月に各地で急増した。

フェロモントラップによるツマジロクサヨトウ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年
5. 4	0	0	0	-	0	0	-	-	-	-
	0	0	0	-	0	0	-	-	-	-
	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
6. 1	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0
	0	0	0	0	1	0	-	0	0	0
	0	0	0	0	0	0.2	-	0	0	0
7. 1	0	0	0	0	0	0.2	-	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0
	1	0	0	0	0	0.4	-	0	0	0
	0	0	0	0	2	0	-	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0
	0	0	0	0	0	0.2	-	0	0	0
8. 1	0	0	0	0	1	0	-	0	0	0
	0	0.2	1	0	0	0.2	-	0	0	0
	0	1	0	0	0	1	-	0	0	0
	0	0.6	0	0	0	1	-	0	0	0.2
	0	0.2	0	0.4	2	2.8	-	0	0	0
	0	0	0.8	0	2	5.2	-	0	0	0.2
9. 1	4	0.6	3.3	0.2	10	2.4	-	0	2	1.1
	10	0.2	41	1	14	1.8	-	0	2	0.1
	2	1.8	19	0.3	3	1.4	-	0	3.3	0
	1	2.6	5	0.9	20	23	-	0	0.7	0
	0	1.8	5.5	0.3	3	14	-	0	0	0.2
	0	0.2	6.5	0.6	3	22.2	-	0	0	0.5
10. 1	-	-	-	0.9	-	3.3	-	0.3	-	-
	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平年数	5		5		5		5		5	

(IV) 大豆の病害虫

予察ほにおける大豆の生育期

地点	品種名	播種期(月日)		出芽期(月日)		開花始(月日)		莢伸長始期(月日)		成熟期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	トヨムスメ	5月19日	5月23日	6月2日	6月7日	7月7日	7月18日	7月20日	7月25日	9月28日	10月4日	10
	スズマルR	5月19日	—	6月2日	—	7月6日	—	7月17日	—	10月3日	—	—
芽室	トヨムスメ	5月27日	5月25日	6月6日	6月6日	7月9日	7月20日	7月28日	7月27日	10月2日	10月4日	10
訓子府	とよまどか	5月20日	5月23日	6月2日	6月4日	7月6日	7月15日	7月19日	7月27日	9月15日	9月23日	3

注1) —は平年値なし

1 ベと病 発生期 並 発生量 やや少

発生面積 7,579 ha (16.2% : 平年 20.9%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.3%)

発生経過の概要

- ・長沼町の予察ほにおける初発期は平年より遅く、発生量は平年より少なかった。
- ・一般ほでの発生期は平年並だった。発生面積率は平年よりやや低く、被害に至ったほ場は認められなかった。

発生原因の解析

- ・採種圃での防除が徹底され、一般圃での被害は少なかった。
- ・6月から7月にかけて高温多照に経過し、発病に好適な条件にはならなかった。
- ・適切な防除が実施されている。

予察ほにおけるべと病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	トヨムスメ	8月8日	7月21日	8.4	8.2	10
	スズマルR	7月22日	—	7.6	—	—

注1) —は平年値なし

予察ほにおけるべと病の発生状況

地点	長沼								
	品種名	トヨムスメ				(参考)スズマルR			
		発病株率(%)		発病度		発病株率(%)		発病度	
調査 月半旬	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
6.6	0	0	0	0	0	—	0	—	
7.2	0	0.8	0	0.2	0	—	0	—	
7.4	0	6.4	0	1.6	0	—	0	—	
7.6	0	39.7	0	10.0	64	—	16.0	—	
8.2	6	55.7	1.5	14.1	100	—	25.0	—	
8.4	16	62.1	4.0	16.4	100	—	25.0	—	
8.6	24	68.4	6.0	18.6	100	—	25.0	—	
9.2	28	70.2	7.0	19.2	100	—	25.0	—	
9.4	—	66.0	—	17.6	—	—	—	—	

注1) —は枯葉や落葉が進み調査不能

注2) スズマルRは参考、平年値なし

2 わい化病 発生期 — 発生量 やや多

発生面積 6,136 ha (13.1% : 平年 12.2%) 被害面積 164 ha (0.4% : 平年 0.1%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける発生量は、平年よりやや少なかった。
- ・一般ほにおける発生面積率及び被害面積率は平年よりやや高かった。

発生原因の解析

- ・効果的な種子塗沫剤の使用により、発生量は平年よりやや多いものの、低いレベルに抑えられている。
- ・春季の気象が温暖であったことから、媒介虫の飛来、吸汁活動が活発であった。

予察ほにおけるわい化病の発生状況

地点	長沼				訓子府	
品種名	トヨムスメ		(参考)スズマルR		とよまどか	
調査 月.半旬	発病株率(%)		発病株率(%)		発病株率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7.4	7.0	16.0	5.0	-	2.0	3.0
8.6	24.0	30.0	23.0	-	6.0	7.7

注1)スズマルRは参考、平年値なし

3 マメシクイガ

発生期 早 発生量 やや少

発生面積 8,701ha(18.6%：平年 17.3%) 被害面積 95ha(0.2%：平年 0.6%)

発生経過の概要

- ・フェロモントラップによる成虫の初誘殺日は、長沼町、比布町、芽室町及び訓子府町で平年より早く、北斗市では平年並であった。
- ・フェロモントラップ誘殺数は、長沼町及び訓子府町で平年より多く、比布町で平年よりやや多く、芽室町で平年並、北斗市では平年よりやや少なかった。被害粒率は、長沼町及び訓子府町で平年より高く、芽室町では平年並であった。
- ・一般ほにおける発生面積率は平年並で、被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量は平年並で越冬量も平年並であったと推測される。5月から7月は高温で経過し、大豆の生育が早まったため本種の発生時期も早くなった。8月も高温で経過したため、本種の産卵活動に好適であった。
- ・一般ほでは防除が適切におこなわれた。
- ・7月25日付 注意報第8号発表

フェロモントラップによるマメシクイガ成虫の発生期

	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
第一 回 成 虫	初飛来日 (月日)	7月6日	7月19日	6月29日	7月15日	8月2日	8月3日	7月18日	7月25日	7月17日	8月2日
	最盛期 (月日)	7月18日	8月10日	7月19日	7月30日	8月28日	8月22日	7月25日	8月8日	8月10日	8月14日
	50%誘殺日 (月日)	7月25日	8月11日	7月19日	7月31日	9月3日	8月20日	8月5日	8月12日	8月10日	8月15日
	終息日 (月日)	8月29日	9月6日	8月24日	8月21日	9月27日	9月9日	8月25日	9月5日	9月5日	9月1日
	総誘殺数 (頭)	203	126.2	490	290.9	45	62.2	57	68.4	86	39.2
	平年数	10		10		10		10		10	

フェロモントラップによるマメシクイガ成虫の誘殺数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7. 1	0	0.0	5	-	0	-	0	-	-	-
2	29	0.4	90	12.5	0	-	0	-	-	-
3	23	1.4	212	35.3	0	0.0	0	0.0	1	0.0
4	42	2.4	93	88.3	0	0.0	3	0.2	1	0.0
5	11	6.2	54	44.7	0	0.1	16	1.3	0	0.0
6	7	11.7	17	49.2	0	0.1	8	8.7	2	2.0
8. 1	22	22.4	6	24.4	1	1.4	13	14.2	5	4.4
2	32	24.5	1	16.9	2	9.3	6	10.7	43	5.3
3	20.6	23.5	9	8.6	2	8.1	10	9.9	8	9.8
4	9.8	15.8	1	5.2	3	12.7	0	14.1	14	7.0
5	3.6	8.6	1	1.3	1	13.2	1	6.2	8	4.4
6	3	5.3	0	0.0	11	9.1	0	1.8	2	5.1
9. 1	0	1.8	-	0.0	6	4.1	0	1.0	2	0.8
2	0	1.8	-	0.0	6	3.1	0	0.2	0	0.3
3	-	0.7	-	0.0	5	0.9	0	0.1	0	0.0
4	-	0.1	-	-	3	0.1	0	0.2	-	0.0
平年数	10		10		10		10		10	

予察ほにおけるマメシクイガの被害状況

地点	長沼		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
被害粒率(%)	31.9	16.5	5.0	5.6	38.4	7.9
被害莢率(%)	33.4	17.7	4.8	5.9	39.5	8.4
品種	ユキホマレ		トヨムスメ		とよまどか	
調査月日	9月25日		10月2日		10月1日	
調査株数	10		10		10	
平年数	10		10		10	

4 食葉性鱗翅目幼虫 発生期 やや早 発生量 並
 発生面積 12,602ha(26.9% : 平年 30.3%) 被害面積 442ha(0.9% : 平年 0.5%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける食害程度は、訓子府町で6月中旬～7月中旬は平年よりやや高く、7月下旬以降は平年並であった。長沼町では平年よりやや低かった。
- ・一般ほにおける初発期は平年よりやや早かった。発生面積率は平年よりやや低く、被害面積率は平年並であった。

発生原因の解析

- ・6月から7月は高温で経過したため発生が早まった。
- ・一般ほでは防除が適切に行われた。

予察ほにおける食葉性鱗翅目幼虫の被害程度

月. 半旬	長 沼		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1 2 3 4 5 6	0	-	-	0.0
	0	0.0	0	0.0
	0	0.1	0	0.0
	0	0.3	5	0.0
	1	1.5	7	0.3
	1	4.3	8	0.7
7. 1 2 3 4 5 6	1	7.2	17	2.4
	3	10.7	17	4.9
	16	14.2	21	8.7
	22	18.4	25	13.4
	23	27.9	27	19.9
	23	33.2	29	23.8
8. 1 2 3 4 5 6	24	34.6	30	26.8
	27	36.9	30	28.7
	32	39.6	33	31.7
	36	41.6	35	34.3
	38	42.4	38	35.8
	28	43.9	41	37.6
9. 1 2 3 4 5 6	-	45.4	45	39.0
	-	44.6	-	38.5
	-	43.1	-	33.3
	-	44.3	-	-
	-	-	-	-
	-	-	-	-
平年数	10		10	

5 タネバエ 発生期 ー 発生量 並
 発生面積 311ha(0.7%：平年 0.9%) 被害面積 0ha(0.0%：平年 0.0%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける被害個体率は、長沼町、芽室町及び訓子府町いずれの地点にも平年より高かった。
- ・一般ほにおける発生面積率は平年並、被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・播種時期にあたる5月下旬はまとまった降雨があり、幼虫の生存に好適な条件であった。
- ・予察ほでの被害は平年より多かったものの、一般ほでは効果的な種子塗沫剤の使用により被害が抑えられた。

予察ほにおけるタネバエの被害状況

	長 沼		芽 室		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
被害個体率(%)	89.2	61.0	22.0	13.9	70.0	17.1
平年数	10		9		10	

6 ジャガイモヒゲナガアブラムシ 発生期 やや早 発生量 並

発生経過の概要

- ・黄色水盤におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの初発期は、長沼町で平年よりやや早く、訓子府町で平年より早かった。
- ・黄色水盤による捕獲数は、訓子府町で平年並、長沼町では平年より少なかった。
- ・長沼町及び訓子府町の予察ほの大豆における寄生虫数は、6月上旬は平年より多かったものの6月下旬には平年より少なくなった。

発生原因の解析

- ・ 春季は高温に経過し、飛来成虫の発生は早まった。
- ・ 6月下旬に降雨が多かった地域では増殖が抑制された。

黄色水盤によるジャガイモヒゲナガアブラムシ有翅虫の誘殺数

月半旬	長 沼		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 5	0	0.5	0	0.3
6	1	1.3	3	0.6
6. 1	0	0.6	0	0.9
2	1	2.3	2	1.8
3	1	1.7	0	0.7
4	1	1.8	1	0.2
5	0	1.3	1	0.8
6	0	0.7	1	1.2
7. 1	0	0.4	0	0.6
2	0	0.7	0	0.7
3	0	0.2	0	1.0
4	0	0.0	0	2.0
5	0	0.0	-	1.6
6	0	0.0	-	2.3

注) 3台の合計値。平年数は10年。

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生虫数

月半旬	長 沼				訓 子 府			
	本 年			平 年 (合 計)	本 年			平 年 (合 計)
	有翅虫	無翅虫	合 計		有翅虫	無翅虫	合 計	
6. 1	0	0	0	1.5	0	0	0	0.8
2	1	9	10	1.7	3	9	12	3.9
3	3	6	9	2.8	1	2	3	1.8
4	0	7	7	5.0	0	2	2	2.8
5	1	1	2	4.8	0	0	0	3.6
6	0	1	1	2.2	0	0	0	2.1
7. 1	0	1	1	2.0	0	0	0	2.6
2	0	0	0	1.8	0	0	0	1.2
3	0	0	0	0.5	0	0	0	2.0
4	0	0	0	0.0	0	0	0	2.7
5	0	0	0	0.3	0	0	0	1.1
6	0	0	0	0.4	0	0	0	1.0
平年数	10				10			

注) 数値は、50小葉(25株各2小葉)当りの寄生虫数を示す。

巡回調査結果

大豆一般ほにおけるアブラムシ類の寄生株率 (%)

振興局	普及センター	調査地点数	6月3半旬	6月6半旬
空知	本所	4	0	0
	南東部	2	0	0.5
	南西部	3	0	0
	中空知	1	0	0
	北空知	3	0	0
石狩	本所	3	0	0
	北部	2	0	0
後志	本所	2	0	0
胆振	東胆振	3	0	0.7
渡島	本所	1	0	0
檜山	本所	2	0	0
	北部	2	0	0
上川	本所	4	0	0
	富良野	2	0	0
	士別	4	0	0.8
	名寄	3	0	0
留萌	本所	3	0	0
網走	清里	2	0	0
	美幌	3	0	0
十勝	本所	5	0	0.2
	東部	7	0	2.9
	東北部	3	0	0
	北部	3	0	0
	西部	2	0	0

注) 25株・50小葉調査

7 吸汁性カメムシ 発生期 — 発生量 —

発生経過の概要

・予察ほの大豆における被害粒率は、長沼町で49.3%、芽室町で0.9%、訓子府町では5.6%であった。

(V) 小豆の病害虫

予察ほにおける小豆の生育期

地点	品種名	播種期(月日)		出芽期(月日)		開花始(月日)		成熟期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	しゅまり	5月19日	5月23日	6月5日	6月11日	7月15日	7月24日	9月8日	9月15日	10
芽室	きたのおとめ	5月27日	5月25日	6月8日	6月8日	7月15日	7月23日	9月4日	9月17日	10
訓子府	きたのおとめ	5月20日	5月23日	6月6日	6月8日	7月16日	7月25日	9月6日	9月20日	10
	きたろまん	5月20日	-	6月7日	-	7月16日	-	9月8日	-	-

注1) -は平年値なし

1 菌核病 発生期 並 発生量 やや少

発生面積 1,132 ha (5.4% : 平年 8.0%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生期は平年並であった。発生面積率は平年よりやや低く、被害はなかった。

発生原因の解析

- ・夏季が高温多照に推移したことから、本病の発生に好適な条件とならなかった。
- ・適切な防除が実施された。

2 灰色かび病 発生期 並 発生量 並

発生面積 2,871 ha (13.8% : 平年 15.4%) 被害面積 0 ha (0.0% : 平年 0.5%)

発生経過の概要

- ・長沼町の予察ほにおける初発期は平年よりやや早く、発生量は平年よりやや多かった。
- ・一般ほにおける発生期は平年並で、発生面積率、被害面積率ともに平年並だった。

発生原因の解析

- ・夏季が高温多照に推移したことから、本病の発生に好適な条件とならなかった。
- ・適切な防除が実施された。

予察ほにおける灰色かび病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	しゅまり	7月30日	8月2日	8.4	8.4	10

予察ほにおける灰色かび病の発生状況

地点	長沼			
品種名	しゅまり			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
7.4	0	0	0	0
7.6	0	3.2	0	0.8
8.2	4.0	6.8	1.0	1.7
8.4	8.0	16.8	4.0	4.2
8.6	8.0	21.8	4.0	5.5
9.2	8.0	17.1	4.0	4.3

巡回調査結果

一般ほにおける灰色かび病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)		振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)	
		7月6半旬	8月3半旬			7月6半旬	8月3半旬
石狩	本所	0	0	オホーツク	本所	0	1.5
後志	本所	0	0		網走	0	1.0
胆振	本所	0	0		美幌	0	0
	東胆振	0	6.0	十勝		本所	0
檜山	本所	0	0		東部	0	0.4
	北部	0	0		東北部	0	0
上川	大雪	0	0.5		北部	1.7	6.3
	士別	0	0		西部	0	1.0
留萌	本所	0	0		南部	0	0

3 茎疫病 発生期 やや少 発生量 やや少

発生面積 321 ha (1.5% : 平年 3.3%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.5%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は平年よりやや低く、被害は認められなかった。

発生原因の解析

・地域によっては大雨があり発生に好適な条件であったが、近年は排水性の改善や抵抗性品種の導入も進んでいることから多発には至らなかった。

4 落葉病 発生期 やや多 発生量 並

発生面積 484 ha (2.3% : 平年 3.0%) 被害面積 3 ha (0.0% : 平年 0.1%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は平年並に低かった。胆振地方の一部で被害が認められた。

発生原因の解析

・夏季が高温で、さらに降雨が続くような条件がほとんど無く、本病の発生に好適ではなかった。
・発生が問題となる地域では抵抗性品種の作付けが進んでいることから近年は発生が少なく推移している。

5 アズキノメイガ 発生期 やや早 発生量 やや少

発生経過の概要

・長沼町の予察灯において、成虫の初発期は平年より早く、誘殺数は平年並であった。訓子府町の予察灯では誘殺が認められなかった。
・予察ほにおける被害率は、長沼町で平年並、訓子府町で平年より高く、芽室町では平年よりやや高かったものの、マメノメイガが混発しており被害率での評価は不可能である。

発生原因の解析

・6月から7月は高温で経過し発生が早まった。いずれ地点でもマメノメイガによる被害も認められた。長沼町と訓子府町のほ場内で認められた幼虫はマメノメイガが優占だったものの、両種は混発していた。

予察灯によるアズキノメイガ雄成虫の発生期

	長 沼		訓子府	
	本年	平年	本年	平年
初発期	6月19日	6月29日	-	7月1日
最盛期	8月5日	7月23日	-	-
終息期	8月19日	8月7日	-	9月22日
平年数	10		10	

予察灯によるアズキノメイガ雄成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		訓子府		
	本年	平年	本年	平年	
6.	1	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0
	4	1	0.2	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.2
	6	0	0.2	0	0.2
7.	1	0	0.1	0	0.2
	2	--	0.3	0	0.3
	3	0	0.7	0	0.4
	4	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.2	0	0.3
	6	0	0.3	0	0.0
8.	1	1	0.5	0	0.0
	2	1	0.3	0	0.0
	3	0	0.4	0	0.0
	4	1	0.0	0	0.0
	5	0	0.2	0	0.0
	6	0	0.2	0	0.0
9.	1	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0
	3	--	0.0	0	0.1
	4	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		

注) --:欠測。

予察ほにおけるアズキノメイガの被害状況

	長沼		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
被害株率(%)	74.0	79.3	70.0	61.8	100.0	47.8
被害莢率(%)	3.7	7.8	9.5	3.6	7.8	5.4
品種	しゅまり		きたのおとめ		きたろまん	
調査月日	9月24日		9月5日		9月25日	
調査株数	50		50		50	
平年数	10		10		10	

6 食葉性鱗翅目幼虫 発生期 並 発生量 並
 発生面積 4,450ha (21.4% : 平年 18.4%) 被害面積 66ha (0.3% : 平年 0.4%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける食害程度は、長沼町及び訓子府町で平年並であった。
- ・一般ほにおける初発期は平年並であった。発生面積率及び被害面積率は平年並であった。

発生原因の解析

- ・加害期間である7月から8月は高温傾向であり、産卵及び幼虫の加害に好適であった。
- ・一般ほでは防除が適切におこなわれた。

予察ほにおける食葉性鱗翅目幼虫の被害推移

半旬	長沼		訓子府	
	本年	平年	本年	平年
6.1	0	-	-	-
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.2	0	0.2
5	4	0.9	1	0.2
6	4	3.0	1	0.4
7.1	6	3.6	1	0.6
2	10	4.6	5	1.4
3	12	6.0	9	2.5
4	10	7.9	15	4.1
5	15	11.4	18	7.0
6	13	14.9	21	10.7
8.1	17	17.4	25	13.3
2	25	18.3	25	16.2
3	25	20.5	25	18.9
4	26	23.0	26	20.5
5	27	24.8	28	21.9
6	35	25.1	29	23.2
9.1	30	25.9	33	24.7
2	34	26.4	36	26.0
3	-	25.5	-	26.9
4	-	24.7	-	29.0
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
平年数	10		10	

注) 数値は食害程度を示す。

7 マメアブラムシ 発生期 並 発生量 少

発生経過の概要

- ・予察ほにおける初発期は、長沼町及び訓子府町で平年並、芽室町では平年よりやや遅かった。
- ・寄生株率は、いずれの地点も平年より低かった。

発生原因の解析

- ・6月の飛来量が少なかった。

予察ほにおけるマメアブラムシの寄生株率(%)

月半旬	長 沼		芽 室		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6.	1	0	-	-	-	0.0
	2	0	0.0	0	0.2	0.0
	3	0	5.3	0	0.3	0.4
	4	0	17.7	0	2.7	0.8
	5	0	17.8	0	9.9	1.2
	6	4	13.1	0	23.9	5.2
7.	1	0	9.6	8	31.0	11.2
	2	0	10.7	12	35.2	16.4
	3	0	5.3	4	29.6	23.6
	4	0	0.9	4	21.6	21.2
	5	0	0.0	0	7.2	12.8
	6	0	0.0	0	3.6	9.6
平年数	9		10		10	

注) 25株調査の寄生株率を示す。

(VI) 菜豆の病害虫

予察ほにおける菜豆の生育期

地点	品種名	播種期(月日)		発芽期(月日)		開花始(月日)		成熟期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室	大正金時	5月27日	5月25日	6月7日	6月6日	7月2日	7月10日	8月21日	8月31日	10

1 菌核病 発生期 並 発生量 少

発生面積 292 ha (5.5% : 平年 15.2%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.6%)

発生経過の概要

- ・芽室町の予察ほでは発生が認められなかった。
- ・一般ほにおける発生期は平年並だった。発生面積率は平年より低く、被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・夏季が高温多照に推移したことから、本病の発生に好適な条件とならなかった。
- ・適切な防除が実施された。

予察ほにおける菌核病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
芽室	大正金時	無発生	7月18日	無発生	8.3	10

予察ほにおける菌核病の発生状況

地点	芽室			
品種名	大正金時			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
7.4	0	4.0	0	0.9
7.6	0	14.9	0	2.5
8.2	0	26.7	0	6.3
8.4	0	30.5	0	9.3
8.6	0	26.0	0	8.7

巡回調査結果

一般ほにおける菌核病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)
		7月6半旬
胆振	本所	0
上川	士別	0
オホーツク	美幌	0
十勝	本所	0
	東部	0
	東北部	0
	北部	0
	西部	0

2 灰色かび病 発生期 並 発生量 やや少

発生面積 341 ha (6.5% : 平年 14.1%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.2%)

発生経過の概要

- ・芽室町の予察ほにおける初発期は平年より早く、7月中の発生量は平年より多く推移したが8月以降落葉により見かけ上の発生量は低く推移した。
- ・一般ほにおける発生期は平年並であった。発生面積率は平年より少なく、被害面積率は平年並であった。

発生原因の解析

- ・夏季が高温多照に推移したことから、本病の発生に好適な条件とならなかった。
- ・適切な防除が実施された。

予察ほにおける灰色かび病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
芽室	大正金時	7月28日	7月18日	-	8.3	10

注1) -はごく少発生のため判定不能

予察ほにおける灰色かび病の発生状況

地点	芽室			
品種名	大正金時			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
7.4	0	13.4	0	3.9
7.6	0	41.0	0	6.7
8.2	0	53.2	0	8.6
8.4	0	65.2	0	13.1
8.6	0	53.0	0	10.8

巡回調査結果

一般ほにおける灰色かび病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)
		7月6半旬
胆振	本所	0
上川	士別	4.0
オホーツク	美幌	0
十勝	本所	0
	東部	0.1
	東北部	0
	北部	8.3
	西部	0

3 黄化病 発生期 ー 発生量 少

発生面積 47 ha (0.9% : 平年 1.8%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は平年より低かった。被害は認められなかった。

発生原因の解析

・効果的な種子処理剤で近年発生が低く抑えられている。

4 タネバエ 発生期 ー 発生量 並

発生面積 27ha(0.5% : 平年 0.7%) 被害面積 0ha(0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は平年並、被害に至ったほ場は認められなかった。

発生原因の解析

・一般ほでは効果的な種子塗沫剤の使用により被害が抑えられた。

(Ⅶ) ばれいしょの病害虫

予察ほにおけるばれいしょの生育期

地点	品種名	植付期(月日)		萌芽期(月日)		開花始(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	とうや	5月7日	5月9日	5月21日	5月27日	6月13日	6月21日	10
	スノーマーチ	5月7日	5月9日	5月23日	5月29日	6月20日	6月26日	10
北斗	とうや	5月2日	4月26日	5月21日	5月18日	6月11日	6月10日	10
芽室	とうや	5月5日	5月10日	5月27日	5月29日	6月18日	6月24日	10
	スノーマーチ	5月5日	5月10日	5月29日	6月1日	6月24日	7月1日	10
訓子府	とうや	5月13日	5月12日	5月29日	5月31日	6月19日	6月25日	10
	スノーマーチ	5月13日	5月12日	5月30日	6月1日	6月27日	7月2日	10

1 疫病 発生期 遅 発生量 少

発生面積 1,102 ha (2.3% : 平年 9.5%) 被害面積 57 ha (0.1% : 平年 1.1%)

発生経過の概要

- ・予察ほではいずれの地点においても発生が認められなかった。
- ・一般ほにおける初発期は全道的に平年並から遅い地域が多かった。発生面積率は釧路地方では高かったが、全道的には平年より低かった。上川及び釧路地方で被害が認められたが、全道的には被害は平年より少なかった。

発生原因の解析

- ・夏季が高温に推移し、特に平年の初発時期である7月の降雨が少なかったことから、本病の発生に好適な条件とはならなかった。

予察ほにおける疫病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		茎葉枯凋期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	とうや	-	7月18日	-	7.6	-	8月8日	8
	スノーマーチ	-	7月19日	-	8.2	-	8月17日	8
北斗	とうや	-	7月6日	-	7.5	-	7月26日	9
芽室	とうや	-	7月13日	-	7.5	-	8月6日	8
	スノーマーチ	-	7月15日	-	7.6	-	8月17日	8
訓子府	とうや	-	7月13日	-	7.6	-	8月7日	8
	スノーマーチ	-	7月15日	-	8.1	-	8月13日	8

注)-は発生が認められない、または自然枯凋により最盛期が評価できない

予察ほにおけるFLABSの予測初発日と適合性

地点	品種名	萌芽日	初発日	予測初発日	70%信頼区間	判定
長沼	とうや	5月21日	未発生	7月1日	-	-
	スノーマーチ	5月23日	未発生	7月1日	-	-
北斗	とうや	5月21日	未発生	7月1日	-	-
芽室	とうや	5月27日	未発生	7月15日	7/10-7/20	×
	スノーマーチ	5月29日	未発生	7月15日	7/10-7/20	×
訓子府	とうや	5月29日	未発生	7月13日	7/7-7/18	×
	スノーマーチ	5月30日	未発生	7月14日	7/8-7/19	×

注1) 基準日は萌芽日からの累積危険値が21に到達した日

注2) ○: 初発日が70%信頼区間内、×: 初発日が70%信頼区間外

注3) -: 予測初発日が7月3日より以前の場合、70%信頼区間の計算式がない

予察ほにおける疫病の発生状況

地点	長沼							
品種名	とうや				スノーマーチ			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度		発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.5	0	0	0	0	0	0	0	0
6.6	0	0	0	0	0	0	0	0
7.1	0	0	0	0	0	0	0	0
7.2	0	0.6	0	0.2	0	0.4	0	0.1
7.3	0	2.6	0	0.7	0	3.6	0	0.9
7.4	0	25.8	0	6.6	0	23.4	0	5.9
7.5	0	52.6	0	22.6	0	47.2	0	17.5
7.6	0	70.4	0	43.8	0	63.2	0	30.6
8.1	0	73.1	0	56.4	0	65.4	0	42.4
8.2	0	73.1	0	67.8	0	68.2	0	50.3
8.3	—	73.1	—	68.6	0	77.8	0	60.1
8.4	—	73.1	—	68.6	0	78.2	0	65.1
8.5	—	73.1	—	68.6	—	78.2	—	69.1
8.6	—	73.1	—	68.6	—	78.2	—	72.8

注) —: 枯凋により調査不能

地点	北斗			
品種名	とうや			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
6.5	0	0.4	0	0.1
6.6	0	4.8	0	1.2
7.1	0	20.6	0	8.0
7.2	0	34.0	0	20.4
7.3	0	42.4	0	36.5
7.4	0	42.8	0	40.1
7.5	0	55.6	0	47.3
7.6	0	60.0	0	50.0
8.1	—	63.3	—	57.4
8.2	—	65.8	—	58.3

注) —: 枯凋により調査不能

地点	芽室							
品種名	とうや				スノーマーチ			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度		発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.5	0	0	0	0	0	0	0	0
6.6	0	0	0	0	0	0	0	0
7.1	0	0.4	0	0.1	0	2.0	0	0.5
7.2	0	6.6	0	1.7	0	9.0	0	2.3
7.3	0	12.0	0	5.1	0	12.2	0	6.2
7.4	0	33.0	0	14.2	0	29.4	0	11.2
7.5	0	60.6	0	40.9	0	61.6	0	29.7
7.6	0	69.4	0	51.1	0	70.0	0	47.9
8.1	0	71.4	0	51.6	0	70.8	0	53.7
8.2	0	80.7	0	57.6	0	73.6	0	58.6
8.3	—	80.7	—	57.6	0	81.1	0	69.4
8.4	—	80.7	—	57.6	—	81.8	—	73.6
8.5	—	80.7	—	57.6	—	81.8	—	76.1
8.6	—	80.7	—	57.6	—	81.8	—	78.4

注) —: 枯凋により調査不能

地点	訓子府							
品種名	とうや				スノーマーチ			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度		発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.5	0	0	0	0	0	0	0	0
6.6	0	0	0	0	0	0	0	0
7.1	0	0	0	0	0	0.2	0	0.1
7.2	0	2.6	0	0.7	0	2.4	0	0.6
7.3	0	12.4	0	3.1	0	10.4	0	2.7
7.4	0	25.2	0	6.8	0	20.4	0	5.4
7.5	0	49.4	0	18.6	0	42.4	0	12.9
7.6	0	67.6	0	41.5	0	75.4	0	35.5
8.1	0	70.2	0	62.3	0	78.0	0	52.6
8.2	0	70.2	0	69.2	0	80.0	0	70.7
8.3	—	66.9	—	65.7	0	80.0	0	76.5
8.4	—	66.9	—	65.7	0	77.8	0	77.4
8.5	—	66.9	—	65.7	—	77.8	—	77.4
8.6	—	66.9	—	65.7	—	77.8	—	77.4

注) —: 枯凋により調査不能

巡回調査結果

一般ほにおける疫病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率%			振興局	普及センター 本所・支所	発病株率%		
		6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬			6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬
空知	南東部	0	0	0	オホーツク	本所	0	0	0
後志	本所	0	0	0		清里	0	0	0
胆振	本所	0	0	0		網走	0	0	0
渡島	本所	0	0	0		美幌	0	0	0
檜山	本所	0	0	0.5	十勝	本所	0	0	0
	北部	0	0	3.5		東部	0	0	0
上川	富良野	0	0	0		東北部	0	0	0
	大雪	0.5	0.5	1.0		北部	0	0	1.7
	士別	0	2.0	44.5		西部	0	0	2.5
	名寄	0	0	0	南部	0	0	1.1	
					釧路	本所	0	1.0	22.5
					根室	北根室	0	0	0

2 塊茎腐敗 発生期 ー 発生量 少

発生面積 1,758 ha (3.6% : 平年 7.0%) 被害面積 35 ha (0.1% : 平年 0.5%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般ほにおける発生面積率及び被害面積率は平年より低かった。
- ・伝染源となる疫病の発生が少なく、収穫期前まで気温が高く推移したことで発病に好適な条件にならなかった。

3 軟腐病 発生期 ー 発生量 並

発生面積 8,217 ha (16.9% : 平年 20.8%) 被害面積 463 ha (1.0% : 平年 2.3%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般ほにおける発生面積率及び被害面積率はともに平年並だった。
- ・夏季が高温に推移し、生育期間中多雨となった時期もあったことから、発病に好適な条件ではあったが、適切な防除の実施により発病が抑えられた。

4 黒あし病 発生期 ー 発生量 並

発生面積 1,413 ha (2.9% : 平年 2.3%) 被害面積 2 ha (0.0% : 平年 0.1%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般ほにおける発生面積率は平年並で、被害面積率も0.1%未満と平年並であった。
- ・適切な種子が用いられ、種いも消毒も実施されており、本病の発生は低いレベルに抑えられている。

5 そうか病 発生期 ー 発生量 並

発生面積 12,417 ha (25.5% : 平年 23.5%) 被害面積 2,545 ha (5.2% : 平年 5.3%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・塊茎肥大時期が高温に推移したが、周期的に降雨が認められたため土壌が乾燥気味に推移せず、平年並の発病にとどまった。

6 粉状そうか病 発生期 ー 発生量 やや少

発生面積 2,292 ha (4.7% : 平年 6.4%) 被害面積 被害面積 69 ha (0.1% : 平年 0.3%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・周期的に降雨は認められたものの、夏季の気象が高温に推移したため発病に好適な条件とはならなかった。

7 アブラムシ類 発生期 やや早 発生量 やや少

発生面積 5,689ha (11.7% : 平年 16.9%) 被害面積 333ha (0.7% : 平年 0.8%)

発生経過の概要

- ・ジャガイモヒゲナガアブラムシは、黄色水盤での有翅虫初発は訓子府町で平年より早く、長沼町で平年よりやや早かった。(大豆のアブラムシ類の項を参照)。

- ・寄生初発は、長沼町及び訓子府町いずれの地点においても平年並であった。発生量は、長沼町で平年並、訓子府町で平年より少なかった。
- ・ワタアブラムシの寄生初発は長沼町では平年よりやや早く、訓子府町では平年並であった。発生量は、長沼町及び訓子府町いずれの地点においても平年より少なかった。
- ・一般ほにおける発生面積率は11.7%（平年16.9%）と平年よりやや少なく、被害面積率は0.7%（平年0.8%）と平年より並であった。

発生原因の解析

- ・6月下旬の多雨で飛来が抑制された。7月以降は高温で経過したが、8月が多雨傾向であったため、増殖が抑制されたと推測される。一般ほでは防除が適切に行われた。

黄色水盤によるアブラムシ類の発生期

	発生期	ジャガイモヒゲナガ アブラムシ		モモアカアブラムシ		平年数
		本 年	平 年	本 年	平 年	
長 沼	初発期	5. VI	6. I	6. VI	6. IV	10
	最盛期	6. III	6. IV	7. V	7. III	
	終息期	6. IV	7. III	8. III	8. I	
訓 子 府	初発期	5. VI	6. II	6. V	7. V	10
	最盛期	5. VI	7. II	-	8. IV	
	終息期	6. VI	8. IV	-	8. V	

注) ローマ数字は半旬を示す。

黄色水盤によるアブラムシ類有翅虫の誘殺状況

月半旬	長 沼				訓 子 府			
	ジャガイモヒゲナガ アブラムシ		モモアカ アブラムシ		ジャガイモヒゲナガ アブラムシ		モモアカ アブラムシ	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 5	0	0.5	0	0.0	0	0.3	0	0.0
6	1	1.3	0	0.3	3	0.6	0	0.0
6. 1	0	0.6	0	0.0	0	0.9	0	0.0
2	1	2.3	0	0.1	2	1.8	0	0.0
3	1	1.7	0	0.2	0	0.7	0	0.0
4	1	1.8	0	0.1	1	0.2	0	0.0
5	0	1.3	0	1.2	1	0.8	1	0.0
6	0	0.7	1	0.5	1	1.2	0	0.1
7. 1	0	0.4	0	0.8	0	0.6	0	0.3
2	0	0.7	0	0.7	0	0.7	0	0.0
3	0	0.2	0	2.4	0	1.0	0	0.1
4	0	0.0	2	0.8	0	2.0	0	0.1
5	0	0.0	2	0.6	-	1.6	-	0.1
6	0	0.0	0	0.4	-	2.3	-	0.0
8. 1	0	0.0	1	0.0	-	0.7	-	0.6
2	0	0.0	0	0.1	-	0.2	-	0.5
3	0	0.0	1	0.1	-	0.2	-	1.9
4	0	0.2	0	0.1	-	0.0	-	0.9
5	0	0.0	0	0.2	-	0.0	-	0.7
6	0	0.0	0	0.2	-	0.0	-	0.4
9. 1	0	0.1	0	0.6	-	0.0	-	0.0
2	0	0.1	0	0.3	-	0.1	-	0.5
3	0	0.2	0	0.3	-	0.1	-	0.2
4	0	0.7	0	0.9	-	0.4	-	0.5
平年数	10				10			

注) 3台の誘殺頭数の合計値を示す。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生期

	発生期	ジャガイモヒゲナガ アブラムシ		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	初発期	6. II	6. II	-	6. VI	6. IV	6. V	10
	最盛期	6. III	6. V	-	7. I	7. I	7. IV	
	終息期	6. V	7. III	-	7. III	7. III	8. I	
訓子府	初発期	6. III	6. III	-	-	7. I	7. I	10
	最盛期	6. V	7. II	-	-	7. III	7. V	
	終息期	6. VI	7. VI	-	-	8. IV	8. III	

注) 各地とも品種は「スノーマーチ」。ローマ数字は半月を示す。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況（長沼）

虫種	ジャガイモヒゲナガ アブラムシ				モモアカアブラムシ				ワタアブラムシ			
	月半月	有翅	無翅	合計	有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年
6.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	2	0	1	1	0.3	0	0	0	0.1	0	0	0
	3	0	3.5	3.5	1.5	0	0	0	0.0	0	0	0
	4	0	1.5	1.5	1.4	0	0	0	0.0	0.5	0.5	1
	5	0	0.5	0.5	0.9	0	0	0	0.4	0.5	0.5	1
	6	0	0	0	0.8	0	0	0	0.3	0.5	3	3.5
7.1	0	0	0	0.6	0	0	0	0.2	0	3.5	3.5	3.1
	2	0	0	0	0.4	0	0	0	0.1	0	2	2
	3	0	0	0	0.4	0	0	0	0.3	0	1.5	1.5
	4	0	0	0	0.3	0	0	0	0.2	0	0	0
	5	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0
	6	0	0	0	0.0	0	0	0	0.1	0	0	0
8.1	0	0	0	0.3	0	0	0	0.0	0	0	0	2.0
	2	0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0	0.4
	3	0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0	0.5
	4	0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0	0.2
虫数計	6.5			6.9	0			1.5	12.5			60.0

注) 数値は、20複葉(10株各2複葉)当りの寄生頭数を示した。

平年値は有翅虫数と無翅虫数の合計。品種は「スノーマーチ」。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況（訓子府）

虫種	ジャガイモヒゲナガ アブラムシ				モモアカアブラムシ				ワタアブラムシ			
	月半月	有翅	無翅	合計	有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年
6.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	2	0	0	0	0.3	0	0	0	0.0	0	0	0
	3	0	2.4	2.4	0.5	0	0	0	0.0	0	0	0
	4	0	3.2	3.2	0.9	0	0	0	0.0	0	0	0
	5	0	4	4	1.9	0	0	0	0.0	0	0	0
	6	0.8	2.4	3.2	2.2	0	0	0	0.3	0	0	0
7.1	0	0	0	4.6	0	0	0	0.0	0	1.2	1.2	4.0
	2	0	0	0	6.1	0	0	0	0.1	0	0	8.3
	3	0	0	0	5.5	0	0	0	0.0	0.4	2.8	3.2
	4	0	0	0	6.3	0	0	0	0.1	0	3.2	3.2
	5	0	0	0	4.0	0	0	0	0.0	0	2	2
	6	0	0	0	1.6	0	0	0	0.0	0	2	2
8.1	0	0	0	0.5	0	0	0	0.0	0	0	0	13.3
	2	0	0	0	0.3	0	0	0	0.0	0	0	9.7
	3	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0.8	16.1
	4	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	5.2	5.2
虫数計	12.8			34.7	0			0.4	17.6			179.6

注) 数値は、20複葉(10株各2複葉)当りの寄生頭数を示した。

平年値は有翅虫数と無翅虫数の合計。品種は「スノーマーチ」。

巡回調査結果

一般ほにおけるばれいしょのアブラムシ類寄生虫数

振興局	普及センター	地点数	6月3半旬		6月6半旬		7月3半旬		7月6半旬	
			本年	優占種	本年	優占種	本年	優占種	本年	優占種
空知	南東部	1	2.0	ヒゲ	0		0		0	
後志	本所	4	0		0.3		0		0	
胆振	本所	2	0		0		0.5	ワタ	10.0	ワタ
渡島	本所	1	0		2.0	ワタ	15.0	ワタ	15.0	ワタ
檜山	本所	2	0		1.0	ヒゲ	0		1.0	ワタ
	北部	2	0		0		192.5	ワタ	511.0	ワタ
上川	富良野	3	0		0		0		0	
	大雪	2	0		0		0		0	
	士別	2	0		2.0		0		0	
	名寄	1	0		0		0		0	
オホーツク	本所	7	0		0.3	ヒゲ	2.3	ヒゲ	0.3	ヒゲ
	清里	6	0		0.3	ヒゲ	4.0		0	
	網走	2	0		0		2.5	モモ	0.5	モモ
	美幌	2	0		0		0		0	
十勝	本所	5	0		0		0		0.2	モモ
	東部	7	0.1	ヒゲ	0		1.0	ワタ	0	
	東北部	2	0		0		4.5		0	
	北部	3	0		2.3	ヒゲ	0		0	
	西部	2	0		0		0		0	
	南部	7	0		0.4		0		0	
釧路	本所	2	0		0		0		0	
根室	北根室	1	0		0		0		0	

10株20複葉調査

ヒゲ：ジャガイモヒゲナガアブラムシ、モモ：モモアカアブラムシ、ワタ：ワタアブラムシ

(Ⅶ) てんさいの病害虫

予察ほにおけるてんさいの生育期

地点	品種名	播種期(月日)		出芽期(月日)		移植期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	ライエン	3月18日	3月16日	3月25日	3月24日	4月25日	4月28日	10
芽室	ライエン	3月18日	3月16日	3月25日	3月24日	4月23日	4月27日	10
	あまいぶき	3月18日	3月16日	3月26日	3月25日	4月23日	4月27日	10
	スタウト	3月18日	3月16日	3月26日	3月25日	4月23日	4月27日	10
訓子府	ライエン	3月22日	3月23日	3月29日	3月28日	5月2日	5月4日	10

1 褐斑病 発生期 早 発生量 多

発生面積 39,435 ha (80.6% : 平年 39.7%) 被害面積 8,335 ha (17.0% : 平年 9.9%)

発生経過の概要

- ・予察ほの「あまいぶき(抵抗性”弱”)」における初発期は、芽室町で平年並だった。長沼町及び訓子府町の「ライエン(抵抗性”やや強”)」では平年より早かった。発生量はいずれの地点も平年より多かった。
- ・一般ほにおける発生期は平年より早く、道東では6月下旬に初発した。発生面積率、被害面積率はいずれも平年より高かった。

発生原因の解析

- ・6月中から気温が平年より高く、初発時期が早まった地域があった。高温に経過した9月に大雨による多雨があり、発病に好適な条件となり発生量が増加した。
- ・初発時からの薬剤散布が実施され被害は前年より少なかったが、初発時期が早かったオホーツクおよび十勝地方で被害に至るほ場が認められた。
- ・QoI 剤やDMI 剤の耐性菌が発生しており、防除薬剤に限られている。
- ・7月1日付注意報第4号発表。

予察ほにおける褐斑病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月.半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	ライエン	6月25日	7月9日	8.4	8.6	10
芽室	ライエン	7月2日	7月3日	8.4	8.5	10
	あまいぶき	7月3日	7月3日	7.6	8.5	10
	スタウト	7月2日	7月4日	9.2	8.5	10
訓子府	ライエン	6月30日	7月10日	8.6	8.6	10

予察ほにおける褐斑病の発生状況

地点	長沼			
品種名	ライエン			
調査 月半旬	発病株率		発病度	
	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0
7.2	2.0	1.0	1.6	0.2
7.4	12.0	9.4	2.4	1.8
7.6	92.0	27.5	23.2	5.8
8.2	100	61.3	45.2	17.6
8.4	100	89.7	72.4	31.2
8.6	100	100	82.8	48.8
9.2	100	100	89.6	62.2
9.4	100	100	93.2	73.9
9.6	100	100	96.4	82.5

地点	芽室											
品種名	ライエン				あまいぶき				スタウト			
	発病株率		発病度		発病株率		発病度		発病株率		発病度	
調査 月半旬	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0.8	0	0.2	0	1.4	0	0.3	0	1.0	0	0.2
7.2	4.0	13.4	0.8	2.7	2.0	12.0	0.4	2.4	2.0	13.4	0.4	2.7
7.4	24.0	31.6	4.8	6.5	30.0	34.4	6.0	7.0	18.0	29.8	3.6	6.2
7.6	96.0	47.2	24.0	11.0	100	67.2	33.6	15.0	100	47.4	24.0	11.3
8.2	100	76.4	35.0	23.6	100	94.4	47.0	30.3	100	80.8	30.0	23.9
8.4	100	99.0	62.5	35.8	100	100	73.5	43.0	100	100	41.0	36.3
8.6	100	100	80.0	47.1	100	100	80.4	59.4	100	100	57.2	46.6
9.2	100	100	87.6	60.0	100	100	90.8	74.1	100	100	86.4	58.4
9.4	100	100	88.8	67.0	100	100	97.6	81.6	100	100	88.8	66.7
9.6	100	100	99.2	78.7	100	100	100.0	89.2	100	100	98.8	77.4

地点	訓子府			
品種名	ライエン			
調査 月半旬	発病株率		発病度	
	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0
7.2	4.0	2.4	0.8	0.5
7.4	10.0	10.8	2.0	2.2
7.6	100	36.6	20.0	7.7
8.2	100	57.0	27.6	15.6
8.4	100	86.8	43.6	27.7
8.6	100	100	63.2	43.2
9.2	100	100	81.2	56.2
9.4	100	100	95.2	64.6
9.6	100	100	99.2	75.4

巡回調査結果

一般ほにおける褐斑病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)			
		7月3半旬	7月6半旬	8月3半旬	8月6半旬
空知	南東部	1.0	2.0	9.0	15.0
石狩	本所	0	1.3	2.3	24.3
後志	本所	0	0	0	3.3
胆振	本所	1.5	4.0	4.0	40.5
	東胆振	26.0	32.7	36.3	40.0
上川	富良野	4.0	4.5	4.5	6.5
	大雪	0	0.5	1.0	2.5
	士別	0	0	8.0	13.0
	名寄	2.0	4.0	10.0	28.0
オホーツク	本所	2.0	7.8	30.9	45.6
	清里	1.0	4.3	30.3	51.5
	網走	1.0	1.5	8.5	55.0
	美幌	3.2	3.0	4.8	24.8
	遠軽	2.5	2.0	11.8	31.8
十勝	本所	0.2	1.8	9.2	37.8
	東部	0.5	6.8	40.8	67.3
	東北部	0	0	22.0	31.0
	北部	0.7	12.3	15.0	58.7
	西部	2.0	12.0	15.7	26.7
	南部	0	1.0	3.6	23.7

2 根腐病（黒根病を含む） 発生期 — 発生量 少

発生面積 2,932 ha (6.0% : 平成 9.7%) 被害面積 0 ha (0% : 平成 1.0%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は平成より低く、被害は認められなかった。

発生原因の解析

・常発地では抵抗性品種が導入されていることや、防除の実施により、被害に至るほ場はなかった。

3 そう根病 発生期 — 発生量 やや少

発生面積 52 ha (0.1% : 平成 0.3%) 被害面積 0 ha (0% : 平成 0%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は平成より低く、被害は認められなかった。

発生原因の解析

・抵抗性品種の導入が進み、近年発生はほとんど認められない。

4 黄化病（旧 西部萎黄病） 発生期 — 発生量 少

発生面積 570 ha (1.2% : 平成 5.3%) 被害面積 0 ha (0% : 平成 0.3%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は平成より低く、被害は認められなかった。

発生原因の解析

・冬期間のハウスクリーニングが実施され、越冬する媒介虫密度が抑えられていることに加え、媒介虫に対する薬剤防除も実施されている。

5 ヨトウガ	第1回	発生期：やや早	発生量：やや多
	発生面積	9,533 ha (19.5% : 14.7%)	被害面積 505ha (1.0% : 0.6%)
	第2回	発生期：やや早	発生量：多
	発生面積	17,731 ha (36.3% : 12.8%)	被害面積 4,470ha (9.1% : 0.3%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける産卵の初発期は、長沼町で平年より遅かった。芽室町及び訓子府町では産卵は認められなかった。
- ・卵塊数は、長沼町で平年より少なかった。
- ・予察ほにおける被害程度は、訓子府町で平年より高く、長沼町及び芽室町では平年並であった。
- ・予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町で平年より早かった。比布町及び訓子府町では誘殺が認められなかった。予察ほにおける産卵初発期長沼町で平年より早く、訓子府町で平年よりやや早かった。比布町では産卵が認められなかった。
- ・卵塊数は、長沼町及び訓子府町で平年より少なかった。幼虫による被害程度は、長沼町および芽室町で平年より高く、訓子府町では平年よりやや高かった。長沼町及び芽室町ではシロオビノメイガとの混発が認められた。
- ・フェロモントラップによる第1回成虫初誘殺期は、比布町で平年並、長沼町及び北斗市で平年より遅かった。訓子府町では誘殺は認められなかった。誘殺数は比布町で平年並であったが、北斗市で平年よりやや少なく、長沼町で少なかった。
- ・フェロモントラップによる第2回成虫初誘殺期は、長沼町および訓子府町で平年より早く、北斗市で平年よりやや遅く、比布町で平年より遅かった。
- ・一般ほにおける初発期は1回目及び2回目ともに平年よりやや早く、発生面積率、被害面積率は1回目は平年よりやや多く、2回目は平年より多かった。

発生原因の解析

- ・前年、第2回目の発生量はやや多かったため、越冬密度はやや多かったと推測される。
- ・4月～6月の気温は高く経過したため、第一回成虫の産卵及び幼虫の加害に好適であったと推測される。
- ・7月は高温で経過したため、第二回成虫の初発期は平年よりやや早かった。高温により、第1回幼虫の夏眠が誘発され、2回目幼虫の加害が長期化したと推測される。一般ほでは、防除が適切に行われた。他害虫との混発が認められた地域があった。

予察灯によるヨトウガ成虫の発生期及び予察ほにおける産卵期

		長沼		比布		訓子府	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第一回成虫	初飛来日 (月日)	6月13日	6月7日	6月3日	6月9日	-	5月31日
	最盛期 (月日)	6月13日	6月9日	1月0日	6月7日	-	-
	50%誘殺日 (月日)	6月23日	6月8日	1月0日	6月7日	-	-
	終息日 (月日)	6月23日	6月10日	6月3日	6月17日	-	-
	総誘殺数 (頭)	2	1.0	1	1.2	0	0.6
	産卵初発 (月半旬)	6. IV	6. II	-	-	-	6. IV
第二回成虫	初飛来日 (月日)	7月29日	8月7日	-	8月12日	-	8月13日
	最盛期 (月日)	7月30日	8月17日	-	8月16日	-	-
	50%誘殺日 (月日)	8月4日	8月18日	-	8月15日	-	-
	終息日 (月日)	9月23日	9月10日	-	8月29日	-	8月30日
	総誘殺数 (頭)	7	8.9	0	8.4	0	2.7
	産卵初発 (月半旬)	7. V	8. I	-	-	8. II	8. III
平年数		10		10		10	

注) ローマ数字は半旬を示す。

予察灯によるヨトウガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5. 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.1	0	0.0	0	0.0
6	0	0.1	0	0.0	0	0.3
6. 1	0	0.4	1	0.1	0	0.0
2	0	0.1	0	0.6	0	0.2
3	1	0.1	0	0.2	0	0.0
4	0	0.1	0	0.2	0	0.1
5	1	0.1	0	0.1	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	欠測	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.1	0	0.0
6	2	0.2	0	0.2	0	0.1
8. 1	2	0.7	0	0.5	0	0.1
2	0	1.9	0	0.7	0	0.3
3	0	0.7	0	2.3	0	0.6
4	1	0.5	0	1.9	0	1.0
5	0	0.7	0	1.0	0	0.4
6	0	0.4	0	0.5	0	0.1
9. 1	0	0.3	0	0.3	0	0.0
2	0	0.7	0	0.7	0	0.0
3	欠測	0.8	0	0.0	0	0.1
4	0	0.3	0	0.1	0	0.0
5	1	0.9	0	0.0	0	0.0
6	0	0.2	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10	

注) 予察灯は、長沼・比布・訓子府は100W高圧水銀灯

予察ほにおけるヨトウガの産卵状況と被害推移

	月半旬	卵塊数				食害程度		平年数	
		大	中	小	合計	本年	平年		
長 沼	5. 5					0.0	0	0.0	10
	6					0.0	0	0.0	
	6. 1					0.8	0	0.0	
	2					1.7	0	0.2	
	3					1.9	0	0.6	
	4		1		1	1.9	3	2.9	
	5					1.1	15	6.6	
	6					0.7	24	13.1	
	7. 1					0.2	33	24.1	
	2					0.4	40	33.5	
	3					0.2	43	44.5	
	4					0.0	46	49.5	
	5		1		1	0.0	50	55.0	
	6					0.5	51	57.1	
	8. 1					0.8	53	58.7	
	2					1.1	57	56.2	
	3		1		1	2.1	63	58.3	
	4					1.5	68	58.4	
5					1.5	73	58.4		
6					0.6	75	63.4		
9. 1					0.4	77	66.7		
2					0.6	84	73.2		
3					0.2	91	76.8		
4					0.1	92	79.2		
5					0.1	97	80.9		
6					0.0	98	83.6		
芽 室	5. 5					0.0	0	0.0	10
	6					0.2	0	0.0	
	6. 1					0.2	0	0.0	
	2					0.6	0	0.0	
	3					0.8	2	0.1	
	4					0.7	2	0.5	
	5					0.3	9	2.9	
	6					0.2	16.5	7.2	
	7. 1					0.0	23	14.6	
	2					0.0	26.5	18.9	
	3					0.0	27.5	23.9	
	4					0.0	28.5	27.9	
	5					0.0	26	31.7	
	6					0.0	26	33.1	
	8. 1					0.0	27	34.6	
	2					0.3	28.5	35.4	
	3					0.7	29.5	35.5	
	4					0.7	28.5	38.1	
5					0.8	28.5	37.7		
6					0.2	31.5	40.9		
9. 1					0.1	34	43.9		
2					0.1	42	46.9		
3					0.0	56	48.1		
4					0.0	62.5	51.2		
5					0.0	73	53.2		
6					0.0	80	54.3		
訓 子 府	5. 5					0.0	0.0	0.0	10
	6					0.0	0.0	0.0	
	6. 1					0.0	0	0.0	
	2					0.0	0	0.0	
	3					0.1	0	0.0	
	4					0.3	0	0.0	
	5					0.0	4	0.1	
	6					0.2	8	0.7	
	7. 1					0.0	17	0.8	
	2					0.0	22	3.4	
	3					0.1	22	6.8	
	4					0.0	23	9.8	
	5					0.0	25	13.9	
	6					0.0	27	16.7	
	8. 1					0.0	30	19.4	
	2		0.5			0.4	31	22.4	
	3			1	1	0.9	31	24.6	
	4					0.1	42	27.1	
5					0.6	45	28.7		
6					0.3	53	32.0		
9. 1					0.0	55	36.5		
2					0.4	56	41.3		
3					0.0	61	46.2		
4					0.0	63	50.9		
5					0.0	64	55.2		
6					0.0	67	58.1		

注) 卵塊数は50株調査、食害程度は25株調査

予察灯によるヨトウガ成虫の発生期及び予察ほにおける産卵期

		長沼		比布		訓子府	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第一回成虫	初飛来日（月日）	6月13日	6月7日	6月3日	6月9日	-	5月31日
	最盛期（月日）	6月13日	6月9日	-	6月7日	-	-
	50%誘殺日（月日）	6月23日	6月8日	-	6月7日	-	-
	終息日（月日）	6月23日	6月10日	6月3日	6月17日	-	-
	総誘殺数（頭）	2	1.0	1	1.2	0	0.6
	産卵初発（月半旬）	6.Ⅳ	6.Ⅱ	-	-	-	6.Ⅳ
第二回成虫	初飛来日（月日）	7月29日	8月7日	-	8月12日	-	8月13日
	最盛期（月日）	7月30日	8月17日	-	8月16日	-	-
	50%誘殺日（月日）	8月4日	8月18日	-	8月15日	-	-
	終息日（月日）	9月23日	9月10日	-	8月29日	-	8月30日
	総誘殺数（頭）	7	8.9	0	8.4	0	2.7
	産卵初発（月半旬）	7.Ⅴ	8.Ⅰ	-	-	8.Ⅱ	8.Ⅲ
平年数		10		10		10	

注) ローマ数字は半旬を示す。

予察灯によるヨトウガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5. 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.1	0	0.0	0	0.0
6	0	0.1	0	0.0	0	0.3
6. 1	0	0.4	1	0.1	0	0.0
2	0	0.1	0	0.6	0	0.2
3	1	0.1	0	0.2	0	0.0
4	0	0.1	0	0.2	0	0.1
5	1	0.1	0	0.1	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	欠測	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.1	0	0.0
6	2	0.2	0	0.2	0	0.1
8. 1	2	0.7	0	0.5	0	0.1
2	0	1.9	0	0.7	0	0.3
3	0	0.7	0	2.3	0	0.6
4	1	0.5	0	1.9	0	1.0
5	0	0.7	0	1.0	0	0.4
6	0	0.4	0	0.5	0	0.1
9. 1	0	0.3	0	0.3	0	0.0
2	0	0.7	0	0.7	0	0.0
3	欠測	0.8	0	0.0	0	0.1
4	0	0.3	0	0.1	0	0.0
5	1	0.9	0	0.0	0	0.0
6	0	0.2	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10	

注) 予察灯は、長沼・比布・訓子府は100W高圧水銀灯

巡回調査結果

一般ほにおけるてんさいのヨトウガ被害株率および食害程度

振興局	普及センター	地点数	被害株率 (%)				食害程度
			6月6半旬	7月3半旬	8月6半旬	9月3半旬	
空知	南東部	1	18.0	15.0	5.0	15.0	8.0
石狩	本所	3	8.0	16.7	46.0	92.0	6.7
後志	本所	3	11.3	2.0	0.7	38.0	1.0
胆振	本所	4	0	2.5	17.5	21.0	5.0
	東胆振	3	11.3	25.3	84.0	94.7	12.0
上川	富良野	2	1.0	8.0	16.5	21.0	17.0
	大雪	2	0	0	2.0	8.0	0
	士別	4	41.8	82.5	96.5	100.0	19.8
	名寄	1	10.0	46.0	100.0	100.0	20.0
オホーツク	本所	9	16.9	31.4	19.1	48.7	11.6
	清里	6	28.3	28.5	29.3	61.0	10.3
	網走	2	13.0	25.0	47.0	65.0	15.0
	美幌	5	2.0	6.2	15.8	19.8	6.2
	遠軽	4	17.3	35.3	38.0	37.3	12.8
十勝	本所	5	3.6	8.0	14.4	32.8	5.2
	東部	4	19.0	16.0	3.8	12.5	4.3
	東北部	2	19.0	29.5	19.0	18.0	25.5
	北部	3	8.7	21.0	23.7	38.7	6.0
	西部	3	16.7	21.3	29.0	34.7	23.0
	南部	7	1.7	22.4	12.6	39.7	11.0

注) 被害株率：50株調査、食害程度：25株調査

6 テンサイモグリハナバエ 発生期 並 発生量 やや多

発生面積 1,505 ha (3.1% : 平年 0.4%) 被害面積 288 ha (0.6% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率及び被害面積率は平年よりやや多かった。

発生原因の解析

・近年は少発生が続いたが、本年は夏季の高温により、増殖に好適であったと推測される。

7 テンサイトビハムシ 発生期 並 発生量 やや多

発生経過の概要

・予察ほにおける被害の初発期は、芽室町及び訓子府町で平年よりやや早く、長沼町では平年よりやや遅かった。
・被害程度は、芽室町で平年より高く、長沼町及び訓子府町では平年並であった。

発生原因の解析

・4月～6月の気温が高く経過したため、加害に好適であった。

地点	被害初発期		被害最盛期		平年数
	本年	平年	本年	平年	
長沼	5. III	5. II	6. I	5. VI	10
芽室	5. II	5. III	5. VI	6. I	10
訓子府	5. II	5. III	6. II	6. II	9

注) ローマ数字は半旬を示す。

予察ほにおけるテンサイトビハムシの被害推移

月半旬	長 沼		芽 室		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	1.2	0	0.0	0	0.0
2	0	2.0	2	1.3	0	0.0
3	2	8.0	12	3.0	1	1.9
4	9	17.4	28	5.6	4	7.2
5	18	20.5	34	7.6	14	14.4
6	21	26.9	38	9.9	22	20.9
6. 1	25	27.1	38	13.2	26	21.3
2	25	27.1	37	12.3	27	23.6
平年数	10		10		9	

注) 調査株数は25株。

8 シロオビノメイガ 発生期 早 発生量 多

発生経過の概要

- ・予察灯による誘殺の初発期は、長沼町で平年より早かった。
- ・誘殺数は長沼町で平年より多く、比布町で平年並であった。

発生原因の解析

- ・6月下旬に長沼町で早期の飛来があった。8～9月には次世代の発生が認められ、高温経過で増殖に好適であったと推測される。

予察灯によるシロオビノメイガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		訓子府	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	1	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.1	0	0.0	0	0.0
2	欠測	0.2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.2	0	0.0	0	0.0
4	0	0.2	0	0.0	0	0.0
5	2	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.1	0	0.0	0	0.0
8. 1	0	0.1	0	0.0	0	0.0
2	1	0.2	0	0.1	0	0.0
3	0	0.9	0	0.1	0	0.0
4	3	0.6	0	0.2	0	0.0
5	10	0.5	0	0.0	0	0.0
6	14	1.2	0	0.2	0	0.5
9. 1	5	1.9	0	0.2	0	0.0
2	1	3.2	0	0.2	0	0.2
3	欠測	2.7	1	0.1	0	0.3
4	3	1.6	0	0.2	0	0.1
5	2	1.4	0	0.3	0	0.3
6	6	0.9	0	0.1	0	0.0
10. 1	3	1.2	-	0.0	0	0.7
2	1	0.8	-	0.8	0	0.0
3	4	0.1	-	0.0	-	0.0
4	0	0.1	-	-	-	0.0
5	-	0.0	-	-	-	0.0
6	-	0.0	-	-	-	-
平年数	10		10		10	

(IX) たまねぎの病害虫

予察ほにおけるたまねぎの生育期

地点	品種名	移植期(月日)		倒伏期(月日)		枯葉期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	北もみじ2000	4月24日	4月23日	7月15日	7月29日	8月4日	8月15日	10
訓子府	北もみじ2000	4月24日	5月9日	7月23日	8月8日	8月12日	8月29日	10

1 白斑葉枯病 発生期 遅 発生量 少

発生面積 698 ha (4.7% : 平年 31.4%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 3.2%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける初発期は、長沼町では平年並で、訓子府町では平年よりやや早かった。発生量は長沼町、訓子府町ともに平年より少なかった。
- ・一般ほにおける発生期は平年並の地域も見られたが全道的には平年より遅かった。発生面積率、被害面積率はいずれも平年より低かった。

発生原因の解析

- ・初発に影響しやすい6月中旬前後の降雨が少なく、また7月以降も降雨が少なかったため、発病及びまん延に好適な気象条件ではなかった。
- ・適切な防除が実施されている。

予察ほにおける白斑葉枯病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月.半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	北もみじ2000	6月16日	6月15日	6.6	7.4	10
訓子府	北もみじ2000	6月24日	6月27日	7.2	7.6	10

予察ほにおける白斑葉枯病の発生状況

地点	長沼				訓子府			
	北もみじ2000							
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度		発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.2	0	0	0	0	0	0	0	0
6.4	2.0	28.0	0.5	7.0	0	0	0	0
6.6	8	80.8	2.0	21.6	4.0	5.2	1.0	1.3
7.2	14	94.2	3.5	34.0	14.0	16.0	3.5	4.0
7.4	18	100	4.5	53.1	16.0	33.8	4.0	7.5
7.6	—	100	—	78.6	—	72.0	—	22.1

注1) —は調査不能

巡回調査結果

一般ほにおける白斑葉枯病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)		
		6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬
空知	本所	0.4	0	0
	南東部	0	0	0
	南西部	0	0	0
	中空知	4.0	0	0
石狩	北部	0	0	0
上川	富良野	0	0	4.0
	大雪	0	0	0
	士別	0	2.5	0
オホーツク	本所	0	0	0
	清里	0	0	0
	美幌	0	0	0
	遠軽	0	0	1.0
十勝	本所	0	0	0
	東部	6.5	10.0	15.0

2 軟腐病 発生期 — 発生量 少

発生面積 3,836 ha (25.7% : 平年 43.9%) 被害面積 40 ha (0.3% : 平年 6.5%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける発生量は平年よりやや少なかった。
- ・一般ほにおける発生面積率は上川地方で高かったが全道的には平年より低かった。被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

- ・たまねぎの生育期間を通して、気温は高かったものの、多雨にならず、日照時間も長かったことから発病に好適な条件ではなかった。
- ・防除が適切に実施されており、発生量が低く抑えられた。

予察ほにおける軟腐病の発生状況

地点	長沼	
品種名	北もみじ2000	
収穫時	本年	平年
発病球率(%)	3.0	5.5

平年数:10年

3 乾腐病 発生期 — 発生量 少

発生面積 1,525ha (10.2% : 平年 19.7%) 被害面積 70 ha (0.5% : 平年 1.0%)

発生経過の概要

- ・予察ほでの発生は認められなかった。
- ・一般ほにおける発生面積率は石狩地方で平年より高かったが、全道的には平年より低かった。被害面積率ともに平年より低かった。

発生原因の解析

- ・施肥が適切に行われ、移植が良好な天候により順調に進み、定植後の活着が良好であったことから、本病の侵入門戸となる根傷みの発生が少なかったものと推測される。

予察ほにおける乾腐病の発生状況

地点	長沼	
品種名	北もみじ2000	
収穫時	本年	平年
発病球率(%)	0	0.3

平年数:10年

4 タマネギバエ・タネバエ 発生期 ー 発生量 少
 発生面積 444 ha (3.0% : 平年 5.6%) 被害面積 18 ha (0.1% : 平年 0.4%)

発生経過の概要

- ・一般ほでの発生面積率及び被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

- ・5月上旬は高温並雨で移植栽培においては概ね活着は良好であった。
- ・タネバエ・タマネギバエの被害を受けやすい直播栽培が多い十勝地方においては発生が目立った。

5 ネギアザミウマ 発生期 早 発生量 やや多
 発生面積 14,048 ha (94.3% : 平年 91.7%) 被害面積 1,730 ha (11.6% : 平年 12.5%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける成虫の初発期は、長沼町訓子府町いずれの地点においても平年並であった。幼虫の初発期は、長沼町で平年より早く、訓子府町では平年並であった。
- ・寄生虫数は、長沼町で平年並、訓子府町では平年より多かった。被害程度は、両地点で平年よりやや高かった。
- ・一般ほでの発生面積率は平年よりやや高く、被害面積率は平年並であった。

発生原因の解析

- ・栽培期間を通じ高温に経過し増殖・加害に好適な条件であった。多雨となった時期もあったものの平年よりやや多い発生となった。
- ・近年本種に対して効果の高い薬剤の登録が増加しており、一般ほでは防除が適切に行われた。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生期

		長沼		訓子府	
		本年	平年	本年	平年
成虫	初発期	6. I	6. I	5. VI	5. VI
	最盛期	7. II	7. IV	7. II	7. III
幼虫	初発期	5. VI	6. II	6. III	6. III
	最盛期	7. II	7. IV	7. II	7. IV
被害	初発期	5. VI	6. II	5. VI	6. I
	最盛期	7. II	7. IV	7. III	7. IV

注) ローマ数字は半旬を示す。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況と被害推移

	月半旬	成虫数		幼虫数		被害程度指数		寄生株率(%)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長 沼	5. 5	0	-	0	-	0	-	0	-	10
	6	0	0.1	0	0.1	0	0.1	0	0.4	
	6. 1	0	1.1	2	0.0	0.3	0.4	1	3.8	
	2	1	3.5	2.3	0.1	0.8	1.8	5	11.5	
	3	4.3	6.5	0.5	1.7	4.8	5.0	16	16.6	
	4	11	16.7	17.5	11.8	13.5	10.7	42	33.2	
	5	21.5	19.5	27.5	70.9	25.5	16.9	76	40.9	
	6	20	25.6	115	182.8	29	21.5	86	47.4	
	7. 1	65	42.3	40	210.2	32	27.6	88	55.0	
	2	86	77.9	94	179.8	41	35.4	96	70.4	
	3	106	145.1	198	452.9	67	45.3	100	77.2	
	4	-	147.4	-	716.5	-	54.5	-	78.8	
5	-	160.2	-	1570.2	-	62.9	-	88.9		
6	-	127.3	-	554.0	-	66.7	-	92.9		
8. 1	-	41.6	-	76.5	-	40.5	-	70.0		
2	-	-	-	-	-	-	-	-		
訓 子 府	5. 5	-	-	-	-	-	-	-	-	10
	6	0	-	0	-	0	-	0	-	
	6. 1	0	0.7	0	0.0	0	1.2	0	2.8	
	2	2	4.7	0	0.0	0	5.3	4	11.2	
	3	3	17.7	0	0.5	2	9.1	4	24.4	
	4	29	24.0	0	4.5	15	14.6	80	32.8	
	5	60	51.1	16	31.6	24	22.6	92	54.0	
	6	122	52.0	544	238.5	41	34.7	100	70.4	
	7. 1	22	39.3	1594	529.7	49	44.6	100	83.2	
	2	312	45.2	1817	889.4	70	53.9	100	91.2	
	3	651	82.8	1126	1072.1	71	65.1	100	96.0	
	4	723	129.1	2894	1061.0	90	77.4	100	98.4	
	5	475	122.6	2630	1220.7	100	87.5	100	100.0	
	6	149	117.2	1892	1120.4	100	92.2	100	100.0	
8. 1	-	84.1	-	860.2	-	95.2	-	98.8		
2	-	77.5	-	984.3	-	96.6	-	96.8		

注) 調査株数は25株、抽出心葉を含む3葉当たりを調査した数値。

-は倒伏による調査打ち切り。

巡回調査結果

一般ほにおけるネギアザミウマ寄生株率

振興局	普及センター	地点数	寄生株率(%)		
			6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬
空知	本所	5	7.4	12.8	25.6
	南東部	3	64.0	63.3	54.3
	南西部	3	6.7	48.3	73.3
	中空知	2	4.0	25.0	33.0
石狩	北部	2	12.0	14.0	4.0
上川	富良野	4	31.0	27.0	43.0
	大雪	1	5.0	20.0	35.0
	士別	2	70.0	92.0	100.0
オホーツク	本所	8	17.5	12.5	7.5
	清里	2	52.0	52.0	76.0
	美幌	4	3.0	1.0	5.0
	遠軽	1	23.0	44.0	0
十勝	本所	1	50.0	60.0	60.0
	東部	2	8.0	40.0	42.0

6 ネギハモグリバエ 発生期 並 発生量 少
発生面積 702ha (4.7% : 平年 17.1%) 被害面積 39 ha (0.3% : 平年 2.3%)

発生経過の概要

- ・一般ほにおける初発期は5月4～6半旬と平年並であった。
- ・一般ほにおける発生面積率、被害面積率はいずれも平年より低かった。

発生原因の解析

- ・一般ほでは防除が適切に行われた。

(X) ねぎの病害虫

予察ほにおけるねぎの生育期

地点	品種名	作型	播種期(月日)		定植期(月日)		平年数
			本年	平年	本年	平年	
滝川	元蔵	夏秋どり	4月14日	4月11日	6月10日	6月16日	10

1 さび病 発生期 ー 発生量 少

発生面積 37ha (6.1% : 平年 12.3%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.3%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける発生量は平年並であった。
- ・一般ほにおける発生面積率は平年より低く、被害はなかった。

発生原因の解析

- ・秋期が冷涼・多湿な条件にならなかった。
- ・防除が適切に行われた。

予察ほにおけるさび病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月.半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
滝川	元蔵	9月5日	9月7日	10.4	10.2	10

予察ほにおけるさび病の発生状況

地点	滝川			
品種名	元蔵			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
8.2	0	5.4	0	1.4
8.4	0	7.2	0	1.8
8.6	0	10.6	0	3.4
9.2	8	19.6	2.0	7.7
9.4	14	35.0	6.5	13.4
9.6	36	49.8	15.0	23.2
10.2	60	61.0	28.0	31.0
10.4	88	65.6	48.0	35.4
10.6	92	68.2	55.0	38.2

2 べと病 発生期 遅 発生量 少

発生経過の概要

- ・滝川市の予察ほにおける初発期は平年より遅く、発生量は平年より少なかった。

発生原因の解析

- ・8月と9月の降水量は多かったものの、かなりの高温に推移したため、発病が抑制された。

予察ほにおけるべと病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月.半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
滝川	元蔵	10月21日	9月26日	-	10.2	9

注) 発生量が少ないため最盛期は評価不能

予察ほにおけるべと病の発生状況

地点	滝川			
品種名	元蔵			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
8.2	0	0	0	0
8.4	0	0	0	0
8.6	0	0	0	0
9.2	0	0.6	0	0.2
9.4	0	20.4	0	10.1
9.6	0	30.6	0	23.6
10.2	0	31.8	0	30.5
10.4	2	39.6	0.5	32.8
10.6	2	41.8	0.5	33.5

3 ネギアザミウマ 発生期 やや早 発生量 多
 発生面積 576 ha(95.7% : 平年 72.0%) 被害面積 304 ha(50.0% : 平年 13.3%)

発生経過の概要

・一般ほでの発生面積率、被害面積率はいずれも平年並であった。

発生原因の解析

・6～9月は高温であったため、増殖と加害に好適な条件となった。
 ・近年本種に対して効果の高い薬剤の登録が増加しており、一般ほでは防除が適切に行われた。

4 ネギコガ 発生期 - 発生量 -
 発生面積 2 ha(0.3% : 平年 -%) 被害面積 0 ha(0% : 平年 -%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は0.3%、被害も認められなかった。

5 ネギハモグリバエ 発生期 - 発生量 -
 発生面積 63 ha(10.5% : 平年 -%) 被害面積 7 ha(1.2% : 平年 -%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は10.5%、被害面積率は1.2%であった。

(XI) ながいもの病害虫

1 アブラムシ類 発生期 - 発生量 -
発生面積 22 ha (1.3% : 平年 -%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 -%)

発生経過の概要

- ・一般ほにおける発生面積率は1.3%、被害は認められなかった。

(XII) にんじんの病害虫

1 黒葉枯病 発生期 - 発生量 少
発生面積 401 ha (9.6% : 平年 23.8%) 被害面積 8 ha (0.2% : 平年 2.2%)

発生経過の概要

- ・一般ほにおける発生面積率、被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

- ・前年の発生が少なく、一次伝染源となる残渣が少なかったと推測される。
- ・夏季の高温時期に降雨が少なく、初期の発病に好適な気象条件ではなかった。
- ・適切な防除が実施されている。

(XIII) だいこんの病害虫

1 軟腐病 発生期 - 発生量 並
発生面積 835 ha (32.1% : 平年 33.2%) 被害面積 146 ha (5.6% : 平年 6.4%)

発生経過の概要

- ・一般ほにおける発生面積率、被害面積率はともに平年並であった。

発生原因の解析

- ・7月は高温ではあるものの降雨が少なく、発病が抑えられた。一方で、8月以降は気温が高く降水量も多く発病に好適な気象条件であった。
- ・発病に好適な気象条件となった時期はあったものの、適切な防除が実施されており、平年並の発病に抑えることができた。

2 キスジトビハムシ 発生期 - 発生量 やや少
発生面積 584 ha (22.5% : 平年 23.0%) 被害面積 22 ha (0.8% : 平年 1.5%)

発生経過の概要

- ・一般ほにおける発生面積率は平年並、被害面積率は平年よりやや低かった。

発生原因の解析

- ・夏季は高温に経過し、成虫の産卵に好適な条件となった。
- ・一般ほでは防除が適切に行われた。

(XIV) キャベツ・ブロッコリーの病害虫

予察ほにおけるキャベツの生育期

地点	作型	品種名	播種期(月日)		定植期(月日)		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼	7月どり	金系201号	4月21日	4月26日	5月19日	5月22日	10
	8月どり	金系201号	5月28日	6月3日	6月24日	6月30日	10
	9月どり	ボールランナー	6月30日	7月2日	7月30日	7月31日	10
北斗	7月どり	金系201号	-	4月18日	-	5月13日	9
	8月どり	金系201号	-	5月18日	-	6月12日	9
	9月どり	金系201号	-	6月19日	-	7月14日	9

注1) 北斗での調査は休止(以下のキャベツ害虫調査も同様)

1 モンシロチョウ キャベツ 発生期 並 発生量 やや多

発生経過の概要

・長沼町の予察ほでは、7月までは発生量が多かったものの8月以降急減した。

発生原因の解析

・春季から夏季は高温に経過し発生に好適な条件になったものの、8月は多雨となり密度が急減した。

予察ほにおけるモンシロチョウの発生期

		長沼				北斗			
		産卵		幼虫		産卵		幼虫	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	5. V	5. V	5. VI	6. I	-	5. IV	-	5. V
	最盛期	6. I	6. I	6. IV	6. III	-	5. VI	-	6. II
第2回	初発期	6. IV	6. V	6. VI	7. I	-	6. V	-	6. V
	最盛期	6. VI	7. III	7. II	7. IV	-	7. I	-	7. III
第3回	初発期	7. VI	7. VI	8. II	8. II	-	7. VI	-	7. VI
	最盛期	8. I	8. III	8. IV	8. IV	-	8. I	-	8. II
第4回	初発期	8. V	8. VI	8. V	9. II	-	8. V	-	8. V
	最盛期	8. VI	9. IV	9. I	9. V	-	9. I	-	9. III

注) ローマ数字は半月を示す。

予察ほにおけるモンシロチョウの発生状況

作型	月半旬	長沼				北斗			
		産卵数		幼虫数		産卵数		幼虫数	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月どり	5.4	-	-	-	-	-	20.3	-	1.1
	5	11	2.1	0	0.0	-	19.4	-	5.8
	6	21	6.9	2	0.1	-	16.8	-	12.7
	6.1	30	7.0	10	2.8	-	6.4	-	15.6
	2	3	4.8	36	5.7	-	5.4	-	15.8
	3	0	2.4	24	7.2	-	9.2	-	16.9
	4	1	2.6	36	7.8	-	7.9	-	16.9
	5	12	8.9	12	4.5	-	14.2	-	14.5
	6	106	29.3	16	6.0	-	33.4	-	15.2
	7.1	20	73.9	18	20.5	-	42.1	-	29.0
	2	2	60.5	70	48.9	-	20.5	-	34.0
	3	0	21.6	8	81.6	-	9.7	-	45.9
8月どり	7.1	100	37.8	83	1.3	-	83.4	-	22.1
	2	0	57.0	110	34.9	-	64.4	-	46.4
	3	0	32.5	1	50.8	-	56.3	-	75.5
	4	0	30.6	0	68.3	-	16.5	-	84.6
	5	-	15.6	-	43.4	-	4.4	-	75.7
	6	-	15.1	-	26.3	-	4.4	-	37.1
	8.1	-	30.1	-	24.6	-	18.4	-	18.7
	2	-	35.3	-	24.1	-	4.3	-	12.3
	3	-	20.2	-	24.9	-	3.1	-	15.3
9月どり	8.1	8	24.3	0	2.8	-	95.5	-	41.4
	2	2	14.2	1	10.3	-	61.8	-	87.9
	3	1	12.1	4	14.4	-	19.8	-	80.4
	4	0	5.8	4	10.1	-	4.1	-	49.6
	5	5	2.6	2	6.8	-	8.7	-	19.3
	6	10	5.4	4	6.2	-	10.2	-	15.9
	9.1	2	9.9	5	4.8	-	9.0	-	16.8
	2	3	17.3	4	4.0	-	6.4	-	14.0
	3	3	24.0	3	6.7	-	6.1	-	16.1
	4	2	31.8	5	14.9	-	10.7	-	15.1
	5	1	42.1	3	19.5	-	2.1	-	15.8
	6	2	25.0	2	23.7	-	1.6	-	14.0

注) 産卵数・幼虫数の調査株数は10株。

2 コナガ	キャベツ	発生期 早	発生量 やや多
	発生面積 588 ha(55.5% : 平年 51.4%)	被害面積 54 ha(5.1% : 平年 3.2%)	
	ブロッコリー	発生期 早	発生量 並
	発生面積 2,324 ha(70.6% : 平年 65.6%)	被害面積 280 ha(8.5% : 平年 12.2%)	

発生経過の概要

- ・フェロモントラップによる成虫の誘殺開始時期は平年より早かった。春季の誘殺数は平年より多かった。
- ・予察ほどの寄生幼虫数は、6月、7月は高く推移したが、その後は減少した。
- ・一般ほのキャベツにおける発生面積率は平年並、被害面積率は平年よりやや高かった。
- ・一般ほのブロッコリーにおける発生面積率は平年並、被害面積率は平年よりやや低かった。

発生原因の解析

- ・春季の飛来開始時期は平年より早かった。春季から夏季は高温に経過し発生に好適な条件になり5～7月にかけて多発したものの、8月は多雨となり密度が急減し、以降少発生となった。
- ・一般ほのキャベツにおいては防除が適切に行われた。
- ・ブロッコリーでは花蕾を収穫するため、葉の被害はキャベツより許容されやすく、キャベツと比較して薬剤防除回数が少ないものの、一般ほでは防除が適切に行われた。
- ・近年ジアミド剤抵抗性個体群の飛来が確認されている。

フェロモントラップによるコナガ成虫の発生期

		長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
		本年	平年	本年	前年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初 発 日		4月6日	4月14日	4月11日	4月15日	3月25日	4月4日	-	4月18日	4月23日	4月23日
最 盛 期	第一回	5. II	5. IV	5. II	5. I	5. I	5. III	-	5. IV	5. III	5. IV
	第二回	6. II	6. V	6. I	6. II	6. II	6. III	-	6. III	6. IV	6. IV
	第三回	7. I	7. III	7. III	7. I	7. I	7. III	-	7. III	7. II	7. IV
	第四回	7. V	8. III	8. III	8. II	8. III	8. II	-	8. II	8. VI	8. V
	第五回	9. V	9. III	9. IV	9. IV	9. IV	9. I	-	9. I	9. V	-
平 年 数		10		10		10		10		10	

注) ローマ数字は半旬を示す。
 -は欠測または評価できず。

フェロモントラップによるコナガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
4.	1	0	0.5	-	0.0	0	3.4	-	0.0	0	-
	2	4	0.4	0	1.0	4	3.9	-	0.7	0	0.0
	3	2	1.8	3	8.2	8	8.2	-	1.6	0	0.4
	4	13	1.3	7	4.2	32	8.0	-	1.1	0	0.8
	5	27	0.9	10	5.9	65	7.9	-	2.0	9	0.1
	6	13	2.2	5	16.6	37	13.0	-	1.7	1	0.8
5.	1	36	6.1	22	35.1	204	19.5	-	6.1	3.3	2.5
	2	59	7.1	50	36.6	158	20.9	-	7.0	4.7	2.3
	3	34	5.8	25	66.3	113	29.0	-	9.3	57	3.5
	4	18	8.2	8	57.0	114	35.1	-	8.6	19	4.2
	5	11	15.6	12	74.9	48	35.7	-	13.0	1	9.1
	6	17	20.4	6	48.4	59	45.2	-	9.4	13	12.7
6.	1	20	17.3	11	28.6	57	32.2	-	10.0	4	6.8
	2	60	16.5	8	35.1	94	26.7	-	5.3	16	6.2
	3	41	32.6	4	22.0	33	28.5	-	5.3	14	5.7
	4	37	26.6	6	19.6	58	26.7	-	3.5	18	4.5
	5	49	23.1	7	13.2	28	28.7	-	3.4	2	4.3
	6	78	38.9	18	15.5	114	55.9	-	3.7	2	4.0
7.	1	81	44.9	9	14.2	159	87.6	-	7.8	10	4.6
	2	64	71.4	62	18.7	150	65.4	-	4.6	12	2.6
	3	9	109.7	75	11.7	68	84.0	-	3.6	5	3.9
	4	6	89.4	13	10.3	18	70.4	-	6.6	6	3.5
	5	62	64.9	7	9.1	14	51.5	-	4.5	3	4.7
	6	16	83.1	7	5.7	13	56.8	-	2.8	3	4.8
8.	1	2	36.6	0	7.7	12	52.2	-	4.1	2	2.5
	2	4	28.5	0	3.5	8	29.0	-	3.3	2	1.1
	3	9	28.2	1	5.4	14	14.1	-	1.7	1	1.3
	4	1	29.4	0	2.6	8	25.1	-	1.4	0	1.3
	5	4	27.2	0	1.4	8	13.1	-	0.7	0	1.8
	6	1	21.2	0.3	0.8	9	5.4	-	1.2	2	0.8
9.	1	2	17.4	0.8	2.6	2	5.2	-	1.2	0	1.4
	2	5	21.4	1	1.2	9	5.0	-	0.2	0	0.3
	3	7	13.4	4	1.3	14	5.6	-	0.4	0	0.6
	4	8	9.5	5	1.8	15.5	5.2	-	0.2	1	0.1
	5	10	11.6	4.3	2.4	13.5	4.0	-	0.4	2	0.0
	6	6	9.5	0.8	3.8	10	3.6	-	0.3	0	0.0
平年数	10		10		10		10		10		

予察ほのキャベツにおけるコナガの発生状況

作型	月半旬	長沼				北斗			
		幼虫数		蛹数		幼虫数		蛹数	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月どり	5.4	-	-	-	-	-	0.0	-	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	-	0.1	-	0.0
	6	0	0.3	0	0.0	-	0.3	-	0.0
	6.1	0	2.6	0	0.0	-	2.0	-	0.0
	2	21	6.1	0	0.0	-	5.4	-	0.5
	3	26	20.4	7	2.1	-	11.5	-	2.2
	4	152	34.8	15	11.5	-	18.9	-	6.5
	5	740	71.0	138	13.7	-	30.1	-	17.2
	6	374	148.0	348	27.9	-	27.4	-	24.8
	7.1	90	154.4	54	60.0	-	43.7	-	27.4
8月どり	2	10	111.7	10	47.5	-	89.8	-	37.5
	3	1	250.4	0	37.9	-	232.4	-	58.2
	7.1	2	0.1	4	0.0	-	9.3	-	2.2
	2	307	8.9	12	0.3	-	18.9	-	5.3
	3	261	39.7	40	2.6	-	62.0	-	13.6
	4	39	142.4	36	14.5	-	103.1	-	41.1
	5	9	137.3	20	40.7	-	112.2	-	58.0
	6	0	72.0	2	42.7	-	84.7	-	76.3
	8.1	0	64.4	0	50.1	-	57.7	-	26.4
	2	0	40.0	0	20.1	-	27.0	-	14.6
9月どり	3	0	18.9	0	9.9	-	5.3	-	6.3
	8.1	0	0.6	0	1.5	-	43.9	-	8.6
	2	1	4.8	0	0.6	-	61.0	-	13.7
	3	0	11.9	0	1.5	-	29.4	-	9.9
	4	1	11.3	0	3.4	-	7.9	-	6.6
	5	3	8.1	1	2.0	-	5.2	-	2.0
	6	5	7.2	0	1.6	-	5.3	-	2.2
	9.1	11	7.0	1	0.7	-	8.8	-	3.7
	2	10	6.6	4	1.7	-	3.1	-	4.3
	3	5	11.0	3	1.3	-	1.9	-	4.6
9月どり	4	6	8.6	2	2.5	-	7.1	-	3.1
	5	0	15.6	2	1.7	-	4.8	-	3.4
	6	3	14.4	1	3.4	-	4.2	-	4.1

注) 調査株数は10株。

巡回調査結果

一般ほにおける食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

振興局	普及センター	作物	地点数	食害程度					優占種
				6月3半旬	6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬	8月3半旬	
空知	南西部	キャベツ	1	18.0	12.0	5.0	-	-	コナガ
石狩	本所	キャベツ	2	0	0	0	0	0	
		ブロッコリー	2	0	0	1.0	1.0	0	
	北部	ブロッコリー	1	0	35.0	32.5	-	-	コナガ, モシロ
後志	本所	ブロッコリー	1	0	25.0	5.0	5.0	0	コナガ
胆振	本所	キャベツ	1	-	32.5	7.5	5.0	-	コナガ
	東胆振	キャベツ	1	0	0	0	-	-	
上川	大雪	ブロッコリー	2	-	11.3	10.0	15.0	-	コナガ
	士別	ブロッコリー	1	-	25.0	25.0	35.0	42.5	コナガ, ヨトリガ
オホーツカ	美幌	ブロッコリー	1	-	10.0	25.0	25.0	-	コナガ
十勝	東部	キャベツ	1	-	15.0	18.0	8.0	-	コナガ
	北部	ブロッコリー	1	25.0	27.0	33.0	-	-	コナガ
	西部	キャベツ	1	30.0	38.0	38.0	-	-	コナガ

注) 10株調査

3 ヨトウガ キャベツ 発生期 やや早 発生量 やや少
発生面積 240 ha (22.6% : 平年 37.0%) 被害面積 15 ha (1.4% : 平年 1.6%)
ブロッコリー 発生期 やや早 発生量 少
発生面積 1,105 ha (33.6% : 平年 43.4%) 被害面積 10 ha (0.3% : 平年 3.3%)

発生経過の概要

- ・予察ほのてんさいにおける発生期は第1回、第2回ともに平年よりやや早かった（てんさいのヨトウガの項参照）。
- ・一般ほのキャベツにおける発生面積率は平年より低く、被害面積率は平年並であった。
- ・一般ほのブロッコリーにおける発生面積率はと平年よりやや低く、被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

- ・前年、第2回目の発生量はやや多く、越冬密度はやや高かったと推測される。
- ・てんさいでの発生は平年よりやや多から多く推移した。
- ・ブロッコリーでは花蕾を収穫するため、葉の被害はキャベツより許容されやすく、キャベツと比較して薬剤防除回数が少ない。
- ・一般ほにおいては、いずれも、防除が適切におこなわれた。

予察ほのキャベツにおけるヨトウガ卵塊数

作 型	月半旬	長沼		北斗	
		本 年	平 年	本 年	平 年
7 月 ど り	5.4	-	-	-	0.0
	5	0	0.0	-	0.0
	6	0	0.0	-	0.0
	6.1	0.5	0.1	-	0.2
	2	1.5	0.9	-	0.2
	3	0	1.0	-	0.2
	4	1	0.4	-	0.1
	5	0	0.8	-	0.1
	6	0	0.4	-	0.0
	7.1	0	0.2	-	0.0
	2	0	0.1	-	0.0
	3	0	0.1	-	0.0
8 月 ど り	7.1	0	0.1	-	0.1
	2	0	0.0	-	0.1
	3	0	0.0	-	0.1
	4	0	0.0	-	0.0
	5	0	0.1	-	0.0
	6	0	0.1	-	0.0
	8.1	0	0.1	-	0.0
	2	0	0.2	-	0.0
	3	0	0.6	-	0.0
9 月 ど り	8.1	0	0.0	-	0.1
	2	0	0.0	-	0.0
	3	0	0.2	-	0.0
	4	0	0.0	-	0.0
	5	0	0.1	-	0.1
	6	0	0.1	-	0.0
	9.1	0	0.1	-	0.0
	2	0	0.1	-	0.0
	3	0	0.2	-	0.0
	4	0	0.1	-	0.0
	5	0	0.3	-	0.1
6	0	0.1	-	0.0	

注) 調査株数は10株。

(XV) 野菜類の病害虫

1 タマナヤガ 発生期 やや早 発生量 並

発生経過の概要

- ・フェロモントラップによる第1回成虫初誘殺期は北斗市、訓子府町で平年より早く、比布町で平年よりやや早く、長沼町では平年より遅かった。
- ・誘殺数は訓子府町で平年より多く、長沼町、比布町および北斗市で平年並であった。

フェロモントラップによるタマナヤガ成虫の発生期

		長沼		比布		北斗		芽室		訓子府		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
タ マ ナ ヤ ガ	第一回	初飛来日 (月日)	5月10日	4月22日	4月17日	4月20日	3月25日	4月7日	-	5月2日	4月23日	5月5日
		最盛期 (月日)	5月25日	6月9日	5月13日	5月28日	6月4日	5月21日	-	-	6月5日	6月6日
		終息日 (月日)	6月30日	7月9日	6月12日	6月24日	6月23日	7月3日	-	5月30日	6月20日	6月25日
		総誘殺数 (頭)	25	49.7	85	98.9	63	75.7	-	1.6	30	16.0
タ マ ナ ヤ ガ	第二回	初飛来日 (月日)	7月12日	7月21日	6月17日	7月2日	7月5日	7月14日	-	-	6月30日	7月25日
		最盛期 (月日)	8月7日	8月1日	7月9日	7月28日	8月26日	7月27日	-	-	8月5日	8月8日
		終息日 (月日)	8月25日	8月31日	8月26日	8月27日	8月26日	8月20日	-	-	8月25日	8月9日
		総誘殺数 (頭)	36	21.2	60	43.5	35	19.6	-	0.3	54	6.9

フェロモントラップによるタマナヤガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
4.	1	0	0.0	-	-	0	1.3	-	0.0	0	-
	2	0	0.6	0	2.0	8	2.4	-	0.0	0	-
	3	0	1.4	0	6.8	5	4.4	-	0.2	0	1.9
	4	0	1.4	2	2.7	2	8.3	-	0.2	0	0.4
	5	0	1.6	7	5.3	7	9.6	-	0.6	5	0.0
	6	0	0.7	4	4.4	5	3.6	-	0.0	0	0.5
5.	1	0	2.3	5	6.2	7	4.5	-	0.1	0	0.8
	2	2	2.3	8	7.0	5	5.1	-	0.3	1	1.0
	3	3	3.3	16	11.4	3	4.9	-	0.3	6	1.0
	4	3	4.4	9	10.7	2	4.3	-	0.0	3	1.4
	5	4	3.7	13	9.7	5	2.4	-	0.1	1	0.9
	6	2	1.8	6	8.8	3	3.0	-	0.0	3	1.0
6.	1	3	2.8	3	6.6	5	3.5	-	0.0	3	1.5
	2	2	3.8	9	7.3	1	3.0	-	0.3	6	1.7
	3	1	3.9	3	7.8	2	4.4	-	0.0	3	1.8
	4	0	4.2	3	6.0	1	5.3	-	0.0	0	1.0
	5	3	3.1	8	4.5	2	5.8	-	0.1	0	0.9
	6	2	3.5	4	3.8	0	4.5	-	0.0	3	0.2
7.	1	0	3.5	9	5.3	2	3.3	-	0.0	1	1.5
	2	0	2.4	9	4.5	0	1.5	-	0.1	6	0.3
	3	3	1.4	9	4.7	5	2.8	-	0.0	5	1.5
	4	5	1.9	4	3.1	2	2.0	-	0.0	1	0.7
	5	1	2.4	3	2.7	1	2.4	-	0.0	5	0.6
	6	4	1.4	1	1.7	2	2.5	-	0.1	3	0.1
8.	1	4	3.3	4	6.3	0	1.1	-	0.0	19	0.9
	2	8	3.5	2	6.0	2	3.1	-	0.1	4	2.5
	3	5	4.4	2	3.0	9	1.9	-	0.0	1	0.7
	4	3	1.8	1	1.4	3	1.6	-	0.0	2	0.0
	5	3	0.6	0.5	0.3	5	1.4	-	0.0	4	0.1
	6	0	0.5	0.5	0.1	4	0.9	-	0.0	0	0.1
9.	1	0	0.9	0	0.5	0	0.9	-	0.0	0	0.1
	2	0	0.5	0	0.3	0	0.3	-	0.0	0	0.0
	3	0	0.3	0	0.2	0	0.0	-	0.0	0	0.1
	4	0	0.1	0	0.0	0	0.0	-	0.0	0	0.0
	5	1	0.0	0	0.0	0	0.0	-	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	0.0	0	0.0
平年数		10		10		10		10		10	

2 シロイチモジヨトウ 発生期 - 発生量 -

発生経過の概要

- ・フェロモントラップによる初誘殺は長沼町で5月中旬、北斗市で6月上旬であった。
- ・8月中旬以降誘殺数は多く推移した。8月以降各地のてんさいで被害が認められた。

フェロモントラップによるシロイチモジヨトウ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		北斗	
	本年	平年	本年	平年
4. 1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	0	-
5. 1	0	-	0	-
2	0	-	0	-
3	0	-	0	-
4	2	-	0	-
5	1	-	0	-
6	1	-	0	-
6. 1	1	-	1	-
2	5	-	15	-
3	4	-	4	-
4	9	-	10	-
5	8	-	10	-
6	6	-	2	-
7. 1	1	-	5	-
2	3	-	24	-
3	7	-	21	-
4	13	-	17	-
5	47	-	10	-
6	31	-	9	-
8. 1	3	-	10	-
2	5	-	19	-
3	50	-	7	-
4	491	-	207	-
5	255	-	225	-
6	198	-	58	-
9. 1	59	-	56	-
2	318	-	399	-
3	236	-	635	-
4	159	-	662.5	-
5	60	-	247.5	-
6	289	-	285.5	-
平年数	1		1	

注) 長沼町はファネルトラップ、北斗市は粘着板トラップ

3 ハスモンヨトウ 発生期 - 発生量 -

発生経過の概要

- ・フェロモントラップによる初誘殺は長沼町及び北斗市で6月中旬であった。
- ・誘殺数は8月以降多く推移した。

フェロモントラップによるハスモンヨトウ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		北斗	
	本年	平年	本年	平年
4. 1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	0	-
5. 1	0	-	0	-
2	0	-	0	-
3	0	-	0	-
4	0	-	0	-
5	0	-	0	-
6	0	-	0	-
6. 1	0	-	0	-
2	0	-	0	-
3	3	-	2	-
4	4	-	43	-
5	26	-	111	-
6	14	-	102	-
7. 1	10	-	60	-
2	15	-	119	-
3	5	-	131	-
4	10	-	14	-
5	3	-	15	-
6	7	-	117	-
8. 1	55	-	224	-
2	35	-	254	-
3	49	-	294	-
4	45	-	191	-
5	9	-	150	-
6	6	-	226	-
9. 1	8	-	216	-
2	31	-	275	-
3	37	-	286	-
4	22	-	325.5	-
5	5	-	152.5	-
6	4	-	221.5	-
平年数	1		1	

注) 長沼町はファネルトラップ、北斗市は粘着板トラップ

(XVI) りんごの病害虫

予察園におけるりんごの生育期

地点	品種名	発芽期(月日)		展葉期(月日)		開花始(月日)		満開期(月日)		落花期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	つがる	4月22日	4月20日	5月4日	4月30日	5月20日	5月17日	5月22日	5月22日	5月31日	5月30日	10
	王林	4月18日	4月19日	4月30日	4月29日	5月15日	5月14日	5月20日	5月19日	5月27日	5月26日	10
	相伝ふじ	4月23日	4月20日	5月3日	4月28日	5月19日	5月15日	5月21日	5月21日	5月30日	5月28日	8
余市B	昂林	4月13日	4月10日	4月26日	4月24日	5月14日	5月10日	5月16日	5月15日	5月21日	5月21日	5

注)平成30年度から令和4年度に記載されていた品種名「ふじ」は「相伝ふじ」(早生ふじ系)を指す

1 モニリア病 発生期 並 発生量 並

発生面積 15 ha (3.0% : 平年 1.9%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

- ・長沼町(無防除)及び余市町(慣行防除)の予察園において、葉腐、花腐、実腐ともに発生が認められなかった。
- ・一般園における初発期は平年並だった。発生面積率、被害面積率ともに平年並だった。一部園地で葉腐れ症状が見られた。

発生原因の解析

- ・近年発生が少なく、越冬した伝染源は少なかったと推測されたが、一部園地では葉腐れ症状が見られた。発芽期から展葉期にかけて断続的な降雨があったため、子のう盤の形成に至ったと推測される。展葉期以降の防除が十分に行われ、実腐れ症状には至らなかった。

予察園におけるモニリア病の発生期

地点	品種名	防除有無	葉腐れ		花腐れ		実腐れ		株腐れ		平年数
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	相伝ふじ	無	未発生	—	未発生	—	未発生	—	未発生	—	—
余市B	昂林	有	未発生	—	未発生	—	未発生	—	未発生	—	—

注1)長沼町は本年度から調査樹を「相伝ふじ」(早生)に変更

注2)平年数が少ないまたは発生が認められなかったため平年値なし

予察園におけるモニリア病の発生状況

地点	長沼								
	品種名	相伝ふじ							
		葉腐花葉そう率(%)		花腐花葉そう率(%)		実腐花葉そう率(%)		株腐花葉そう率(%)	
調査 月半月	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
5.1	0	0	0	0					
5.2	0	0	0	0					
5.3	0	0	0	0					
5.4	0	0	0	0					
5.5	0	0	0	0					
5.6	0	0	0	0					
落花10日後 (調査月日)					0	0	0	0	
					6月9日		6月9日		
落花20日後 (調査月日)					0	0	0	0	
					6月19日		6月19日		

注)本年度から調査樹を「相伝ふじ」(早生)に変更

地点	余市B	
品種名	昂林	
調査	葉腐花葉そう率(%)	
月日	本年	平年
5月1週目	0	—
5月2週目	0	—
5月3週目	0	—
5月4週目	0	—
5月5週目	0	—
6月1週目	0	—
6月2週目	0	—
6月3週目	0	—
平年数	—	

巡回調査結果

一般園におけるモニリア病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	開花直前の一樹当たりの 発病花葉そう数
後志	北後志	0
胆振	本所	0
渡島	本所	0
留萌	南留萌	0

2 黒星病 発生期 並 発生量 少

発生面積 4 ha (0.8% : 平年 33.3%) 被害面積 0 ha (0.0% : 平年 2.3%)

発生経過の概要

- ・長沼町の子察園（無防除）における初発期は平年より早く、発生量は平年より少なかった。余市町の子察園（慣行防除）では発生が認められなかった。
- ・一般園における初発期は平年並だった。発生面積率及び被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

- ・春季の高温傾向により、長沼町の子察園では初発期が早まったが、夏季の高温により発病が抑制され、一般園では防除が適切に実施されたため、発生量は平年より少なかった。

子察園における黒星病の発生期

地点	品種名	防除有無	初発期		最盛期		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼	相伝ふじ	無	5月21日	5月26日	7.3	7.3	8
余市B	昂林	有	未発生	—	未発生	—	—

注1) 長沼町は本年度から調査樹を「相伝ふじ」(早生)に変更

注2) 余市Bは平年値なし

予察園における黒星病の発生状況

地点	長沼			
品種名	相伝ふじ			
調査 月半旬	病葉率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
5.5	0.3	0.6	0.1	0.2
5.6	4.6	2.4	0.9	0.8
6.1	13.2	8.1	2.6	3.0
6.2	26.9	16.6	5.6	6.6
6.3	37.8	29.4	7.9	12.4
6.4	44.9	37.0	10.9	16.4
6.5	56.1	45.9	14.4	21.4
6.6	66.0	54.1	18.8	28.0
7.2	72.9	60.9	20.7	33.7
7.4	84.8	73.1	26.3	44.3
7.6	85.3	79.6	27.1	49.4
8.2	93.3	80.1	27.6	52.4
8.4	90.1	88.2	28.7	57.8
8.6	97.6	87.3	35.8	59.0
9.2	96.3	90.6	34.5	62.4
9.4	94.2	91.7	30.9	64.1
9.6	75.4	91.3	21.3	63.6

地点	余市B	
品種名	昂林	
調査 月日	病葉率(%)	
	本年	平年
6月1週目	0	—
2週目	0	—
3週目	0	—
4週目	0	—
5週目	0	—
7月1週目	0	—
2週目	0	—
3週目	0	—
4週目	0	—
5週目	0	—
8月1週目	0	—
2週目	0	—
3週目	0	—
4週目	0	—
5週目	0	—
9月1週目	0	—
2週目	0	—
3週目	0	—
4週目	0	—
5週目	0	—
被害果率	0	—
調査時期		
平年数	—	

巡回調査結果

一般園における黒星病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病率(%)				
		6月3半旬	6月6半旬	7月3半旬	8月3半旬	9月3半旬
後志	北後志	0	0	0	0	0
胆振	本所	0	0	0	0	0
渡島	本所	0	0	0	0	0
留萌	南留萌	0	0	0	0	0

3 斑点落葉病 発生期 並 発生量 少
 発生面積 36 ha (7.2% : 平成 14.4%) 被害面積 0 ha (0.0% : 平成 1.0%)

発生経過の概要

- ・長沼町の予察園における初発期は平成より早く、発生量は平成並だった。慣行防除を実施している余市町の予察園では発生が認められなかった。
- ・一般園における初発期は平成並だった。発生面積率及び被害面積率は平成より少なかった。

発生原因の解析

- ・夏季の気温が高く推移し、8月以降断続的な降雨があったが、適切な防除により、発生量は平成より少なかった。

予察園における斑点落葉病の発生期

地点	品種名	防除 有無	初発期		新梢最盛期		徒長枝最盛期		平年数
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	玉林	無	6月18日	6月29日	8.6	9.1	9.1	9.1	10
余市B	昂林	有	未発生	—	未発生	—	未発生	—	—

注) 余市Bは平年値なし

予察園における斑点落葉病の発生状況

地点	長沼									
	品種名	玉林								
		調査 月半旬	新梢				徒長枝			
			病葉率(%)		平均病斑数		病葉率(%)		平均病斑数	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年		
6.2	0	0	0	0						
6.4	0.6	0.6	0.0	0.0						
6.6	0.6	0.8	0.0	0.0						
7.2	0.6	1.3	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0		
7.4	0.7	1.9	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0		
7.6	1.8	2.3	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0		
8.2	1.5	2.9	0.0	0.0	1.0	1.9	0.0	0.0		
8.4	2.0	2.9	0.0	0.0	1.0	2.6	0.0	0.0		
8.6	2.9	3.8	0.0	0.1	1.0	4.8	0.0	0.1		
9.2	2.4	5.0	0.0	0.1	2.0	4.9	0.1	0.1		
9.4	2.7	5.8	0.1	0.1	2.0	6.2	0.1	0.1		
9.6	4.3	5.9	0.1	0.1	2.5	4.4	0.1	0.1		
平年数	10				10					

地点	余市B			
品種名	昂林			
調査 月日	病葉率(%)			
	新梢		徒長枝	
	本年	平年	本年	平年
6月1週	0	—		
6月2週	0	—		
6月3週	0	—		
6月4週	0	—		
6月5週	0	—		
7月1週	0	—	0	—
7月2週	0	—	0	—
7月3週	0	—	0	—
7月4週	0	—	0	—
7月5週	0	—	0	—
8月1週				
8月2週			0	—
8月3週			0	—
8月4週			0	—
8月5週			0	—
9月1週			0	—
9月2週			0	—
9月3週			0	—
9月4週			0	—
9月5週			0	—
被害果率			0	0
調査月日				
平年数	—			

巡回調査結果

一般園における斑点落葉病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病葉率(%)		
		7月3半旬	8月3半旬	9月3半旬
後志	北後志	0	0	0
胆振	本所	0.3	1.7	30.7
渡島	本所	34.8	26.6	44.2
留萌	南留萌	0	1.0	1.0

4 腐らん病 発生期 — 発生量 多
 発生面積 502 ha (100% : 平年 82.4%) 被害面積 117 ha (23.4% : 平年 23.5%)

発生経過の概要

・一般園における発生面積率は100%と平年より高く、被害面積率は23.4%と平年並だった。

発生原因の解析

・発生量が多い状態が続いており、伝染源が多く残っていると推測される。本病に対する削り取りや予防的な薬剤散布が行われているが、十分に発病を抑えられていない。

5 ハマキムシ類 発生期 やや遅 発生量 少
 発生面積 27ha(5.4% : 平成 14.8%) 被害面積 0ha(0% : 平成 1.3%)

発生経過の概要

- ・長沼町（無防除）におけるミダレカクモンハマキ越冬卵のふ化時期は、平成より遅かった。
- ・フェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの第1回成虫の初発期は、長沼町及び余市町A（慣行防除）で平成並、余市町B（慣行防除）で平成よりやや遅かった。誘殺数は余市町A及びBで平成より多く、長沼町では平成より少なかった。
- ・フェロモントラップによるリンゴモンハマキの第1回成虫の初発期は、長沼町で平成並、余市町Aでは平成より遅かった。誘殺数は長沼町で平成より多く、余市町A及びBでは平成より少なかった。
- ・長沼町の5月の花叢被害は平成並であった。
- ・一般園における発生面積率は平成より低かった。被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量は平成より少なく、越冬密度も平成より低かったと推察される。5月から7月にかけての高温で花叢被害及び新梢被害が平成並となった。発生期間中は概ね高温で経過したものの、第1回成虫の産卵や第2回幼虫の加害時期にあたる6月下旬は降水量が多く経過し、成虫の産卵や幼虫の発生量が少なく抑えられた。一般園では、防除が適切に行われた。

予察園におけるミダレカクモンハマキ越冬卵の孵化時期

	長 沼	
	本 年	平 年
孵 化 開 始 日 (月 日)	5月5日	4月29日
孵 化 最 盛 日 (月 日)	5月8日	5月7日
50 % 孵 化 日 (月 日)	5月7日	5月7日
孵 化 終 息 日 (月 日)	5月26日	5月22日
孵 化 個 体 数 (頭)	134.0	224.7
孵 化 日 数	22.0	23.7
平 年 数	10	

注) 余市Aは慣行防除園。

予察園におけるミダレカクモンハマキ越冬卵の孵化状況

月 日	長 沼		月 日	長 沼	
	孵 化 数	累 積 率 (%)		孵 化 数	累 積 率 (%)
4. 21	0	0	5. 11	-	79.9
22	0	0	12	-	79.9
23	0	0	13	5	83.6
24	-	0	14	0	83.6
25	-	0	15	-	83.6
26	-	0	16	20	98.5
27	-	0	17	-	98.5
28	0	0	18	-	98.5
29	-	0	19	0	98.5
30	0	0	20	0	98.5
5. 1	-	0	21	-	98.5
2	0	0	22	-	98.5
3	-	0	23	1	99.3
4	-	0	24	-	99.3
5	37	27.6	25	-	99.3
6	-	27.6	26	1	100
7	33	52.2	27	0	100
8	20	67.2	28	-	100
9	3	69.4	29	-	100
10	14	79.9	30	0	100
			31	-	100

注) 累積率は、総孵化卵数に対する累積孵化率を示した。

予察園におけるハマキムシ類の発生状況と被害状況

	長 沼	
	本年	平年
越冬卵塊数	0.5	0.7
開花直前被害花叢率 (%)	33.0	33.3
開花直前在虫花叢率 (%)	19.0	14.6
落花直後被害花叢葉率 (%)	16.0	50.1
落花直後在虫花叢葉率 (%)	6.0	19.3
8月被害新梢率 (%)	4.0	3.0
8月在虫新梢率 (%)	2.0	0.3
8月被害果率 (%)	1.0	0.7
平年数	0	

注) 卵越冬種はミダレカクモンハマキ。
越冬卵塊数は、5年枝1本当たりの数値を示した。

フェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキ成虫の発生期

		長 沼		余市 A		余市 B	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初飛来日 (月日)	6月15日	6月16日	6月18日	6月18日	6月25日	6月22日
	最盛日 (月日)	6月25日	6月23日	6月18日	6月26日	6月25日	6月29日
	50%誘殺日 (月日)	6月28日	6月24日	6月18日	6月24日	6月25日	7月1日
	終息日 (月日)	7月18日	7月14日	7月2日	7月4日	7月23日	7月10日
	総誘殺数 (頭)	20	48.6	23	6.3	16	10.5
第2回	初飛来日 (月日)	-	8月16日	7月30日	8月15日	7月30日	8月15日
	最盛期 (月日)	-	8月23日	-	8月21日	8月13日	8月22日
	50%誘殺日 (月日)	-	8月22日	8月6日	8月17日	8月13日	8月21日
	終息日 (月日)	-	9月6日	8月20日	8月29日	8月27日	9月10日
	総誘殺数 (頭)	0	7.1	3	4.3	17	7.5
平年数		10		10		10	

注) 余市A・Bは慣行防除園。

フェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキ成虫の誘殺頭数

月半旬	長 沼		余市 A		余市 B		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
6.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.2	2.1	0.2	0	0.2
	3	1	4.0	10.6	0.7	0	1.0
	4	4.3	13.6	6.4	1.6	4.7	1.2
	5	4.8	13.0	3	1.7	6.4	1.6
	6	6	6.6	0.7	0.4	0.7	0.9
7.	1	1	5.9	0.1	1.2	1.3	1.2
	2	1	3.2	0	0.2	1.1	0.8
	3	1	1.2	0	0.0	0.7	0.6
	4	1	1.3	0	0.0	0.7	0.6
	5	0	0.1	0.4	0.0	1.1	1.3
	6	0	0.3	0.9	0.0	2.3	0.8
8.	1	0	0.5	0.7	0.3	2.9	0.6
	2	0	1.1	0	1.4	5	1.7
	3	0	1.2	0.4	1.3	3.3	0.5
	4	0	0.8	0.6	0.6	1.9	0.5
	5	0	0.8	0	0.5	0.7	0.4
	6	0	0.3	0	0.7	0.1	0.4
9.	1	0	1.5	0	0.4	0	0.8
	2	0	0.0	0	0.3	0	0.7
	3	0	0.3	0	0.1	0	0.2
	4	0	0.2	0	0.1	0	0.1
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	6	0	0.1	0	0.1	0	0.2
平年数		10		10		10	

注) 誘殺頭数を示す。 余市A・Bは慣行防除園。

フェロモントラップによるリンゴモンハマキ成虫の発生期

		長 沼		余 市 A		余 市 B	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
第 1 回	初飛来日 (月日)	6月13日	6月15日	6月18日	6月8日	-	6月6日
	最 盛 日 (月日)	6月17日	6月29日	-	6月13日	-	6月11日
	50%誘殺日 (月日)	6月23日	7月1日	-	6月13日	-	6月13日
	終 息 日 (月日)	7月14日	7月23日	-	6月23日	-	11月5日
	総誘殺数 (頭)	99	44.4	1	11.6	0	13.3
第 2 回	初飛来日 (月日)	8月11日	8月14日	-	-	8月20日	-
	最 盛 期 (月日)	8月13日	8月24日	-	-	-	-
	50%誘殺日 (月日)	8月18日	8月25日	-	-	-	-
	終 息 日 (月日)	8月31日	9月11日	-	-	-	-
	総誘殺数 (頭)	22	26.4	0	0.2	1	0.2
平 年 数		10		8		10	

注) 余市A・Bは慣行防除園。

フェロモントラップによるリンゴモンハマキ成虫の誘殺頭数

月半旬	長 沼		余 市 A		余 市 B		
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	
6.	1	0	0.0	0	0.3	0	0.2
	2	0	0.0	0.1	2.7	0	2.9
	3	4	0.9	0.6	3.1	0	3.6
	4	36	3.7	0.3	3.8	0	1.6
	5	20	10.6	0	1.4	0	0.9
	6	20	7.2	0	0.4	0	0.6
7.	1	3	5.4	0	1.2	0	0.5
	2	11	9.5	0	0.8	0	0.2
	3	5	3.8	0	0.6	0	0.1
	4	0	2.5	0	0.0	0	0.1
	5	0	1.1	0	0.0	0	0.3
	6	1	1.0	0	0.0	0	0.1
8.	1	1.5	1.2	0	0.0	0	0.0
	2	0.5	9.2	0	0.0	0	0.0
	3	7.8	3.2	0	0.0	0.4	0.0
	4	2.3	1.4	0	0.0	0.6	0.0
	5	6	2.0	0	0.0	0	0.1
	6	3	3.7	0	0.0	0	0.1
9.	1	0	1.7	0	0.0	0	0.0
	2	0	3.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.8	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.2	0	0.1	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.1	0	0.0
平年数		3		3		3	

注) 誘殺頭数を示す。余市A・Bは慣行防除園。

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキ成虫の誘殺頭数

月半旬	岩見沢		札幌		石狩		壮瞥		七飯		旭川		増毛	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6. 1	0	0.0	0.4	0.0	0	0.0	0	0.0	-	0.1	0	0.1	-	0.0
2	1	0.2	0.6	0.6	0	0.0	0	0.0	0.8	0.0	5.8	1.7	0.6	0.3
3	2.3	0.5	6.4	2.2	1.6	0.3	0	0.4	3.8	1.3	25.6	5.6	3.1	1.9
4	1.7	2.6	4.7	4.5	6.8	0.8	1.2	1.0	19.5	3.5	10	5.1	1.3	2.2
5	0	2.1	3.1	4.5	1.6	0.6	0.8	2.0	24.7	3.3	1.6	4.2	0.7	1.8
6	0	2.5	1.4	3.8	0.2	0.7	0	1.1	13.8	2.6	0.4	2.9	1.3	2.6
7. 1	0.6	0.8	2	2.5	1.6	0.2	0	0.4	1.6	3.2	2.4	1.1	0	0.4
2	1.4	0.5	2.4	1.9	3.2	0.4	0	0.2	1.5	1.6	3.4	0.9	0.6	0.1
3	0.8	0.3	2.9	1.1	0	0.0	0	0.2	1.3	0.5	0.8	1.5	0.4	0.1
4	0.2	0.4	1.9	0.4	0	0.3	0	0.1	0	0.3	1.6	0.6	0	0.1
5	0.1	0.1	2.3	0.1	0.1	0.0	0	0.1	0	0.3	6.6	0.2	0	0.1
6	0.9	0.0	3.5	0.4	0.9	0.0	0	0.1	0	0.6	2.5	0.6	4	0.1
8. 1	0.8	0.1	3.3	0.5	0	0.1	0	0.1	0	0.1	3.5	0.9	5.5	0.3
2	0.2	0.3	0	0.8	0	0.1	0	0.3	1.5	0.7	1	0.7	3.8	1.4
3	0	0.3	1.5	1.4	0.4	0.7	0	0.2	2.5	1.1	1	1.0	3.0	1.5
4	0	0.4	1.8	2.3	1.6	0.2	0	0.1	1.3	1.5	0.8	0.4	1.7	1.4
5	0	0.1	1.3	2.4	0	0.4	0	0.1	0.6	1.4	0	0.4	0.1	1.1
6	0	0.3	0.5	2.3	0	0.8	0	0.4	0.9	1.5	0	0.2	0.9	0.6
9. 1	0	0.2	0	2.7	0.8	0.4	0	0.4	0.2	1.2	0	0.5	3.1	0.3
2	0	0.1	0	1.0	0	0.1	0	0.3	0.3	0.6	0	1.2	2.2	0.3
3	0	0.2	0	1.3	0.2	0.3	0	0.4	0.7	0.5	0	0.2	0.7	0.0
4	0	0.2	0	1.9	0.8	0.6	0	0.5	0	1.1	0	0.6	0.6	0.0
5	0	0.0	0	0.8	0	0.3	0	0.3	0	0.4	0	0.3	0.4	0.0
6	0	0.0	0	0.4	0	0.2	0	0.1	0	0.2	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10		10		10		10		10	

注) 誘殺頭数を示す。増毛は交信攪乱剤使用園の近隣園地

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴモンハマキ成虫の誘殺頭数

月半旬	岩見沢		札幌		石狩		壮瞥		七飯		増毛	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.4	0.3	-	0.0	-	0.1
2	1	1.0	0	0.0	1	0.0	1.6	1.1	0	0.0	0.8	0.4
3	1.9	0.8	0	0.0	4	0.0	0	1.1	0	0.1	1.3	1.1
4	1.4	0.5	0.9	0.1	0.2	0.0	0	0.8	2.5	0.7	0.5	1.0
5	1.4	0.6	1.7	0.4	0.8	0.4	0	1.4	4.8	0.6	0	0.3
6	6.6	0.8	2.9	1.7	0.6	0.0	0	0.4	5.7	1.4	0	0.0
7. 1	5	0.6	5.1	2.8	3.8	0.0	0	0.0	2.7	1.7	0	0.1
2	0.7	0.6	6.3	2.8	8	0.4	0	0.1	1.6	0.8	0.6	0.1
3	0	0.1	7.1	2.3	9.6	0.4	0	0.5	0.7	0.3	0.4	0.0
4	0	0.0	2.5	1.1	0	0.4	0	0.4	0	0.7	0	0.0
5	0	0.0	1.5	2.1	0.1	0.2	0	0.0	0	0.1	0	0.0
6	0	0.1	0	0.8	0.9	0.2	0	0.2	0.4	0.0	0	0.0
8. 1	0.8	0.4	0	0.2	0	0.0	0	0.1	1.1	0.2	0.3	0.0
2	0.7	0.1	0.8	0.2	0.4	0.2	0.7	0.3	1.4	0.4	0.6	0.4
3	1	0.6	1.7	0.3	1.6	0.0	0.3	0.5	1.5	1.0	0.7	0.2
4	1.4	0.7	2.4	0.7	0	0.3	0	0.8	0.6	0.8	0.4	0.0
5	2.5	1.8	4.4	1.9	0.2	0.7	0	1.3	0	0.5	0.1	0.0
6	0.5	1.7	3.1	3.0	0.8	0.5	0	2.3	0.8	1.4	0.9	0.0
9. 1	0	0.5	0.7	0.8	1.8	1.8	0	0.3	0.2	0.5	0	0.0
2	0	0.3	0	0.9	2.2	2.2	0	0.2	0.3	0.5	0	0.0
3	0	0.3	0	0.1	5.6	1.6	0	0.4	0.7	0.4	0	0.0
4	0	0.1	0	0.1	0.6	2.2	0	0.2	0	0.3	0	0.0
5	0	0.0	0	0.1	2.4	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	1.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
平年数	5		5		5		5		5		5	

注) 誘殺頭数を示す。増毛は交信攪乱剤使用園の近隣園地

6 モモシクイガ

発生期 早 発生量 並

発生面積 72ha (14.4% : 平年 12.5%) 被害面積 2ha (0.4% : 平年 0.4%)

発生経過の概要

- ・予察園のフェロモントラップ調査において、成虫初発期は長沼町（無防除）及び余市町A（慣行防除）で平年より早く、余市町B（慣行防除）で平年並であった。
- ・フェロモントラップ誘殺数は、余市町Bで平年より多く、長沼町及び余市町Aでは平年並であった。長沼町の予察園における産卵数は平年より多かった。被害果率の上昇は7月中は平年より早く、8月以降は平年並であった。
- ・一般園における発生面積率、被害面積率はともに平年並であった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量は平年並で、越冬密度は平年並だったと推察される。
- ・7月の高温が産卵及び加害に好適だった。
- ・一般園では、防除が適切に行われた。

フェロモントラップによるモモシクイガ成虫の発生期

	長 沼		余 市 A		余 市 B	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
初飛来日 (月日)	6月10日	6月16日	6月10日	6月16日	6月11日	6月12日
最 盛 日 (月日)	7月17日	7月27日	7月16日	8月5日	6月25日	8月10日
50%誘殺日 (月日)	7月17日	7月30日	7月9日	8月1日	7月23日	8月2日
終 息 日 (月日)	9月6日	9月14日	9月10日	9月17日	9月17日	9月20日
総誘殺数 (頭)	933	1114.5	215	294.6	891	537.0
誘殺日数 (日)	89	91.4	93	94.2	99	100.8
平 年 数	10		10		10	

注) 余市A・Bは慣行防除園。

フェロモントラップによるモモシクイガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長 沼		余 市 A		余 市 B	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6.	1	0	0.0	0.3	0.1	0.9
	2	1	0.0	1.4	0.1	2.1
	3	3	2.5	3.8	0.9	5
	4	15	6.2	5.8	2.7	71.9
	5	32	16.8	8.1	3.9	102.9
	6	40	27.6	12.1	4.8	48.6
7.	1	64	30.9	17.3	8.7	51.4
	2	89	47.2	24.9	10.4	52.1
	3	132	69.2	34.3	14.3	52.1
	4	134.7	146.3	13.6	19.7	96.4
	5	66.7	125.5	11.9	28.8	93.4
	6	109.7	147.2	15.1	38.9	99.1
8.	1	58.5	122.8	16.4	39.4	65
	2	46.5	87.2	5.7	30.0	42.9
	3	22	40.0	9.1	23.0	37.7
	4	39	56.1	10.6	18.8	29.1
	5	11	55.0	7.1	12.7	8.6
	6	58	57.0	10.7	15.4	1.7
9.	1	9	42.1	5	8.6	12
	2	1	31.7	1.7	5.9	16.3
	3	1	8.7	0	3.0	1.4
	4	0	0.7	0	1.5	0.3
	5	0	0.3	0	1.2	0
	6	0	0.0	0	0.7	0
平年数	10		10		10	

注) 誘殺頭数を示す。余市A・Bは慣行防除園。

一般園におけるフェロモントラップによるモモシクイガ成虫の誘殺頭数

月半旬	岩見沢		札幌		石狩		壮瞥		七飯		旭川		増毛		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
6.	1	0.5	0.0	0.4	0.0	0	0.0	0	0.0	-	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0.3	0.0	0.6	0.2	0	0.0	0.5	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0.4	0.1	3.6	0.5	0	0.0	2.5	0.5	0	0.2	0	0.3	0	0.0
	4	1.3	0.4	22.9	1.8	0	0.0	1.3	0.9	0.5	0.0	1.2	1.2	0	0.0
	5	3.6	1.4	39.1	4.4	0	0.0	6.7	2.1	1.5	0.3	6.8	6.0	0	0.0
	6	8.1	2.4	52.9	11.9	0	0.0	7	3.0	2.5	0.9	14	10.2	0	0.1
7.	1	18.1	4.0	64.9	19.1	0	0.0	15.6	4.3	3.4	1.5	31	17.5	0	0.0
	2	31.4	8.4	57	27.4	0	0.0	16.8	6.1	3.5	3.2	36.4	18.4	0	0.2
	3	64.2	10.4	40.7	37.0	0	0.0	13.2	7.6	4.7	6.8	42.6	30.4	0	0.2
	4	80.8	15.2	67.5	33.7	0	0.0	37.9	9.5	10	17.1	40.4	40.0	0	0.4
	5	68.3	20.2	47.4	32.4	0	0.0	17.9	7.4	14.7	35.0	21.6	43.5	0	0.6
	6	43.7	23.8	25.0	36.4	0	0.0	16.7	9.1	17.9	57.6	20.3	48.1	0	0.6
8.	1	20.8	13.2	39.2	26.3	1	0.0	12.5	10.0	10.4	66.9	11.7	64.9	0	0.1
	2	10.5	6.3	40	26.1	0	0.0	10.5	11.6	11.3	48.3	15.2	38.8	0	0.3
	3	7.9	3.3	22.5	28.9	0	0.0	11.3	10.2	10.5	38.9	15.2	24.9	0	0.2
	4	7.9	3.2	20.1	31.3	0.2	0.0	7.2	10.9	7.5	27.8	12.6	23.6	0	0.2
	5	15.8	3.6	28.1	22.5	0.8	0.0	8.6	11.4	5.6	25.4	14	21.8	0	0.3
	6	15.9	4.8	14.6	24.2	0	0.0	5	15.5	6.1	31.0	11	23.9	0	0.2
9.	1	10.8	4.3	1.7	9.9	0.2	0.0	1.4	9.8	3.9	14.8	6.6	11.8	0	0.3
	2	2.9	3.1	0.3	4.6	0.8	0.0	1.3	6.5	2.7	6.6	2.4	5.1	0	0.2
	3	1.1	0.9	0.6	0.3	0	0.0	1.3	1.8	1.4	2.4	0	0.7	0	0.0
	4	0.4	0.7	0.1	0.0	0	0.0	0	0.7	0	1.2	0	0.3	0	0.0
	5	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	0.8	0	0.1	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.1	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10		10		10		10		10		

注) 誘殺頭数を示す。石狩は交信攪乱剤使用。増毛は交信攪乱剤使用園の近隣園地。

予察園におけるモモシクイガの産卵期と被害発生期 (長沼)

	本年	平年
産卵開始日 (月日)	6月25日	7月1日
産卵最盛日 (月日)	7月15日	7月23日
被害初発日 (月日)	6月25日	7月10日
被害最盛日 (月日)	7月5日	7月19日
平年数	5	

予察園におけるモモシクイガの産卵状況と被害状況 (長沼)

	産卵粒数		累積被害果率 (%)		
	本年	平年	本年	平年	
6.	5	53	5.5	1	0.0
	6	137	14.8	34	0.0
7.	1	254	29.3	64	0.8
	2	249	55.8	87	12.8
	3	302	114.8	100	42.0
	4	172	174.3	100	77.5
	5	105	141.5	100	96.8
	6	129	159.6	100	99.2
8.	1	130	101.0	100	100.0
	2	80	81.8	100	100.0
	3	139	81.2	100	100.0
	4	69	88.6	100	100.0
	5	52	96.2	100	100.0
	6	52	63.4	100	100.0
9.	1	40	22.3	100	100.0
	2	-	-	-	100.0
	3	-	-	-	100.0
平年数	5		5		

注) 産卵粒数は、100果当たりの数値を示した。

7 ハダニ類 発生期 並 発生量 少
 発生面積 15ha(3.0%：平年 27.2%) 被害面積 1ha(0.2%：平年 1.5%)

発生経過の概要

- ・予察園において、リンゴハダニ及びナミハダニは、長沼町（無防除）、余市町A及びB（慣行防除）いずれの地点においても発生が認められなかった。
- ・一般園において初発期は平年並であった。発生面積率、被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量はやや少なく、越冬密度はやや低かったものと推察される。
- ・一般園では、防除が適切に行われた。

予察園におけるリンゴハダニの発生状況

月半旬	長 沼				余 市 A				余 市 B			
	成 虫 数		卵 数		成 虫 数		卵 数		成 虫 数		卵 数	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.1	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.6	0	0.0	0	0.0
8. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	0.3
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.3	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	2.7
9. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	1.8
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
平年数	4				10				10			

注) 余市A・Bは慣行防除園。

成虫数は30葉当たりの雌成虫の数値、卵数は30葉当たりの数値を示した。

予察園におけるナミハダニの発生状況

月半旬	長 沼				余 市 A				余 市 B				
	成 虫 数		卵 数		成 虫 数		卵 数		成 虫 数		卵 数		
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	
6.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.3	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	1.2
	5	0	0.0	0	0.0	0	1.0	0	4.4	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
7.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.8	0	0.4	0	2.6	0	1.1
	2	0	0.0	0	0.0	0	1.0	0	1.7	0	0.2	0	2.7
	3	0	0.0	0	0.0		0.0		0.0		0.1		0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.9	0	2.1	0	0.8	0	0.5
	5	0	0.0	0	0.0	0	2.3	0	3.6	0	0.4	0	0.4
	6	0	0.0	0	0.0	0	3.9	0	6.6	0	0.0	0	0.3
8.	1	0	0.0	0	0.0		0.9		0.6		5.9		3.6
	2	0	0.0	0	0.0	0	6.7	0	12.8	0	1.2	0	2.2
	3	0	0.0	0	0.0	0	1.3	0	2.8	0	8.0	0	8.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.6	0	1.1	0	19.4	0	20.3
	5	0	0.3	0	0.0		3.8		2.2		0.4		0.0
	6	0	2.0	0	0.0	0	0.6	0	1.0	0	9.0	0	12.1
9.	1	0	1.8	0	0.0	0	0.6	0	1.0	0	0.0	0	0.4
	2	0	1.0	0	0.8	0	1.0	0	2.1	0	16.4	0	10.7
	3	0	0.8	0	1.3		0.3		0.5		1.0		5.4
	4	0	1.8	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	1.4	0	0.3
	5	0	1.5	0	0.0	0	1.4	0	0.4	0	0.4	0	4.2
	6	0	0.3	0	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
平年数	4				10				10				

注) 余市 A・B は慣行防除園。

成虫数は30葉当たりの雌成虫の数値、卵数は30葉当たりの数値を示した。

8 キンモンホソガ

発生期 やや早 発生量 やや少

発生面積 69ha (13.5% : 平年 17.6%) 被害面積 0ha (0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

- ・予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、余市町B(慣行防除)では平年より多く、長沼町(無防除)及び余市町A(慣行防除)で平年より少なかった。
- ・長沼町における被害葉率は平年より少なかった。
- ・一般園における初発期は平年よりやや早く、発生面積率は平年よりやや少なかった。被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・ここ数年、少発生傾向にあり、越冬密度は平年並に低かったものと推察される。
- ・一般園では防除が適切に行われた。

フェロモントラップによるキンモンホソガ成虫の発生最盛期

世代	長沼		余市A		余市B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	5月13日	5月16日	5月13日	6月21日	5月16日	6月19日
第2回	6月26日	7月4日	7月9日	7月10日	7月2日	7月4日
第3回	7月23日	8月5日	8月6日	8月9日	7月30日	8月2日
第4回	9月4日	9月5日	9月17日	9月10日	9月3日	9月7日
平年数	10		10		10	

注) 余市A, Bは慣行防除園。

フェロモントラップによるキンモンホソガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		余市A		余市B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5. 1	1	0.3	0	-	0	-
2	1	0.9	2.7	-	0	-
3	2	1.0	2.5	-	3	-
4	0	1.9	1.9	-	1	-
5	0	0.7	0	-	0	-
6	1	0.4	0	1.5	0	0.0
6. 1	0	0.0	0	0.3	0	0.3
2	0	0.2	0.1	0.2	0	0.5
3	0	0.1	0.6	1.5	0.7	1.9
4	0	0.7	12.3	5.9	0.7	16.2
5	0	4.3	30.3	11.6	4.7	24.2
6	4	3.0	71.4	21.5	20.7	29.1
7. 1	2	8.3	86.9	35.1	15.6	48.7
2	1	7.9	73.6	35.2	18.9	46.9
3	0	6.9	47.9	36.5	25.7	39.3
4	0	7.9	16.4	41.4	147.9	45.1
5	13	8.4	16.9	35.4	177.4	104.5
6	9	12.7	38.9	66.1	224	288.2
8. 1	10	17.6	62.9	74.1	165.7	163.9
2	8	24.7	7.9	57.7	67.9	98.0
3	2.5	15.5	24.6	59.7	86.3	77.4
4	13.5	23.6	33	57.3	111.6	38.3
5	28	28.7	22.1	41.4	163.6	34.9
6	60	56.2	21.6	56.0	207	44.0
9. 1	63.3	50.3	9	80.1	102.7	60.5
2	17.2	63.4	19.6	94.1	57.7	64.1
3	1.5	42.5	83.6	92.4	68.6	70.9
4	0	11.7	24.7	55.8	14.9	51.8
5	0	4.6	8.9	28.8	1.4	30.3
6	0	1.2	7.1	11.8	1.4	11.3
平年数	10		10		10	

注) 余市A・Bは慣行防除園。

一般園におけるフェロモントラップによるキンモンホソガ成虫の誘殺頭数

月半旬	岩見沢		札幌		石狩		壮瞥		七飯		旭川		増毛	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6. 1	0	0.3	0	0.0	0	0.1	0	0.2	1	0.1	0	0.0	-	1.6
2	0.5	0.1	0	0.2	0	0.2	0	0.0	0.1	0.1	0	0.0	0	0.2
3	1.8	0.1	0	0.4	0	0.0	0	0.5	0.6	0.1	0	0.0	0	0.9
4	9.6	0.4	0	0.5	0.2	0.0	1	3.2	1.8	2.1	0	0.0	8	8.4
5	39.3	3.2	0	0.5	0.8	3.7	0	21.2	4.2	3.0	0	1.1	16	62.9
6	36.4	5.9	0	0.5	0.6	6.4	0	31.3	11.3	6.8	0	0.3	21.6	108.0
7. 1	29.7	14.6	0	0.6	3.2	14.8	1.7	41.4	34.6	20.9	0.2	2.8	27.9	130.8
2	20.7	15.1	0	0.4	3.2	28.9	2.3	57.6	21.4	18.9	1	1.8	32.4	118.4
3	5	17.5	0	0.5	0	34.5	0.1	41.5	0.9	4.9	0.8	0.7	26.6	89.7
4	1.7	8.0	0	0.2	0.8	40.6	0.7	35.5	4.4	4.7	0.2	0.5	16.3	76.6
5	1.2	8.9	0	0.2	3.3	30.6	0.1	14.8	7.8	4.5	0.8	0.4	79.8	61.4
6	5.1	12.4	0	0.8	0.9	10.8	1	31.1	12.4	4.7	0	0.2	140.4	66.0
8. 1	0.8	14.9	0	1.1	3	8.9	0	83.0	57.1	9.6	0	0.3	140.5	100.0
2	1.3	6.1	0	1.2	0.4	14.7	0	72.6	93.7	12.9	0	2.0	143.8	170.3
3	1.7	3.8	0	1.6	1.8	19.5	0.3	70.4	72	8.7	0.2	1.5	160.2	223.1
4	2.1	4.1	0	1.3	1	17.5	0.8	88.1	57.5	5.0	0.8	0.4	143.6	287.2
5	0.8	2.2	0	1.9	2.3	30.6	0	57.3	47.8	4.2	0	0.4	132.9	302.3
6	35.7	2.4	0	2.1	11.3	31.5	2	34.1	54.6	2.6	0	1.3	257.1	369.6
9. 1	31.6	3.5	0	3.2	19.6	37.2	4.3	37.8	115.3	1.5	0	0.8	562.5	304.3
2	15.7	3.5	0	1.7	20.6	93.6	6.2	62.8	150	1.6	0	1.8	446.1	405.0
3	6	5.5	0	1.3	13.4	61.6	7.5	59.6	175.7	2.3	0	0.5	271.4	350.5
4	2.4	2.8	0	0.4	6.8	77.2	8	44.1	183.1	1.5	0	0.2	125	277.8
5	0.7	1.1	0	0.1	5	30.9	0.6	11.4	157.5	0.8	0	0.1	81	126.2
6	2	0.0	0	0.2	0.8	13.1	2.4	7.1	95.3	0.6	0	0.0	9	73.6
平年数	10		10		10		10		10		10		10	

注) 誘殺頭数を示した。増毛は交信攪乱剤使用園の近隣園地。

予察園におけるキンモンホソガの被害推移

月半旬	長 沼			
	被害葉率		食害痕数	
	本年	平年	本年	平年
6. 1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.5	0	0.1
3	0	0.0	0	0.0
4	0	1.6	0	0.2
5	0	2.6	0	0.3
6	0	1.0	0	0.1
7. 1	0.3	0.4	0.0	0.0
2	0	0.4	0	0.0
3	0	0.1	0	0.0
4	0	0.3	0	0.0
5	0	1.0	0	0.1
6	0.3	1.1	0.0	0.1
8. 1	0	2.2	0	0.2
2	0.3	3.5	0.0	0.4
3	1	5.8	0.1	0.6
4	3	9.6	0.3	1.1
5	2.8	14.7	0.3	1.6
6	4.5	17.5	0.5	2.1
9. 1	5	17.6	0.5	2.2
2	6.8	17.8	0.7	2.2
3	5.8	22.2	0.6	3.0
4	9.8	26.2	1.1	3.4
5	16.3	29.6	1.6	4.4
6	18	44.1	2.4	7.4
平年数	0			

注) 余市A・Bは慣行防除園。

食害痕数は、10葉当たりの痕数を示した。

(XVII) その他果樹の病害虫

1 コスカシバ 発生期 — 発生量 やや多

発生経過の概要

- ・一般園においてフェロモントラップを設置した6月上・中旬から成虫の誘殺が認められた。
- ・誘殺数は、札幌市及び増毛町で平年より多く、壮警町で平年より少なかった。

フェロモントラップによるコスカシバ成虫の誘殺頭数

月半旬	札幌		壮警		増毛		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
6.	1	14.7	4.6	0	-	-	0.0
	2	20	9.2	0	3.1	0	0.0
	3	8.6	10.3	0	2.0	0	0.4
	4	12.4	9.0	0.2	1.5	0.5	0.2
	5	19.1	12.6	0.8	3.1	1.2	0.1
	6	35.7	21.9	0	4.3	1.5	0.5
7.	1	25.4	24.3	0.4	3.7	0.7	0.4
	2	27.7	22.1	0.6	4.9	0.7	0.4
	3	35	24.3	0	4.7	1.7	1.1
	4	16.3	25.0	0	3.9	3.1	0.4
	5	20.0	29.5	0	5.4	1.2	0.3
	6	36.9	31.4	1	8.2	0.9	0.6
8.	1	55.8	34.6	5.8	7.8	1.5	0.6
	2	45	32.0	2.5	8.5	2.5	0.4
	3	49.5	31.8	1.9	8.7	2.8	0.3
	4	47	24.6	5.8	13.3	2.0	0.7
	5	32.5	23.8	5	14.9	1.1	1.3
	6	19.7	27.1	1	9.4	2.6	0.6
9.	1	11.3	16.8	3.6	18.5	0.6	0.4
	2	11.3	6.8	1.4	14.8	0.7	0.3
	3	8.1	3.2	0	6.0	0.7	0.3
	4	1.6	1.8	0	2.2	0	0.2
	5	0	1.1	0	2.0	0	0.0
	6	0	1.0	0	1.1	0	0.0
平年数	5		5		5		

注) 増毛町は本年、平年ともに交信攪乱剤使用。

2 スモモヒメシクイ

発生経過の概要

- ・捕獲した雄成虫はナシヒメシクイとの識別が困難である。後翅後縁（随時観察）はナシヒメよりもスモモヒメに合致するが、現状ではナシヒメ・スモモヒメを含む *Grapholita* 属の一種として示すことにする。
- ・一般園においてはフェロモントラップを設置した5月上旬から成虫の誘殺が認められた。1回目の最盛期は5月下旬～6月上旬、2回目の最盛期は7月下旬から8月上旬、3回目の最盛期は8月下旬～9月上旬であった。
- ・誘殺数は、岩見沢市、札幌市、旭川市で平年より多く、長沼町と余市町で平年並であった。石狩、壮瞥町、七飯町、増毛町では少なかった。

フェロモントラップによるスモモヒメシクイ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		岩見沢		札幌		石狩		余市		壮瞥(滝之上)		七飯		旭川		増毛	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5. 1	-	0.0	0	-	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	1.1	1	0.5	-	0.0
2	-	0.3	1.1	-	0.4	0.4	0	0.1	0	0.0	0	0.4	0.8	3.4	7.6	3.7	0	0.0
3	0	0.2	2.9	-	2.6	2.0	0.2	0.2	2	0.3	6	1.6	19.3	7.0	19	6.0	0.7	0.0
4	3	3.8	8.5	-	10	10.3	1.2	0.7	9	9.2	11.3	4.9	23.9	23.1	22.4	10.8	0.3	0.0
5	2	11.9	8.5	-	15	25.0	1.9	2.6	27.1	14.6	6.7	7.7	12.9	30.7	19.8	15.8	0	2.5
6	9.3	23.4	93.4	-	67.3	53.1	2.1	7.7	59.4	29.6	32.6	13.7	5.9	30.8	20.2	18.4	0.8	1.8
6. 1	23.7	21.7	118.5	24.1	123.7	52.4	2.8	6.2	61	16.7	16.8	12.9	4.2	11.4	16	20.7	0.7	6.7
2	10	25.7	131.6	22.2	155	57.2	6.4	5.0	61.4	12.9	11.6	12.0	8	5.9	31	22.1	1.3	9.7
3	12	8.1	120.5	12.2	124.3	65.2	9.6	3.6	56.4	14.1	10	7.7	0	3.0	33.6	24.4	3.8	4.2
4	2.8	7.9	101.1	9.3	86.1	50.1	14.8	3.1	51.3	10.0	10.3	5.8	1.5	2.3	31.2	21.8	3	2.8
5	9.3	3.9	105.7	10.5	59.4	38.4	9.6	4.2	47.7	7.5	6.7	5.9	3.8	1.3	46.2	21.1	2.8	2.4
6	3	3.9	122.3	10.5	54.3	27.8	7.6	3.0	47.1	11.2	19	5.6	9.2	3.2	55.4	16.7	4.2	2.7
7. 1	11	6.5	107.6	10.1	76.6	22.0	8.8	3.3	50.6	15.0	17.3	4.5	7.9	3.5	58	18.8	7.9	4.3
2	16	4.5	79.3	12.5	102.1	23.5	21.6	5.3	76.9	14.4	22.1	2.7	4.2	3.7	64.2	22.2	2.1	3.4
3	12	6.8	103.3	14.3	132.1	26.5	24.8	3.7	115	20.8	24.5	3.5	6.2	9.2	71.4	26.0	3.2	4.6
4	16.7	16.1	125.3	14.1	156.9	54.4	11.8	5.7	190.7	31.9	34.3	14.2	14.4	16.4	60.4	26.5	6.9	3.0
5	8.3	24.0	136.5	21.1	122.4	78.0	8.9	7.8	122.1	46.3	27.4	12.8	19.9	19.1	41.2	33.6	3.1	5.7
6	8	17.1	96.9	25.3	77.4	88.2	0.9	15.1	76.9	65.5	16.4	19.7	29.3	27.6	40.4	35.9	2.3	12.9
8. 1	11.5	21.9	60.8	22.8	33.3	56.3	3.6	17.1	39.3	47.1	33.3	26.7	28.1	22.7	26.6	28.2	2	13.4
2	15.5	13.4	40.2	20.4	40	49.1	2.8	15.0	22.1	37.8	32	22.9	29	26.5	32	29.8	2.5	8.1
3	19.8	9.1	35.6	18.3	63	43.4	2.6	14.2	64.6	38.9	27.7	20.1	27.5	27.2	27.4	22.5	5.1	3.9
4	16.3	12.4	36.4	16.9	68.5	41.9	4	9.5	90.6	48.9	39.6	22.8	41.7	48.5	24	18.2	4.8	3.6
5	26	16.0	41.7	24.5	67.5	42.4	0.5	18.4	81.4	54.7	61.4	22.1	51.1	75.1	19.6	16.8	3.5	6.0
6	35	20.5	31.1	23.8	86.3	59.1	2.9	21.6	29.9	97.5	26	29.3	54.4	112.0	20.1	14.6	5.1	8.0
9. 1	7	13.4	18.7	17.5	37.7	39.0	1.8	10.4	5.4	61.9	20	23.3	37.4	76.9	13.3	9.6	3.1	7.2
2	5	5.4	2.1	11.5	10.5	23.9	0.8	3.9	0	30.8	12.9	14.4	23.4	34.5	9.4	7.8	1.9	4.5
3	1	2.7	0.4	4.1	6.3	9.4	0	1.0	0	20.3	8.1	5.7	5	14.8	6	3.4	0	2.6
4	0.3	1.3	0	2.2	1.3	3.8	0	0.4	0	8.9	1	1.5	5	5.4	1.6	1.2	0	1.5
5	1	0.2	0	1.5	0	1.5	0	0.2	0	4.1	2	0.9	3	1.4	0	0.0	0	0.4
6	1	0.1	0	1.5	0	1.4	0	0.3	0	2.1	0	0.4	0	0.3	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10		10		10		10		10		10		8	

注) 誘殺頭数を示した。増毛の平年値は交信攪乱剤未使用の2005～2012年の8年間に固定。

IV 令和8年度に特に注意を要する病害虫 並びに令和7年度に新たに発生を認めた病害虫

1) 令和8年度に特に注意を要する病害虫

(1) とうもろこしのアワノメイガ

近年、道央地域を中心に子実用とうもろこしの栽培面積が拡大している。生食用と用途が異なる加工用や飼料用（サイレージ用・子実用）では、これまで薬剤防除が行われることが少なかったが、令和6年、アワノメイガが多発し、生食用のみならず加工用、飼料用でも被害が問題となった。令和7年も前年に引き続き各種用途のとうもろこしで本種による被害が多発した。本種は、幼虫が雌穂に侵入し子実を食害する他、茎内に食入して折損させるとともに食入部より上の部位を枯死させ、茎の被害により機械収穫が困難となる。また、飼料用の子実とうもろこしでは本種の被害によりカビ毒発生リスクの増加も懸念されることから、防除が推奨される。

これまで、道内における本種の発生は年1回で7月中旬から8月中旬、一部地域で9月上旬に2回目の発生があるとされており、本種を対象とした防除時期は成虫発生盛期の7月上中旬とその10日後の2回とされていた。しかし近年、本種は全道的に年2回の発生となっており、1回目はこれまでより早い6月上旬から7月中旬に、2回目は8月上旬から9月下旬に発生が認められている。このため本種の発生に合わせた防除開始時期は早まっており、防除が必要な時期が2回あると考えられる。1回目は第1回成虫発生盛期の6月下旬から7月上旬、2回目は第2回盛期の8月中旬から9月上旬となる。また、とうもろこしでは、本種に加えてオオタバコガも防除対象となること、用途や品種、作型により早晚が異なっていることから、雌穂を効果的に防除するため作物の生育ステージに合わせた薬剤散布が行われることが多い。道外の知見によると、雌穂の被害を防ぐためには絹糸抽出期頃の殺虫剤散布、追加防除する場合は1回目散布の7～10日後頃に散布することにより、高い防除効果が得られるとされている。

令和8年の防除に当たっては、加工用や飼料用においても生食用に準じ、前年の発生量や発生予察情報を踏まえ被害が多くなると予想される場合は防除を実施する。薬剤散布は、本種の発生時期にあわせて散布適期を失しないよう注意する。また、終齢幼虫は潜入した稈の内部等で越冬するため、収穫後は速やかに残渣を処理し、越冬密度を下げることも重要である。

(2) 大豆の大型カメムシ類

令和7年8月、道央地域及び道南地域の大豆ほ場でカメムシ類による加害が多数確認された。発生虫種はほ場によって異なるものの、ホソヘリカメムシ、クサギカメムシ、ブチヒゲカメムシの大型カメムシが優占した。これまで大豆子実を加害するカメムシ種はエゾアオカメムシやナカグロカスミカメが主体であったが、本年度最も確認事例が多かった種はホソヘリカメムシであり、種構成が異なっていた。発生種の多くが成虫越冬するとされており、本年多発が認められた地域においては今後も発生が多くなると推測される。子実を直接加害するため被害が大きくなる可能性があり、令和8年度の発生に注意する必要がある。

防除に当たっては、雑草地や山林等の越冬地付近で発生が多くなる恐れがあるので注意する。複数種が長期間にわたってほ場で発生するが、いずれの大型カメムシも莢が着き始める頃から莢が黄熟する頃までの子実を加害し、被害程度は加害時期における莢と子実の生育段階で異なるとされるため、防除は大豆の生育に合わせて実施する。道内での薬剤試験事例はないが、「大豆カメムシ類対策マニュアル（農研機構 2020）」では、子実肥大初期（開花30-40日後）に1回、被害率が20%を超えるような地域では莢伸長後期（開花20-30日後）と子実肥大中期（開花40-50日後）に2回実施するのが効果的とされる。散布後もほ場のカメムシの密度が高い場合は、追加防除を検討する。発生種によって薬剤の感受性が異なる事例もあるため、防除実施後は効果を確認することが重要である。なお、マメシンクイガの防除で使用されるジアミド系剤（IRACコード：28）はカメムシ類に登録がなく、効果が期待できないので注意する。

(3) てんさいの飛来性鱗翅目害虫

令和7年6月下旬、長沼町に設置した予察灯にシロオビノメイガの誘殺が確認され、7月上旬には、道央地域及び道南地域のてんさいほ場で本種による食害が確認された。本種はてんさいの葉裏の葉脈沿いに数粒を並べて、80～100粒の卵を産み付ける。ふ化直後の幼虫は表皮を残して葉肉を網目状に食害し、生育が進むと葉柄や中肋を残して食害し、不規則な穴をあける。糸を張って葉を折り曲げ、その中に潜む。幼虫は「尺とり」状に歩行し、刺激に反応すると脚を縮めて敏速に後退して葉から落下する。老熟した後、地中にまゆを作って蛹化する。

また、8月上中旬には長沼町に設置したシロイチモジヨトウのフェロモントラップに多数の雄成虫が誘殺され、その後道東地域のてんさいほ場では幼虫による加害が確認された。本種の成虫は、体長約15mmで灰褐色、前翅には白色～黄褐色の斑紋を持つが、不鮮明なことも多い。卵は数十個が一塊となって葉に産み付けられ、灰褐色をした成虫の鱗毛で覆われる。幼虫の体色は淡緑色から黒紺色まで多様であるが、中齢以降は腹部側面に明瞭な白い線があることが特徴となる。老齢幼虫は体長30mm程度で、同じヤガ科のヨトウガ老齢幼虫よりも小さく見える。

両種とも、休眠性を持たず道内での露地越冬は困難とされていることから、令和7年度の発生は道外からの飛来によるものと考えられる。令和8年度の防除にあたっては、北海道病害虫防除所のホームページで飛来情報を確認するとともに、発生を認めた場合には速やかに殺虫剤を散布する。それぞれの種で効果の高い薬剤が異なる

ことから、薬剤選択に留意し、防除実施後は効果を確認することが重要である。

(4) 果樹の大型カメムシ類

令和7年6月下旬以降、道央地域や道南地域の醸造用ぶどう園地において、チャパネアオカメムシやブチヒゲカメムシ等の大型カメムシ類が多発した。また、おうとうやりんごではクサギカメムシによる吸汁が発生した。本道での大型カメムシ類によるぶどうへの加害は令和5年8月中旬に初めて確認されたが、令和7年の発生は令和5年より1～2カ月早かった。チャパネアオカメムシは、本州では成虫越冬して寄主を変えながら年1～3回発生する。道内における発生生態は不明な点が多いが、通常は年1回の発生と考えられ、加害作物は、りんご、ぶどう、おうとうの果実等が確認されている。一方、ブチヒゲカメムシは成虫越冬して年1～2回発生すると考えられている。いずれも令和7年の多発は、前年までの越冬量が多かったことに加え夏季の高温により発生が早まり、個体数が増加したと考えられる。令和7年の越冬量も同様に多いことが予想されるため、令和8年度の発生に注意が必要である。

防除に当たっては、山林からの果樹カメムシ類の飛来数は地域による差が大きいため、園地への飛来状況をよく観察する。特に、山間部や山林に隣接する園地では注意する。成虫が次々に飛来して果実被害が懸念される場合には、カメムシ類に登録のある薬剤で直ちに防除を実施する。天敵類にも影響を及ぼすピレスロイド系剤（IRACコード：3A）を散布した後は、ハダニ類やカイガラムシ類が増加することがあるので、これらの発生にも注意する。有袋栽培は吸汁被害を抑制する効果があるため、袋かけは遅れないように実施する。また、果実の肥大によって袋に果実が密着すると袋の上から吸汁されることがあるので、果実と袋の大きさのバランスに留意する。

2) 令和7年度に新たに発生を認めた病害虫

令和7年度に、北海道内で次に示す病害虫の発生が新たに確認された。なお、病害虫名の後に記したかつこ内表記の凡例は次のとおりである。

- 新寄主：道内に分布することが既知である害虫の、新たな作物への加害記録
- 新発生：道内での発生事例がなかった病害、道内に分布が確認されていなかった害虫
- 新称：これまで正式な名称（病名、害虫の和名）のなかった新たな病害虫の名称提案

(1) 大豆のクサギカメムシ（新寄主）

令和7年8月、道央地域の複数の大豆ほ場において、クサギカメムシ *Halyomorpha halys* (Stål) の成虫および幼虫が確認された。発生ほ場の大豆には、莢全体の褐変、子実の吸汁害が確認された。場内ほ場で網掛け大豆への放虫試験を行ったところ、同様の被害が確認された。莢の褐変は、吸汁箇所から徐々に莢全体に広がると考えられる。成虫は体長13～18mmで、暗褐色の地に不規則な黄褐色の斑紋がある。多食性で、マメ類の他にりんごやおうとうなど多くの果実を吸汁する。

(中央農試)

(2) ばれいしょのトマトキバガ（新寄主）

令和7年8月上旬、長沼町の中央農試で試験栽培しているばれいしょ（品種「コナユタカ」、「スノーマーチ」）において葉の内部が食害され薄皮状になる被害葉が確認された。被害葉を確認した結果、鱗翅目の幼虫が確認された。横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、トマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick) であると同定された。本種は令和5年に道内でトマトの新発生害虫として報告があったが、ばれいしょでの寄生確認は本邦で初めてとなる。

当該ほ場において、8月中旬では被害複葉率約1%、8月下旬では2%と低く推移した。その後も葉の被害が急激に増加することはないと、また、塊茎への被害も確認されなかったことから、ばれいしょへの収量および品質への悪影響はなかった。

(中央農試)

(3) てんさい・キャベツのシロイチモジヨトウ（新寄主）

令和7年7月下旬に、十勝管内の複数のてんさいほ場で慣行の殺虫剤を散布後にも鱗翅目幼虫が残って加害を継続するとの報告があった。散布後の食害葉に残る幼虫を確認したところ、側線の白色が明瞭な鱗翅目幼虫が認められ、羽化させた結果シロイチモジヨトウ *Spodoptera exigua* (Hübner) と同定された。その後、8月中下旬には石狩管内、空知管内、オホーツク管内など、道内の広い地域でてんさいへの加害が確認され、9月には中央農業試験場内のキャベツほ場（無防除）でも加害が確認された。これまで、道内における本種の作物被害は渡島管内の露地栽培ねぎへの加害が確認されており、道外ではねぎ、ウリ科、マメ科、アブラナ科作物を加害する広食性の害虫であることが知られている。本種成虫は、前翅長約12mmで灰褐色、環状紋および腎状紋は白色～黄褐色であるものの不鮮明なことも多い。幼虫の体色は変化に富み、中齢及び老齢幼虫の腹部側面に明瞭な白い線があることが特徴である。また、殺虫剤に対する感受性低下事例が多く、カーバメート系（IRACコード：1A）、有機リン系（同：1B）、ピレスロイド系（同：3A）、ネライストキシン類縁体（同：14）、ベンゾイル尿素系（同：15）、ジアミド系（同：28）などで感受性の低下が報告されている。本種は休眠性を持たず、低温耐性が低いと道外からの飛来と考

えられる。

(中央農試、道南農試、十勝農試、北見農試)

(4) 小豆・いちご・キャベツのオオタバコガ(新寄主)

令和6年8月中旬、訓子府町の北見農試内の小豆において、花や若莢を食害するタバコガ亜科の鱗翅目幼虫を確認した。本種は、花においては花弁を円形に切り取るように食害し、莢においては1～5mm程度の穴を開け、表面から円型すり鉢状に穿孔し、頭部を差し入れ子実を食害した。採集した幼虫は小豆の若莢のみで発育し、成虫が得られた。得られた成虫は体長20mm、開長40mm内外で、外部形態の特徴からオオタバコガ *Helicoverpa armigera* (Hübner) と同定された。

本種による小豆の花及び莢の食害は8月上旬から9月上旬にも認められたほか、8月中旬には後志管内の生産者ほ場および中央農試ほ場でも確認された。また、8月下旬には道央地域の施設栽培いちごで葉の食害、9月には中央農試のキャベツほ場でも葉の加害が確認された。

本種は令和6～7年にかけて、道内への飛来量が多かった。加えて夏季の気温が平年より高かったことがこれらの被害に関係したと推測される。キャベツが加害された際は、結球内部に穿孔加害するため結球期までの防除が重要である。

(北見農試・中央農試・後志農業改良普及センター)

(5) たまねぎの黒かび病(新発生)

令和5年10月および令和7年2月に空知管内の共選施設で貯蔵中のたまねぎにおいて、可食部のりん片に腐敗および黒い菌叢の発生が認められ、罹病組織から分離された菌はその形態から *Aspergillus* 属菌と推定された。同菌をたまねぎのりん茎に接種したところ、りん片の腐敗やその表面および裏側に黒い菌叢を生じるなどの原病徴が再現され、症状部分から同菌が再分離された。ITS領域の遺伝子配列の相同性解析を行った結果、既知の *A. niger* の配列と99%と一致したことから *A. niger* Tieghem によるたまねぎの黒かび病と同定した。

本病原菌は、府県の秋まきたまねぎ栽培において夏期貯蔵中のたまねぎのりん茎に腐敗症状をおこす病害として知られている。佐賀大学の報告では、5月下旬から6月上旬に収穫し、茎葉をほ場で枯凋させずに残した状態で、屋根の下で自然乾燥において、高温乾燥状態での貯蔵となった場合に7月下旬～8月上旬頃にりん茎の腐敗が見られるとのことである。また、香川県では貯蔵前のビニールハウスや温風乾燥機によるキュアリング処理により本病が多発したとの報告がある。本病原菌の菌糸伸長の最適温度は35℃と高く、温度範囲は17～42℃とされている。また、たまねぎりん茎の搾汁液により本病原菌の分生胞子の発芽が促進されるため、茎葉やりん茎の有傷部分から侵入するとされている。登録農薬にはピコキシストロピン水和剤Fとベノミル水和剤がある(令和7年11月現在)。

(花野技セ)

(6) トマト・ミニトマトの白絹病(新発生)

令和6年7月、日高管内の牧草地跡の新規ハウスで、ミニトマト(品種「キャロル10」)に下位葉から上位葉にかけて葉が萎れる症状が発生した。発病株は地際の茎表面に黒褐色の病斑が認められ、病斑と周囲の地表面に白色絹糸状のかびを生じて、白色～褐色のけし粒状の菌核を多数形成した。病斑部から分離された糸状菌は、5～10mmの白色の菌糸にかすがい連結を有し、菌糸表面に1mm程度の球形の菌核を形成した。分離株をトマトに接種したところ地際の黒褐色の病徴と萎凋症状が再現されたことから、*Sclerotium rolfsii* Saccardo によるトマト白絹病と同定した。

本菌は菌糸や菌核の形で罹病残さとともに土壤中で残存して第一次伝染源となり、土壌中や土壌表面に未分解有機物があると発生しやすい。高温で湿った土壌条件を好み、ナス科、ウリ科、アブラナ科、マメ科など多くの作物を侵す。好気性の菌であるため、湛水状態では数カ月で死滅する。

(中央農試・日高農業改良普及センター)

(7) なすのマキバカスミカメ(新寄主)

令和6年9月及び令和7年7月に石狩管内においてハウス栽培のなすでハウスの一部に展開した葉に大きさ数mm程度の穴が点在する症状が確認された。当該ハウスにおいて、なすの茎葉に多数のカスミカメムシ類の成虫および幼虫が確認された。採取した成虫及び飼育し羽化させた個体については、小楯板にY字の白い紋があるなどの外部形態の特徴からマキバカスミカメ *Lygus rugulipennis* Poppius と同定された。また、採集した個体をなすに放飼した結果、穴が空く症状が再現され、本種による食害であることが確認された。本種は道内において、はくさいやスイートコーンなど様々な作物への寄生が確認されている。

(中央農試・石狩農業改良普及センター・住友化学(株))

(8) セルリーのキタネコブセンチュウ(新寄主)

令和7年5月及び6月に胆振管内の促成作型のセルリーハウスにおいて、地上部の葉の黄化、生育抑制・矮化症状が確認された。発病株の根部に細根、直根を問わず直径数mmの大小様々なこぶが形成され、こぶの形成が多いと地上部の症状も顕著になった。また、根のこぶからは細根が分岐していた。当該ハウスの土壌からはベールマン法によってネコブセンチュウ類が多数検出された。また、セルリーのこぶの内部にはセンチュウ類の雌成虫が確認され、ペレニアルパターンからキタネコブセンチュウ *Meloidogyne hapla* Chitwood と同定された。

(中央農試・胆振農業改良普及センター)

(9) かえんさいの褐斑病（新称）

かえんさい（ピーズ）は近年北海道で栽培が増加し、令和4年頃より道内各地で葉に中央が淡褐色～灰褐色、周囲が紫紅色の円形～不整形の病斑が認められていた。これらの病斑には針状～長い棍棒状の分生子が形成され、ここから糸状菌が分離された。分離菌をかえんさいに接種したところ、原病徴が再現され、接種菌が再分離された。接種した病斑上にはテンサイ褐斑病菌に酷似した子座および分生子柄を形成、針状～長い棍棒状の分生子を単生した。テンサイ褐斑病との異同を明らかにするため、テンサイ褐斑病の分離株を用いてかえんさいと相互に接種したところ、いずれの分離菌もかえんさいおよびてんさいに病原性が認められ、形態および病原性からテンサイ褐斑病菌と同一と考えられた。一方、テンサイ褐斑病菌は *Cercospora beticola* の他 *C. cf. resedae* および *C. hokkaidensis* が報告されているため分子系統解析を行ったところ、*C. cf. resedae* および *C. hokkaidensis* と同じクレードに属した。この結果から分離菌は *C. cf. resedae* および *C. hokkaidensis* のいずれかの種に属すると考えられ、現時点では本病を *Cercospora* sp. によるカエンサイ褐斑病とする。

（中央農試）

(10) ぶどうのキクビアオハムシ（新発生）

令和7年7月下旬、十勝管内の醸造用ぶどうにおいて、葉に大きさ数mmの多数の穴が開いている症状が確認された。当該園地には「山幸」と「清舞」が植栽されていたが、いずれの品種においても9割以上の葉に食害が確認された。被害葉にはハムシ類の成虫および幼虫が確認された。食害は、下位葉に多く、上位葉（新葉）の被害は少ない傾向であったことから、展葉してすぐの5月頃に多数の個体が食害した可能性が考えられた。採取した成虫及び飼育下で羽化した成虫は、体長は約6mm、前胸背板が赤褐色で1対のくぼみがあり、上翅が緑青色などの特徴からキクビアオハムシ *Agelasa nigriceps* Motschulsky と同定された。本種の幼虫は、令和2年7月に、上記と同一品種を栽培する日高管内の圃場においても確認されている。

本種の幼虫は、令和2年7月に、上記と同一品種を栽培する日高管内の圃場においても確認されている。本種の野生寄主はヤマブドウやサルナシであり、当該ほ場のぶどうの品種もヤマブドウ系の品種であったため、好んで加害された可能性がある。

（中央農試・十勝農試）

(11) ハスカップおよびカーランツのチャバネアオカメムシ（新寄主）

長沼町の中央農試果樹園のハスカップにおいて令和7年6月上旬及び7月中旬、カーランツにおいて7月中旬に、カメムシ類成虫及び幼虫を果実及び茎葉で確認し、いずれの果実も吸汁する様子が確認された。また、7月中旬には、カーランツの葉の陰に集団で隠れている様子も確認された。幼虫については室内でそれぞれの果実で飼育した結果、成虫が得られ、外部形態からチャバネアオカメムシ *Plautia crossota stali* Scott と同定した。ハスカップにおいては、果実がしわ状やしいなどなる果実が確認された。一方、カーランツにおいては、被害果がしわ状となる症状が確認された。7月中旬におけるハスカップの被害果率は約48%、カーランツの被害果率は約30%であり、多くの果実で被害が確認された。本種は令和5年にぶどうで発生が報告されており、令和7年においては様々な果樹や作物で多発生が確認されている。

（中央農試）

(12) マーガレットの根頭がんしゅ病（新発生）

令和6年4月、日高管内のマーガレットの地際部の茎や根にこぶが発生し、さらに生育不良となり採花ができないほ場も認められた。症状部分から、細菌を分離し、遺伝子配列の相同性解析を行った結果、*Rhizobium radiobacter* によるマーガレット根頭がんしゅ病と同定した。

本細菌は、国内でマーガレット、きく、しゅんぎく、ソリダゴなどのキク科植物や、ばら等での発生が知られている。道内のキク科植物では、きくでの発生が確認されている。

伝染方法はハサミなどによる接触伝染や土壌伝染である。管理作業や挿し芽を行うときの切断した傷口から、汚染した器具や土壌を介して侵入する。また、一般に本細菌は発病部位だけでなく、茎内を移動し株全体から検出されることから、発病株からの挿し芽は本細菌が感染している可能性がある。このため、健全株から挿し芽を採取し、無発病土壌で育苗・栽培を行う必要がある。

（花野枝セ・日高農業改良普及センター）

(13) デルフィニウムのエンマコオロギ（新寄主）

令和7年7～10月にかけ、日高管内のデルフィニウム栽培ハウスにおいて、定植した一部の苗の生育が停滞し、甚だしい場合には萎れや枯死に至った。このような株を掘り取り、根を観察したところ、根量は極めて少なく、根長は2cm程度にとどまり、細根は食害によりほぼ失われていた。株の周辺にはエンマコオロギ *Teleogryllus emma* (Ohmachi et Matsuura) の発生が目立ち、それらは灌水チューブと地面との隙間や地表面の土塊の間に坑道を掘り、潜んでいるのが観察された。苗はその食害により根を地際部からごく浅い部分で切断され、被害に至ったものと考えられた。当該ほ場において、これと同様の被害は令和5年の夏期から認められており、同じくコオロギの発生も目立っていた。

（中央農試・日高農業改良普及センター）

(14) おうぎのウリハムシモドキ (新寄主)

令和3年7月下旬、空知管内の露地ほ場において、生育初期のおうぎ(ナイモウオウギ、在来系統)の葉に食害が確認され、前翅が黄褐色で体長6~7mm程度の甲虫が認められた。1株あたり1~数頭が地際部から高さ約20cmまでの茎に寄生し、生長点付近の葉身がほとんど食害された株では生育が著しく停滞した。外部形態からウリハムシモドキ *Atrachya menetriesi* (Faldermann) と同定した。また、おうぎに放虫したところ同様の食害を確認した。本種は年1回発生し卵態で地表近くで越冬する。幼虫は5月中旬頃から現れ、マメ科を始め各種作物の葉を食害する。道内では大豆、マメ科牧草、ほうれんそうなどへの被害が報告されている。

(中央農試)

(15) せんきゅうのカンザワハダニ (新寄主)

令和6年9月中旬、北海道内のせんきゅうほ場においてハダニ類が多発し、吸汁による葉身のかすり状の白化や加害が集中する箇所には黄化・褐変を生じ、著しい場合には株の生育が抑制される事例が認められた。寄生が確認されたハダニ種は雌成虫では暗赤色、幼虫および若虫では褐色の体色を示し、葉裏に集団での寄生が認められた。採集したハダニ類はせんきゅうを餌として累代飼育が可能であり、吸汁による被害症状が再現された。得られた雄成虫の交尾器の形状からカンザワハダニ *Tetranychus kanzawai* Kishida であると同定された。なお、当該ほ場での発生は既にセンキウで発生が報告されているナミハダニとの混発であった。10月に入るとせんきゅう上のほとんどの個体が赤橙色を呈し休眠雌となったことから露地越冬しており、また、ほ場周辺の落葉広葉樹上にも寄生が確認されたことからほ場内外に定着していると推測された。本種は広食性であり、北海道においては畑作物、花卉、野菜、果樹の広範な作物において加害の報告がある。有効積算温度による推定では道内露地で年間5~6世代を経過すると推定される。

(北見農試)

(16) せんきゅうのうどんこ病 (新称)

令和6年9月、空知管内の露地ほ場でせんきゅうの茎葉に白色粉状の病徴が認められた。病勢の進展に伴い、株全体が菌叢に覆われ、葉の枯死を起こした。表生する菌は分生子柄に分生子を単性し、発病葉には後に子のう殻を多数形成した。葉に認められた菌の形態的特徴と遺伝子解析の結果から本菌は *Erysiphe* 属菌と同定された。本菌を原宿主に接種することで原病徴が再現された。以上のことから、本病害を *Erysiphe* sp. によるセンキウうどんこ病と提案した。なお、本菌は同じセリ科のにんじん及びセルリーへの接種では病原性を示さなかった。

(中央農試・夕張ツムラ)

(17) とうきのアシプトホコリダニ (新寄主)

令和7年8月、空知管内の露地とうきほ場において、採種株の花序に白いかすり状の小斑点や褐変が認められ、9月上~中旬には熟さないまま枯死し、採種に至らなかった。被害部位である花序にホコリダニが多数寄生しており、プレパラート標本での同定により、アシプトホコリダニ *Tarsonemus confusus* Ewing であることが判明した。本種は雌成虫の体長は200µm内外、雄成虫の体長は150µm内外であり、果樹、野菜、花卉からよく採取される。また、稲わらや籾などの貯穀類や菌類培地にも発生することがある。

(中央農試)

(18) とうきのヒメビロウドコガネ (新寄主)

令和7年5月中旬に十勝管内の露地ほ場において、定植間もないとうきの葉に食害が確認された。被害の著しい場合、葉身がすべて食害され、葉柄のみが残り、ほうき状となった。被害株率は5月下旬にはおよそ20%に達した。一部の被害株では黒灰色で体長8~9mm程度の甲虫が認められ、成虫の外部形態からヒメビロウドコガネ *Maladera orientalis* (Motschulsky) と同定した。また、室内でとうきに放虫して同様の食害を確認した。本種は各種作物の葉や花を食害し、道内ではてんさい、大豆、いちご、クローバ、りんごなどへの被害が報告されている。

(十勝農試)

新たに発生を認めた病害虫

以下の(1)から(18)は4. 新たに発生を認めた病害虫の番号に対応する。

(1)大豆のクサギカメムシ



(2)ばれいしょのトマトキバガ



(3)てんさい・キャベツのシロイチモジヨトウ



(4)小豆・いちご・キャベツのオオタバコガ



(5)たまねぎの黒かび病



(6)トマト・ミニトマトの白絹病



(7)なすのマキバカスミカメ



(8)セルリーのキタネコブセンチュウ



(9)かえんさいの褐斑病



(10)ぶどうのキクビアオハムシ



(11)ハスカップ、カーランツのチャバネアオカメムシ



(12)マーガレットの根頭がんしゅ病



(13)デルフィニウムのエンマコオロギ



(14)おうぎのウリハムシモドキ



(15)せんきゅうのカンザワハダニ



(16)せんきゅうのうどんこ病



(17)とうきのアシトホコリダニ(食害痕)



(18)とうきのヒメビロウドコガネ



V 令和7年度主要病害虫発生程度別面積及び防除面積

作物名	病害虫名	発生面積		被害面積		発生程度別面積 (ha)					防除面積 (ha)		概評	
		面積 (ha)	率 (%)	面積 (ha)	率 (%)	無	少	中	多	甚	実面積	延面積	初発期	発生量
95,000 ha	葉いもち	446	0.5	0	0.0	94,554	446	0	0	0	94,560	221,087	並	並
	穂いもち	602	0.6	16	0.0	94,398	586	16	0	0	94,560	221,087	並	並
	紋枯病	19,968	21.0	1,718	1.8	75,032	18,250	1,502	216	0	17,362	20,252	やや早	並
	縮葉枯病	1,440	1.5	0	0.0	93,560	1,440	0	0	0	50,861	63,238	-	並
	ばか苗病	550	0.6	43	0.0	94,450	507	43	0	0	94,957	94,957	-	並
	苗立枯病	1,328	1.4	50	0.1	93,672	1,278	50	0	0	76,918	80,665	-	並
	種子伝染性細菌病	60	0.1	43	0.0	94,940	17	43	0	0	94,957	94,957	-	並
	ニカメイガ	727	0.8	0	0.0	94,273	727	0	0	0	50,679	83,239	並	並
	セジロウンカ	1,227	1.3	0	0.0	93,773	1,227	0	0	0	93,015	193,059	やや早	並
	ヒメトビウンカ	21,194	22.3	9	0.0	73,806	21,185	9	0	0	89,092	183,167	やや遅	やや多
	イネドロオイムシ	2,919	3.1	209	0.2	92,081	2,710	209	0	0	88,863	95,715	並	少
	アカヒゲ ホソミドリ カスミカメ	33,029	34.8	2,935	3.1	61,971	30,094	2,866	69	0	94,974	228,288	早	多
	イネミギワバエ	614	0.6	0	0.0	94,386	614	0	0	0	31,155	31,155	並	少
フタオビコヤガ	627	0.7	0	0.0	94,373	627	0	0	0	85,481	120,381	並	少	
132,300 ha	赤さび病	31,619	23.9	5,811	4.4	100,681	25,808	4,928	830	53	132,300	395,288	早	並
	うどんこ病	6,435	4.9	105	0.1	125,865	6,330	105	0	0	132,300	366,069	並	並
	雪腐病類	18,193	13.8	1,336	1.0	114,107	16,857	1,205	110	21	130,809	130,808	-	少
	眼紋病	7,612	5.8	1,276	1.0	124,688	6,336	1,254	22	0	34,940	34,941	-	やや多
	赤かび病	8,146	6.2	0	0.0	124,154	8,146	0	0	0	132,300	448,308	-	少
17,797 ha	赤かび病	1,415	8.0	0	0.0	16,382	1,415	0	0	0	17,797	59,200	-	少
	ムギキモグリバエ	1,013	5.7	0	0.0	16,784	1,013	0	0	0	7,176	12,157	並	並
868 ha	赤かび病	50	5.8	0	0.0	818	50	0	0	0	868	3,122	-	少
	ムギキモグリバエ	46	5.3	0	0.0	822	46	0	0	0	290	490	並	やや多

大豆 46,800 ha	べと病	7,579	16.2	0	0.0	39,221	7,579	0	0	0	21,154	24,973	並	やや少
	わい化病	6,136	13.1	164	0.4	40,664	5,972	82	82	0	46,787	82,314	-	やや多
	マメシンクイガ	8,701	18.6	95	0.2	38,099	8,606	95	0	0	46,783	102,042	早	やや少
	食葉性 鱗翅目幼虫	12,601	26.9	442	0.9	34,199	12,159	388	54	0	42,000	83,044	やや早	並
	タネバエ	311	0.7	0	0.0	46,489	311	0	0	0	46,787	46,787	-	並
小豆 20,800 ha	菌核病	1,132	5.4	0	0.0	19,668	1,132	0	0	0	20,415	66,353	並	やや少
	灰色かび病	2,871	13.8	0	0.0	17,929	2,871	0	0	0	20,800	66,572	並	並
	茎疫病	321	1.5	0	0.0	20,479	321	0	0	0	3,140	3,971	-	やや少
	落葉病	484	2.3	3	0.0	20,316	481	3	0	0	0	0	-	並
	食葉性 鱗翅目幼虫	4,450	21.4	66	0.3	16,350	4,384	66	0	0	20,602	38,496	並	並
菜豆 5,270 ha	菌核病	292	5.5	0	0.0	4,978	292	0	0	0	4,944	15,505	並	少
	灰色かび病	341	6.5	0	0.0	4,929	341	0	0	0	5,270	15,832	並	やや少
	黄化病	47	0.9	0	0.0	5,223	47	0	0	0	5,270	6,104	-	少
	タネバエ	27	0.5	0	0.0	5,243	27	0	0	0	5,270	0	-	並
ばれいしょ 48,700 ha	疫病	1,102	2.3	57	0.1	47,598	1,045	57	0	0	48,700	379,088	遅	少
	塊茎腐敗	1,758	3.6	35	0.1	46,942	1,723	35	0	0	48,700	379,088	-	少
	軟腐病	8,217	16.9	463	1.0	40,483	7,754	463	0	0	48,700	178,540	-	並
	黒あし病	1,413	2.9	2	0.0	47,287	1,411	2	0	0	38,453	38,792	-	並
	そうか病	12,417	25.5	2,545	5.2	36,283	9,872	1,814	561	170	38,453	38,453	-	並
	粉状そうか病	2,292	4.7	69	0.1	46,408	2,223	69	0	0	3,928	3,928	-	やや少
	アブラムシ類	5,689	11.7	333	0.7	43,011	5,356	333	0	0	48,700	146,568	やや早	やや少
てんさい 48,900 ha	褐斑病	39,435	80.6	8,335	17.0	9,465	31,100	6,426	1,762	147	48,900	346,041	早	多
	根腐病 (黒根病を含む)	2,932	6.0	0	0.0	45,968	2,932	0	0	0	48,701	97,691	-	少
	そう根病	52	0.1	0	0.0	48,848	52	0	0	0	0	0	-	やや少
	黄化病 (西部萎黄病)	570	1.2	0	0.0	48,330	570	0	0	0	47,470	122,456	-	少
	ヨトウガ (第1回)	9,533	19.5	505	1.0	39,367	9,028	496	9	0	48,900	84,665	やや早	やや多
	ヨトウガ (第2回)	17,731	36.3	4,470	9.1	31,169	13,261	4,313	135	22	48,900	89,292	やや早	多
	テンサイ モグリハナバエ	1,505	3.1	288	0.6	47,395	1,217	288	0	0	40,463	54,608	並	やや多

たまねぎ 14,900 ha	白斑葉枯病	698	4.7	0	0.0	14,202	698	0	0	0	14,900	102,194	遅	少
	軟腐病	3,836	25.7	40	0.3	11,064	3,796	40	0	0	14,900	112,451	-	少
	乾腐病	1,525	10.2	70	0.5	13,375	1,455	70	0	0	151	151	-	少
	タマネギバエ、 タネバエ	444	3.0	18	0.1	14,456	426	18	0	0	5,840	6,259	-	少
	ネギアザミウマ	14,048	94.3	1,730	11.6	852	12,318	1,480	250	0	14,900	110,352	早	やや多
	ネギハモグリ バエ	702	4.7	39	0.3	14,198	663	39	0	0	13,288	81,274	並	少
ねぎ 602 ha	さび病	37	6.1	0	0.0	565	37	0	0	0	577	2,073	-	少
	ネギアザミウマ	576	95.7	304	50.5	26	272	249	55	0	602	4,611	やや早	多
	ネギコガ	2	0.3	0	0.0	600	2	0	0	0	602	1,890	-	-
	ネギハモグリ バエ	63	10.5	7	1.2	539	56	7	0	0	602	2,368	-	-
ながいも 1,720 ha	アブラムシ類	22	1.3	0	0.0	1,698	22	0	0	0	808	4,148	-	-
にんじん 4,190 ha	黒葉枯病	401	9.6	8	0.2	3,789	393	8	0	0	4,003	13,378	-	少
だいこん 2,600 ha	軟腐病	835	32.1	146	5.6	1,765	689	95	51	0	2,366	8,364	-	並
	キスジ トビハムシ	584	22.5	22	0.8	2,016	562	22	0	0	2,600	8,056	-	やや少
キャベツ 1,060 ha	コナガ	588	55.5	54	5.1	472	534	54	0	0	1,060	6,797	早	やや多
	ヨトウガ	240	22.6	15	1.4	820	225	15	0	0	1,060	5,248	やや早	やや少
ブロッコリー 3,290 ha	コナガ	2,324	70.6	280	8.5	966	2,044	255	25	0	3,290	14,352	早	並
	ヨトウガ	1,105	33.6	10	0.3	2,185	1,095	10	0	0	3,290	11,126	やや早	少
りんご 501 ha	モニリア病	15	3.0	0	0.0	486	15	0	0	0	501	1,002	並	並
	黒星病	4	0.8	0	0.0	497	4	0	0	0	501	5,006	並	少
	斑点落葉病	36	7.2	0	0.0	465	36	0	0	0	501	2,657	並	少
	腐らん病	502	100.2	117	23.4	0	385	104	13	0	501	1,495	-	多
	ハマキムシ類	27	5.4	0	0.0	474	27	0	0	0	501	2,204	やや遅	少
	モモシンクイガ	72	14.4	2	0.4	429	70	1	1	0	501	1,897	早	並
	ハダニ類	15	3.0	1	0.2	486	14	1	0	0	501	1,161	並	少
	キンモンホソガ	69	13.8	0	0.0	432	69	0	0	0	501	1,846	やや早	やや少

VI 侵入調査事業

近年の気候変動、人やモノの移動の増加を背景として、有害動植物の侵入・まん延リスクが増加しているなか、重要病害虫が万が一国内の未発生地域に侵入した場合、農業生産に重大な損害を与え、農産物の輸出を阻害するおそれがある。こうしたことから、重要病害虫の侵入を早期に発見し、速やかに的確な防除を実施するため、令和4年5月の植物防疫法改正により、全国で斉一的な調査を実施する侵入調査事業が同法に位置づけられ、本道においても令和5年度から調査を開始した。

分類	調査対象有害動植物	作物の種類	調査地点数	確認数
昆虫類	コドリングガ	りんご	3	0
昆虫類	トマトキバガ	ばれいしょ、トマト	5	4,632
線虫類	Meloidogyne enterolobii	トマト	8	0
ウイロイド*	Columnea latent viroid (CLVd)			0
ウイロイド*	Pepper chat fruit viroid (PCFVd)			0
ウイロイド*	トマト退緑萎縮ウイロイド (TCDVd)			0
ウイロイド*	Tomato apical stunt viroid (TASVd)			0
ウイルス	Pepino mosaic virus (PepMV)			0
ウイルス	Tomato brown rugose fruit virus (ToBRFV)			0
ウイルス	Tomato mottle mosaic virus (ToMMV)			0
ウイルス	Tomato leaf curl New Delhi virus (ToLCNDV)			0
線虫類	カンキツネモグリセンチュウ			ばれいしょ
線虫類	バナナネモグリセンチュウ	0		
線虫類	コロンビアネコブセンチュウ	0		
菌類	Thecaphora solani	0		
ウイロイド*	ジャガイモやせいもウイロイド (PSTVd)	0		
昆虫類	コロラドハムシ	0		
線虫類	ジャガイモシストセンチュウ	0		
線虫類	ジャガイモシロシストセンチュウ	0		
菌類	ジャガイモがんしゅ病菌	0		
細菌	火傷病菌	りんご	1	
—	イネミイラ穂病菌その他の日本に産しない各種のイネの検疫有害動植物	いね	6	0
線虫類	テンサイシストセンチュウ	てんさい	16	0
昆虫類	ヘシアンバエ	むぎ	59	0
菌類	Ramularia collo-cygni			0
細菌	スイカ果実汚斑細菌病菌	すいか	6	0
細菌	インゲンマメ萎ちょう細菌病菌	だいず	26	0
ウイルス	ウメ輪紋ウイルス	おうとう、プルーン	3	0

VII その他調査

病害虫発生予察事業の円滑な実施に向け次の調査を実施した。

調査名	協力機関	対象作物	対象病害虫名	調査依頼先（普及センター）
発生予察事業に係るリンゴ定点調査	道総研中央農試	リンゴ	モニリア病、黒星病、斑点落葉病、ハマキムシ類、ハンダニ類、キンモンホソガ	後志農業改良普及センター北後志支所
リンゴ等のフェロモントラップ調査	道総研中央農試	リンゴ等	ハマキムシ類、モモシンクイガ、キンモンホソガ、コムモスカシバ、スモモヒメシンクイ	空知農業改良普及センター 石狩農業改良普及センター石狩北部支所 後志農業改良普及センター北後志支所 胆振農業改良普及センター 上川農業改良普及センター 渡島農業改良普及センター 留萌農業改良普及センター南留萌支所

F 諸報告，情報連絡，協議会等

I 予察情報の発表状況

1 予報の発表状況

発表回数及び時期

第1号（予察情報第1号）	長期予報	3月28日
第2号（予察情報第2号）	5月予報	4月30日
第3号（"第5号）	6月予報	5月27日
第4号（"第8号）	7月予報	6月27日
第5号（"第16号）	8月予報	7月25日
第6号（"第19号）	9月予報	8月28日

対象病害虫 指定および指定外の内、各時期の主要病害虫

2 注意報の発表状況

発表時期及び内容

第1号（予察情報第3号） 5月13日

「あぶらな科野菜のコナガが多飛来！ ほ場観察に努め防除開始時期に注意しよう！」

第2号（予察情報第7号） 6月20日

「オオタバコガがフェロモントラップに多誘殺 速やかな薬剤防除を！」

第3号（予察情報第9号） 6月27日

「とうもろこしを食害するアワノメイガが多誘殺！ 早めの防除を心がけよう！」

第4号（予察情報第10号） 7月1日

「てんさいの褐斑病が早発！ 防除開始時期が遅れないよう注意しましょう！」

第5号（予察情報第11号） 7月10日

「各種果樹で大型カメムシ類による果実被害が多くなる恐れ！ 園地を観察して、発生を確認したら早めの防除を心がけよう！」

第6号（予察情報第12号） 7月18日

「水稻のアカヒゲホソミドリカスミカメが多発 高温経過で加害が活発化の恐れ！ 水稻の生育に合わせて適期防除を心がけよう！」

第7号（予察情報第13号） 7月18日

「シロオビノメイガが早期に飛来！ てんさいなどでは今後の被害に注意！」

第8号（予察情報第15号） 7月25日

「全道的にマメシンクイガが早発・多発！ 大豆の生育に合わせて適期防除に努めましょう！」

第9号（予察情報第18号） 8月22日

「シロイチモジヨトウのフェロモントラップに多誘殺を確認 各種作物の観察に努め、発生確認後の速やかな対応を！」

3 警報 発表なし

4 特殊報

発表時期及び内容

第1号（予察情報第23号） 12月24日

「ブロッコリーの黒すす病におけるSDHI剤耐性菌の発生について」

5 月報の発表状況

発表回数及び発表時期

第1号（予察情報第4号）	4月月報	5月16日
第2号（"第6号）	5月月報	6月16日
第3号（"第14号）	6月月報	7月18日
第4号（"第17号）	7月月報	8月15日
第5号（"第20号）	8月月報	9月16日
第6号（"第21号）	9月月報	10月15日

6 主要病害虫の発生概況

発表時期及び内容

第1号（予察情報第22号） 10月27日

7 地区報 発表なし

8 発表方法

予察情報は、ホームページ (<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>) にて公表し、一層の周知を図るため、次の送付先にメールにて通知を行った。

なお、ホームページには、「病害虫発生予察情報」の他、「病害虫速報」、「巡回調査結果報告」、「BLASTAMによる葉いもち感染好適日」、「FLABSによるばれいしょ疫病初発予測」、「新発生病害虫」、「本年度特に注意を要する病害虫」、「イネドロオイムシ北の虫見番」、「北海道病害虫防除所について」、「発生予察用語の基礎知識」を掲載した。

〈送付先〉

国 関係：農林水産省消費・安全局植物防疫課、東北農政局、北海道農政事務所、北海道農業研究センター、横浜植物防疫所札幌支所、JPP-NET

※ 特殊報は、農林水産省各農政局にも通知。

道 関係：道農政部関係各課、各総合振興局・振興局、各農業改良普及センター、道総研各農業試験場市町村等：各市町村、各農業協同組合

関係団体：ホクレン、JA 北海道中央会、北海道 NOSAI、北海道農産協会、北海道農産物集荷協同組合、北海道植物防疫協会、クロープライフジャパン北海道支部、日本植物調整剤研究協会北海道支部、日本甜菜製糖(株)、北海道糖業(株)、北海道農業公社、北海道農薬卸協同組合、酪農学園大学、(株)東宣、十勝農協連、北海道養蜂協会

そ の 他：東北各県病害虫防除所

9 利用状況

本情報に基づいて、各地域において病害虫の発生時期・発生量の観察が実施され、防除の判断に寄与している。

II 病害虫防除指導通知

「北海道ジャガイモシストセンチュウ類防除対策基本方針に基づく土壌検診の実施並びに土壌検診及び植物検診の結果報告について（通知）」

(令和7年10月1日北病防第47号)

III 各種会議、研修等（道総研対応分含む）

1 発生予察事業実施計画及び成績検討会議等

以下の会議を開催または出席した。

事業実施計画検討会議	：令和7年 4月15日	web 開催
事業成績検討会議	：令和7年 12月12日	札幌市（第二水産ビル会議室）
農業試験会議病虫部会		
新規課題検討会	：令和7年 7月 9日	札幌市（プレスト1・7）
成績会議	：令和8年 1月20日	web 開催
設計会議	：令和8年 3月5～6日	web 開催
農作物病害虫・雑草防除ガイドに関する打合せ	：令和7年 11月 7日	札幌市（かでの2・7）
北海道・東北地区植物防疫協議会		
	：令和7年 12月4～5日	宮城県仙台市（仙台合同庁舎）

2 北海道農業気象連絡協議会

第1回	：令和7年 3月28日	web 開催
第2回	：令和7年 4月30日	web 開催
第3回	：令和7年 5月28日	web 開催
第4回	：令和7年 6月27日	web 開催
第5回	：令和7年 7月29日	web 開催
第6回	：令和7年 8月29日	web 開催
第7回	：令和7年 10月 1日	web 開催
第8回	：令和7年 11月27日	web 開催

3 中央研修会及び出席者

令和7年度病害虫防除所職員等中央研修

令和7年12月16～19日（横浜植物防疫所）

中央農業試験場病虫部予察診断グループ 佐々木 太陽

4 道内研修会・技術指導等

- 三宅規文. 「害虫の防除技術について」（滝川市）（2025. 7. 25）
- 野津あゆみ. 「水稲種子生産における紋枯病防除について」（札幌市）（2025. 7. 26）
- 山名利一. 「AI ウイルス画像診断について」（長沼町）（2025. 7. 29）
- 三宅規文. 「バッタ類の防除方法について」（足寄町）（2025. 7. 29）
- 佐々木太陽. 「醸造用ぶどうの主要病害虫について」（岩見沢市）（2025. 8. 20）
- 野津あゆみ. 「最近の水稲における病害虫防除を巡る課題」（東京都北区）（2025. 9. 17）
- 三宅規文. 「北海道で新たに発生した病害虫」（札幌市）（2025. 12. 19）
- 三宅規文. 「アブラムシ類の早期発生への防除対策について」（帯広市）（2025. 12. 26）
- 三宅規文. 「飛来性害虫とその対策について」（網走市）（2026. 1. 16）
- 野津あゆみ. 「IPMの基礎としての植物病害の仕組み」（帯広市）（2026. 1. 23）
- 三宅規文. 「近年の病害虫発生について」（札幌市）（2026. 1. 26）
- 三宅規文. 「近年のてん菜病害虫について」（芽室町）（2026. 2. 5）
- 三宅規文. 「馬鈴しょに発生するウイルス病害対策について」（帯広市（Web参加））（2026. 2. 9）
- 三宅規文. 「令和7年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫」（札幌市）（2026. 2. 20）
- 長濱 恵. 「令和7年に特に注意を要する病害虫」（比布町）（2026. 2. 25）
- 東岱孝司. 「令和7年に特に注意を要する病害虫」（幕別町）（2026. 2. 25）
- 小澤 徹. 「令和7年に特に注意を要する病害虫」（北見市）（2026. 2. 25）
- 三澤知央. 「令和7年に特に注意を要する病害虫」（北斗市）（2026. 2. 26）
- 美濃健一. 「リンゴ腐らん病の防除方法」（江別市）（2026. 2. 27）
- 三宅規文. 「令和7年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫」（札幌市）（2026. 3. 2）

IV その他情報及び業績報告

1 令和8年普及奨励、普及推進事項、指導参考事項、研究参考事項並びに行政参考事項

- (1) 令和7年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫（指導参考事項）

2 研究論文、試験成績

3 口頭発表

- (1) 佐々木太陽, 山名利一. ジャガイモにおけるトマトキバガの寄生について. 北日本病害虫研究発表会（盛岡市）（2026. 2. 18-19）

4 専門雑誌記事

- (1) 山名利一. ジャガイモYウイルスのAI検査. ニューカントリー7月号, p. 68-69(2025)
- (2) 山名利一. AIでばれいしょのモザイク病を診断. 農業共済新聞8月3週号, (2025)
- (3) 野津あゆみ. 北海道における水稲栽培と病害虫防除の現状と課題. 植物防疫12月号, p. 14-20(2025)
- (4) 山名利一. バレイシヨの病害虫防除. 日本農業新聞1月28日号, (2026)
- (5) 三宅規文. 2026作物展望 病害虫. ニューカントリー1月号, p. 62-64(2026)
- (6) 三宅規文. 近年のてん菜病害虫について. てん菜だより第15号, p. 6-7(2026)
- (7) 野津あゆみ. 2026年に特に注意を要する病害虫. 農業共済新聞3月2週号, (2026)
- (8) 野津あゆみ. 令和7年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫. 北農第93巻2号, (2026)
- (9) 野津あゆみ. 2026年度に特に注意が必要な病害虫. ニューカントリー4月号, p. 14-16(2026)

5 北海道農薬指導士認定研修

区 分	特別研修（新規認定）	一般研修（更新認定）
日 時	令和8年2月6日	令和8年1月7日～3月6日
場 所	北海道第二水産ビル	研修資料による自主研修
受 講 者	86名	202名
認 定 数	85名	202名
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・農薬取締法 ・農薬一般 ・農薬の安全性評価 ・散布（施用）技術 ・毒物及び劇物取締法 ・病害概論 ・害虫概論 ・雑草概論と防除及び植物の生育調整 ・認定試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・農薬取締法と農薬の安全・適正使用について

6 農薬販売届出件数（病虫害防除所受理分）

（令和7年度分）

区 分	新 規	変 更	廃 止
件 数	11	62	3

7 マイナー作物等農薬登録試験実施概要

（殺菌・殺虫剤）

実施年度	作物名	病虫害名	農薬名	農薬種類名	希釈倍数・使用量	使用回数
R7	せんきゅう	ハダニ類	コロマイト乳剤	ミルバメクチン乳剤	1000倍	2回
R7	とうき	ハダニ類	コロマイト乳剤	ミルバメクチン乳剤	1000倍	2回

（除草剤）

実施年度	作物名	雑草名	農薬名	農薬種類名	使用量	使用回数
R7	レッドビート（かえんさい）	一年生広葉雑草	ハーブラックWDG	メタミトロン水和剤	400～500g/10a 水量 50～100L/10a	2回以内
R7	とりかぶと（薬用）	一年生雑草（アカザ科・アブラナ科・タデ科を除く）	フィールドスターP乳剤	ジメテナミドP	120ml/10a 水量 100L	1回

G BLASTAMによる葉いもちの広域発生期の判定結果

- : 好適条件
- : 準好適条件
- ? : アメダスデータ欠測のため判定できず

振興局		空知							石狩				後志				桧山			渡島									
地点		沼田	深川	吉野	滝川	芦別	月形	美唄	岩見沢	長沼	浜益	厚田	石狩	新篠津	江別	余市	共和	倶知安	蘭越	黒松内	せたな	今金	うずら	江差	八雲	森	北斗	函館	木古内
6月	15-16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	16-17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	●	-	-	-	-	○	-	-
	17-18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	18-19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	19-20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20-21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	21-22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	22-23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	○	-	-	-	-	-	-
	23-24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	24-25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	25-26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	○	○	-	-	-	-	-
	26-27	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	●	●	-	-	●	-	-	●
	27-28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-
28-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
29-30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	
7月	30-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	?	-	-	-	-	-	-	-	-	
	1-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	?	-	-	●	●	●	-	●	
	2-3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	?	●	●	●	●	●	-	-	-	
	3-4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	4-5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	
	5-6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	6-7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	?	-	-	-	-	-	-	-	
	7-8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	?	-	-	-	-	-	-	-	
	8-9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	
	9-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	
	10-11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	
	11-12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	12-13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	13-14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	14-15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	?	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
	15-16	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	●	●	-	○	-	-	○	-	-	-	
	16-17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
17-18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	●	○	-	-	●	●	-	-	-	●	-	-	-		
18-19	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-		
19-20	-	-	●	-	○	-	-	-	●	-	○	-	-	-	-	-	○	-	●	●	●	●	-	-	-	-	-		
20-21	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-		
21-22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
22-23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
23-24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
24-25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
25-26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
26-27	-	-	○	○	-	-	-	-	○	-	●	●	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
27-28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
28-29	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	○	-	-	-	-	○	-	-	-		
29-30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
30-31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
8月	31-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	1-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	2-3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	3-4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	4-5	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	○		
	5-6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○		
	6-7	-	●	-	-	-	●	-	○	○	-	●	●	-	○	-	-	●	●	-	-	-	-	○	○	-	○	-	
	7-8	●	●	-	●	●	-	●	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	○	
	8-9	●	●	-	-	○	○	●	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	9-10	-	-	-	○	-	-	-	●	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

- : 好適条件
- : 準好適条件
- ? : アメダスデータ欠測のため判定できず

振興局		胆振				日高			留萌				上川										オホーツク								
地点		伊達	厚真	穂別	鶴川	門別	新和	三石	遠別	初山別	羽幌	達布	留萌	幌糠	美深	名寄	下川	士別	朝日	和寒	比布	旭川	幌加内	江丹別	東川	美瑛	上富良野	富良野	上川	北見	美幌
6月	15-16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-
	16-17	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	-	○	?	○	-	-	-	-	○	?	-	-	-	-	-	-	-
	17-18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-
	18-19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-
	19-20	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-
	20-21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	21-22	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	22-23	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-
	23-24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	?	-	-
	24-25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-
	25-26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-
	26-27	●	●	●	-	○	●	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	●	-	-	●
	27-28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	-	-	●	○	-
28-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
29-30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7月	30-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	
	1-2	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	●	-	-	●	●	-	-	-	-	
	2-3	-	-	-	-	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	?	-	-	-	-	●	-	-	
	3-4	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	4-5	●	-	●	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5-6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	6-7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	7-8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	8-9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-
	9-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-
	10-11	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-
	11-12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-
	12-13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-
	13-14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-
	14-15	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	15-16	-	-	●	-	-	-	-	●	●	-	-	-	●	●	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	●	-
	16-17	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	17-18	-	-	-	-	-	-	○	●	●	-	-	-	●	●	●	●	-	○	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-
	18-19	●	●	●	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	19-20	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	○	○
	20-21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21-22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
22-23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	
23-24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
24-25	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
25-26	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	●	-	-	●	●	-	●	-	-	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	
26-27	-	○	-	○	-	-	-	●	-	-	-	-	●	●	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	●	○	-	
27-28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	-	-	-	●	○	-	
28-29	-	●	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-	○	-	●	-	●	-	-	-	-	-	
29-30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
30-31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	●	-	
8月	31-1	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	1-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2-3	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3-4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4-5	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5-6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6-7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
	7-8	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	●	●	●	●	●	●	●	-	-	-	●	○	-	●	●	●	-	-	●	-
	8-9	-	○	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	○	●	-	-	-	-	●
	9-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	○	-

H 北海道農業試験会議において報告された以外の道内における新発生病害虫の記録

北海道で新たに発生が確認された病害虫については、主に道総研農業試験場から北海道農業試験会議（成績会議）において、「北海道において新たに発生が認められた病害虫」として報告しており、この記録を「北海道病害虫防除提要」の編纂作業の基礎資料としている。しかし、農業試験会議の成績書に記載されなくとも、学会などの公的な場で道内における新発生病害虫の確認が報告された場合、それを記録する必要がある。また、道内での発生記録が研究機関のほ場など限定的であった場合、後日一般ほ場での発生が確認されても、既に発生記録があることから「新発生」とならないものの、防除提要に記載できるよう記録しておく必要がある。

このため、農業試験会議の構成機関以外からの新発生病害虫の報告、限定的な記録はあるが一般ほ場での発生が確認された病害虫について、農作物有害動物発生予察事業年報において記載する。

また、病害虫の学名が変更された場合や、病原が追加された場合などについても同様に記載する。

1) ジャガイモそうか病菌

2008～2010年に行われたオホーツク地域の発病調査において、これまで道内で発生が確認されている *Streptomyces scabies*、*S. turgidiscabies* に加えて *S. acidiscabies* が分布していることが確認された。
(東京農業大学・産業技術総合研究所・日鉄環境エンジニアリング株式会社)

2) てんさい褐斑病菌

道内分離株について rDNA ITS、アクチン、カルモジュリン、ヒストンおよび翻訳伸長因子からなる DNA 配列を組み合わせた分子系統解析を行ったところ 3つのグループに分類され、*C. beticola*、*C. cf. resedae* および *Cercospora* 属細菌の未知の系統群として識別された。この未知系統を別種 *Cercospora hokkaidensis* とすることが提案された。

(三重大学・道総研)

3) トリカブト茎枯病（新称）

2024年、道央地域のオクトリカブトにおいて地際部に黒色、不整形の病斑が生じ、茎や葉柄が黒変、その後茎頂や葉が萎凋、黒変して倒伏枯死する症状が確認された。分離株による接種試験で原病徴が再現され、接種菌が再分離され、分離菌は *Stagonosporopsis ajacis* と同定された。本菌によるオクトリカブトの病名をトリカブト茎枯病と提案された。

(株式会社ツムラ・株式会社夕張ツムラ・秋田県立大学)

令和7年度（2025年度）農作物有害動植物発生予察事業年報

令和8年（2026年）5月

発行 北海道病虫害防除所

〒069-1395

北海道夕張郡長沼町東6線北15号

（北海道立総合研究機構農業研究本部庁舎内）

Tel. 0123-89-2080

Fax. 0123-89-2082

URL <http://www.agri.hro.or.jp/boujosho>
